



消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究 与論方言・沖永良部方言調査報告書

木部暢子 [編]

2016 年 3 月



はじめに

「消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究」は、国立国語研究所の基幹型共同研究プロジェクトとして 2009 年 10 月にスタートしました。2010 年度からは毎年、共同研究者や若手研究者が 1 カ所に集まって共同で調査を行う合同調査を実施しています。これまで、沖縄県宮古島・久米島，鹿児島県喜界島・与論島・沖永良部島，東京都八丈島，島根県出雲・隠岐の島，宮崎県椎葉村で合同調査を行なってきました。本書は，そのうちの，鹿児島県与論方言・沖永良部方言調査（2012 年 12 月）の調査報告書です。

調査の折りには，たくさんの方にお世話になりました。お忙しいなか，公民館まで足を運んでくださり，親切に方言を教えてくださいました方々に深く御礼申し上げます。みなさんのおかげで，このような報告書を作成することができました。また，教育長をはじめ教育委員会のみなさんには，調査の準備の段階から，実施，調査の報告会「島ことば・調査のつどい」に至るまで，大変お世話になりました。深く感謝申し上げます。

この報告書の内容は，島の方言全体から見ると，ごく一部のわずかなものにすぎませんが，方言の研究や記録・保存の資料として，少しでも多くの方々に使っていただければ幸いです。また，国立国語研究所ホームページの中の「消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究」のページで本書のPDF版を公開しています。こちらもぜひ，ご覧ください。

2016年2月25日

国立国語研究所 木部 暢子

「消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究」 与論方言・沖永良部方言調査報告書

目 次

はじめに

プロジェクトの概要 ----- 1

与論のことば

与論方言調査の概要 ----- 3

与論方言の音韻（木部暢子） ----- 7

与論島諸方言のアクセント（上野善道） ----- 23

与論方言の文法（町 博光） ----- 63

与論方言データ集

与論方言データ集の表記について ----- 75

与論方言 基礎語彙集（音声記号） ----- 79

与論方言 基礎語彙集（かな） ----- 97

与論方言 文法例文集（音声記号） ----- 117

与論方言 文法例文集（かな） ----- 129

沖永良部のことば

沖永良部方言調査の概要 ----- 143

沖永良部方言の音韻（木部暢子） ----- 147

沖永良部方言の格体系（横山晶子） ----- 165

沖永良部語正名方言の疑問文（ハイス ファン・デル・ルベ） ----- 179

沖永良部方言データ集

沖永良部方言データ集の表記について ----- 213

沖永良部方言 基礎語彙集（音声記号） ----- 217

沖永良部方言 基礎語彙集（かな） ----- 239

沖永良部方言 文法例文集（音声記号） ----- 261

沖永良部方言 文法例文集（かな） ----- 273

プロジェクトの概要

1 プロジェクトの目的

「消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究」は、国立国語研究所の基幹型共同研究プロジェクトとして2009年10月にスタートしました。プロジェクトの目的は以下のとおりです。

グローバル化が進む中、世界中の少数言語が消滅の危機に瀕している。2009年2月のユネスコの発表によると、日本語方言の中では、沖縄県のほぼ全域の方言、鹿児島県の奄美方言、東京都の八丈方言が危険な状態にあるとされている。これらの危機方言は、他の方言ではすでに失われてしまった古代日本語の特徴や、他の方言とは異なる言語システムを有している場合が多く、一地域の方言研究だけでなく、歴史言語学、一般言語学の面でも高い価値を持っている。また、これらの方言では、小さな集落ごとに方言が違っている場合が多く、バリエーションがどのように形成されたか、という点でも注目される。

本プロジェクトでは、フィールドワークに実績を持つ全国の研究者を組織して、これら危機方言の調査を行い、その特徴を明らかにすると同時に、言語の多様性形成のプロセスや言語の一般特性の解明にあたる。また、方言を映像や音声で記録・保存し、それらを一般公開することにより、危機方言の記録・保存・普及を行う。

(国立国語研究所ホームページより)

2 これまでの調査

プロジェクトでは、2010年から毎年、琉球や八丈を中心として、合同調査を行っています。2010年から2015年までに行った調査は以下のとおりです。

・鹿児島県喜界島方言（奄美語）	2010年9月9日～15日	★ ☆
・沖縄県宮古方言（宮古語）	2011年9月4日～7日	★
・東京都八丈島方言（八丈語）	2012年9月5日～10日	★ ☆
・鹿児島県与論島方言・沖永良部島方言（国頭語）	2012年12月1日～6日	★ ☆
・沖縄県久米島方言（沖縄語）	2013年12月1日～5日	
・島根県出雲方言	2014年8月17日～21日	★
・宮崎県椎葉村（尾手納・日当）方言	2014年9月1日～6日	
・宮崎県椎葉村（日添）方言	2015年3月9日～13日	
・宮崎県椎葉村（小崎）方言	2015年5月8日～11日	
・宮崎県椎葉村（杵尾）方言	2015年9月6日～11日	
・島根県隠岐の島方言	2015年11月8日～11日	

★については、報告書を以下のウェブページで公開しています。

<http://pj.ninjal.ac.jp/endangered/>

また、☆については基礎語彙の発話音声データを以下のウェブページで公開しています。あわせてご参照ください。

<http://kikigengo.sakura.ne.jp/>

3 共同研究者

プロジェクトの共同研究員は以下のとおりです。（2016年2月1日現在）

研究代表者：木部暢子（国立国語研究所）

共同研究員：五十嵐陽介（一橋大学）、井上文子（国立国語研究所）、上野善道（東京大学名誉教授）、大西拓一郎（国立国語研究所）、小川晋史（熊本県立大学）、荻野千砂子（福岡教育大学）、金田章宏（千葉大学）、狩俣繁久（琉球大学）、久保智之（九州大学）、久保蘭愛（愛知県立大学）、窪田晴夫（国立国語研究所）、熊谷康雄（国立国語研究所）、小西いずみ（広島大学）、小林隆（東北大学大学院）、佐々木冠（札幌学院大学）、重野裕美（広島経済大学）、下地賀代子（沖縄国際大学）、下地理則（九州大学／国立国語研究所客員教員）、田窪行則（京都大学）、竹田晃子（国立国語研究所）、クリス・デイビス（琉球大学）、中島由美（一橋大学）、仲原穰（琉球大学）、西岡敏（沖縄国際大学）、新田哲夫（金沢大学）、日高水穂（関西大学）、ブガエワ・アンナ（国立国語研究所）、トマ・ペラル（フランス国立科学研究所）、又吉里美（岡山大学）、町博光（安田女子大学）、松浦年男（北星学園大学）、松田美香（別府大学）、松本泰丈（別府大学）、松森晶子（日本女子大学）、三井はるみ（国立国語研究所）、山田真寛（京都大学）、ウエイン・ローレンス（オーストラリア大学）、ダニエル・ロング（首都大学東京）（五十音順）

プロジェクト研究員：乙武香里（プロジェクトPD）、坂井美日（プロジェクトPD）、盛思超（プロジェクト非常勤研究員）

与 論 の こ と ば

与論方言 調査の概要

1 与論島の概要

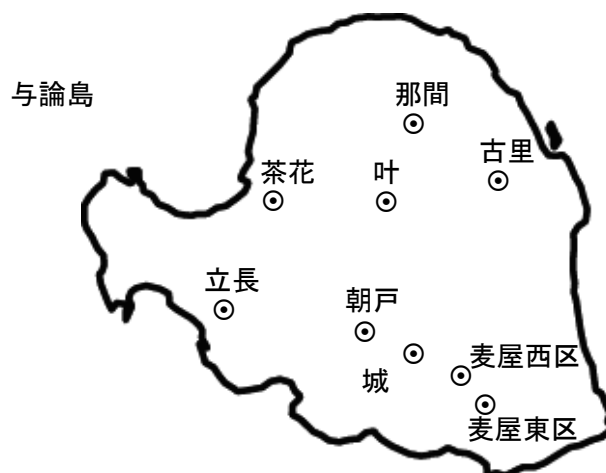
与論島は鹿児島県の最南端の島で、鹿児島島の南約 563 km、沖縄本島の北約 23 km のところに位置する。周囲 23.65 km²、面積 20.58 km²、集落の数は 9（茶花、立長、城、朝戸、西区、東区、古里、叶、那間）、人口は 5,393 人（平成 27 年 10 月現在）である。隆起珊瑚礁で形成された島で、行政上は島全体が一つの与論町を形成している。地理的な位置関係から、琉球文化の影響を受けながらも、与論島独自の文化を形成してきた。

一年中ハイビスカスが咲く温暖な気候で、主な産業はトウキビの栽培、畜産（子牛、成牛、山羊）、観光である。

島への交通手段は、飛行機で与論空港へ入る方法と、船で与論港へ渡る方法がある。飛行機は、鹿児島空港から 1 日 1 便、那覇空港から 1 日 1 便、奄美大島空港から 2～3 日に 1 便の運航があり、フェリーは鹿児島港から 1 日 1 便、那覇港から 1 日 1 便が運行している。



図 1 与論島の位置



2 調査地点

2 調査の概要

2.1 調査地点

調査は2012年12月1日～12月6日に行った。調査地点と調査内容，調査担当者は以下の通りである。

日時	地区名	調査内容	調査担当者
12月2日	立長	基礎語彙C	松本，田代
		文法（後半）	又吉，高見
		アクセント（前半）	木部，中澤
	茶花	基礎語彙A	仲原，大槻
		基礎語彙B	田窪，ペラール
		文法（前半）	金田，盛
		文法（後半）	又吉，高見
		アクセント（後半）	新田
	城	基礎語彙A	町，當山
		文法（前半）	中島，ローレンス
		文法（後半）	ハイス，デイビス
		アクセント（前半）	上野，金
		アクセント（後半）	青井，高山
	朝戸	基礎語彙A	町，當山
		基礎語彙B	荻野，小川
		基礎語彙C	山田，徳永
		文法（前半）	中島，ローレンス
		文法（後半）	ハイス，デイビス

12月3日		アクセント（前半）	上野，金
		アクセント（後半）	青井，高山
	古里	基礎語彙C	中島，山田
		文法（前半）	田窪，金田，ハイス，高見
		文法（後半）	町，ローレンス，デイビス
		アクセント（後半）	木部，新田，金
	那間	基礎語彙A	又吉，松本
		アクセント（前半）	上野，新田，高山
		アクセント（後半）	木部，金，徳永，當山
	麦屋 （西区） （東区）	文法（後半）	デビス，高見
		基礎語彙A	又吉，當山
		基礎語彙B	田窪，町，青井，田代
		文法（後半）	ハイス，徳永
		基礎語彙A	松本，仲原
		基礎語彙C	小川，山田，ペラール，荻野
		アクセント（前半）	上野，高山，中澤，大槻
		文法（前半）	金田，ローレンス
		談話	小川，山田，ペラール，荻野
	叶	基礎語彙B	ペラール，荻野
		基礎語彙C	中澤，田代

2.2 調査者

調査参加者は以下の28名である（所属は調査当時）。

青井隼人（東京外国語大学博士課程），上野善道（国立国語研究所），大槻知世（東京大学修士課程），小川晋史（国立国語研究所），荻野千砂子（大分大学），金田章宏（千葉大学），木部暢子（国立国語研究所），金娥璘（九州大学修士課程），盛思超（国立国語研究所／麗澤大学博士課程），高見あずさ（東京外国語大学修士課程），高山林太郎（東京大学博士課程），田窪行則（京都大学），田代竜也（琉球大学修士課程），クリス・デイビス（琉球大学），當山奈那（琉球大学博士課程），徳永晶子（国立国語研究所／一橋大学博士課程），中島由美（一橋大学），中澤光平（東京大学博士課程），仲原穰（琉球大学非常勤講師），新田哲夫（金沢大学），トマ・ペラール（フランス国立科学研究所常勤研究員），又吉里美（岡山大学），町博光（広島大学），松本泰丈（別府大学），松森晶子（日本女子大学），山田真寛（学振PD／京都大学），ハイス・ファン・デル・ルベ（琉球大学研究生），ウェイン・ローレンス（オークランド大学）

[五十音順]

2.3 話者

話者は以下の方々である（年齢は調査当時）。

立長 叶サカエさん（81歳），増尾トミさん（84歳），橋口治元さん（81歳），
茶花 町平タヅ子さん（74歳），吉田トミ子さん（77歳），永野展秀さん（72歳），

林初枝さん（77歳），松村実さん（81歳），
城 玄アキさん（80歳），清水房さん（72歳），川内陽吉さん（84歳），
若松トヨさん（72歳），基岸澄さん（80歳），池田一郎さん（64歳）
若松光茂さん（76歳），大田元茂さん（72歳）
朝戸 池田吉光さん（58歳），山本泰偉さん（56歳），土持俊秀さん（67歳），
吉田昭久さん（83歳），有馬節光さん（75歳）
古里 川畑エイ子さん（70歳），山田ハルエさん（80歳），竹下清新さん（72歳），
西達雄さん（82歳），坂元涼子さん（68歳），坂元セツエさん（67歳），
益田ヨシエさん
那間 長尾シズコさん（81歳），竹下徹さん（76歳）
麦屋 永井ミエ子さん（63歳），瀧正夫さん（69歳），直野盛治さん（66歳），
内野豊信さん（62歳），山下マツエさん（73歳），
大角田治さん（76歳），菊千代さん（85歳），菊友子さん（49歳），
菊秀史さん（55歳），平田敏秀さん（70歳），勝初子さん（69歳），
叶 山西繁さん（73歳），松村文秀さん（81歳），町村豊光さん（歳），

謝辞

お忙しい中，本調査に協力してくださり，ありがとうございました。この場を借りて御礼申し上げます。

与論方言の音韻

木部 暢子*

1 はじめに

与論方言は奄美群島のいちばん南に位置する。行政上は鹿児島県に属するが、言語上は琉球語のうち、国頭語に位置づけられる。図示すると、以下のとおりである。

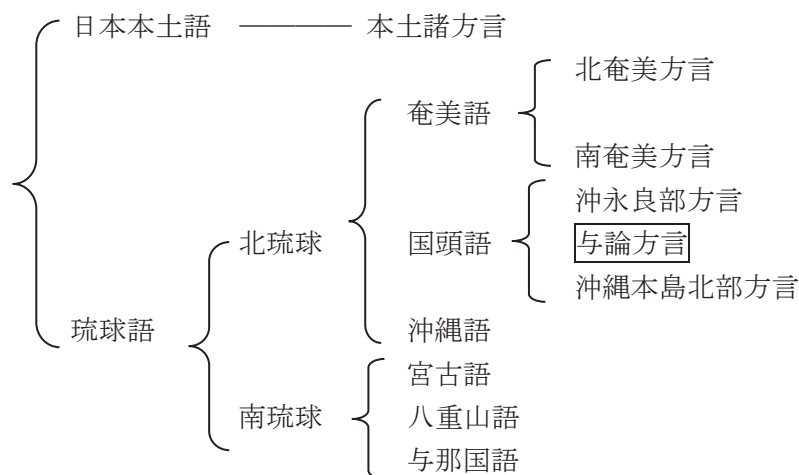


図1 与論方言の位置

与論島には、茶花、立長、城、朝戸、麦屋西区、麦屋東区、古里、叶、那間の9つの集落がある。以下では、2012年に実施した国立国語研究所共同研究プロジェクトの合同調査のデータから用例を拾い、与論方言の音韻の特徴を概観する。また、適宜『与論方言辞典』を参考にする。

2 母音

2.1 短母音

短母音は /a/, /i/, /u/ の3つで、/a/ は共通語の /a/ (ア) に、/i/ は共通語の /i/ (イ) と /e/ (エ) に、/u/ は共通語の /u/ (ウ) と /o/ (オ) に対応している。母音だけで音節を作るときには、声門閉鎖音 /ʔ/ を伴うこともあるが、常にというわけではない。表1に調査語の中から例をあげておく。(用例の「～」は同一話者での発音の揺れを、「/」は語形の違いを、「//」は話者による発音や語形の違いを表す。また、i, u は母音が無声化していることを表す。以下同じ。)

* きべ のぶこ：国立国語研究所・教授

表1 短母音 /a/, /i/, /u/

	語	古里・那間・叶	茶花・立長	朝戸・城	麦屋
a	網(つな)	ʔan (ゝあん)	an (あん)	ʔam (ゝあむ)	an (あん)
	お母さん	amma: (あんまー)	amma: (あんまー)	amma: (あんまー)	amma: (あんまー)
	あくび	akubi (あくび)	akubi (あくび)	ʔakubi (ゝあくび)	ʔakubi (ゝあくび)
i	五つ	ʔiteitei (ゝいちち)	itejitej (いちち)	itejitej (いちち)	ʔiteitei (ゝいちち)
	板(いた)	ʔita (ゝいた) ～ʔitea (ゝいちや)	itea (いちや)	itea (いちや)	ʔitea (ゝいちや)
	海老(えび)	ʔibi (ゝいび)	ʔibi (ゝいび)	ʔibi (ゝいび)	ʔibi (ゝいび)
u	上(うえ)	ʔui (ゝうい)	ʔui (ゝうい)	ui (うい)	ui (うい)
	音(おと)	ʔutu (ゝうとう)	ʔutu (ゝうとう)	utu (うとう)	utu (うとう)
	孫(まご)	ʔumaga (ゝうまが)	umaga (うまが)	umaga (うまが)	ʔumaga (ゝうまが)

少数だが、短母音 /e/ が現れることがある。[ɸyke] (ふけ：雲脂) については、別に [i:ki] (いーき) という方言形があり、[ɸyke] (ふけ) は共通語として使われたものと思われる。[tempura] (てんぷら) も [timpura] (ていんぷら) と発音されることがあり、[tempura] は共通語的な発音だと思われる。これらを除けば、調査語の範囲では、[ekkoi] (えっこい：喧嘩), [koremunu] (これむぬ：食べもの), [koren] (これん：食べる) に /e/ が現れた。

表2 短母音 /e/

	語	古里・那間・叶	茶花・立長	朝戸・城	麦屋
e	ふけ	i:ki (いーき)	ɸyke (ふけ)	ʔi:ki (ゝいーき)	ʔi:ki (ゝいーき)
	天ぷら	timpura (ていんぷら)	tempura (てんぷら)	tempura (てんぷら)	timpura (ていんぷら)
	けんか	ʔikkoi (ゝいっこい) ～ʔekkoi (ゝえっこい)	ikkoi (いっこい)	hekkoi (へっこい)	ekkoi (えっこい)
	食べもの	koremunu (これむぬ)	koremunu (これむぬ)	koremunu (これむぬ)	koremunu (これむぬ)

2. 2 長母音

長母音は /a:/, /i:/, /u:/, /e:/, /o:/ の5つである。与論方言には、1語(1形態素)は2拍以上の長さでなければならないという制約があり、「歯」「田」など共通語の1拍語は、与論方言では長音で発音される。これらの語は、複合語の要素になったときにも長音で発音される。例えば、「歯」は単独で [pa:] (ぱー), 複合語でも [pa:guki] (ぱーぐき：歯茎) である。/e:/ は共通語の /ai, ae/ に、/o:/ は共通語の /aw, au, ao/ に対応する。

表3 長母音 /a:/, /i:/, /u:/, /e:/, /o:/

	語	古里・那間・叶	茶花・立長	朝戸・城	麦屋
a:	杵(きね)	a:dzin (あーちん)	a:dzin (あーちん)	a:zin (あーちん)	a:dzin (あーちん)
	齒(は)	pa: (ぱー)	pa: (ぱー)	pa: (ぱー)	pa: (ぱー)
a:	田(た)	ta: (たー)	ta: (たー)	ta: (たー)	ta: (たー)
i:	錐(きり)	ʔi: (ゝいー)	i: (いー)	ʔi: (ゝいー)	i: (いー) ~ʔiji (ゝいーいー)
	手(て)	ti: (ていー)	ti: (ていー)	ti: (ていー)	ti: (ていー)
	血(ち)	tei: (ちー)	tei: (ちー)	tei: (ちー)	tei: (ちー)
u:	湯(ゆ)	ju: (ゆー)	ju: (ゆー)	ju (ゆ) / ju: (ゆー)	ju: (ゆー)
	帆(ほ)	pu: (ふー)	pu: (ふー)	pu: (ふー)	pu: (ふー)
e:	牛(うし)	je:nan (いえーなん)	je:nan (いえーなん) ~e:nan (えーなん)	ʔe:nan (ゝえーなん)	e:nan (えーなん)
	大根	de:kupi (でーくに)	de:kupi (でーくに)	de:kupi (でーくに)	de:kiji (でーきに)
	南(みなみ)	pe: (ぺー)	pe: (ぺー)	pe: (ぺー)	pe: (ぺー)
o:	栗(あわ)	ʔo: (ゝおー)	awa (あわ)	ʔo: (ゝおー)	ʔo (ゝおー)
	たわら	to:ra (とーら)	to:ra (とーら)	to:ra (とーら)	to:ra (とーら)
	ほうき	po:ki (ぽーき)	po:ki (ぽーき)	po:ki (ぽーき)	po:ki (ぽーき)
	竿(さお)	so: (そー)	so: (そー)	bo: (ぼー)	so: (そー)

2. 3 二重母音

二重母音には、/ai/, /ui/, /oi/ の3種類がある。以下に例をあげる。

表4 二重母音 /ai/, /ui/, /oi/

	語	古里・那間・叶	茶花・立長	朝戸・城	麦屋
ai	針(はり)	pai (ぱい)	pai (ぱい)	pai (ぱい)	pai (ぱい)
	稲(いね)	mai (まい)	mai (まい)	mai (まい)	mai (まい)
	小さい	ʔinsai (ゝいんさい)	ʔinsai (ゝいんさい)	insai (いんさい)	insai (いんさい)
ui	一人	teui (ちゅい)	teui (ちゅい)	teui (ちゅい)	teui (ちゅい)
	老人(ろうじん)	tɯsui (とうすい)	tɯsui (とうすい)	tusui (とうすい)	tueui (とうしゅい)
	男(おとこ)	wuiga (うういが)	wuiga (うういが)	wuiga (うういが)	ɸuiga (ふいが)
oi	笹(さる)	soi (そい)	soi (そい)	soi (そい)	soi (そい)
	お祝い	joi (よい) ~jo:i (よーい)	joi (よい)	joi (よい)	joi (よい)

与論方言と共通語との母音の対応関係を図示すると、以下のようになる。

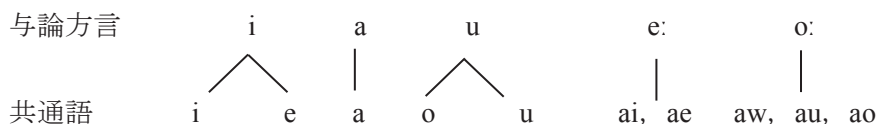


図2 与論島方言と標準日本語の母音の対応

3 子音

3.1 両唇音

両唇音には無声閉鎖音の /p/, 有声閉鎖音の /b/, 鼻音の /m/ がある。

3.1.1 両唇音 /p/

/p/ は共通語のハ行子音 /h/ に対応している。上代日本語では、ハ行子音は *p だったと推定されている（*は想定形を表す）。与論方言の /p/ はそれを伝えたものである。ただし、現在の与論方言の /p/ は閉鎖性がそれほど強くなく、両唇摩擦音の /ɸ/ で発音されることもある。例えば、「お祖母さん」は [pa:pa:] (ぱーぱー), または [ɸa:ɸa:] (ふぁーふぁー) と発音される。

また、/p/ は語頭に来るのが普通で、語中に来ることはあまりない。調査語の範囲では, [kipada] (きばだ: 着物), [upusai] (うぷさい: 大きい), [ʔatca'apja:] (あちやあびやー: 夫婦) などに語中の [p] が現れた。

表5 両唇音 /p/

	語	古里・那間・叶	茶花・立長
pa	お祖母さん	pa:pa: (ぱーぱー)~ ɸa:ɸa: (ふぁーふぁー)	pa:pa: (ぱーぱー)~ ɸa:ɸa: (ふぁーふぁー)
	鼻(はな)	pana (ぱな)	pana (ぱな)
	着物(きもの)	kipada (きばだ)	kipada (きばだ)
pa:	外(そと)	pa: (ぱー)	pa: (ぱー)
pi	にんにく	piru (びる)	piru (びる)
	大きい	ʔupicai (へうびしやい)~ ʔuɸicai (へうふいしやい)	ʔupɯcɯai (へうふしやい)
pu	冬(ふゆ)	pui (ふい)	pui (ふい)
pu:	穂(ほ)	pu (ふ)	pu: (ふー)
pe:	南(みなみ)	pe: (ぺー)	pe: (ぺー)
po:	ほうき	po:ki (ぼーき)	po:ki (ぼーき)

	語	朝戸・城	麦屋
pa	お祖母さん	pa:pa: (ぱーぱー)~ ɸa:ɸa: (ふぁーふぁ)	pa:pa:(ぱーぱー)
	鼻(はな)	pana (ぱな)	pana (ぱな)
	着物(きもの)	kipara (きばら)	kipara (きばら)

pa:	外(そと)	pa: (ぱー)	pa: (ぱー)
pi	にんにく	piru (びる)	piru (びる)
	大きい	uɸicai (うふいしゃい)~ upicai (うびしゃい)~ upueai (うふしゃい)	upusai (うぶさい)
pu	冬(ふゆ)	pui (ぶい)	pui (ぶい)
pu:	穂(ほ)	pu: (ぶー)	pu: (ぶー)
pe:	南(みなみ)	pe: (ぺー)	pe: (ぺー)
po:	ほうき	po:ki (ぼーき)	po:ki (ぼーき)

3. 1. 2 両唇音 /b/

/b/ は共通語の /b/ に対応している。語頭に来ることはあまりなく、多くは語中に現れる。語頭の /b/ の例に [be:ru:] (ベーる：蜻蛉), [bja:] (びゃー：菰) などがある。

表6 両唇音 /b/

	語	古里・那間・叶	茶花・立長	朝戸・城	麦屋
ba	尿(にょう)	ei:bai (しーばい)	ei:bari (しーばい)	ei:bai (しーばい)	ei:bai (しーばい)
	ぞうり	saba (さば)	saba (さば)	saba (さば)	saba (さば)
bi	首(くび)	kubi (くび)	kubi (くび)	kubi (くび)	kubi (くび)
	指(ゆび)	uibi (ういび)	ʔujubi (ゎうゆび)	ʔuibi (ゎういび)	ʔuibi (ゎういび)
bu	油(あぶら)	ʔabura (ゎあぶら)	abura (あぶら)	abura (あぶら)	abura (あぶら)
	冬瓜	eibui (しぶい)	subui (すぶい)	eibui (しぶい)	eibui (しぶい)
be:	とんぼ	be:ru: (ベーる)	be:ru (ベーる)	be:ru: (ベーるー)	be:ru (ベーる)

3. 1. 3 両唇音 /m/

両唇鼻音の /m/ は共通語の /m/ に対応している。以下に例をあげる。

表7 両唇音 /m/

	語	古里・那間・叶	茶花・立長	朝戸・城	麦屋
ma	豆(まめ)	mami (まみ)	mami (まみ)	mami (まみ)	mami (まみ)
	山(やま)	jama (やま)	jama (やま)	jama (やま)	jama (やま)
ma:	お母さん	amma: (あんまー)	amma: (あんまー)	amma: (あんまー)	amma: (あんまー)
mi	耳(みみ)	min (みん)	min (みん)	min (みん)	min (みん)
	夢(ゆめ)	ʔimi (ゎいみ)	ʔimi (ゎいみ)	jumi (ゆみ)	imi (いみ)
mi:	甥(おい)	mi:kkʷa: (みーつくわー)	mi:kʷa: (みーくわー)	mi:kʷa (みーくわ)	mi:kʷa: (みーくわー)
mu	腿(もも)	mumu (むむ)	mumu (むむ)	mumu (むむ)	mumu (むむ)
mu:	皆(みな)	mu:ru (むーる)	mu:ru (むーる)	mu:ru (むーる)	mu:ru (むーる)
me:	娘(むすめ)	me:rabi (めーらび)	me:rabi (めーらび)	me:rabi (めーらび)	me:rabi (めーらび)

mo:	藻(も)	mo: (もー)	mo: (もー)	mo: (もー)	無回答

3. 2 歯茎音

与論方言の歯茎音には, /t/, /d/, /s/, /n/, /r/ がある。

3. 2. 1 歯茎音閉鎖音 /t/, /d/

歯茎閉鎖音(無声)の /t/ は, 共通語の /t/ に対応している。「短母音」のところで述べたように, 共通語の /e/, /o/ は与論方言では /i/, /u/ になるので, 与論方言の /ti/, /tu/ は共通語の /te/, /to/ に対応している。

表 8 歯茎閉鎖音 /t/

	語	古里・那間・叶	茶花・立長	朝戸・城	麦屋
ta	蛸(たこ)	taɸu (たふ)	taɸu (たふ)	taɸu (たふ)	taɸu (たふ)
	肩(かた)	hata (はた)	hata (はた)	hata (はた)	hata (はた)
ta:	二つ	ta:teɪ (たーち)	ta:teɪ (たーち)	ta:teɪ (たーち)	ta:teɪ (たーち)
ti	太陽	tida (ていだ)	tida (ていだ)	tida (ていだ)	tida (ていだ)
	あさって	ʔasati (あさてい)	asati (あさてい)	asatti (あさてい)	asati (あさてい)
ti:	手(て)	ti: (ていー)	ti: (ていー)	ti: (ていー)	ti: (ていー)
tu	鳥(とり)	tui (とうい)	tui (とうい)	tui (とうい)	tui (とうい)
	鳩(はと)	patu (ぱとう)	patu (ぱとう)	patu (ぱとう)	patu (ぱとう)
to:	台所	to:gura (とーぐら)	to:gura (とーぐら)	to:gura (とーぐら)	to:gura (とーぐら)

歯茎閉鎖(有声)の /d/ は, 共通語の /d/ と /z/ に対応している。共通語の /z/ に対応する例に, [ada] (あだ: ほくろ), [hadi] (はでい: 風) などがある。

表 9 歯茎閉鎖音 /d/

	語	古里・那間・叶	茶花・立長	朝戸・城	麦屋
da	涙(なみだ)	mi:nada (みーなだ)	mi:nada (みーなだ)	nada (なだ)	nada (なだ)
	ほくろ	ada (あだ)	ada (あだ)~ado (あど)	ʔada (あだ)	ʔada (あだ)
di	風(かぜ)	hadi (はでい)	hadi (はでい)	hadi (はでい)	hadi (はでい)
	袖(そで)	sudi (すでい)	sudi (すでい)	sudi (すでい)	sudi (すでい)
du	戸(と)	jadu (やどう)	jadu (やどう)	jadu (やどう)	jadu (やどう)
du:	体(からだ)	du: (どうー)	du: (どうー)	du: (どうー)	du: (どうー)
de:	大根	de:kupi	de:kupi	de:kupi	de:kini
	(だいこん)	(でーくに)	(でーくに)	(でーくに)	(でーきに)

3. 2. 2 歯茎摩擦音 /s/

歯茎摩擦音(無声)の /s/ は, 共通語の /s/ に対応している。/s/ は母音 /a, u/ の前では [s], 母音 /i/ の前では硬口蓋音の [ɕ], 母音 /e/ の前では [s] または [ɕ] で発音される。例えば, [ɕima] (しま: 島), [nice:~nice:] (にせー~にしえー: 青年) など。

表 10 歯茎摩擦音 /s/

	語	古里・那間・叶	茶花・立長	朝戸・城	麦屋
sa	酒(さけ)	sai (さい)	sai (さい)	sai (さい)	sai (さい)
	草(くさ)	kusa (くさ)	kusa (くさ)	kusa (くさ)	kusa (くさ)
si	島(しま)	ɛima (しま)	ɛima (しま)	ɛima (しま)	ɛima (しま)
	箸(はし)	paɛi (ばし)	paɛi (はし)	paɛi (はし)	paɛi (ばし)
si:	尿(しょう)	ɛi:bai (しーばい)	ɛi:bari (しーばい)	ɛi:bai (しーばい)	ɛi:bai (しーばい)
su	袖(そで)	sudi (すでい)	sudi (すでい)	sudi (すでい)	sudi (すでい)
	薬(くすり)	kusui (くすい)	kusui (くすい)	kusui (くすい)	kusui (くすい)
se:	青年 (せいねん)	ɲice: (にしえー)	ɲise: (にせー)～ ɲice: (にしえー)	ɲice: (にしえー)	ɲice: (にしえー)
so	ざる	soi (そい)	soi (そい)	soi (そい)	soi (そい)

3. 2. 3 歯茎鼻音 /n/

歯茎鼻音の /n/ は、共通語の /n/ に対応している。母音 /a, u, e, o/ の前では [n], 母音 [i] の前では硬口蓋音の [ɲ] で発音される。

表 11 歯茎鼻音 /n/

	語	古里・那間・叶	茶花・立長	朝戸・城	麦屋
na	夏(なつ)	natei (なち)	natei (なち)	natei (なち)	natei (なち)
	穴(あな)	ʔana (ゎあな)	ana (あな)	ana (あな)	ʔana (ゎあな)
na:	中(なか)	na: (な一)	na: (な一)	na: (な一)	na: (な一)
ni	鬼(おに)	ʔupi (ゎうに)	ʔupi (ゎうに)	upi (うに)	upi (うに)
	ひしゃく	ɲibu (にぶ)	ɲibu (にぶ)	ɲibu (にぶ)	ɲibu (にぶ)
ni:	荷(に)	ɲi:mutei (にーむち) / mi:mutei (みーむち)	ɲimutei (にむち)	mi: (みー)	ɲi: (にー)
nu	糠(ぬか)	nuka (ぬか)	nuka (ぬか)	nuka (ぬか)	nuka (ぬか)
	犬(いぬ)	inu (いぬ)	inu (いぬ)	ʔinu (ゎいぬ)	ʔinu (ゎいぬ)
nu:	何(なに)	nu: (ぬ一)	nu: (ぬ一)	nu: (ぬ一)	nu (ぬ)～nu: (ぬ一)
ne:	苗(なえ)	nae(なえ) / ne: (ね一)	nai (ない)	ne: (ね一)	ne: (ね一)
no:	昨日(きのう)	kino: (きのー)	kino: (きのー)	kino: (きのー)	kinno: (きんのー)

3. 2. 4 歯茎はじき音 /ɾ/

歯茎はじき音の /ɾ/ は、共通語の /ɾ/ に対応している。

表 12 歯茎はじき音 /ɾ/

	語	古里・那間・叶	茶花・立長	朝戸・城	麦屋
ra	瓦(かわら)	ka:ra (かーら)	ka:ra (かーら)	ka:ra (かーら)	ka:ra (かーら)

	娘(むすめ)	me:rabi (めーらび)	me:rabi (めーらび)	me:rabi (めーらび)	me:rabi (めーらび)
ri	これ	ɸuri (ふり)	ɸuri (ふり)	ɸuri (ふり)	ɸuri (ふり)
ri:	東(ひがし)	agari: (あがりー)	agari: (あがりー)	agari: (あがりー) / agari (あがり)	agaringata (あがりんがた)
ru	夜(よる)	juru (ゆる)	juru (ゆる)	juru (ゆる)	juru (ゆる)
	だれ	taru (たる)	taru (たる)	taru (たる)	taru (たる)
ru:	とんぼ	be:ru: (べーる)	be:ru (べーる)	be:ru: (べーるー)	be:ru (べーる)
re	食べもの	koremunu (これむぬ)	koremunu (これむぬ)	koremunu (これむぬ)	koremunu (これむぬ)
re:	あなた	?ure: (うれー)	ure:ganaei (うれーがなし)	ure: (うれー)	?ure: (へうれー)

3. 3 硬口蓋音

硬口蓋音には、破擦音（無声）の /c/ と破擦音（有声）の /j/ がある。

/c/ は硬口蓋破擦音（無声）の [tɕ] で、共通語の /c/ に対応している。与論方言では、共通語の「チ」と「ツ」がどちらも [tɕi] で現れる。ただし、[katsuo]（かつお：鰹）のように新しい語には [tsu] の音が使われる。また、/c/ は /i+ta/ にも対応している。例えば、[itea]（いちゃ：板），[pittee:]（ぴっちえー：ひたい）など。

表 13 硬口蓋破擦音 /c/

	語	古里・那間・叶	茶花・立長	朝戸・城	麦屋
ca	茶碗 (ちやわん)	teabanu (ちやばぬ)~ tea:banu (ちやーばぬ)	teabanu (ちやばぬ)	teabanu (ちやばぬ)	tea:banu (ちやーばぬ)
	板(いた)	?ita (へいた) ~?itea (へいちゃ)	itea (いちゃ)	itea (いちゃ)	?itea (へいちゃ)
ca:	明日 (あした)	attea: (あっちやー)	attea: (あっちやー)	attea: (あっちやー)	attea: (あっちやー)
ci:	乳(ちち)	tei: (ちー)	tei: (ちー)	tei: (ちー)	tei: (ちー)
ci	かたつむり	teijnpan (ちんにゃん)	teinnan (ちんなん)	teinnan (ちんなん)	teijnpan (ちんにゃん)
	口(くち)	kutei (くち)	kutei (くち)	kutei (くち)	kutei (くち)
	爪(つめ)	teimi (ちみ)	teimi (ちみ)	teimi (ちみ)	teimi (ちみ)
	夏(なつ)	natei (なち)	natei (なち)	natei (なち)	natei (なち)
cu	鰹(かつお)	katsuo (かつお)	katsuo (かつお)<新>	katsuo (かつお)	katsu: (かつー)
	一人	teui (ちゅい)	teui (ちゅい)	teui (ちゅい)	teui (ちゅい)
	苺(いちご)	iteubi (いちゅび)	iteumbi (いちゅんび)	iteubui (いちゅぶい) / iteumbi (いちゅんび)	?iteubu (いちゅぶ)
cu:	露(きり)	teu: (ちゅー)	teu: (ちゅー)	tsuju (つゆ)	teu: (ちゅー)

	急須 (きゅうす)	teu:ka (ちゅーか)	teu:ka (ちゅーか)	teu:ka (ちゅーか)	teu:ka (ちゅーか)
ce:	ひたい	pĩttee: (びっちえー) ~pĩtteei (びっちえい) ~pitteai (びっちやい)	pĩttee: (びっちえー)	pittee: (びっちえー) / pikke: (びっけー)	pĩttee: (びっちえー)
co:	灸(きゅう)	jatteu: (やっちゅー)	jatteo: (やっちょー)	jatteo: (やっちょー)	jatteo: (やっちょー)

/ʃ/ は、硬口蓋破擦音(有声)で、音声的には [dʒ] の発音で、共通語の /z/ に対応している。
また、 /i+da/ にも対応している。例えば、[pidzai] (ぴちやい: 左) など。

表 14 硬口蓋破擦音 /ʃ/

	語	古里・那間・叶	茶花・立長	朝戸・城	麦屋
Ja	蚊(か)	gadzan (がちゃん)	gazan (がちゃん)	gadzan (がちゃん)	ga:dzan (がちゃん)
	左(ひだり)	pidzai (ぴちやい)	pidzai (ぴちやい)	pizai (ぴじやい)	pidzai (ぴちやい)
Ja:	鯨(くじら)	gu:dza: (ぐーちゃー)	gu:dza: (ぐーちゃー)	gu:dza: (ぐーちゃー)	gu:dza: (ぐーちゃー)
Ji	傷(きず)	kizi (きじ)	kizu (きず)	kidzi (きち)	kidzi (きち)
	筋(すじ)	eizi (しじ)	sudzi (すぢ)	eidzi (しぢ)	eidzi (しぢ)
Ji:	鼻血(はなぢ)	panadzi (ぱなぢ)	panadzi: (ぱなぢー)	panadzi: (ぱなぢー)	panadzi: (ぱなぢー)
Ju	溝(みぞ)	jindzu (いいんぢゅ) ~jundzu (ゆんぢゅ)	jindzu (いいんぢゅ)	jundzu (ゆんぢゅ)	mizipai (みじぱい)
Ju:	十人	dzu:nin (ぢゅーにん)	dzu:nin (ぢゅーにん)	dzu:nin (ぢゅーにん)	dzu:nin (ぢゅーにん)
Jo:	天井 (てんじょう)	tendzo: (てんじょー)	tindzo (ていんじょー)	tindzo: (ていんじょー)	tindzo: (ていんじょー)

3. 4 軟口蓋音

軟口蓋音には、無声閉鎖音の /k/ と有声閉鎖音の /g/ がある。

3. 4. 1 軟口蓋音 /k/

/k/ は共通語の /k/ に対応している。

表 15 軟口蓋音 /k/

	語	古里・那間・叶	茶花・立長	朝戸・城	麦屋
ka	貝(かい)	kai (かい)	kai (かい)	kai (かい)	kai (かい)
	お兄さん	jaka (やか)	jaka (やか)	jaka (やか)	jaka (やか)
ka:	瓦(かわら)	ka:ra (かーら)	ka:ra (かーら)	ka:ra (かーら)	ka:ra (かーら)
ki	肝(きも)	kimu (きむ)	kimu (きむ)	kimu (きむ)	kimu (きむ)
	息(いき)	iki (いき)	iki (いき)	?iki (ゝいき)	?iki (ゝいき)

ki:	なまこ	ɕik̚ki: (しっきー)	ɕik̚ki: (しっきー)	ɕik̚ki: (しっきー)	ɕik̚ki: (しっきー)
ku	草(くさ)	k̚sa (くさ)	k̚sa (くさ)	kusa (くさ)	k̚sa (くさ)
	蟻(あり)	aŋk̚u (あんく)	aŋku (あんく)	?aŋku (ゝあんく)	?aŋku (ゝあんく)
ku:	九つ(このつ)	ku:nutei (く一ぬち)	ku:nutej̥ (く一ぬち)	ku:nutej̥ (く一ぬち)	ku:nutei (く一ぬち)
ke	けが	ge:gi (げーぎ)	kega (けが)	kiga (きが)	du:ge:gi (どうーげーぎ)
ko	鰻(くわ)	koitei (こいち)	koitej̥ (こいち)	koitei (こいち)	koitei (こいち)
ko:	井戸(いど)	ko: (こー)	ko: (こー)	ko: (こー)	ko: (こー)

3. 4. 2 軟口蓋音 /g/

/g/ は共通語の /g/ に対応している。

表 16 軟口蓋音 /g/

	語	古里・那間・叶	茶花・立長	朝戸・城	麦屋
ga	孫(まご)	?umaga (ゝうまが)	umaga (うまが)	umaga (うまが)	?umaga (うまが)
ga:	ばった	ga:ta (がーた)	ga:ta (がーた)	ga:ta (がーた)	ga:ta (がーた)
gi	すすき	giej̥ki (ぎしき)	gieiki (ぎしき)	gieiki (ぎしき)	giej̥ki (ぎしき)
	蔭(かげ)	hagi (はぎ)	hagi (はぎ)	hagi (はぎ)	hagi (はぎ)
gi:	鋸(のこ)	no:gi: (のーぎー)	no:gi: (のーぎー)	no:gi: (のーぎー)	no:gi: (のーぎー)~ no:giji (のーぎい)
gu	鯨(くじら)	gu:d̥za: (ぐーちゃー)	gu:d̥za: (ぐーちゃー)	gu:d̥za: (ぐーちゃー)	gu:d̥za: (ぐーちゃー)
	唐辛子 (とうがらし)	a:gueu (あーぐしゅ)	?a:gueu (ゝあーぐしゅ)	?a:gueu (ゝあーぐしゅ)	?a:gueu (ゝあーぐしゅ)
ge:	けが	ge:gi (げーぎ)	kega (けが)	kiga (きが)	du:ge:gi (どうーげーぎ)
go:	垢(あか)	go:ra (ごーら)	aka (あか)	go:ra (ごーら)	go:ra (ごーら)

3. 5 声門音

声門音には、摩擦音(無声)の /h/ と声門閉鎖音の /ʔ/ がある。

3. 5. 1 声門音 /h/

/h/ は、母音 /a/ の前では [h] だが、母音 /i/ の前では口蓋音の [ç] で、母音 /u/ の前では両唇音の [ɸ] で発音される。これらの音は、標準言の力行子音 /k/ に対応している。また、[çima] (ひま:暇) のような共通語的な語に現れる。

表 17 声門音 /h/

	語	古里・那間・叶	茶花・立長	朝戸・城	麦屋
ha	紙(かみ)	habi (はび)	habi (はび)	habi (はび)	habi (はび)

	笠・傘(かさ)	hasa (はさ)	hasa (はさ)	hasa (はさ)	hasa (はさ)
hi	暇(ひま)	ma: (まー)	ma: (まー)	çima (ひま)	çima (ひま)
hi:	木(き)	çi: (ひー)	çi: (ひー)	çi: (ひー)	ei: (しー)
hu	腰(こし)	φuei (ふし)	φuei (ふし)	φuei (ふし)	φuei (ふし)
	蛸(たこ)	taφu (たふ)	taφu (たふ)	taφu (たふ)	taφu (たふ)
hu:	鋤(牛にひか すすき)	wu:dai (うーだい) ~φu:dai (ふーだい)	wu:di: (うーで いー)	wu:dai (うーだ い)	ku:dai (くーだい)~ φu:dai (ふーだい)
he:	大工(だいく)	he:ku (へーく) ~çe:ku (ひえーく)	he:ku (へーく)	he:ku (へーく)	çe:ku (ひえーく) / çe:ku: (ひえーくー)
ho:	麴(こうじ)	ho:dzi (ほーじ)	ho:dzi (ほーじ)	ko:dzi (ほーじ)	ho:dzi (ほーじ)

ただし、共通語の /k/ (カ行子音) がすべて与論方言の /h/ に対応しているわけではない。/h/ になるのは、共通語の /k/ のうち広母音および半広母音の /a, e, o/ を伴う音節 /ka/ (カ), /ke/ (ケ), /ko/ (コ) の /k/ であって、狭母音 /i, u/ を伴う音節 /ki/ (キ), /ku/ (ク) の /k/ は与論方言でも /ki/ (き), /ku/ (く) で現れる。ただし、少数だが、共通語の /ka, /ke/, /ko/ の /k/ が与論方言で /k/ となるものがある。以下に、共通語と与論方言のカ行子音の対応関係とその例をあげておく。

表 18 共通語とのカ行子音の対応

	カ行子音					
共通語	ka (カ)		ki (キ)	ke (ケ)	ku (ク)	ko (コ)
与論方言	ka (か)	ha (は)	ki (き)	hi (ひ)	ku (く)	hu (ふ), ho (ほ)

表 19 カ行子音の共通語との対応の例

共通語	与論方言	語	茶花・立長	麦屋
ka	ka	鰹(かつお)	katsuo (かつお)	katsu: (かつー)
		貝(かい)	kai (かい)	kai (かい)
		墓(はか)	paka (ぱか)	paka (ぱか)
		お兄さん	jaka (やか)	jaka (やか)
	ha	紙(かみ)	habi (はび)	habi (はび)
		風(かぜ)	hadi (はでい)	hadi (はでい)
	ha>a	中(なか)	na: (なー)	na: (なー)
ki	ki	肝(きも)	kimu (きむ)	kimu (きむ)
		息(いき)	iki (いき)	?iki (ゐいき)
ke	ki	情け(なさけ)	nasaki (なさき)	kimukukuru (きむくくる)
	hi	毛(け)	çi: (ひー)	ei: (しー)
		木(き)	çi: (ひー)	ei: (しー)
	hi>i	竹(たけ)	dai (だい)	dai (だい)
		酒(さけ)	sai (さい)	sai (さい)

ku	ku	草(くさ)	kusa (くさ)	kusa (くさ)
		袋(ふくろ)	pukuru (ふくる)	pukuru (ふくる)
		大工(だいく)	he:ku (へーく)	çe:ku (ひえーく)
ko	ku	暦(こよみ)	kujumi (くゆみ)	kujumi (くゆみ)
		心(こころ)	kukuru (くくる)	kimukukuru (きむくくる)
	hu	腰(こし)	φuci (ふし)	φuci (ふし)
		蛸(たこ)	taφu (たふ)	taφu (たふ)
	ho	麴(こうじ)	ho:ɕzi (ほーじ)	ho:ɕzi (ほーじ)

上記のように、共通語の /ka/, /ke/, /ko/ は、与論方言では /ha/, /hi/, /hu/ (表の網掛け部分) になるのが普通だが、/ka/ になる例が少数ある。上の表に示した「鰹」、「情け」、「暦」、「心」は、新しく共通語から取り入れられた語形ではないかと思われる。「貝」は二重母音という音節構造が関係している可能性がある。なお、上の表で「木」を /ke/ に対応する欄にあげていのは、奄美祖語では「木」は *ke だったと推定されているからである(上村 1955)。「兄」も *ke にさかのぼるか。「墓」が [paka] である理由は不明である。

3. 5. 2 声門音 /ʔ/

声門閉鎖音の /ʔ/ は、「2. 1 短母音」のところで述べたように、母音だけで音節を作るときに母音の前に現れることがある。また、接近音 /j/, /w/ では、以下に述べるように、/j/ と /ʔj/, /w/ と /ʔw/ がそれぞれ対立している。

3. 6 接近音

接近音には /j/, /w/ がある。

3. 6. 1 接近音 /j/

/j/ は硬口蓋の接近音で、共通語の /j/ に対応する。/j/ では、声門閉鎖 /ʔ/ を伴う /ʔj/ と声門閉鎖を伴わない /j/ が対立している。ミニマルペアの例として、[ja:] (やー：家) と [ʔja:] (ゎやー：綾)，[ju:] (ゆー：湯) と [ʔju:] (ゎゆー：魚) がある。これらは [ʔ] の有無の違いだけで区別されている。ミニマルペアではないが、[jo:ea] (よーしゃ：床下) と [ʔjo:] (ゎよー：洞窟) も /ʔ/ の有無の違いにより [jo] と [ʔjo] が区別されている。

表 20 接近音 /j/

	語	古里・那間・叶	茶花・立長	朝戸・城	麦屋
ja	山(やま)	jama (やま)	jama (やま)	jama (やま)	jama (やま)
ja:	家(いえ)	ja: (やー)	ja: (やー)	ja: (やー)	ja: (やー)
ʔja:	綾(あや)	ʔja: (ゎやー) / ʔaja (ゎあや)	ʔja: (ゎやー)	aja (あや)	gara (がら)
ju	枝(えだ)	juda (ゆだ)	juda (ゆだ)	juda (ゆだ)	juda (ゆだ)
	溝(みぞ)	jindzu (いいんぢゅ) ~jundzu (ゆんぢゅ)	jindzu (いいんぢゅ)	jundzu (ゆんぢゅ)	mizipai (みじっぱい)

ju:	湯(ゆ)	ju: (ゆー)	ju: (ゆー)	ju: (ゆー)	ju: (ゆー)
ʔju:	魚(さかな)	ʔju: (ゆー)	ʔju: (ゆー)	ʔju: (ゆー)	ʔju: (ゆー)
je:	牛(うし)	je: nan (いえーなん)	je: nan (いえーなん) ~e: nan (えーなん)	ʔe: nan (えーなん)	e: nan (えーなん)
jo:	床下(ゆかした)	jo: ɕa (よーしゃ)	jo: ɕa (よーしゃ)	juka (ゆか)	jo: ɕa (よーしゃ)
ʔjo:	洞窟(どうくつ)	ʔjo: (よー)	ʔjo: (よー)	無回答	jo: (よー)

/j/ はまた、子音の後ろに続いて、口蓋化した子音を作る。調査語の範囲では、次のような口蓋化子音が現れた。

表 21 口蓋化子音

	語	古里・那間・叶	茶花・立長	朝戸・城	麦屋
pja:	夫婦 (ふうふ)	ate'a'apja: (あちやあぴやー)	ate'apja: (あちやぴやー)	ate'apja: (あちやぴやー)	ʔate'a'apja: (あちやあぴやー)
pju:	昼(ひる)	pju: (ぴゅー)	pju: (ぴゅー)	pju: (ぴゅー)	pju: ma (ぴゅーま)
bja:	菰(こら)	bja (びやー)	bja: (びやー)	bja: (びやー)	bja: (びやー)
mja	猫(ねこ)	mjaŋka (みゃんか)	mjaŋka (みゃんか)	mjaŋka (みゃんか)	mjaŋka (みゃんか)
tja:	ちから	kja: (きやー)	tja: (てやー)	tja: (てやー)	tja: (てやー)
tju:	という	ti(てい)	ti(てい)	tju:sa (てゅーさ)	tju:sa (てゅーさ)
dju	戻る(もどる)	—	—	mudjun (むでゅん)	mudjun (むでゅん)
sja	杖(つえ)	gucanu (ぐしやぬ)	gucanu (ぐしやぬ)	gucanu (ぐしやぬ)	gucana (ぐしやぬ)
sju:	今日(きょう)	ɕu: (しゅー)	ɕu: (しゅー)	kju: (きゅー)	ɕu: (しゅー)
sje:	青年(せい ねん)	niece: (にしえー)	nise: (にせー) ~niece: (にしえー)	niece: (にしえー)	niece: (にしえー)
nja	腕(うで)	he:na (へーにや)~ hena (へな)	無回答	he:na (へーにや)	ke:na (けーにや)
nja:	お姉さん	ʔaŋna (あんにや)	aŋna: (あんにやー)	aŋna: (あんにやー)	aŋna: (あんにやー)
rja:	糸瓜(へちま)	naburja: (なぶりやー)	nabure: (なぶれー)	naburja: (なぶりやー)	無回答
kja:	明明後日 (しあさって)	kja: riwa (きやーりわ)	kja: riwa (きやーりわ)	ɕiasatti (しあさってい)	無回答
kju:	月(つき)	teikkju: (ちつきゅー)	teikkju: (ちつきゅー)	teikkju: (ちつきゅー)	teikkju: (ちつきゅー)
kjo:	兄弟 (きょうだい)	kjo: dai (きよーだい)	teu: de: (ちゅーだい)	kjo: dai (きよーだい)	ʔutudzabura (へうとぢやぶら)
gja:	茅(かや)	gja: (ぎやー)	kaja (かや)	gieiki (げしき)	gja: (ぎやー)
gju:	食べる	agjun (あぎゅん)	kore: ɕi (これーし)	korei (これい)	koren (これん)

3. 6. 2 接近音 /w/

/w/ は両唇の接近音で、共通語の /w/ に対応する。朝戸・城・麦屋では、声門閉鎖 /ʔ/ のある /ʔw/ と声門閉鎖のない /w/ が区別される。例えば, [wa:tea] (わーちゃ: 私たち) の [wa] と [ʔwa:] (ゎー: 豚) の [ʔwa] は別の音である。また、与論方言には /wu/ の音があり、母音の /u/ と区別されている。ミニマルペアの例として, [wutu] (うとう: 夫) と [utu] (うとう: 音) がある。/wu/ は古典語の「を」に由来する音で、上の例は、古典語の「をひと (夫)」、「おと (音)」の区別を引き継いだものである。

表 22 接近音 /w/

	語	古里・那間・叶	茶花・立長	朝戸・城	麦屋
wa	私(わたし)	wanu (わぬ)	wanu (わぬ)	wanu (わぬ)	wanu (わぬ)
wa:	私たち	wa:tea (わーちゃ)	wa:tea (わーちゃ)	wa:tea (わーちゃ)	wa:tea (わーちゃ)
ʔwa:	豚(ぶた)	waŋka (わんか)	waŋka (わんか)	ʔwa: (ゎー)	ʔwa: (ゎー)
wu	夫(おっと)	wutu (うとう)	wutu (うとう)	wutu (うとう)	ɸutu (ふとう)
wu	桶(おけ)	wui (ううい) ~ɸui (ふい)	wui (ううい)	wui (ううい)	ɸui (ふい) ~hui (ふい)
wu:	鋤(牛にひかすすき)	wu:dai (ううーだい) ~ɸu:dai (ふーだい)	wu:di: (ううーでいー)	wu:dai (ううーだ い)	ku:dai (くーだい)~ ɸu:dai (ふーだい)

/w/ はまた、子音の後ろに続いて、唇音化した子音を作る。調査語の範囲では、次のような唇音化子音が現れた。

表 23 唇音化子音

	語	古里・那間・叶	茶花・立長	朝戸・城	麦屋
kʷa:	桑(くわ)	kʷa:gi (くわーぎ)	kʷa:gi (くわーぎ)	kʷa:gi (くわーぎ)	kʷa:gi (くわーぎ)
	子(こ)	kʷa: (くわー)	warabikʷa: (わらびくわー)	kʷa: (くわー)	kʷa: (くわー)
gwa:	長男 (ちょうなん)	ʔujamuteigwa: (へうやむちぐわー)	ujamuteigwa: (うやむちぐわー)	ɕidabi (しだび)	ɕidaɸuiganukʷa: (しだふいがぬくわー)

3. 7 特殊音

特殊音には、撥音 /N/ (ん) と促音 /Q/ (っ) がある。これらは母音を伴わずに 1 つの拍を作る。撥音は鼻にかかる音で、後ろに両唇音の [p], [b], [m] があるときには両唇の鼻音 [m] に、歯茎音の [t], [d], [n] があるときには歯茎の鼻音 [n] に、軟口蓋音の [k], [g] があるときには軟口蓋の鼻音 [ŋ] に、後ろに摩擦音の /s/ , 母音 /a, i, u/ があるとき、および語末では、口のどこも閉じない鼻音 [N] になる。

表 24 撥音 /N/

	語	全地域
m	病気(びょうき)	jamme:(やんめー)
n	来年(らいねん)	japni (やんに)

ŋ	猫(ねこ)	mjaŋka (みゃんか)
N	牛(うし)	je:naN (いえーなん)

促音は子音を重ねる発音で、調査の範囲では、[tt], [kk], [tɕ], [ss], [ɕɕ] の促音が現れた。

表 25 促音 /Q/

	語	全地域
tt	四人(よにん)	juttai (ゆったい)
kk	月(つき)	tɕkkju: (ちっきゅー)
cc	灸(きゅう)	jatɕo: (やっちょー)
ss	筵(むしろ)	mussu: (むっすー)
ss	昼食(ひるめし)	?aɕci: (^あっしー)

4 音素目録

以上の音素の一覧をあげておく。

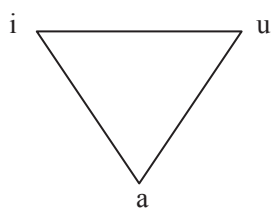


図 3 短母音音素

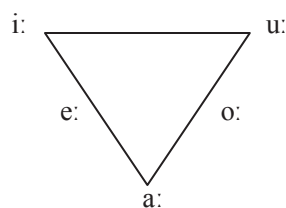


図 4 長母音音素

表 26 子音音素

調音方法	両唇	歯茎	硬口蓋	軟口蓋	声門	口蓋垂
破裂	無声 有声	p [p~ɸ] b	t d	k g	ʔ	
鼻音		m	n [n~ɲ]			N [N~m~n~ŋ]
摩擦	無声		s [s~ɕ]		h [h~ç~ɸ]	
はじき			r			
破擦	無声 有声		c ʃ			
接近		w	j			

5 音節

与論方言の音節の構造は, (O) (G) N (Co) である。(O は onset (頭子音), G は glide (わたり音), N は nucleus (中核母音), Co は coda (結び) を, () は任意であることを表す。)

音節の必須の要素は「中核母音」で, これに「頭子音」, 「わたり音」, 「結び」がついて, 1 つの音節を作る。以下に音節構造と音節の例をあげておこう。

表 27 音節構造

O (頭子音)	G (わたり音)	N (中核母音)	Co (結び)
p, b, m	w j	a, i, u	Q
t, d, s, n, r		a:, i:, u:, e:, o:	N
c, ʃ		ai, oi, ui	
k, g			
h, ʔ			

音節の例

(1) N	i: (いー：錐)
(2) ON	pa: (ぱー：歯)
(3) GN	ju: (ゅー：湯)
(4) OGN	kʷa: (くわー：子)
(5) NCo	aN (あん：網)
(6) GNCo	waN (わん：椀)
(7) ONCo	miN (みん：耳)
(8) OGNC	agjuN (あぎゅん：召し上がる)

参考文献

- 上野善道 (1999) 「与論島東区方言の多型アクセント体系」 『国語学』 199 集
 上村孝二 (1955) 「奄美大島方言の発音について」 鹿児島大学紀要「文科報告」 4 号
 菊千代・高橋俊三 (2005) 『与論方言辞典』 武蔵野書院
 中本正智 (1976) 『琉球方言音韻の研究』 法政大学出版局

与論島諸方言のアクセント調査報告

上野 善道*

1 調査の概要

国立国語研究所時空間変異研究系共同研究プロジェクト「消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究」（プロジェクトリーダー木部暢子）は、2012年12月に与論・沖永良部方言の共同調査を実施した。その与論島調査に2班あったアクセント調査班の一つに加わった私は、島内3地点の調査を担当した。その調査をさらに深めるために、2013年の2月と9月に、今度は単独で与論島内のアクセント調査を実施した。今回報告するのは、その2回の調査の一部である。¹

調査集落と話者を(1)に示す。途中で移動している方は、生育地である元の集落に含めた。

(1) 集落と話者（生年、いずれも昭和）	第1回	第2回
東区 菊 千代氏（2年）	○	○
東区 勝 初子氏（18年）	○	
西区 叶サカエ氏（20年。後に立長）	○	
叶 山 元宗氏（19年）	○	○
那間 竹下 徹氏（11年）	○	○
朝戸 吉田昭久氏（4年）		○
朝戸 大田英勝氏（26年）		○
城 麓 才良氏（23年）	○	
立長 竹内泰敏氏（15年）		○
立長 徳田泰三氏（16年）	○	
茶花 永野展秀氏（15年）		○
茶花 井上淑子氏（20年。後に東区）		○

余裕がなくて資料の掲載は割愛せざるを得ないが、茶花の喜山康三氏、林ハツ枝氏、田中富代氏、立長・茶花（後に東区）の永井みさ代氏、そして国語研調査では城の土持喜之助氏、中山ゆきこ氏にもお世話になった。以上のすべての話者の方々、ならびに御紹介下さった与論町教育委員会に厚く御礼を申し上げる。

その調査表は、国語研共同調査のものを2度にわたって改訂して用いた。元の調査表は、おそ

*うわの ぜんどう：東京大学名誉教授（国語研共同調査時は国語研客員教授も兼任）

¹これとは別に、この国語研調査がきっかけとなって再開した与論方言アクセント調査の成果として、外来語や一般複合語を扱った上野（2014）、国語研調査の基礎語彙調査表を用いて基礎語彙とそのアクセントを記録した上野（2015）——本報告書への補いとなる——、地名を前部要素の中心とする生産的な複合語を扱った上野（2016）がある。いずれも、(1)の話者でもある菊さんから伺った。それ以前は、1978年に初めて与論の各集落を回った（その資料は未発表）。1998-99年には菊さんの御依頼で集中的に伺い、上野（1999a, b）を発表した。その解釈が『与論方言辞典』に採用されている。

らく松森晶子のA～Cの琉球祖体系3系列語彙を頭に置きながら作成したものと思われるが、それをなるべく生かしつつも、共時的なアクセント体系が捉えられること、そしてその体系間の通時的な繋がりが見えるようになることに重点を置いて作り直した。具体的には、 $P_n=n+1$ の多型アクセント体系である東区方言（上野1999a）から見て別の型になる可能性のあるDやEを増やし、また、与論方言の実態に合わせて所属語彙を入れ替えた。

助詞に関しては、国語研調査表には「から、からも」と並んで「まで、までも」が入っていたのを引き継いだ。が、「までも」は1回目の調査の途中で除いた。「まで」には、「ここからここまで」のような格助詞的用法と、「そこまで言うのか」のような程度を表わす副助詞的用法があるが、到達点から容易に程度の意味に拡張しえて両者の間は連続的である。そして、程度の意味になる「までも」は、可能ではあっても、わざわざそこまでくどく表現しないのが普通である（「いつまでも、どこまでも」「言うまでもない」などは別）。与論でもgadiとその標準語形のmadi、それにNta:na（これも地域により短母音形Ntanaがあり、長短の併用もある）、さらには人によってgadiN, madiN（Nはモに対応）が絡み合い、その使い分けにも地域差があるようである。それらに立ち入ると肝腎のアクセント調査がスムーズに進まないことがあった。それで2回目の調査表では「まで」だけにし、「までも」に代えて「ぐらい」と「ばかり」を入れた。しかし、「まで」でも同じ問題が起こることがあり、調査表にはあっても聞かなかった地点もある。

今回は2度目の調査表を中心に据えて整理をしたが、2回の調査で項目を変更した関係で、どちらか1回しか調査をしていない地点では欠落項目が生じている（また、2回目は複合語アクセントを中心に聞いたところもある）。後出資料の空欄箇所がそれである。

今回の報告は、1音節2モーラ名詞から4モーラ名詞までの単語単独ならびに助詞付きの言い切り形を中心とし、国語研調査表にあった項目、関連単語、及び菊千代氏の『与論方言辞典』から語頭核（頭高）語を一部抜き出した追加語彙からなる。配列は元の共同調査表に従い、2モーラ語、3モーラ語、4モーラ語、1音節語の順とした。具体的にはこの後続く「資料」を参照されたい。「鳥」のtuiは2モーラ語、「桶」のhui/wuiや「酒」のsaiは1音節語に入っているが、単に国語研調査表を引き継いだ便宜的な措置で意味はない（「井戸」のko:も対応は「川」）。調査は、言い切り形のみならず接続形についても短文例を用いて聞いているが、接続形はその文節の後続語がいくつかの条件の下に音調交替を起こすので、それについては稿を改める。

2 調査結果

2. 1 表記

与論方言の音調は、全般的に高低幅が小さめで、馴れないとかなり捉えにくい面をもつ。無核型と解されるものが%pa]na《鼻》、%pa]Nme]:《食料》（%は半上昇、]は下降）のように出ることが普通にあるのみならず、発話によるユレや個人差もかなり大きい。そのため、表面的な現象を音声レベルで逐一表記するのは必ずしも正鵠を得ないし、全体が却って見えにくくなると考え、私の解釈（1999a）に従って、有核型は「昇り核」/[/の位置で、無核型は「＝」で示すことにした。

分節音は、これまで二十数年にわたって琉球方言の記述に用いてきた、キーボードだけで入力できる簡略音声表記で示す。主なものとしては、sjjはシ（siはスイ）、cjjはチ、cuはツ、「ʔ」は声門閉鎖音（および母音の前における音節の始まり）、Nは位置を問わず撥ねる音（ン）、「:」は長母音（フォントによって位置が上がり過ぎるが致し方ない）である。なお、詰まる音（ッ）

は後続子音文字を重ねる。資料篇ではモーラを○で示す。見出し語形をそれに代入して読む。

その分節音表記の上に直接 [と = でアクセントを記した。紙幅の関係で、アクセントの併用は [ma[cjigi や [macjigi= (松木) のようにまとめて記した。それぞれ [macjigi と ma[cjigi, [macjigi と macjigi= の併用の意である(これは単独形の場合で、助詞付き形がそのどちらで発音されたかは、該当欄を見ることになる。原則として話者の答えるままとし、必ずしも逐一もう一つの型を確認したわけではない)。ただし、2単位形の場合、[macjigibak[kai (松木ばかり)などは自明と見たが、併用と紛らわしいときは、ハイフンを入れて['atu-'u[sjo:sji (後始末)のように示した。

2. 2 東区方言

与論諸方言のアクセントは、東区(麦屋東区)方言を基点にして見ると捉えやすい。Pn=n+1の対立をもつ東区方言は、島内で最も対立が多く、かつ最も安定している。今回の二人の話者の間でも、語彙的な小異があるだけで、その音調パターンは実によく一致する。島内他方言と比べると、これは一際目立つ特徴である。その体系を(2)に示す。詳しくは上野(1999a)を参照。ここには、核位置を語末からの逆算指定(マイナス表記)で並べた。

(2) 東区方言のアクセント体系

① pa:= (葉)	mizji= (水)	tatami= (畳)	mucjigumi= (餅米)	panabaija= (鼻筋)
-① pa[: (齒)	ja[ma (山)	pasa[N (鋏)	haNnja[i (雷)	cjikuisa[ba (島草履)
-② [pa: (外)	[nabi (鍋)	ha[tana (刀)	puru[sjiki (風呂敷)	'uibi[gama (小指)
-③		[macjigi (松)	hu[baNka (叔母)	'upu['uibi (親指)
-④			[karatai (唐竹)	cji[burubacji (大蜂)
-⑤				[ka:raja: (瓦葺家)

特殊モーラ(延ばす音「:」, 撥ねる音N, 二重母音の副音i)は、絶対語末においてのみ核を担い、対立をなす。その後に助詞が付くと、(3)のように、核は助詞の初頭モーラに移動する。

(3) 名詞	が	から	ばかり
ti[: (手)	ti:[nu	ti:[kara	ti:[bakkai
pasa[N (鋏)	pasaN[nu	pasaN[kara	pasaN[bakkai

一方、一般モーラの語末核は、後続助詞が1モーラの場合は元の位置に留まるが、2モーラ以上になると助詞の初頭モーラに移動する。(4)を参照。

(4) 名詞	が	から	ばかり
ja[ma (山)	ja[manu	jama[kara	jama[bakkai
kuju[mi (暦)	kuju[minu	kujumi[kara	kujumi[bakkai

1モーラ助詞付きにおいても、核の位置は動かないものの、現実の音調はja%ma[nuと助詞の方がより高くなる。最初の半上昇に着目しないと、jama[nuと聞き間違えかねないほどである。

もう一つ目につくのは、Pn=n+1の体系でもしばしば語例が見つかりにくい5モーラ以上の語頭核型(頭高型, ①型)語彙が、(5)のように、いろいろ出て来ることである。4モーラ語の①型

は枚挙に暇がない。これらの①型が、他方言の体系認定においても重要な役割を果たす。

- (5) [kaːrajaː (瓦葺き家), [uNmacjigi (海松), [atu'umari (遅生まれ), [atukusari (後腐れ), [ikubaija (もっこく柱, [ikuは木名), [itukipada (絹着物) など (5 モーラ語) ; [atu'usjoːsji (後始末), [izjipunijoi (出船祝い=船旅の出発祝い) (6 モーラ語)

2. 3 中間諸方言

ここに「中間」としたのは、東区方言と茶花方言（次節）との中間に位置付けられるものという意味で、「朝戸（あさと）、叶（かのう）、那間（なま）、立長（りっちょう）」、そして「城（ぐすく）」の各集落が該当する。「西区」も含めるなら、最も東区に近い所に位置づけられる。

この中間諸方言の典型的特徴は、東区方言の無核型 (①型, A) と語末核型 (-①型, B) とが、単独および1 モーラ助詞付きにおいて合流している点である。対立数が減っているのである。ところが、2 モーラ（以上）の助詞が付くと、程度の差こそあれ、元の区別が顔を出すことが注目される。地域差だけではなく個人差、単語差、さらには同一個人の同一単語においても発話時による違いもあって整然とした形にまとめるのは難しいが、短い名詞では2 モーラ（以上）の助詞付きでの区別が現われる傾向が認められる。(6)に朝戸方言の一話者の例を掲げる。左端の①と-①型は、東区方言との対応から再構される与論方言祖体系の型である。2 例ずつ示す。

(6) 朝戸方言の合流の仕方

① 血(cji:=)。	○○ga=。	○○jiN=。	○○[kara=。	○○[karaN=。
葉(pa:=)。	○○ga=。	○○jiN=。	○○kara=。	○○[karaN=。
-① 手(ti:=)。	○○ga=。	○○jiN=。	○○[kara=。	○○[karaN=。
木(hji:=)。	○○ga=。	○○jiN=。	○○[kara=。	○○[karaN=。
① 水(mizji=)。	○○ga=。	○○N=。	○○kara=。	○○karaN=。
鳥(tui=)。	○○ga=。	○○jiN=。	○○kara=。	○○karaN=。
-① 山(jama=)。	○○ga=。	○○N=。	○○[kara=。	○○[karaN=。
花(pana=)。	○○ga=。	○○N=。	○○[kara(=)。	○○[karaN=。
① 畳(tatami=)。	○○○ga=。	○○○N=。	○○○[kara=。	○○○[karaN=。
印(sjirushi=)。	○○○ga=。	○○○N=。	○○○[kara=。	○○○[karaN=。
-① 鉄(pasan=)。	○○○ga=。	○○○jiN=。	○○○[kara=。	○○○[karaN=。
女(wunagu=)。	○○○ga=。	○○○N=。	○○○[kara=。	○○○[karaN=。
① 餅米(mucjigumi=)。	○○○○ga=。	○○○○N=。	○○○○[kara=。	○○○○[karaN=。
食料(paNme:=)。	○○○○ga=。	○○○○jiN=。	○○○○[kara=。	○○○○[karaN=。
-① 雷(haNnjai=)。	○○○○ga=。	○○○○jiN=。	○○○○[kara=。	○○○○[karaN=。
台所(to:gura=)。	○○○○ga=。	○○○○N=。	○○○○[kara=。	○○○○[karaN=。

これを見ると、2 モーラ名詞においては、「が、も」の1 モーラ助詞付きでは元の①型と-①型は合流（中和）しているが、「から、からも」の2 モーラ（以上）の助詞付き形ではまだ元の区別を保っていると言えることが分かる。言い替えれば、これらの交替に基づき、まだ元の区別を

復元できる状態にある。(なお、N《も》は、それが付く名詞の語末が重音節の場合はjiNで出るが、ここでは1モーラ助詞としてまとめる。)ただし、前述のように単語によって異なる面があり、中間諸方言を見渡すと、たとえば元①型の「鼻」は核をもつ傾向があり、元-①型の「麦」は逆に核を失う傾向にある。

ちなみに、(6)の話者は「この発音もある」と併用形を自ら進んで指摘してくれた方で、「花から」pana[kara(=)の括弧に入れたpanakara=は、pana[karaの他に、もしかするとこれも言えるかもしれないとした形である。両者が別の音形として捉えられている証拠となる。

3モーラ名詞においても、kara, karaNが付くと、無核型併用の有無によってではあるが、まだ元の区別が読み取れる状況である。しかし、4モーラ名詞になると、1モーラ助詞付きはすべて無核型、2モーラ以上の助詞付きは事実上すべて有核型となって実現の仕方は異なるものの、それぞれで合流して①型と-①型との区別は見られなくなっている状態である。

城方言はこの変化がもう少し進んだ段階にあり、2モーラ名詞+カラでも、元の①型と-①型との区別は反映されなくなっている。その点で、次節の茶花方言に一步近づいている。

注目されるのが西区(麦屋西区)方言で、2音節2モーラ名詞、3モーラ名詞単独形では、ja[ma(山), wuna[gu(女)のように語末核が保持されている。東区方言に近いとする理由である。にもかかわらず、1モーラ助詞が付くと、無核化してjamaga=, wunaguN=となり、元①型のmizjiga=(水が), tatamiN=(畳も)と合流してしまうのである。1音節2モーラ名詞では、1モーラ助詞付きの場合だけでなく、単独形においても区別を失っている。

ところが、これらに2モーラ以上の助詞が付くと、元の区別が復活する。1音節2モーラ名詞では単独および1モーラ助詞付き環境で中和していた区別が、2・3モーラ名詞では1モーラ助詞付き環境で中和していた区別が、それぞれ再出現するのである。

これは、合流が1モーラ助詞付き形から、そして単独形では1音節名詞から先に起こったという通時的な変化を反映している可能性がある。²

以上の中間方言に共通して起こっているのは、あくまでも語末核が消失する方向の変化である。それ以外の型では変化がほとんど起こっていない。わずかに、立長のha[tana > hata[na(刀)や、那間の[macjigi > ma[cjigi(松木), [jacjiku > ja[cjiku(マサキ, 柁)などが見られる程度である。何よりも、語頭が重音節の①型語では変化が生じていない。これらの諸方言はいずれも多型アクセント体系で、表層ではPn=n(西区はn+1)、基底形を考えるとすればさまざまな程度にPn=n+1の対立を持つものと位置付けられる。

上に「さまざまな程度に」という曖昧な表現をあえて用いたのは、本節の最初の方に述べたユレの大きさに拠る。元の①型と-①型について数地点で同じ話者に2回(同じ調査の中で、ないし別の時に)聞いてみたが、どこかで食い違う結果が得られた。このような場合、記録した情報(時には記録に迷った例もある)を固定した確定的なものと捉え、それのみに基づいて論を進めるのは危険だと感じる。さりとて、もう一度ただ繰り返しても、その時の答えが得られて記録は増えるものの、その分だけ精度が高まるという保証もない。このような状況においては、一語一語ではなく、記録した中での「傾向」として捉えるに留めるのが無難であると判断した。

² ただし、立長方言話者としてお願いした方は、西区生まれで小学校5年までそこに住んでいたのが西区方言として扱ったが、西区生まれで西区育ちの話者に改めて確認をしてみる必要がある。

2. 4 茶花方言

茶花（ちゃばな，ちゃはな，'agasa）方言は，中間諸方言からさらに変化が進んだ状態にある。一人の話者は，2モーラ名詞ではどの長さの助詞を付けても元の①型と②型との区別が現われず，両者の名詞は無核で完全に合流している。3モーラ名詞では，2モーラ助詞のカラとマデ（gadi）の場合に元の名詞の区別が再出現している（さらには元の②型も①型と同じになって①型と区別される）が，3モーラ助詞付きでは区別が出ず，4モーラ名詞では2モーラ名詞と同様にまったく区別がなくなっている。これに従えば，3モーラ名詞が特殊な状況にあるようである。

この話者は，語末核に留まらず，元は次末核型（②型，C）の hatana=（刀），sjo:gacji=（正月），ku:nucji=（九つ）や，語末が重音節語の一部，具体的には zjibaN=（襦袢）までが無核型になっている点も注目される。話者によっては（資料篇掲載は割愛），元②型の purusjiki=（風呂敷），me:rabi=（娘），tiNzjo:=（天井），'aNnja:=（姉），pattai=（畑），さらに元③型（D）の macjigi=（松木）や wubaNka=（叔母）などでも無核化が起こっている。あるいは，単独形は puru[sjiki，me:[rabi，tiN[zjo: でありながら，助詞付き形は無核で出る人もある。

また，資料に掲げたもう一人の話者（23歳から麦屋）においては，元①型の ti:=（手）に対して ti:ka[raN（からも），ti:gu[re:（ぐらい），jama=（山）に対して jamaka[ra，jamaga[di（まで）など，助詞部に核が現われるが，その位置の後退が観察される。

しかしながら，このような無核化，あるいは助詞部の核位置の後退があっても，元の①型はかなり保持している。ku(s)[sui（薬）なども健在である。これにより，茶花方言もまだ Pn=n の多型アクセント体系を保っていると認められる。

すなわち，茶花方言は，全体としては多型の枠を保ちつつ，その中で型の合流・減少が進みつつあるものと位置付けられる。その変化の渦中にあるためであろう，話者間の差も他集落より大きいと感じられる。茶花は他集落からの移住者が多いということも関係しているに違いない。音調幅が狭く微妙で，聞き取りが容易でないことも，型の合流が進んでいることと無関係ではない。多型体系であることは疑いないが，個々の型の認定にはなお精査を要する。また，そのアクセント変化の説明には，音調の「張り／緩み（tense/lax）」の視点も必要となる。

2. 5 崎村弘文（2006）

最後に，先行研究の崎村（2006）に対して，本稿の立場から私見を述べる。

崎村は，麦屋東方言は「若干問題は有るものの，比較的短い語についてはモーラを韻律単位とする3型音調の方言」（拙論1999a以前に書かれた崎村1986: 95では「3型→2型（or 1型？）アクセントの方言」としていた。原文のまま），茶花方言は「モーラを韻律単位とする2型音調の方言」と記述している。それに基づき，拙論（1999a）の東区方言多型アクセント説に対して疑義を呈した後，両説の妥当性を見極めるには，として(7)のように述べる。長いがそのまま引用する。

- (7) その際，見落としてはならない重要な事実が一，二有る。即ち，与論島の他の集落の方言は語声調体系を持つものではないのか，仮にそうであるとすれば，それらと上野の云う麦屋東方言の比較的長い語の多型アクセントという特徴はどのように関連するのか，ということである。筆者の見方では，3型→2型と調類が混同・減少するものとして説明することが出来るが，上野の見方ではどうなのであろうか。前述の上野の論考ではその点について全く触れていないので理解しづらいものとなっている。上野1999b【＝本稿の1999a】で筆者の論考1986を引用する際に，筆者が併せて分析した与論島茶花方言の音調体系に関しては云々していないところを見ると，少くともそれが2型音調であることには異論無いもののようにも思われ

るのであるが。(pp. 107-108)

東区方言については、もはや縷説を要しないであろう。アクセント体系を考えるに当たって、「比較的短い語、比較的長い語」の別は最初から問題にしていない。2モーラの最小単位語でも3種類、6モーラの長い単語でも7種類で、一貫してn+1の対立があるのである。

茶花方言については、最初に与論を訪れたときの調査で2型に納まらないことは観察していたが、東区方言ほど詳しい調査ができていなかったのと、拙論は専ら東区方言の体系を詳しく論ずることが狙いであったために他方言には触れなただけである。

東区方言から茶花方言への変化を、「型の混同・減少」と捉えるという点では大筋は同じであるが、どちらも語声調方言ではなく、多型アクセントの中での $Pn=n+1$ 体系から $Pn=n$ 体系への変化（そしてさらに次への一步を踏み出している段階）であると捉えるのが本稿の立場である。

3 まとめ

与論島の諸方言は、すべて「昇り核」/[/によって弁別される多型アクセント体系である。その中で、東区方言が $Pn=n+1$ の最も多い対立数を持ち、かつ最も安定した体系である。その無核型と語末核型が合流して表層では $Pn=n$ の体系になりながら、名詞の長さや助詞の長さに応じていろいろの程度に元の区別の反映が見られるのが中間諸方言である。その合流変化がさらに進み、もはや助詞付き形を見ても元の①型と-①型との区別が復元できにくくなっているのが茶花方言である。茶花方言では、他の型の合流も進みつつある。

参考文献

- 上野善道 (1999a) 「与論島東区方言の多型アクセント体系」『国語学』199: (1)-(15).
上野善道 (1999b) 「与論島東区方言の用言のアクセント——付 体言のアクセント資料——」『東京大学言語学論集』18: 3-159.
上野善道 (2014) 「与論島方言のアクセント資料 (1)」『南島文化』36: 79-99.
【p. 79 haNmja[li] は haNnja[li] の入力ミス。また「-③型、-④型」の文字が抜けていた。】
上野善道 (2015) 「与論島方言のアクセント資料 (2)」『南島文化』37: 87-101.
上野善道 (2016) 「与論島方言のアクセント資料 (3)」『南島文化』38: (印刷中).
菊千代・高橋俊三 (2005) 『与論方言辞典』武蔵野書院.
崎村弘文 (2006[1986]) 「与論島方言」『琉球方言と九州方言の韻律論的研究』明治書院, 104-114. (初出「与論島方言のアクセント体系」『鹿児島大文科報告』22(1): 93-105.)

[付記] 本稿は、2012年度JSPS科学研究費22520421、及び2013・2015年度JSPS科学研究費25370452による調査研究成果の一部である。

4 与論島諸方言アクセント資料

4. 1 鹿児島県大島郡与論町 東区
 話者氏名 菊 千代さん (S. 2 生) 調査年月 2013年 2月, 9月

(1) 東区 (菊さん) 2拍名詞(言い切り)。

	単独	が	も	から	まで	からも	ぐらい	ばっかり
A	水(mi z ji=)。	〇〇nu=。	〇〇N=。	〇〇kara=。	〇〇gadi=。	〇〇karaN=。	〇〇gure:=。	〇〇=bak [kai。
	鳥(tui=)。	〇〇nu=。	〇〇jiN=。	〇〇kara=。	〇〇gadi=。	〇〇karaN=。	〇〇gure:=。	〇〇=bak [kai。
	鼻(pana=)。	〇〇nu=。	〇〇N=。	〇〇kara=。	〇〇gadi=。	〇〇karaN=。	〇〇gure:=。	〇〇=bak [kai。
B	山(ja [ma)。	〇〇nu。	〇〇N。	〇〇[kara。	〇〇[gadi。	〇〇[karaN。	〇〇[gure:。	〇〇[bak kai。
	花(pa [na)。	〇〇nu。	〇〇N。	〇〇[kara。	〇〇[gadi。	〇〇[karaN。	〇〇[gure:。	〇〇[bak kai。
	麦(mu [gi)。	〇〇nu。	〇〇N。	〇〇[kara。	〇〇[gadi。	〇〇[karaN。	〇〇[gure:。	〇〇[bak kai。
C	海(ʽuN)。	〇〇nu。	〇〇jiN。	〇〇kara。	〇〇gadi。	〇〇karaN。	〇〇gure:。	〇〇bak [kai。
	鍋([nabi)。	〇〇nu。	〇〇N。	〇〇kara。	〇〇gadi。	〇〇karaN。	〇〇gure:。	〇〇bak [kai。
	舟([puni)。	〇〇nu。	〇〇N。	〇〇kara。	〇〇gadi。	〇〇karaN。	〇〇gure:。	〇〇bak [kai。

(2) 東区 (菊さん) 3拍名詞(言い切り)。

	単独	が	も	から	まで	からも	ぐらい	ばっかり
A	畳(tatami=)。	〇〇Onu=。	〇〇N=。	〇〇kara=。	〇〇gadi=。	〇〇karaN=。	〇〇gure:=。	〇〇=bak [kai。
	印(sjirusji=)。	〇〇Onu=。	〇〇N=。	〇〇kara=。	〇〇gadi=。	〇〇karaN=。	〇〇gure:=。	〇〇=bak [kai。
	港(minatu=)。	〇〇Onu=。	〇〇N=。	〇〇kara=。	〇〇gadi=。	〇〇karaN=。	〇〇gure:=。	〇〇=bak [kai。
B	鉄(pasa [N)。	〇〇[nu。	〇〇〇[jiN。	〇〇〇[kara。	〇〇〇[gadi。	〇〇〇[karaN。	〇〇〇[gure:。	〇〇〇[bak kai。
	女(huna [gu)。	〇〇[Onu。	〇〇[ON。	〇〇〇[kara。	〇〇〇[gadi。	〇〇〇[karaN。	〇〇〇[gure:。	〇〇〇[bak kai。
	暦(kuju [mi)。	〇〇[Onu。	〇〇[ON。	〇〇〇[kara。	〇〇〇[gadi。	〇〇〇[karaN。	〇〇〇[gure:。	〇〇〇[bak kai。
	車(kuru [ma)。	〇〇[Onu。	〇〇[ON。	〇〇〇[kara。	〇〇〇[gadi。	〇〇〇[karaN。	〇〇〇[gure:。	〇〇〇[bak kai。

C	刀(ha[tana]). 葉(ku[sui]). 襦袢(zji[baN]).	〇[〇〇nu. 〇[〇〇nu. 〇[〇〇nu.	〇[〇〇N. 〇[〇〇jiN. 〇[〇〇jiN.	〇[〇〇kara. 〇[〇〇kara. 〇[〇〇kara.	〇[〇〇gadi. 〇[〇〇gadi. 〇[〇〇gadi.	〇[〇〇karaN. 〇[〇〇karaN. 〇[〇〇karaN.	〇[〇〇gure:. 〇[〇〇gure:. 〇[〇〇gure:.	〇[〇〇bak[kai. 〇[〇〇bak[kai. 〇[〇〇bak[kai.
D	指([ui bi]). 白髪([sja:gi]). 松木([macjigi]). マサキ([jacjiku]).	[〇〇〇nu. [〇〇〇nu. [〇〇〇nu. [〇〇〇nu.	[〇〇〇N. [〇〇〇N. [〇〇〇N. [〇〇〇N.	[〇〇〇kara. [〇〇〇kara. [〇〇〇kara. [〇〇〇kara.	[〇〇〇gadi. [〇〇〇gadi. [〇〇〇gadi. [〇〇〇gadi.	[〇〇〇karaN. [〇〇〇karaN. [〇〇〇karaN. [〇〇〇karaN.	[〇〇〇gure:. [〇〇〇gure:. [〇〇〇gure:. [〇〇〇gure:.	[〇〇〇bak[kai. [〇〇〇bak[kai. [〇〇〇bak[kai. [〇〇〇bak[kai.

(3) 東区(菊さん) 4拍名詞(言い切り)。

	単独	が	も	から	まで	からも	ぐらい	ば(か、ゆ)
A	餅米(mucjigumi=). 食料(paNne:=). 盃(sa:zjiki=). 煙(sjiNbusji=).	〇〇〇〇nu.= 〇〇〇〇nu.= 〇〇〇〇nu.= 〇〇〇〇nu.=	〇〇〇〇N.= 〇〇〇〇(ji)N.= 〇〇〇〇N.= 〇〇〇〇N.=	〇〇〇〇kara.= 〇〇〇〇kara.= 〇〇〇〇kara.= 〇〇〇〇kara.=	〇〇〇〇gadi.= 〇〇〇〇gadi.= 〇〇〇〇gadi.= 〇〇〇〇gadi.=	〇〇〇〇karaN.= 〇〇〇〇karaN.= 〇〇〇〇karaN.= 〇〇〇〇karaN.=	〇〇〇〇gure:= 〇〇〇〇gure:= 〇〇〇〇gure:= 〇〇〇〇gure:=	〇〇〇〇=bak[kai. 〇〇〇〇=bak[kai. 〇〇〇〇=bak[kai. 〇〇〇〇=bak[kai.
B	雷(haN(n)ja[i]. 台所(to:gu[ra].	〇〇〇〇[nu. 〇〇〇[Onu.	〇〇〇〇[jiN. 〇〇〇[ON.	〇〇〇〇[kara. 〇〇〇〇[kara.	〇〇〇〇[gadi. 〇〇〇〇[gadi.	〇〇〇〇[karaN. 〇〇〇〇[karaN.	〇〇〇〇[gure:. 〇〇〇〇[gure:.	〇〇〇〇[bakkai. 〇〇〇〇[bakkai.
C	風呂敷(puru[sjiki). 娘(me:[rabi). 天井(tiN[zjo:).	〇〇[〇〇nu. 〇〇[〇〇nu. 〇〇[〇〇nu.	〇〇[〇〇N. 〇〇[〇〇N. 〇〇[〇〇jiN.	〇〇[〇〇kara. 〇〇[〇〇kara. 〇〇[〇〇kara.	〇〇[〇〇gadi. 〇〇[〇〇gadi. 〇〇[〇〇gadi.	〇〇[〇〇karaN. 〇〇[〇〇karaN. 〇〇[〇〇karaN.	〇〇[〇〇gure:. 〇〇[〇〇gure:. 〇〇[〇〇gure:.	〇〇[〇〇bak[kai. 〇〇[〇〇bak[kai. 〇〇[〇〇bak[kai.
D	叔母(hu[baNka).	〇[〇〇〇nu.	〇[〇〇〇N.	〇[〇〇〇kara.	〇[〇〇〇gadi.	〇[〇〇〇karaN.	〇[〇〇〇gure:.	〇[〇〇〇bak[kai.
E	鯨([gu:zja:). 唐竹([karatai).	[〇〇〇〇〇nu. [〇〇〇〇〇nu.	[〇〇〇〇〇(ji)N. [〇〇〇〇〇(ji)N.	[〇〇〇〇〇kara. [〇〇〇〇〇kara.	[〇〇〇〇〇gadi. [〇〇〇〇〇gadi.	[〇〇〇〇〇karaN. [〇〇〇〇〇karaN.	[〇〇〇〇〇gure:. [〇〇〇〇〇gure:.	[〇〇〇〇〇bak[kai. [〇〇〇〇〇bak[kai.

(4) 東区 (菊さん) 1 音節名詞(言い切り)。

	単独	が	も	から	まで	からも	ぐらい	ばかり
A	血(c.ji:=)。	〇〇nu=。	〇〇jiN=。	〇〇kara=。	〇〇gadi=。	〇〇karaN=。	〇〇gure:=。	〇〇=bak [kai。
	葉(pa:=)。	〇〇nu=。	〇〇jiN=。	〇〇kara=。	〇〇gadi=。	〇〇karaN=。	〇〇gure:=。	〇〇=bak [kai。
	酒(sai=)。	〇〇nu=。	〇〇jiN=。	〇〇kara=。	〇〇gadi=。	〇〇karaN=。	〇〇gure:=。	〇〇=bak [kai。
	井戸(ko:=)。	〇〇nu=。	〇〇jiN=。	〇〇kara=。	〇〇gadi=。	〇〇karaN=。	〇〇gure:=。	〇〇=bak [kai。
B	手(ti[:])。	〇〇[nu。	〇〇[jiN。	〇〇[kara。	〇〇[gadi。	〇〇[karaN。	〇〇[lgure:。	〇〇[bakkai。
	木(h.ji[:])。	〇〇[nu。	〇〇[jiN。	〇〇[kara。	〇〇[gadi。	〇〇[karaN。	〇〇[lgure:。	〇〇[bakkai。
	家(ja[:])。	〇〇[nu。	〇〇[jiN。	〇〇[kara。	〇〇[gadi。	〇〇[karaN。	〇〇[lgure:。	〇〇[bakkai。
C	外([pa:])。	[〇〇nu。	[〇〇jiN。	[〇〇kara。	[〇〇gadi。	[〇〇karaN。	[〇〇gure:。	[〇〇bak [kai。
	桶([hui])。	[〇〇nu。	[〇〇jiN。	[〇〇kara。	[〇〇gadi。	[〇〇karaN。	[〇〇gure:。	[〇〇bak [kai。

(5) 東区 (菊さん) 追加語彙

hutusji= (今年), [hutusji (特別), 'abu[ra (油), haga[N (鏡), pat[tai (畑), sjo:[gacji (正月), ku:[nucji (九つ), [ka:ra:ja: (瓦葺き家), 'a:tu[kubi (晩), c.ji[burubacji (大峰), 'a[niNka (姉)。
[sjidabi (年上), [mi:ga (利口), [jo:ni (ノベカ), [jacji:ba (八重歯), [i:zja (どもり), [ho:zji (麴), [tuŋga (団子), [cju:ka (急須), [paija (柱), [kwa:gi (桑木), [po:ki (箸), [go:ra (垢), [ti:cji (一つ), [juiki (斧), [gisjiki (萱), [musjizja (蚕), [mi:cjiki (目つき), [mu:kwa: (髻), [a:gai (明かり), [maizjisji (尻の筋肉), [maibuni (尾骨), [me:sjibi (朝食), [punizjiru (骨汁), [masjuzjiki (塩漬け), [uŋnacjigi (海松, イワタイゲキ)。
['atai (辺り), ['atu'ui (後植え), ['atu'usjo:sji (後始末), ['atu'umari (遅生まれ), ['atukusari (後腐れ), ['atusji: (跡継ぎ), ['atumo:sji (後回し), ['iki'akubi (息欠伸), ['ikubaija (もっこく柱), ['izjipuni (出船), ['izjipuni:jo: (出船祝い), ['itukipada (絹着物)。

4. 2 鹿児島県大島郡与論町 東区

話者氏名 勝 初子 (S. 18 生) 調査年月 2013 年 2 月

(1) 東区 (勝さん) 2 拍名詞(言い切り)。

	単独	が	も	から	まで	からも
A	水(mizji=)。	〇〇nu=。	〇〇N=。	〇〇kara=。	〇〇gadi=。	〇〇karaN=。
	鳥(tui=)。	〇〇nu=。	〇〇jiN=。	〇〇kara=。	〇〇gadi=。	〇〇karaN=。

	鼻(pana=)。	〇〇nu=。	〇〇N=。	〇〇kara=。	〇〇gadi=。	〇〇karaN=。
B	山(ja[ma]。	〇[Onu。	〇[ON。	〇〇[kara。	〇〇[gadi。	〇〇[karaN。
	花(pa[na]。	〇[Onu。	〇[ON。	〇〇[kara。	〇〇[gadi。	〇〇[karaN。
	麦(mu[gi]。	〇[Onu。	〇[ON。	〇〇[kara。	〇〇[gadi。	〇〇[karaN。
C	海(l' uN)。	[〇〇nu。	[〇〇jiN。	[〇〇kara。	[〇〇gadi。	[〇〇karaN。
	鍋([nabi]。	[〇〇nu。	[〇〇N。	[〇〇kara。	[〇〇gadi。	[〇〇karaN。
	舟([puni]。	[〇〇nu。	[〇〇N。	[〇〇kara。	[〇〇gadi。	[〇〇karaN。

(2) 東区(勝さん) 3拍名詞(言い切り)。

	単独	が	も	から	まで	からも
A	畳(tatami=)。	〇〇Onu=。	〇〇ON=。	〇〇〇kara=。	〇〇〇gadi=。	〇〇〇karaN=。
	印(sjirusji=)。	〇〇Onu=。	〇〇ON=。	〇〇〇kara=。	〇〇〇gadi=。	〇〇〇karaN=。
	港(minatu=)。	〇〇Onu=。	〇〇ON=。	〇〇〇kara=。	〇〇〇gadi=。	〇〇〇karaN=。
B	鋏(pasa[N]。	〇〇〇[nu。	〇〇〇[jiN。	〇〇〇[kara。	〇〇〇[gadi。	〇〇〇[karaN。
	女(huna[gu]。	〇〇[Onu。	〇〇[ON。	〇〇〇[kara。	〇〇〇[gadi。	〇〇〇[karaN。
	暦(kuju[mi]。	〇〇[Onu。	〇〇[ON。	〇〇〇[kara。	〇〇〇[gadi。	〇〇〇[karaN。
	車(kuru[ma]。	〇〇[Onu。	〇〇[ON。	〇〇〇[kara。	〇〇〇[madi。	〇〇〇[karaN。
C	刀(ha[tana]。	〇[〇〇nu。	〇[〇〇N。	〇[〇〇kara。	〇[〇〇gadi。	〇[〇〇karaN。
	薬(kus[sui]。	〇〇[〇〇nu。	〇〇[〇〇jiN。	〇〇[〇〇kara。	〇〇[〇〇gadi。	〇〇[〇〇karaN。
	襦袢(zji[baN]。	〇[〇〇nu。	〇[〇〇jiN。	〇[〇〇kara。	〇[〇〇gadi。	〇[〇〇karaN。
D	指(l' uibi)。	[〇〇〇nu。	[〇〇〇N。	[〇〇〇kara。	[〇〇〇gadi。	[〇〇〇karaN。
	白髪([s(j)a:gi]。	[〇〇〇nu。	[〇〇〇N。	[〇〇〇kara。	[〇〇〇gadi。	[〇〇〇karaN。
	松木([macjigi]。	[〇〇〇nu。	[〇〇〇N。	[〇〇〇kara。	[〇〇〇gadi。	[〇〇〇karaN。
	マサキ([jacjiku]。	[〇〇〇nu。				

※ 空欄は未調査(以下同じ)。

(3) 東区 (勝さん) 4 拍名詞(言い切り)。

	単独	が	も	から	まで	からも
A	餅米(muc.jigumi=)。 食料(paŋme:=)。 盃(sa'zjik=)。 煙(sjiNbusji=)。	○○○Onu=。 ○○○Onu=。 ○○○Onu=。 ○○○Onu=。	○○○ON=。 ○○○jiN=。 ○○○ON=。 ○○○ON=。	○○○○kara=。 ○○○○kara=。 ○○○○kara=。 ○○○○kara=。	○○○○gadi=。 ○○○○gadi=。 ○○○○gadi=。 ○○○○gadi=。	○○○○karaN=。 ○○○○karaN=。 ○○○○karaN=。 ○○○○karaN=。
B	雷(haŋhja[i])。 台所(to:gu[ra])。	○○○○[nu]。 ○○○[Onu]。	○○○○[jiN]。 ○○○[ON]。	○○○○[kara]。 ○○○○[kara]。	○○○○[gadi]。 ○○○○[gadi]。	○○○○[karaN]。 ○○○○[karaN]。
C	風呂敷(puru[sjiki])。 娘(me:[rabi])。 天井(tiN[zjo:])。	○○[○Onu]。 ○○[○Onu]。 ○○[○Onu]。	○○[○ON]。 ○○[○ON]。 ○○[○jiN]。	○○[○○kara]。 ○○[○○kara]。 ○○[○○kara]。	○○[○○gadi]。 ○○[○○gadi]。 ○○[○○gadi]。	○○[○○karaN]。 ○○[○○karaN]。 ○○[○○karaN]。
D	叔母(hu[baŋka])。	○[○○○Onu]。	○[○○○ON]。	○[○○○○kara]。	○[○○○○gadi]。	○[○○○○karaN]。
E	鯨([gu:zja:])。 唐竹([karatai])。	[○○○○Onu]。 [○○○○Onu]。	[○○○○jiN]。	[○○○○kara]。	[○○○○gadi]。	[○○○○karaN]。

(4) 東区 (勝さん) 1 音節名詞(言い切り)。

	単独	が	も	から	まで	からも
A	血(cji:=)。 葉(pa:=)。 酒(sai=)。 井戸(ko:=)。	○○Onu=。 ○○Onu=。 ○○Onu=。 ○○Onu=。	○○jiN=。 ○○jiN=。 ○○jiN=。 ○○jiN=。	○○kara=。 ○○kara=。 ○○kara=。 ○○kara=。	○○gadi=。 ○○gadi=。 ○○gadi=。 ○○gadi=。	○○karaN=。 ○○karaN=。 ○○karaN=。 ○○karaN=。
B	手(ɬi[:])。 木(hji[:])。 家(ja[:])。	○○[nu]。 ○○[nu]。 ○○[nu]。	○○[jiN]。 ○○[jiN]。 ○○[jiN]。	○○[kara]。 ○○[kara]。 ○○[kara]。	○○[gadi]。 ○○[gadi]。 ○○[gadi]。	○○[karaN]。 ○○[karaN]。 ○○[karaN]。
C	外([pa:])。 桶([hui])。	[○○Onu]。 [○○Onu]。	[○○jiN]。 [○○jiN]。	[○○kara]。 [○○kara]。	[○○gadi]。 [○○gadi]。	[○○karaN]。 [○○karaN]。

(5) 東区(勝さん) 追加語彙

hutusji=(今年), [tukuni(特別), 特(こ)], 'abu[ra(油), haga[N(鏡), pat[tai(畑), sjo:[gacji(正月), ku:[nucji(九つ), [ka:raja:(瓦葺き家), 'a:tu[kubi(晝), cji[burubacji(大峰), 'a[niNka(姉)].

[sɟidabi(年上), [mi:ga(利口, い(子)い(子)する), [jo:ni(ノバカ), [jacjiba(八重歯), ['i:zja(どもり), [ho:zji(翹), [tuŋga(団子, 餅), [cju:ka(急須), [paija(柱), [kwa:gi(桑木), [po:ki(簾), [go:ra(垢), ['wa:gi(上着), [ti:cji(一つ), [juiki(斧), [gisjiki(萱), [musjizja(蚕), [mi:cjiki(目つき), [mi:kwa:(髻), ['a:gai(明かり), [maizjisji(尻の筋肉), [maibuni(尾骨), [me:sjibi(朝食), masjuzji[ki(塩漬け), masjuja[ki(塩焼き), ['uNmacjigi(海松, イワタイゲキ)。

4. 3 鹿児島県大島郡与論町西区→立長

話者氏名 叶 サカエ (S. 6 生) 調査年月 2013年 2月

(1) 西区(叶さん) 2拍名詞(言い切り)。

	単独	が (nu も)	も	から	まで	からも
A	水(mizji=)。 鳥(tui=)。 鼻(pana=)。	OOga=。 OOga=。 OOga=。	OON=。 OOjiN=。 OON=。	OOkara=。 OOkara=。 OOkara=。	OOgadi=。 OOgadi=。 OOgadi=。	OOkaraN=。 OOkaraN=。 OO[karaN。
B	山(ja[ma)。 花(pa[na)。 麦(mu[gi)。	OOga=。 OOga=。 OOga=。	OON=。 OON=。 OON=。	OO[kara。 OO[kara。 OO[kara。	OO[gadi。 OO[gadi。 OO[gadi。	OO[karaN。 OO[karaN。 OO[karaN。
C	海(['uN)。 鍋([nabi)。 舟([puni)。	[OOga。 [OOga。 [OOga。	[OOjiN。 [OON。 [OON。	[OOkara。 [OOkara。 [OOkara。	[OOgadi。 [OOgadi。 [OOgadi。	[OOkaraN。 [OOkaraN。 [OOkaraN。

(2) 西区(叶さん) 3拍名詞(言い切り)。

	単独	が	も	から	まで	からも
A	畳(tatami=)。	OOOga=。	OOON=。	OOOkara=。	OOOgadi=。	OOOkaraN=。

	印(sjirusji=)。 港(minatu=)。	○○Oga=。 ○○Oga=。	○○ON=。	○○Oka=。		○○OkaN=。
B	鉢(pasa[N]。 女(wuna[gu]。 暦(kuju[mi]。	○○Oga=。 ○○Oga=。 ○○Oga=。	○○OjiN=。 ○○ON=。 ○○ON=。	○○O[kara]。 ○○O[kara]。 ○○O[kara]。	○○O[gadi]。 ○○O[gadi]。 ○○O[gadi]。	○○O[karaN]。 ○○O[karaN]。 ○○O[karaN]。
	車(kuru[ma=]。	○○Oga=。	○○ON=。	○○O[kara]。	○○O[gadi]。	○○O[karaN]。
C	刀(ha[tana]。 葉(ku[sui]。 襦袢(zji[baN]。	O[○○Oga]。 O[○○Oga]。 O[○○Oga]。	O[○○ON]。 O[○○jiN]。 O[○○jiN]。	O[○○Oka]。 O[○○Oka]。 O[○○Oka]。	O[○○Ogadi]。 O[○○Ogadi]。 O[○○Ogadi]。	O[○○OkaN]。 O[○○OkaN]。 O[○○OkaN]。
D	指(ʼuibi)。 白髪([sja:gi]。 松木([macjigi]。 マサキ(ʼjacjiku)。	[○○Oga]。 [○○Oga]。 [○○Oga]。	[○○ON]。 [○○ON]。 [○○ON]。	[○○Oka]。 [○○Oka]。 [○○Oka]。	[○○Ogadi]。 [○○Ogadi]。 [○○Ogadi]。	[○○OkaN]。 [○○OkaN]。 [○○OkaN]。

cf. 立長は [sa:gi]。

cf. 立長 hibusji=。

(3) 西区 (叶さん) 4拍名詞(言い切り)。

	単独	が	も	から	まで	からも
A	餅米(mucjigumi=)。 食料(paNme:=)。 盃(sa:zjiki=)。 煙(sjibusji=)。	○○Oga=。 ○○Oga=。 ○○Oga=。 ○○Oga=。	○○ON=。 ○○OjiN=。 ○○ON=。 ○○ON=。	○○Oka=。 ○○Oka=。 ○○Oka=。 ○○Oka=。	○○Ogadi=。 ○○Ogadi=。 ○○Ogadi=。 ○○Ogadi=。	○○OkaN=。 ○○OkaN=。 ○○OkaN=。 ○○OkaN=。
B	雷(haNjajai=)。 台所(to:gura=)。	○○Oga=。 ○○Oga=。	○○OjiN=。 ○○ON=。	○○O[kara]。 ○○O[kara]。	○○O[gadi]。 ○○O[gadi]。	○○O[karaN]。 ○○O[karaN]。
C	風呂敷(puru[sjiki]。 娘(me:[rabi]。	○○[○○Oga]。 ○○[○○Oga]。	○○[○○ON]。 ○○[○○ON]。	○○[○○Oka]。 ○○[○○Oka]。	○○[○○Ogadi]。 ○○[○○Ogadi]。	○○[○○OkaN]。 ○○[○○OkaN]。

	天井(tiN[zjo:]。	〇〇[〇〇ga。	〇〇[〇〇jiN。	〇〇[〇〇kara。	〇〇[〇〇gadi。	〇〇[〇〇karaN。
D	叔母(wu[baNka。	〇[〇〇〇ga。	〇[〇〇〇N。	〇[〇〇〇kara。	〇[〇〇〇gadi。	〇[〇〇〇karaN。
E	鯨([gu:zja:]。	[〇〇〇〇ga。	[〇〇〇〇N。	[〇〇〇〇kara。	[〇〇〇〇gadi。	[〇〇〇〇karaN。
	唐竹([karatai)。	[〇〇〇〇ga。				

(4) 西区 (叶さん) 1音節名詞(言い切り)。

	単独	が	も	から	まで	からも
A	血(cji:=)。	〇〇ga=。	〇〇jiN=。	〇〇kara=。	〇〇gadi=。	〇〇karaN=。
	葉(pa:=)。	〇〇ga=。	〇〇jiN=。	〇〇kara=。	〇〇gadi=。	〇〇karaN=。
	酒(sai=)。	〇〇ga=。	〇〇jiN=。	〇〇kara=。	〇〇gadi=。	〇〇karaN=。
	井戸(ko:=)。	〇〇ga=。	〇〇jiN=。	〇〇kara=。	〇〇gadi=。	〇〇karaN=。
B	手(ti:=)。	〇〇ga=。	〇〇jiN=。	〇〇[kara。	〇〇[gadi。	〇〇[karaN。
	木(hji:=)。	〇〇ga=。	〇〇jiN=。	〇〇[kara。	〇〇[gadi。	〇〇[karaN。
	家(ja:=)。	〇〇ga=。	〇〇jiN=。	〇〇[kara。	〇〇[gadi。	〇〇[karaN。
C	外([pa:]。	[〇〇ga。	[〇〇jiN。	[〇〇kara。	[〇〇gadi。	[〇〇karaN。
	桶([wui)。	[〇〇ga。	[〇〇jiN。	[〇〇kara。	[〇〇gadi。	[〇〇karaN。

(5) 西区 (叶さん) 追加語彙

hutusji=(今年), NR(特別), 'abu[ra(油), haga[N(鏡), pat[tai(畑), sjo:[gacji(正月), ku:[nucji(九つ), [ka:raja:(瓦葺き家), 'a:tu[kubi(暎),
cji[burupacji(大蜂), 'a[nja:(姉)。
[sjiɖabi(年上), [mi:ga(利口), [jo:ni(ノベカ), [jacjiɭba(八重歯), [i:zja(どもり), [ho:zji(麴), [tuŋga(団子, 餅), [cju:ka(急須), [paija(柱),
[kwa:gi(桑木), [po:ki(箒), [go:ra(垢), [ti:cji(一つ), [ju:ki(斧), [gisjiki(萱), [musji:zja(蚕), mi:[cji:ra(目顔), [mu:kwa:(蟹),
'a:gai=(明かり), [maizjisji(尻の筋肉), [maibuni(尾骨, 豚骨の), sjini[buni(脛骨), me:[sjibi(朝食), puni[zji:ru(骨汁), masju[zjiki(塩漬),
[uNmacjigi(海松, 磯松)。

4. 4 鹿児島県大島郡与論町叶

話者氏名 山 元宗 (S. 19 生) 調査年月 2013 年 2 月, 9 月

(1) 叶 (山さん) 2 拍名詞(言い切り)。

	単独	が	も	から	まで	からも	ぐらい	ばかり
A	水(miz[ji=])。	〇〇nu=。	〇〇N=。	〇〇kara=。	〇〇gadi=。	〇〇karaN=。	〇〇gure:=。	〇〇=bak[kai。
	鳥(tui=)。	〇〇nu=。	〇〇jiN=。	〇〇kara=。	〇〇[gadi。	〇〇[karaN。	〇〇[gure:=。	〇〇=bak[kai。
	鼻(pana=)。	〇〇nu=。	〇〇N=。	〇〇[kara。	〇〇[gadi。	〇〇[karaN。	〇〇[gure:=。	〇〇=bak[kai。
B	山(jama=)。	〇〇nu=。	〇〇N=。	〇〇[kara。	〇〇[gadi。	〇〇[karaN。	〇〇[gure:=。	〇〇=bak[kai。
	花(pana=)。	〇〇nu=。	〇〇N=。	〇〇[kara。	〇〇[gadi。	〇〇[karaN。	〇〇[gure:=。	〇〇=bak[kai。
	麦(mugi=)。	〇〇nu=。	〇〇N=。	〇〇[kara=。	〇〇[gadi。	〇〇[karaN。	〇〇[gure:=。	〇〇=bak[kai。
C	海(‘uN)。	[〇〇nu。	[〇〇jiN。	[〇〇kara。	[〇〇gadi。	[〇〇karaN。	[〇〇gure:=。	[〇〇bak[kai。
	鍋([nabi)。	[〇〇nu。	[〇〇N。	[〇〇kara。	[〇〇gadi。	[〇〇karaN。	[〇〇gure:=。	[〇〇bak[kai。
	舟([puni)。	[〇〇nu。	[〇〇N。	[〇〇kara。	[〇〇gadi。	[〇〇karaN。	[〇〇gure:=。	[〇〇bak[kai。

(2) 叶 (山さん) 3 拍名詞(言い切り)。

	単独	が	も	から	まで	からも	ぐらい	ばかり
A	量(tatami=)。	〇〇〇nu=。	〇〇〇N=。	〇〇〇kara=。	〇〇〇[gadi。	〇〇〇karaN=。	〇〇〇gure:=。	〇〇〇[bakkai。
	印(sjirus[ji=)。	〇〇〇nu=。	〇〇〇N=。	〇〇〇[kara。	〇〇〇[gadi。	〇〇〇[karaN。	〇〇〇[gure:=。	〇〇〇[bakkai。
	港(minatu=)。	〇〇〇nu=。	〇〇〇N=。	〇〇〇[kara。	〇〇〇[gadi。	〇〇〇[karaN=。		
B	鋏(pasaN=)。	〇〇〇nu=。	〇〇〇jiN=。	〇〇〇[kara。	〇〇〇[gadi。	〇〇〇[karaN。	〇〇〇[gure:=。	〇〇〇[bakkai。
	女(wunagu=)。	〇〇〇nu=。	〇〇〇N=。	〇〇〇[kara。	〇〇〇[gadi。	〇〇〇[karaN。	〇〇〇[gure:=。	〇〇〇[bakkai。
	暦(kui/jumi=)。	〇〇〇nu=。	〇〇〇N=。	〇〇〇[kara。	〇〇〇[gadi。	〇〇〇[karaN。	〇〇〇[gure:=。	〇〇〇[bakkai。
	車(kuruma=)。	〇〇〇nu=。	〇〇〇N=。	〇〇〇[kara。	〇〇〇[gadi。	〇〇〇[karaN。		
C	刀(ha[tana)。	〇[〇〇nu。	〇[〇〇N。	〇[〇〇kara。	〇[〇〇gadi。	〇[〇〇karaN。	〇[〇〇gure:=。	〇[〇〇bak[kai。
	薬(ku[sui)。	〇[〇〇nu。	〇[〇〇jiN。	〇[〇〇kara。	〇[〇〇gadi。	〇[〇〇karaN。	〇[〇〇gure:=。	〇[〇〇bak[kai。

	襦袢(zji[baN])	〇[〇〇nu]	〇[〇〇jiN]	〇[〇〇kara]	〇[〇〇gadi]	〇[〇〇karaN]	〇[〇〇gure:]	〇[〇〇bak[kai]
D	指(l' uibi)	[〇〇〇nu]	[〇〇〇N]	[〇〇〇kara]	[〇〇〇gadi]	[〇〇〇karaN]	[〇〇〇gure:]	[〇〇〇bak[kai]
	白髪(sa·gi)	[〇〇〇nu]	[〇〇〇N]	[〇〇〇kara]	[〇〇〇gadi]	[〇〇〇karaN]	[〇〇〇gure:]	[〇〇〇bak[kai]
	松木(ma[cjigi])	〇[〇〇nu]	〇[〇〇N]	〇[〇〇kara]	〇[〇〇gadi]	〇[〇〇karaN]	〇[〇〇gure:]	〇[〇〇bak[kai]
	マサキ(ja[cjiku])	〇[〇〇nu]	〇[〇〇N]	〇[〇〇kara]	〇[〇〇gadi]	〇[〇〇karaN]	〇[〇〇gure:]	〇[〇〇bak[kai]

(3) 叶 (山さん) 4 拍名詞(言い切り)。

	単独	が	も	から	まで	からも	ぐらい	ばかり
A	餅米(mucjigumi=)	〇〇〇〇nu=	〇〇〇〇N=	〇〇〇〇[kara]	〇〇〇〇[gadi]	〇〇〇〇[karaN]	〇〇〇〇[gure:]	〇〇〇〇[bakkai]
	食料(paNe:=)	〇〇〇〇nu=	〇〇〇〇N=	〇〇〇〇[kara]	〇〇〇〇[gadi=]	〇〇〇〇[karaN]	〇〇〇〇[gure:]	〇〇〇〇[bakkai]
	盃(sa·zjiki=)	〇〇〇〇nu=	〇〇〇〇N=	〇〇〇〇[kara=]	〇〇〇〇[gadi=]	〇〇〇〇[karaN]	〇〇〇〇[gure:]	〇〇〇〇[bakkai]
	煙(sjiNbusji=)	〇〇〇〇nu=	〇〇〇〇N=	〇〇〇〇[kara]	〇〇〇〇[gadi]	〇〇〇〇[karaN]	〇〇〇〇[gure:]	〇〇〇〇[bakkai]
B	雷(thaNjai=)	〇〇〇〇nu=	〇〇〇〇jiN=	〇〇〇〇[kara]	〇〇〇〇[gadi=]	〇〇〇〇[karaN]	〇〇〇〇[gure:]	〇〇〇〇[bakkai]
	台所(to:gura=)	〇〇〇〇nu=	〇〇〇〇N=	〇〇〇〇[kara]	〇〇〇〇[gadi]	〇〇〇〇[karaN]	〇〇〇〇[gure:]	〇〇〇〇[bakkai]
C	風呂敷(puru[sjiki])	〇〇[〇〇nu]	〇〇[〇〇N]	〇〇[〇〇kara]	〇〇[〇〇gadi]	〇〇[〇〇karaN]	〇〇[〇〇gure:]	〇〇[〇〇bak[kai]
	娘(me:[rabi])	〇〇[〇〇nu]	〇〇[〇〇N]	〇〇[〇〇kara]	〇〇[〇〇gadi]	〇〇[〇〇karaN]	〇〇[〇〇gure:]	〇〇[〇〇bak[kai]
	天井(tiN[zjo:])	〇〇[〇〇nu]	〇〇[〇〇N]	〇〇[〇〇kara]	〇〇[〇〇gadi]	〇〇[〇〇karaN]	〇〇[〇〇gure:]	〇〇[〇〇bak[kai]
D	叔母(wu[baNka])	〇[〇〇〇〇nu]	〇[〇〇〇〇N]	〇[〇〇〇〇kara]	〇[〇〇〇〇gadi]	〇[〇〇〇〇karaN]	〇[〇〇〇〇gure:]	〇[〇〇〇〇bak[kai]
E	鯨([gu:zja:])	[〇〇〇〇〇nu]	[〇〇〇〇〇N]	[〇〇〇〇〇kara]	[〇〇〇〇〇gadi]	[〇〇〇〇〇karaN]	[〇〇〇〇〇gure:]	[〇〇〇〇〇bak[kai]
	唐竹([karadai])	[〇〇〇〇〇nu]	[〇〇〇〇〇N]	[〇〇〇〇〇kara]	[〇〇〇〇〇gadi]	[〇〇〇〇〇karaN]	[〇〇〇〇〇gure:]	[〇〇〇〇〇bak[kai]

(4) 叶 (山さん) 1 音節名詞(言い切り)。

	単独	が	も	から	まで	からも	ぐらい	ばかり
A	血(cji:=)	〇〇nu=	〇〇jiN=	〇〇kara=	〇〇[gadi]	〇〇[karaN]	〇〇gure:=	〇〇=bak[kai]
	葉(pa:=)	〇〇nu=	〇〇jiN=	〇〇[kara=]	〇〇[gadi=]	〇〇[karaN=]	〇〇[gure:]	〇〇=bak[kai]

	酒(sai=)。 井戸(ko:=)。	〇〇nu=。 〇〇nu=。	〇〇jiN=。 〇〇jiN=。	〇〇kara=。 〇〇kara=。	〇〇gadi=。 〇〇gadi=。	〇〇[karaN=]。 〇〇[karaN=]。	〇〇gure:=。 〇〇gure:=。	〇〇=bak[kai]。 〇〇=bak[kai]。
B	手(ti:=)。 木(hji:=)。 家(ja:=)。	〇〇nu=。 〇〇nu=。 〇〇nu=。	〇〇jiN=。 〇〇jiN=。 〇〇jiN=。	〇〇[kara]。 〇〇[kara]。 〇〇[kara]。	〇〇[gadi]。 〇〇[gadi]。 〇〇[gadi]。	〇〇[karaN]。 〇〇[karaN]。 〇〇[karaN]。	〇〇[ɡure:]。 〇〇[ɡure:]。 〇〇[ɡure:]。	〇〇[bakkai]。 〇〇[bakkai]。 〇〇[bakkai]。
C	外([pa:])。 桶([wui])。	[〇〇nu]。 [〇〇nu]。	[〇〇jiN]。 [〇〇jiN]。	[〇〇kara]。 [〇〇kara]。	[〇〇gadi]。 [〇〇gadi]。	[〇〇karaN]。 [〇〇karaN]。	[〇〇ɡure:]。 [〇〇ɡure:]。	[〇〇bak[kai]。 [〇〇bak[kai]。

(5) 叶 (山さん) 追加語彙

hutusji=(今年), tuku[bicji (特別), 'abura=(油), hagaN=(鏡), pat[tai(畑), sjo:[gacji (正月), ku:[nucji (九つ), [ka:raja:(瓦葺き家), 'a:tu[kubi(眺),
cji[burubacji (大峰), 'aN[nja:(姉)。

hji[dabi (年上), jacjiiba:=(八重歯), [ho:zji (翅), [tuŋga (団子), [cju:ka (急須), [paija (柱), [kwa:gi (桑木), [po:ki (簾), [go:ra (垢), [ti:cji (一つ),
[ju:ki (斧), [gisjiki (萱), [musjizja (蚕), [mu:kwa:(蟹), 'a:gai=(明かり), [maizjisji (尻の筋肉), [maibuni (尾骨), [punizjuru (骨汁),
masju[zjiki (塩漬け), [uŋmacjigi (海松, イワタイゲキ)。

'atai=(辺り), [atu'ui (後植え), [atu'u[sjo:sji (後始末), [atu'umari (遅生まれ), [atu-ku[sari (後腐れ), [atusji:(粥継ぎ, [atucjigi が普),
[atumo:sji (後回し), 'iki'a[kubi (息欠伸), [ikubaija (もっこく柱), 'izjipuni=(出船), 'izjipuni[joi (出船祝い)。

4. 5 鹿児島県大島郡与論町那間

話者氏名 竹下 徹 (S. 11 生) 調査年月 2013 年 2 月, 9 月

(1) 那間 (竹下さん) 2 拍名詞(言い切り)。

	単独	が	も	から	まで	からも	ぐらい	ばかり
A	水(mizji=)。 鳥(tui=)。 鼻(pana=)。	〇〇nu=。 〇〇nu=。 〇〇nu=。	〇〇N=。 〇〇jiN=。 〇〇N=。	〇〇kara=。 〇〇kara=。 〇〇[kara=]。	〇〇gadi=。 〇〇[gadi=]。 〇〇[gadi]。	〇〇karaN=。 〇〇karaN=。 〇〇[karaN]。	〇〇gurai=。 〇〇gurai=。 〇〇[gurai]。	〇〇=bak[kai]。 〇〇=bak[kai]。 〇〇=bak[kai]。
B	山(jama=)。 花(pana=)。	〇〇nu=。 〇〇nu=。	〇〇N=。 〇〇N=。	〇〇[kara]。 〇〇[kara=]。	〇〇[gadi=]。 〇〇[gadi=]。	〇〇[karaN]。 〇〇[karaN]。	〇〇[gurai]。 〇〇gurai=。	〇〇=bak[kai]。 〇〇=bak[kai]。

	麦(mugi=)。		〇〇nu=。	〇〇N=。	〇〇[kara=。	〇〇[gadi=。	〇〇karaN=。	〇〇[gurai。	〇〇=bak[kai。
C	海(ʼuN)。		[〇〇nu。	[〇〇jiN。	[〇〇kara。	[〇〇gadi。	[〇〇karaN。	[〇〇gurai。	[〇〇bak[kai。
	鍋([nabi)。		[〇〇nu。	[〇〇N。	[〇〇kara。	[〇〇gadi。	[〇〇karaN。	[〇〇gurai。	[〇〇bak[kai。
	舟([puni)。		[〇〇nu。	[〇〇N。	[〇〇kara。	[〇〇gadi。	[〇〇karaN。	[〇〇gurai。	[〇〇bak[kai。

(2) 那間 (竹下さん) 3拍名詞(言い切り)。

	単独	が	も	から	まで	からも	ぐらい	ばかり
A	量(tatami=)。	〇〇Onu=。	〇〇ON=。	〇〇〇kara=。	〇〇〇[gadi。	〇〇〇[karaN。	〇〇〇gurai=。	〇〇〇=bak[kai。
	印(sjirusji=)。	〇〇Onu=。	〇〇ON=。	〇〇〇[kara。	〇〇〇[gadi。	〇〇〇[karaN。	〇〇〇[gurai。	〇〇〇bakkai=。
	港(minatu=)。	〇〇Onu=。	〇〇ON=。	〇〇〇[kara。		〇〇〇[karaN。		
B	鉄(pasaN=)。	〇〇Onu=。	〇〇〇jiN=。	〇〇〇[kara。	〇〇〇[gadi。	〇〇〇[karaN。	〇〇〇[gurai。	〇〇〇=bak[kai。
	女(wunagu=)。	〇〇Onu=。	〇〇ON=。	〇〇〇[kara。	〇〇〇[gadi。	〇〇〇[karaN。	〇〇〇[gurai。	〇〇〇=bak[kai。
	暦(kujumi=)。	〇〇Onu=。	〇〇ON=。	〇〇〇[kara。	〇〇〇[gadi。	〇〇〇[karaN。	〇〇〇[gurai。	〇〇〇=bak[kai。
	車(kuruma=)。	〇〇Onu=。	〇〇ON=。	〇〇〇[kara。	〇〇〇[gadi。	〇〇〇[karaN。		
C	刀(ha[tana)。	〇[〇〇nu。	〇[〇〇N。	〇[〇〇kara。	〇[〇〇gadi。	〇[〇〇karaN。	〇[〇〇gurai。	〇[〇〇bak[kai。
	薬(ku(s)[sui)。	〇[〇〇nu。	〇[〇〇jiN。	〇[〇〇kara。	〇[〇〇gadi。	〇[〇〇karaN。	〇[〇〇gurai。	〇[〇〇bak[kai。
	櫓舳(zji[baN)。	〇[〇〇nu。	〇[〇〇jiN。	〇[〇〇kara。	〇[〇〇gadi。	〇[〇〇karaN。	〇[〇〇gurai。	〇[〇〇bak[kai。
D	指(ʼuibi)。	[〇〇〇nu。	[〇〇〇N。	[〇〇〇kara。	[〇〇〇gadi。	[〇〇〇karaN。	[〇〇〇gurai。	[〇〇〇bak[kai。
	白髪([sa·gi)。	[〇〇〇nu。	[〇〇〇N。	[〇〇〇kara。	[〇〇〇gadi。	[〇〇〇karaN。	[〇〇〇gurai。	[〇〇〇bak[kai。
	松木(ma[cjigi)。	〇[〇〇nu。	〇[〇〇N。	〇[〇〇kara。	〇[〇〇gadi。	〇[〇〇karaN。	〇[〇〇gurai。	〇[〇〇bak[kai。
	マサギ(ja[cjiku)。	〇[〇〇nu。	〇[〇〇N。	〇[〇〇kara。	〇[〇〇gadi。	〇[〇〇karaN。	〇[〇〇gurai。	〇[〇〇bak[kai。

(3) 那間 (竹下さん) 4拍名詞(言い切り)。

	単独	が	も	から	まで	からも	ぐらい	ばっかり
A	餅米(muc jigumi=)。 食料(paŋne:=)。 盃(sa:zjiki=)。 煙(sjiŋbusji=)。	○○○Onu=。 ○○○Onu=。 ○○○Onu=。 ○○○Onu=。	○○○○N=。 ○○○○jiN=。 ○○○○N=。 ○○○○N=。	○○○○[kara。 ○○○○[kara=。 ○○○○kara=。 ○○○○kara=。	○○○○[gadi。 ○○○○[gadi。 ○○○○gadi=。 ○○○○[gadi。	○○○○[karaN。 ○○○○[karaN。 ○○○○[karaN。 ○○○○[karaN。	○○○○[gurai。 ○○○○[gurai。 ○○○○gurai=。 ○○○○gurai=。	○○○○=bak[kai。 ○○○○=bak[kai。 ○○○○=bak[kai。 ○○○○=bak[kai。
B	雷(haŋjai=)。 台所(to:gura=)。	○○○Onu=。 ○○○Onu=。	○○○○jiN=。 ○○○○N=。	○○○○[kara。 ○○○○[kara。	○○○○[gadi。 ○○○○[gadi。	○○○○[karaN。 ○○○○[karaN。	○○○○gurai=。 ○○○○[gurai。	○○○○=bak[kai。 ○○○○=bak[kai。
C	風呂敷(puru[sjiki)。 娘(me:[rabi)。 天井(tiN[zo:)。	○○[○○nu。 ○○[○○nu。 ○○[○○nu。	○○[○○N。 ○○[○○N。 ○○[○○jiN。	○○[○○kara。 ○○[○○kara。 ○○[○○kara。	○○[○○gadi。 ○○[○○gadi。 ○○[○○gadi。	○○[○○karaN。 ○○[○○karaN。 ○○[○○karaN。	○○[○○gurai。 ○○[○○gurai。 ○○[○○gurai。	○○[○○bak[kai。 ○○[○○bak[kai。 ○○[○○bak[kai。
D	叔母(wu[baNka)。	○[○○○Onu。	○[○○○N。	○[○○○kara。	○[○○○gadi。	○[○○○karaN。	○[○○○gurai。	○[○○○bak[kai。
E	鯨([gu:z(j)a:)。 唐竹([karatai)。	[○○○○Onu。 [○○○○Onu。	[○○○○N。 ○○○○N。	[○○○○kara。 [○○○○kara。	[○○○○gadi。 [○○○○gadi。	[○○○○karaN。 [○○○○karaN。	[○○○○gurai。 [○○○○gurai。	[○○○○bak[kai。 [○○○○bak[kai。

(4) 那間(竹下さん) 1 音節名詞(言い切り)。

	単独	が	も	から	まで	からも	ぐらい	ばっかり
A	血(ci:=)。 葉(pa:=)。 酒(sai=)。 井戸(ko:=)。	○○nu=。 ○○nu=。 ○○nu=。 ○○nu=。	○○jiN=。 ○○jiN=。 ○○jiN=。 ○○jiN=。	○○[kara=。 ○○[kara=。 ○○kara=。 ○○kara=。	○○[gadi=。 ○○gadi=。 ○○gadi=。 ○○gadi=。	○○[karaN。 ○○karaN=。 ○○karaN=。 ○○karaN=。	○○[gurai=。 ○○[gurai=。 ○○gurai=。 ○○gurai=。	○○=bak[kai。 ○○=bak[kai。 ○○bakkai=。 ○○bakkai=。
B	手([ti:=)。 木([hji:=)。 家(ja:=)。	○○nu=。 [○○nu=。 ○○nu=。	○○jiN=。 ○○jiN=。 ○○jiN=。	○○[kara。 ○○[kara=。 ○○[kara。	○○[gadi。 ○○[gadi。 ○○[gadi。	○○[karaN。 ○○[karaN。 ○○[karaN。	○○[gurai。 ○○[gurai=。 ○○[gurai。	○○=bak[kai。 ○○=bak[kai。 ○○=bak[kai。
C	外([pa:)。 桶([wui)。	[○○nu。 [○○nu。	[○○jiN。 [○○jiN。	[○○kara。 [○○kara。	[○○gadi。 [○○gadi。	[○○karaN。 [○○karaN。	[○○gurai。 [○○gurai。	[○○bak[kai。 [○○bak[kai。

(5) 那間 (竹下さん) 追加語彙

hutusji=(今年), NR(特別), 'abura=(油), hagan=(鏡), pat[tai(畑), sjo:[gacji(正月), ku:[nucji(九つ), [ka:raja:(瓦葺き家), 'a:tu[kubi(晝),
c.ji[burubacji(大峰), 'an[nja:(姉).
hji[dabi(年上), jacjiiba:=(八重歯), [ho:zji(麴), [tuNga(団子), [cju:ka(急須), [paija(柱), [kwa:gi(桑木), [po:ki(簪), go:ra=(垢), [ti:cji(一つ),
[ju:ki(斧), gi[sjiki(萱), mu[sjizja(蚕), [mu:kwa:(蟹), 'a:gai=(明かり), [maizjisji(尻の筋肉), [maibuni(尾骨), [me:sjibi(朝食),
puni[zjiru(骨汁), masju[zjiki(塩漬), [uNmajigi(海松, イワタイゲキ), [satataki(砂糖炊き), sata[nabi(砂糖鍋).
'atai=(辺り), [atu'ui(後植え) Cf. [atu'ui[sjo:sji(後始末), [atu'umari(遅生まれ), [atukusai(後腐れ), [atusji:(跡継ぎ),
[ikubaija(もっこく柱), 'izji[puni=(出船), 'iripuni[joi(入り船祝い。出船祝いではない), 'iri[puni=(入り船), kinuki[pada(絹着物).

4. 6 鹿児島県大島郡与論町朝戸

話者氏名 吉田 昭久 (S. 4 生) 調査年月 2013 年 9 月

(1) 朝戸 (吉田さん) 2 拍名詞(言い切り).

	単独	が	も	から	まで (madi も)	からも	ぐらい	ばかり
A	水 (mizji=).	○○ga=.	○○N=.	○○kara=.	○○gadi=.	○○[karaN.	○○[gurai.	○○=bak [kai.
	鳥 (tui=).	○○ga=.	○○jiN=.	○○kara=.	○○gadi=.	○○[karaN.	○○[gurai=.	○○=bak [kai.
	鼻 (pana=).	○○ga=.	○○N=.	○○kara=.	○○gadi=.	○○[karaN.	○○[gurai.	○○=bak [kai.
B	山 (jama=).	○○ga=.	○○N=.	○○[kara.	○○[gadi.	○○[karaN.	○○[gurai.	○○=bak [kai.
	花 (pana=).	○○ga=.	○○N=.	○○kara=.	○○[gadi=.	○○[karaN.	○○[gurai.	○○=bak [kai.
	麦 (mugi=).	○○ga=.	○○N=.	○○[kara=.	○○gadi=.	○○[karaN.	○○[gurai.	○○=bak [kai.
C	海 ([uN).	[○○ga.	[umiN.	[○○kara.	[○○gadi.	[○○karaN.	[○○gurai.	[○○bak [kai.
	鍋 ([nabi).	[○○ga.	[○○N.	[○○kara.	[○○gadi.	[○○karaN.	[○○gurai.	[○○bak [kai.
	舟 ([puni).	[○○ga.	[○○N.	[○○kara=.	[○○gadi.	[○○karaN.	[○○gurai.	[○○bak [kai.

(2) 朝戸 (吉田さん) 3 拍名詞(言い切り).

	単独	が	も	から	まで	からも	ぐらい	ばかり
A	量 (tatami=).	○○○ga=.	○○○N=.	○○○kara=.	○○○[gadi.	○○○[karaN.	○○○[gurai.	○○○=bak [kai.
	印 (sjirusji=).	○○○ga=.	○○○N=.	○○○kara=.	○○○gadi=.	○○○[karaN.	○○○[gurai.	○○○=bak [kai.

	港(minatu=)。	〇〇〇ga=。	〇〇〇N=。	〇〇〇kara=。	〇〇〇gadi=。	〇〇〇karaN=。		〇〇〇=bak[kai。
B	鉢(pasaN=)。 女(wunagu=)。 暦(kujumi=)。 車(kuruma=)。	〇〇〇ga=。 〇〇〇ga=。 〇〇〇ga=。 〇〇〇ga=。	pasamiN=。 〇〇〇N=。 〇〇〇N=。	〇〇〇[kara。 〇〇〇[kara。 〇〇〇[kara=。	〇〇〇[gadi。 〇〇〇[gadi。 〇〇〇[gadi。	〇〇〇[karaN。 〇〇〇[karaN。 〇〇〇[karaN。	〇〇〇[gurai。 〇〇〇[gurai。 〇〇〇[gurai。	〇〇〇=bak[kai。 〇〇〇=bak[kai。 〇〇〇=bak[kai。 〇〇〇=bak[kai。
C	刀(ha[tana)。 薬(ku[sui)。 襦袢(zji[baN)。	〇[〇〇ga。 〇[〇〇ga。 〇[〇〇ga。	〇[〇〇N。 〇[〇〇jiN。 〇[〇〇jiN。	〇[〇〇kara。 〇[〇〇kara。 〇[〇〇kara。	〇[〇〇gadi。 〇[〇〇gadi。 〇[〇〇gadi。	〇[〇〇karaN。 〇[〇〇karaN。 〇[〇〇karaN。	〇[〇〇gurai。 〇[〇〇gurai。 〇[〇〇gurai。	〇[〇〇bak[kai。 〇[〇〇bak[kai。 〇[〇〇bak[kai。
D	指(l'uiibi)。 白髪([sja:gi)。 松木([macjigi)。 マサキ([jacjiku)。	[〇〇〇ga。 [〇〇〇ga。 [〇〇〇ga。 [〇〇〇ga。	[〇〇〇N。 [〇〇〇N。 [〇〇〇N。 [〇〇〇N。	[〇〇〇kara。 [〇〇〇kara。 [〇〇〇kara。 [〇〇〇kara。	[〇〇〇gadi。 [〇〇〇gadi。 [〇〇〇gadi。 [〇〇〇gadi=。	[〇〇〇karaN。 [〇〇〇karaN。 [〇〇〇karaN。 [〇〇〇karaN。	[〇〇〇gurai。 [〇〇〇gurai。 [〇〇〇gurai。 [〇〇〇gurai。	[〇〇〇bak[kai。 [〇〇〇bak[kai。 [〇〇〇bak[kai。 [〇〇〇bak[kai。

(3) 朝戸 (吉田さん) 4拍名詞(言い切り)。

	単独	が	も	から	まで	からも	ぐらい	ばかり
A	餅米(muc.jigumi=)。 食料(paNme:=)。 盃(sa:zjiki=)。 煙(sjiNbusji=)。	〇〇〇〇ga=。 〇〇〇〇ga=。 〇〇〇〇ga=。 〇〇〇〇ga=。	〇〇〇〇N=。 〇〇〇〇jiN=。 〇〇〇〇N=。 〇〇〇〇N=。	〇〇〇〇[kara=。 〇〇〇〇[kara。 〇〇〇〇[kara。 〇〇〇〇kara=。	〇〇〇〇[gadi。 〇〇〇〇[gadi。 〇〇〇〇[gadi。 〇〇〇〇gadi=。	〇〇〇〇[karaN。 〇〇〇〇[karaN。 〇〇〇〇[karaN。 〇〇〇〇[karaN。	〇〇〇〇[gurai。 〇〇〇〇[gurai。 〇〇〇〇[gurai。 〇〇〇〇[gurai。	〇〇〇〇=bak[kai。 〇〇〇〇=bak[kai。 〇〇〇〇=bak[kai。 〇〇〇〇=bak[kai。
B	雷(haNjai=)。(古) kaminari=が雷 台所(to:gura=)。	〇〇〇〇ga=。 〇〇〇〇ga=。	〇〇〇〇jiN=。 〇〇〇〇N=。	〇〇〇〇[kara。 〇〇〇〇[kara。	〇〇〇〇[gadi。 〇〇〇〇[gadi。	〇〇〇〇[karaN。 〇〇〇〇[karaN。	〇〇〇〇[gurai。 〇〇〇〇[gurai。	〇〇〇〇=bak[kai。 〇〇〇〇=bak[kai。
C	風呂敷(puru[sjiki)。 娘(me:[rabi)。 天井(tiN[zjo:)	〇〇[〇〇ga。 〇〇[〇〇ga。 〇〇[〇〇ga。	〇〇[〇〇N。 〇〇[〇〇N。 〇〇[〇〇jiN。	〇〇[〇〇kara。 〇〇[〇〇kara。 〇〇[〇〇kara。	〇〇[〇〇gadi。 〇〇[〇〇gadi。 〇〇[〇〇gadi。	〇〇[〇〇karaN。 〇〇[〇〇karaN。 〇〇[〇〇karaN。	〇〇[〇〇gurai。 〇〇[〇〇gurai。 〇〇[〇〇gurai。	〇〇[〇〇bak[kai。 〇〇[〇〇bak[kai。 〇〇[〇〇bak[kai。

D	叔母(wu[baNka])。	○[○○○ga]	○[○○○N]	○[○○○kara]	○[○○○gadi]	○[○○○karaN]	○[○○○gurai]	○[○○○bak[kai]
E	鯨(lgu:zja:)。	[○○○○ga]	[○○○○jiN]	[○○○○kara]	[○○○○gadi]	[○○○○karaN]	[○○○○gurai]	[○○○○bak[kai]
	唐竹[karatai]。	[○○○○ga]	[○○○○jiN]	[○○○○kara]	[○○○○gadi]	[○○○○karaN]	[○○○○gurai]	[○○○○bak[kai]

(4) 朝戸 (吉田さん) 1 音節名詞(言い切り)。

	単独	が	も	から	まで	からも	ぐらい	ばかり
A	血(cji:=)。	○○ga=。	○○jiN=。	○○kara=。	○○gadi=。	○○[karaN]	○○gurai=。	○○=bak[kai]
	葉(pa:=)。	○○ga=。	○○jiN=。	○○kara=。	○○gadi=。	○○karaN=。	○○lgurai。	○○=bak[kai]
	酒(sai=)。	○○ga=。	○○jiN=。	○○kara=。	○○gadi=。	○○karaN=。	○○gurai=。	○○=bak[kai]
	井戸(ko:=)。	○○ga=。	○○jiN=。	○○kara=。	○○gadi=。	○○karaN=。	○○gurai=。	○○=bak[kai]
B	手(ti:=)。	○○ga=。	○○jiN=。	○○kara。	○○gadi。	○○[karaN]	○○lgurai。	○○=bak[kai]
	木(hji:=)。	○○ga=。	○○jiN=。	○○kara。	○○gadi。	○○[karaN]	○○lgurai。	○○=bak[kai]
	家(ja:=)。	○○ga=。	○○jiN=。	○○kara。	○○gadi。	○○[karaN]	○○lgurai。	○○=bak[kai]
C	外[pa:]。	[○○ga]	[○○jiN]	[○○kara]	[○○gadi]	[○○karaN]	[○○gurai]	[○○bak[kai]
	桶[wui]。	[○○ga]	[○○jiN]	[○○kara]	[○○gadi]	[○○karaN]	[○○gurai]	[○○bak[kai]

(5) 朝戸 (吉田さん) 追加語彙

hutusji=(今年), NR(特別), 'abura=(油), hagan=(鏡), pat[tai(畑), sjo:[gacji(正月), ku:[nucji(九つ), [ka:raja:(瓦葺き家), 'a:tu[kubi(眺),
cji[burubacji(大蜂), 'a[nja:(姉)。
hji[dabi(年上), [mi:ga(利口), [jo:ni(ノカ), jacjiba=(八重歯), ['i:zja(どもり), [ho:zji(麴), [tuNga(団子), [cju:ka(急須), [paija(柱),
[kwa:gi(桑木), [po:ki(簪), [go:ra(垢), [ti:cji(一つ), [ju:ki(斧), gi[sjiki(萱), mu[sjizja(蚕), [mi:cjiki(目つき), [mu:kwa:(髻), 'a:gai=(明かり),
[maizjisji(尻の筋肉), [maibuni(尾骨), [me:sjibi(朝食), [punizjiru(骨汁), [masjuzjiki(塩漬), ['uNmacjigi(海松, イワタイゲキ)。
'a[ta(辺り), pata=が普通, ['atu'ui(後植え), ['atu'usjo:sji(後始末), ['atu'umari(遅生まれ), ['atukusari(後腐れ), ['atusji:(御継ぎ),
['atumo:sji(後回し), ['iki'akubi(息欠伸。意味不明), ['ikubaija(もっこく柱), ['izjibuni(出船), ['izjipunjoi(出船祝い), ['itukipada(絹)

4. 7 鹿児島県大島郡与論町朝戸

話者氏名 大田 英勝 (S. 26 生) 調査年月 2013 年 9 月

(1) 朝戸 (大田さん) 2 拍名詞(言い切り)。

	単独	が	も	から	まで	からも	ぐらい	ばかり
A	水(miz.ji=)。 鳥(tui=)。 鼻(pana=)。	〇〇nu=。 〇〇nu=。 〇〇nu=。	〇〇N=。 〇〇jiN=。 〇〇N=。	〇〇kara=。 〇〇kara=。 〇〇kara=。	〇〇gadi=。 〇〇gadi=。 〇〇gadi=。	〇〇karaN=。 〇〇karaN=。 〇〇karaN=。	〇〇gure: =。 〇〇gure: =。 〇〇gure: =。	〇〇=bakkai=。 〇〇=bakkai=。 〇〇=bakkai=。
B	山(jama=)。 花(pana=)。 麦(mugi=)。	〇〇nu=。 〇〇nu=。 〇〇nu=。	〇〇N=。 〇〇N=。 〇〇N=。	〇〇[kara。 〇〇[kara(=)。 〇〇[kara。	〇〇[gadi。 〇〇[gadi=。 〇〇[gadi=。	〇〇[karaN。 〇〇[karaN。 〇〇[karaN。	〇〇gure: =。 〇〇gure: =。 〇〇gure: =。	〇〇=bakkai。 〇〇=bakkai。 〇〇=bakkai=。
C	海(ʼuN)。 鍋([nabi)。 舟([puni)。	[〇〇nu。 [〇〇nu。 [〇〇nu。	[〇〇jiN。 [〇〇N。 [〇〇N。	[〇〇kara。 [〇〇kara。 [〇〇kara。	[〇〇gadi。 [〇〇gadi。 [〇〇gadi。	[〇〇karaN。 [〇〇karaN。 [〇〇karaN。	[〇〇gure: =。 [〇〇gure: =。 [〇〇gure: =。	[〇〇bakkai=。 [〇〇bakkai。 [〇〇bakkai。

(2) 朝戸 (大田さん) 3 拍名詞(言い切り)。

	単独	が	も	から	まで	からも	ぐらい	ばかり
A	畳(tatami=)。 tataN=(古) 印(sjirusji=)。 港(minatu=)。	〇〇〇nu=。 〇〇〇nu=。 〇〇〇nu=。	〇〇〇N=。 〇〇〇N=。 〇〇〇N=。	〇〇〇[kara=。 〇〇〇[kara=。 〇〇〇[kara=。	〇〇〇[gadi=。 〇〇〇gadi=。 〇〇〇gadi=。	〇〇〇[karaN。 〇〇〇[karaN=。 〇〇〇[karaN。	〇〇〇lgure: =。 〇〇〇lgure: =。 〇〇〇lgure: =。	〇〇〇=bakkai=。 〇〇〇=bakkai=。 〇〇〇=bakkai=。
B	鉢(pasaN=)。 女(wunagu=)。 暦(ku.jumi=)。 車(kuruma=)。	〇〇〇nu=。 〇〇〇nu=。 〇〇〇nu=。 〇〇〇nu=。	〇〇〇jiN=。 〇〇〇N=。 〇〇〇N=。	〇〇〇[kara。 〇〇〇[kara。 〇〇〇[kara。	〇〇〇[gadi=。 〇〇〇[gadi=。 〇〇〇[gadi=。	〇〇〇[karaN。 〇〇〇[karaN。 〇〇〇[karaN。	〇〇〇lgure: =。 〇〇〇lgure: =。 〇〇〇lgure: =。	〇〇〇=bakkai=。 〇〇〇=bakkai=。 〇〇〇=bakkai=。
C	刀(ha[tana)。 薬(ku[sui)。	〇[〇〇nu。 〇[〇〇nu。	〇[〇〇N。 〇[〇〇jiN。	〇[〇〇kara。 〇[〇〇kara。	〇[〇〇gadi=。 〇[〇〇gadi。	〇[〇〇karaN。 〇[〇〇karaN。	〇[〇〇gure: =。 〇[〇〇gure: =。	〇[〇〇bakkai=。 〇[〇〇bakkai=。

	櫛律(zji[baN])	〇[〇〇nu]	〇[〇〇jiN]	〇[〇〇kara]	〇[〇〇gadi]	〇[〇〇karaN]	〇[〇〇gure:]	〇[〇〇bakkai=]
D	指(l' uibi)。 白髪([sa:gi])。 松木([macjigi])。 マサキ(jacjiku=)。	〇[〇〇nu]。 〇[〇〇nu]。 〇[〇〇nu]。 〇[〇〇nu=]	〇[〇〇N]。 〇[〇〇N]。 〇[〇〇N]。 〇[〇〇N=]	〇[〇〇kara]。 〇[〇〇kara]。 〇[〇〇kara]。 〇[〇〇kara]。 〇[〇〇kara=]	〇[〇〇gadi]。 〇[〇〇gadi]。 〇[〇〇gadi]。 〇[〇〇gadi]。 〇[〇〇gadi=]	〇[〇〇karaN]。 〇[〇〇karaN]。 〇[〇〇karaN]。 〇[〇〇karaN]。 〇[〇〇karaN=]	〇[〇〇gure:]。 〇[〇〇gure:]。 〇[〇〇gure:]。 〇[〇〇gure:]。 〇[〇〇gure=]	〇[〇〇bakkai=]。 〇[〇〇bakkai=]。 〇[〇〇bakkai=]。 〇[〇〇bakkai=]。 〇[〇〇bakkai=]

(3) 朝戸 (大田さん) 4拍名詞(言い切り)。

	単独	が	も	から	まで	からも	ぐらい	ばかり
A	餅米(mucjigumi=)。 食料(pa\me:=)。 盃(sa:zjiki=)。 煙(sjiNbusji=)。	〇[〇〇nu=]。 〇[〇〇nu=]。 〇[〇〇nu=]。 〇[〇〇nu=]	〇[〇〇N=]。 〇[〇〇jiN=]。 〇[〇〇N=]。 〇[〇〇N=]	〇[〇〇kara]。 〇[〇〇kara]。 〇[〇〇kara=]。 〇[〇〇kara=]	〇[〇〇gadi]。 〇[〇〇gadi]。 〇[〇〇gadi=]。 〇[〇〇gadi=]	〇[〇〇karaN]。 〇[〇〇karaN]。 〇[〇〇karaN=]。 〇[〇〇karaN=]	〇[〇〇gure:]。 〇[〇〇gure:]。 〇[〇〇gure:]。 〇[〇〇gure:]	〇[〇〇bakkai=]。 〇[〇〇bakkai=]。 〇[〇〇bakkai=]。 〇[〇〇bakkai=]
B	雷(ha\hjai=)。 台所(to:gura=)。	〇[〇〇nu=]。 〇[〇〇nu=]	〇[〇〇jiN=]。 〇[〇〇N=]	〇[〇〇kara]。 〇[〇〇kara]	〇[〇〇gadi=]。 〇[〇〇gadi]	〇[〇〇karaN]。 〇[〇〇karaN=]	〇[〇〇gure:]。 〇[〇〇gure:]	〇[〇〇bakkai]。 〇[〇〇bakkai=]
C	風呂敷(puru[sjiki])。 娘(me:[rabi])。 天井(tiN[zjo:])。	〇[〇〇nu]。 〇[〇〇nu]。 〇[〇〇nu]	〇[〇〇N]。 〇[〇〇N]。 〇[〇〇jiN]	〇[〇〇kara]。 〇[〇〇kara]。 〇[〇〇kara]	〇[〇〇gadi]。 〇[〇〇gadi]。 〇[〇〇gadi]	〇[〇〇karaN]。 〇[〇〇karaN]。 〇[〇〇karaN]	〇[〇〇gure:]。 〇[〇〇gure:]。 〇[〇〇gure:]	〇[〇〇bakkai=]。 〇[〇〇bakkai=]。 〇[〇〇bakkai=]
D	叔母(wu[baNka])。	〇[〇〇nu]	〇[〇〇N]	〇[〇〇kara]	〇[〇〇gadi]	〇[〇〇karaN]	〇[〇〇gure:]	〇[〇〇bakkai=]
E	鯨([gu:zja:])。 唐竹([karadai])。	〇[〇〇nu]。 〇[〇〇nu]	〇[〇〇(ji)N]。 〇[〇〇(ji)N]	〇[〇〇kara]。 〇[〇〇kara]	〇[〇〇gadi]。 〇[〇〇gadi]	〇[〇〇karaN]。 〇[〇〇karaN]	〇[〇〇gure:]。 〇[〇〇gure:]	〇[〇〇bakkai=]。 〇[〇〇bakkai=]

(4) 朝戸 (大田さん) 1音節名詞(言い切り)。

	単独	が	も	から	まで	からも	ぐらい	ばかり
A	血(cji:=)。 葉(pa:=)。 酒(sai=)。	〇[〇nu=]。 〇[〇nu=]。 〇[〇nu=]	〇[〇jiN=]。 〇[〇jiN=]。 〇[〇jiN=]	〇[〇kara=]。 〇[〇kara=]。 〇[〇kara=]	〇[〇gadi=]。 〇[〇gadi]。 〇[〇gadi=]	〇[〇karaN=]。 〇[〇karaN=]。 〇[〇karaN=]	〇[〇gure:=]。 〇[〇gure:]。 〇[〇gure:=]	〇[〇bakkai=]。 〇[〇bakkai]。 〇[〇bakkai=]

	井戸 (ko:=)	〇〇nu=	〇〇jiN=	〇〇kara=	〇〇gadi=	〇〇karaN=	〇〇gure:=	〇〇bakkai=
B	手 (ti:=)	〇〇nu=	〇〇[jiN=	〇〇[kara=	〇〇[gadi.	〇〇[karaN.	〇〇[ɡure=	〇〇=[bakkai.
	木 (hji:=)	〇〇nu=	〇〇[jiN=	〇〇[kara=	〇〇[gadi.	〇〇[karaN.	〇〇[ɡure:=	〇〇=[bakkai=
	家 (ja:=)	〇〇nu=	〇〇[jiN=	〇〇[kara.	〇〇[gadi.	〇〇[karaN.	〇〇[ɡure=	〇〇=[bakkai.
C	外 ([pa:=)	[〇〇nu.	[〇〇jiN.	[〇〇kara.	[〇〇gadi.	[〇〇karaN.	[〇〇ɡure=	[〇〇bakkai=
	桶 ([wui].)	[〇〇nu.	[〇〇jiN.	[〇〇kara.	[〇〇gadi.	[〇〇karaN.	[〇〇ɡure=	[〇〇bakkai=

(5) 朝戸 (大田さん) 追加語彙

hutusji=(今年), NR(特別), 'abura=(油), hagan=(鏡), pat[tai(畑), sjo:[gacji(正月), ku:[nucji(九つ), [ka:raja:(瓦葺き家), 'a:tu[kubi(峠), cji[burubacji(大蜂), 'a[nja:(姉)。

hji[dabi(年上), [mi:ga(利口), [jo:ni(ノビカ), jacjiba=(八重歯), ['i:zja(どもり), ho:zji=(麴), [tuŋga(団子), [cju:ka(急須), [paija(柱), [kwa:gi(桑木), [po:ki(簪), [go:ra(垢), [ti:cji(一つ), [ju:ki(斧), [gisjiki(萱), mu[sjizja(蚕), [mu:kwa:(蟹), 'a:gai=(明かり), [maizjisji(尻の筋肉), [maibuni(尾骨), puni[zjiru(骨汁), [masjuzjiki(塩漬け), ['uNmacjigi(海松, イワタイゲキ)。

?'ati(辺り, pata=が普通), ['atu'ui(後植え), 'atu'u[sjo:sji(後始末), ['atu'umari(遅生まれ), ['atukusai(後腐れ), ['atusji:(跡継ぎ), ['atumo:sji(後回し), ['iki'akubi(息欠伸), ['ikubaija(もっこく柱), ['izjipuni(出船), 'izjibuni[joi(出船祝い), 'ituki[pada(絹着物)。

4. 8 鹿児島県大島郡与論町城

話者氏名 麓 才良 (S. 23 生) 調査年月 2013 年 2 月

(1) 城 (麓さん) 2 拍名詞(言い切り)。

	単独	が (nu も)	も	から	まで	からも
A	水 (mizji=)	〇〇ga=	〇〇N=	〇〇kara=	〇〇madi=	〇〇karaN=
	鳥 (tui=)	〇〇ga=	〇〇jiN=	〇〇kara=		〇〇karaN=
	鼻 (pana=)	〇〇ga=	〇〇N=	〇〇kara=		〇〇karaN=
B	山 (jama=)	〇〇ga=	〇〇N=	〇〇kara=		〇〇[karaN.
	花 (pana=)	〇〇ga=	〇〇N=	〇〇kara=		〇〇[karaN.
	麦 (mugi=)	〇〇ga=	〇〇N=	〇〇kara=		〇〇karaN=

C	海([ʔuN]。 鍋([nabi]。 舟([puni]。	[OOga。 [OOga。 [OOga。	[OOjiN。 [OON。 [OON。	[OOkara。 [OOkara。 [OOkara。		[OOkaraN。 [OOkaraN。 [OOkaraN。

(2) 城 (薩さん) 3拍名詞(言い切り)。

	単独	が	も	から	まで	からも
A	畳(tatami=)。 印(sjirusji=)。 港(minatu=)。	OOOga=。 OOOga=。	OOON=。 OOON=。	OOOka=。 OOO[kara。	OOO[madi。 OOO[madi=。	OOOkaN=。 OOO[karaN。
B	鉢(pasaN=)。 女(wunagu=)。 暦(kujumi=)。	OOOga=。 OOOga=。 OOOga=。	OOOjiN=。 OOON=。 OOON=。	OOOka=。 OOO[kara。 OOO[kara。	OOO[madi=。 OOO[madi。 OOO[madi。	OOO[karaN。 OOO[karaN。 OOO[karaN。
	車(kuruma=)。	OOOga=。	OOON=。	OOO[kara。	OOO[madi。	OOO[karaN。
C	刀(ha[tana)。 葉(ku[sui)。 櫛(zju[baN)。	O[OOga。 O[OOga。 O[OOga。	O[OON。 O[OOjiN。 O[OOjiN。	O[OOkara。 O[OOkara。 O[OOkara。	O[OO[madi。 O[OO[madi。 O[OO[madi。	O[OOkaraN。 O[OOkaraN。 O[OOkaraN。
D	指([ʔuibi)。 白髪([sa:gi)。 松木([macjigi)。 マサキ([jacjiku)。	[OOOga。 [OOOga。 [OOOga。	[OOON。 [OOON。 [OOON。	[OOOka。 [OOOka。 [OOOka。	[OOO[madi。 [OOO[madi。 [OOO[madi。	[OOOkaN。 [OOOkaN。 [OOOkaN。

(3) 城 (麓さん) 4拍名詞(言い切り)。

	単独	が	も	から	まで	からも
A	餅米(muc.jigumi=)。 食料(paŋme:=)。 盃(sa:zjiki=)。 煙(sjiNbusji=)。	○○○○ga=。 ○○○○ga=。 ○○○○ga=。 ○○○○ga=。	○○○○N=。 ○○○○jiN=。 ○○○○N=。 ○○○○N=。	○○○○[kara。 ○○○○kara=。 ○○○○[kara=。 ○○○○[kara。	○○○○madi=。 ○○○○madi=。	○○○○[karaN。 ○○○○[karaN。 ○○○○[karaN。 ○○○○[karaN。
B	雷(haŋhja:=)。 台所(to:gura=)。	○○○○ga=。 ○○○○ga=。	○○○○jiN=。 ○○○○(ji)N=。	○○○○kara=。 ○○○○[kara。		○○○○[karaN。 ○○○○[karaN。
C	風呂敷(puru[sjiki)。 娘(me:[rabi)。 天井(tiN[zjo:)。 叔母(wu[baŋka)。	○○[○○ga。 ○○[○○ga。 ○○[○○ga。 ○○[○○ga。	○○[○○N。 ○○[○○N。 ○○[○○jiN。 ○○[○○N。	○○[○○kara。 ○○[○○kara。 ○○[○○kara。 ○○[○○kara。		○○[○○[karaN。 ○○[○○karaN。 ○○[○○karaN。 ○○[○○karaN。
D	叔母(wu[baŋka)。	○○[○○ga。	○○[○○N。	○○[○○kara。		○○[○○karaN。
E	鯨(lgu:zja(:)。 唐竹(lkaratai)。	[○○○○ga。 [○○○○ga。	[○○○○jiN。 [○○○○jiN。	[○○○○kara。 [○○○○kara。		[○○○○karaN。 [○○○○karaN。

(4) 城 (麓さん) 1音節名詞(言い切り)。

	単独	が	も	から	まで	からも
A	血(cji:=)。 葉(pa:=)。 酒(sai=)。 井戸(ko:=)。	○○ga=。 ○○ga=。 ○○ga=。 ○○ga=。	○○jiN=。 ○○jiN=。 ○○jiN=。 ○○jiN=。	○○[kara。 ○○[kara。 ○○kara=。 ○○kara=。	○○[madi。 ○○madi=。 ○○madi=。 ○○madi=。	○○[karaN。 ○○karaN=。 ○○karaN=。 ○○karaN=。
B	手(ti:=)。 木(hji:=)。 家(ja:=)。	○○ga=。 ○○ga=。 ○○ga=。	○○jiN=。 ○○jiN=。 ○○jiN=。	○○[kara。 ○○kara=。 ○○kara=。	○○[madi。 ○○madi=。 ○○madi=。	○○[karaN。 ○○[karaN。 ○○karaN=。
C	外(lpa:)。 桶(lwui)。	[○○ga。 [○○ga。	[○○jiN。 [○○jiN。	[○○kara。 [○○kara。	[○○madi。 [○○madi。	[○○karaN。 [○○karaN。

(5) 城 (麓さん) 追加語彙

hutusji=(今年), NR(特別), 'abura=(油), hagan=(鏡), pat[tai(畑), sjo:[gacji(正月), ku:[nucji(九つ), [ka:raja:(瓦葺き家), 'a:tu[kubi(晝),
c:jiburu[bacji(大峰), 'an[nja:(姉).
[s:jidabi(年上), [mi:ga(利口), [jo:ni(ノバカ), jacjiba:=(八重歯), [i:zja(どもり), [ho:zji(翹), [tuNga(団子), [cju:ka(急須), [paija(柱),
[kwa:gi(桑木), [po:ki(箒), [go:ra(垢), [ti:cji(一ツ), [ju:ki(斧), [gisjiki(萱), [mu:sjizja(蚕), [mu:kwa:(簪), 'a:gai=(明かり),
[maizjisji(尻の筋肉), [me:sjibi(朝食), masjuzji[ki [?(塩漬け), [masjujaki(塩焼き), sata[nabi(砂糖鍋), NR(海松)。

4. 9 鹿児島県大島郡与論町立長

話者氏名 竹内 泰敏 (S. 15 生) 調査年月 2013 年 9 月

(1) 立長 (竹内さん) 2 拍名詞(言い切り)。

	単独	が (nu も)	も	から	まで (madi も)	からも	ぐらい	ばかり
A	水(mizji=)。	〇〇ga=。	〇〇N=。	〇〇kara=。	〇〇gadi=。	〇〇[karaN。	〇〇gurai=。	〇〇=bak[kai。
	鳥(tui=)。	〇〇ga=。	〇〇jiN=。	〇〇kara=。	〇〇gadi=。	〇〇[karaN。	〇〇gurai=。	〇〇=bak[kai。
	鼻(pana=)。	〇〇ga=。	〇〇N=。	〇〇kara=。	〇〇gadi=。	〇〇[karaN。	〇〇gurai。	〇〇=bak[kai。
B	山(jama=)。	〇〇ga=。	〇〇N=。	〇〇kara=。	〇〇gadi。	〇〇[karaN。	〇〇gurai。	〇〇=bak[kai。
	花(pana=)。	〇〇ga=。	〇〇N=。	〇〇kara=。	〇〇gadi=。	〇〇[karaN。	〇〇gurai。	〇〇=bak[kai。
	麦(mugi=)。	〇〇ga=。	〇〇N=。	〇〇kara=。	〇〇gadi=。	〇〇[karaN。	〇〇gurai。	〇〇=bak[kai。
C	海(l'uN)。	[〇〇ga。	[〇〇jiN。	[〇〇kara。	[〇〇gadi。	[〇〇karaN。	[〇〇gurai。	[〇〇[bakkai。
	鍋([nabi)。	[〇〇ga。	[〇〇N。	[〇〇kara。	[〇〇gadi。	[〇〇karaN。	[〇〇gurai。	[〇〇[bakkai。
	舟([puni)。	[〇〇ga。	[〇〇N。	[〇〇kara。	[〇〇gadi。	[〇〇karaN。	[〇〇gurai。	[〇〇[bakkai。

(2) 立長 (竹内さん) 3 拍名詞(言い切り)。

	単独	が	も	から	まで	からも	ぐらい	ばかり
A	畳(tatami=)。	〇〇〇ga=。	〇〇〇N=。	〇〇〇kara=。	〇〇〇gadi=。	〇〇〇karaN=。	〇〇〇gurai=。	〇〇〇=bak[kai。
	印(sjirusji=)。	〇〇〇ga=。	〇〇〇N=。	〇〇〇kara=。	〇〇〇gadi=。	〇〇〇karaN=。	〇〇〇gurai=。	〇〇〇=bak[kai。

	港(minato=)。	〇〇〇ga=。		〇〇〇[kara=。		〇〇〇[karaN。		〇〇〇=bak[kai。
B	鉾(pasaN=)。	〇〇〇ga=。	〇〇〇jiN=。	〇〇〇[kara。	〇〇〇[gadi。	〇〇〇karaN=。	〇〇〇[gurai。	〇〇〇[bakkai。
	女(wunagu=)。	〇〇〇ga=。	〇〇〇N=。	〇〇〇[kara。	〇〇〇[gadi。	〇〇〇karaN=。	〇〇〇[gurai。	〇〇〇[bakkai。
	暦(kuimi=)。	〇〇〇ga=。	〇〇〇N=。	〇〇〇[kara。	〇〇〇[gadi。	〇〇〇karaN=。	〇〇〇[gurai。	〇〇〇[bakkai。
	車(kuruma=)。	〇〇〇ga=。						
C	刀(ha[tana)。	〇[〇〇ga。	〇[〇〇N。	〇[〇〇kara。	〇[〇〇gadi。	〇[〇〇karaN。	〇[〇〇gurai。	〇[〇〇[bakkai。
	葉(ku[sui)。	〇[〇〇ga。	〇[〇〇jiN。	〇[〇〇kara。	〇[〇〇gadi。	〇[〇〇karaN。	〇[〇〇gurai。	〇[〇〇[bakkai。
	襦袢(zji[baN)。	〇[〇〇ga。	〇[〇〇jiN。	〇[〇〇kara。	〇[〇〇gadi。	〇[〇〇karaN。	〇[〇〇gurai。	〇[〇〇[bakkai。
D	指(l' uibi)。	[〇〇〇ga。	[〇〇〇N。	[〇〇〇kara。	[〇〇〇gadi。	[〇〇〇karaN。	[〇〇〇gurai。	[〇〇〇[bakkai。
	白髪[sa:gi)。	[〇〇〇ga。	[〇〇〇N。	[〇〇〇kara。	[〇〇〇gadi。	[〇〇〇karaN。	[〇〇〇gurai。	[〇〇〇[bakkai。
	松木[macjigi)。	[〇〇〇ga。	[〇〇〇N。	[〇〇〇kara。	[〇〇〇gadi。	[〇〇〇karaN。	[〇〇〇gurai。	[〇〇〇[bakkai。
	マサキ([jacjiku)。	[〇〇〇ga。	[〇〇〇N。	[〇〇〇kara。	[〇〇〇gadi。	[〇〇〇karaN。	[〇〇〇gurai。	[〇〇〇[bakkai。

(3) 立長 (竹内さん) 4拍名詞(言い切り)。

	単独	が	も	から	まで	からも	ぐらい	ばかり
A	餅米(mucjigumi=)。	〇〇〇〇ga=。	〇〇〇〇N=。	〇〇〇〇kara=。	〇〇〇〇gadi=。	〇〇〇〇karaN=。	〇〇〇〇gurai=。	〇〇〇〇[bakkai。
	食料(paNe:=)。	〇〇〇〇ga=。	〇〇〇〇jiN=。	〇〇〇〇kara=。	〇〇〇〇gadi=。	〇〇〇〇karaN=。	〇〇〇〇[gurai。	〇〇〇〇[bakkai。
	盃(sa:zjiki=)。	〇〇〇〇ga=。	〇〇〇〇N=。	〇〇〇〇kara=。	〇〇〇〇gadi=。	〇〇〇〇karaN=。	〇〇〇〇gurai=。	〇〇〇〇[bakkai。
	煙(sjiNbusji=)。	〇〇〇〇ga=。	〇〇〇〇N=。	〇〇〇〇[kara=。	〇〇〇〇[gadi=。	〇〇〇〇[karaN=。	〇〇〇〇gurai=。	〇〇〇〇bak[kai。
B	雷(haNn.jai=)。	〇〇〇〇ga=。	〇〇〇〇jiN=。	〇〇〇〇[kara。	〇〇〇〇gadi=。	〇〇〇〇[karaN。	〇〇〇〇gurai=。	〇〇〇〇[bakkai。
	台所(to:gura=)。	〇〇〇〇ga=。	〇〇〇〇N=。	〇〇〇〇[kara。	〇〇〇〇[gadi。	〇〇〇〇[karaN。	〇〇〇〇[gurai。	〇〇〇〇[bakkai。
C	風呂敷(puru[sjiki)。	〇〇[〇〇ga。	〇〇[〇〇N。	〇〇[〇〇kara。	〇〇[〇〇gadi。	〇〇[〇〇karaN。	〇〇[〇〇gurai。	〇〇[〇〇[bakkai。
	娘(me:[rabi)。	〇〇[〇〇ga。	〇〇[〇〇N。	〇〇[〇〇kara。	〇〇[〇〇gadi。	〇〇[〇〇karaN。	〇〇[〇〇gurai。	〇〇[〇〇[bakkai。
	天井(tiN[zjo:)。	〇〇[〇〇ga。	〇〇[〇〇jiN。	〇〇[〇〇kara。	〇〇[〇〇gadi。	〇〇[〇〇karaN。	〇〇[〇〇gurai。	〇〇[〇〇[bakkai。

D	叔母(wu[baNka])	○[○○○Oga]	○[○○○(ji)N]	○[○○○kara]	○[○○○gadi]	○[○○○karaN]	○[○○○gurai]	○[○○○bakkai]
E	鯨([gu:zja:])	[○○○Oga]	[○○○jiN]	[○○○kara]	[○○○gadi]	[○○○karaN]	[○○○gurai]	[○○○bakkai]
	唐竹([karatai])	[○○○Oga]	[○○○jiN]	[○○○kara]	[○○○gadi]	[○○○karaN]	[○○○gurai]	[○○○bakkai]

(4) 立長 (竹内さん) 1 音節名詞(言い切り)。

	単独	が	も	から	まで	からも	ぐらい	ばかり
A	血(cji:=)	○○ga=	○○jiN=	○○kara=	○○gadi=	○○[karaN=]	○○gurai=	○○=bak[kai]
	葉(pa:=)	○○ga=	○○jiN=	○○[kara]	○○gadi=	○○[karaN=]	○○[gurai=]	○○=bak[kai]
	酒(sai=)	○○ga=	○○jiN=	○○kara=	○○gadi=	○○karaN=	○○gurai=	○○=bak[kai]
	井戸(ko:=)	○○ga=	○○jiN=	○○kara=	○○gadi=	○○karaN=	○○gurai=	○○=bak[kai]
B	手(ti:=)	○○ga=	○○jiN=	○○[kara]	○○gadi=	○○[karaN]	○○[gurai]	○○[bakkai]
	木(hji:=)	○○ga=	○○jiN=	○○[kara]	○○gadi=	○○[karaN]	○○[gurai]	○○[bakkai]
	家(ja:=)	○○ga=	○○jiN=	○○[kara]	○○gadi=	○○karaN=	○○[gurai]	○○[bakkai]
C	外([pa:])	[○○Oga]	[○○jiN]	[○○kara]	[○○gadi]	[○○karaN]	[○○gurai]	[○○[bakkai]
	桶([wui])	[○○Oga]	[○○jiN]	[○○kara]	[○○gadi]	[○○karaN]	[○○gurai]	[○○[bakkai]

(5) 立長 (竹内さん) 追加語彙

hutusji=(今年), NR(特別), 'abura=(油), hagan=(鏡), pat[tai(畑), sjo:[gacji(正月), ku:[nucji(九つ), [ka:raja:(瓦葺き家), 'a:tu[kubi(眺), [c]jiburubacji(大蜂), 'a[nja:(姉)。
[s]jidabi(年上), [mi:ga(利口), [jo:ni(ノカ), [jacjiba:(八重歯), ['i:zja(どもり), [ho:zji(麴), [tuNga(団子), [c]ju:ka(急須), [pai:ja:(柱), [kwa:gi(桑木), [po:ki(簪), [go:ra(垢), [ti:cji(一つ), [ju:ki(斧), [gisjiki(萱), [musjizja(蚕), [mi:cjiki(目つき), [mu:kwa:(髻), 'a:gai=(明かり), [maizjisji(尻の筋肉), [maibuni(尾骨), [me:sjibi(朝食), puni[zjiru(骨汁), masju[zjiki(塩漬), ['uNmacjigi(海松, イワタイゲキ)。
['atai(辺り), ['atu'ui(後植え), ['atu'usjo:sji(後始末), ['atu'umari(遅生まれ), ['atukusari(後腐れ), ['atusji:(跡継ぎ), ['atumo:sji(後回し), ['iki'akubi(息欠伸), ['ikupaija:(もっこく柱), 'izjipuni=(出船), 'izjipuni[joi(出船祝い), ['itukupada(絹着物)。

4. 10 鹿児島県大島郡与論町立長

話者氏名 徳田 泰三 (S. 16 生) 調査年月 2013 年 2 月

(1) 立長 (徳田さん) 2 拍名詞(言い切り)。

	単独	が (nu も)	も	から	まで (madi も)	からも
A	水 (mizji=)。	〇〇ga=。	〇〇N=。	〇〇kara=。	〇〇gadi=。	〇〇karaN=。
	鳥 (tui=)。	〇〇ga=。	〇〇jiN=。	〇〇kara=。	〇〇gadi=。	〇〇karaN=。
	鼻 (pana=)。	〇〇ga=。	〇〇N=。	〇〇[kara。	〇〇[gadi。	〇〇[karaN。
B	山 (jama=)。	〇〇ga=。	〇〇N=。	〇〇[kara。	〇〇[gadi。	〇〇[karaN。
	花 (pana=)。	〇〇ga=。	〇〇N=。	〇〇[kara。	〇〇[gadi。	〇〇[karaN。
	麦 (mugi=)。	〇〇ga=。	〇〇N=。	〇〇[kara。	〇〇[gadi。	〇〇[karaN。
C	海 (ʼuN)。	[〇〇ga。	[〇〇jiN。	[〇〇kara。	[〇〇gadi。	[〇〇karaN。
	鍋 ([nabi)。	[〇〇ga。	[〇〇N。	[〇〇kara。	[〇〇gadi。	[〇〇karaN。
	舟 ([puni)。	[〇〇ga。	[〇〇N。	[〇〇kara。	[〇〇gadi。	[〇〇karaN。

(2) 立長 (徳田さん) 3 拍名詞(言い切り)。

	単独	が	も	から	まで	からも
A	量 (tatami=)。	〇〇〇ga=。	〇〇〇N=。	〇〇〇[kara。		〇〇〇[karaN。
	印 (sjirusji=)。	〇〇〇ga=。				
	港 (minato=)。	〇〇〇ga=。	〇〇〇N=。	〇〇〇[kara。		〇〇〇[karaN。
B	鋏 (pasaN=)。	〇〇〇ga=。	〇〇〇jiN=。	〇〇〇[kara。		〇〇〇[karaN。
	女 (wunagu=)。	〇〇〇ga=。	〇〇〇N=。	〇〇〇[kara。		〇〇〇[karaN。
	暦 (kuimi=)。	〇〇〇ga=。	〇〇〇N=。	〇〇〇[kara。		〇〇〇[karaN。
C	車 (kuruma=)。	〇〇〇ga=。	〇〇〇N=。	〇〇〇[kara。		〇〇〇[karaN。
	刀 (hata[na)。	〇〇[〇ga。	〇〇[〇N=。	〇〇〇[kara。		〇〇〇[karaN。

	葉(ku[sui]). 襦袢(zji[baN]).	〇[〇〇ga. 〇[〇〇ga.	〇[〇〇jiN. 〇[〇〇jiN.	〇[〇〇kara. 〇[〇〇kara.	〇[〇〇karaN. 〇[〇〇karaN.
D	指([ui]bi). 白髪([sa:gi). 松木([macjigi). マサキ([jacjiku).	[〇〇〇ga. [〇〇〇ga. [〇〇〇ga. [〇〇〇ga.	[〇〇〇N. [〇〇〇N. [〇〇〇N. [〇〇〇N.	[〇〇〇kara. [〇〇〇kara. [〇〇〇kara. [〇〇〇kara.	[〇〇〇karaN. [〇〇〇karaN. [〇〇〇karaN. [〇〇〇karaN.

(3) 立長 (徳田さん) 4拍名詞(言い切り)。

	単独	が	も	から	まで	からも
A	餅米(mucjigumi=). 食料(paNme:=). 盃(sa:zjiki=). 煙(sjinbusji=).	〇〇〇〇ga=. 〇〇〇〇ga=. 〇〇〇〇ga=. 〇〇〇〇ga=.	〇〇〇〇N=. 〇〇〇〇jiN=. 〇〇〇〇N=. 〇〇〇〇N=.	〇〇〇〇[kara. 〇〇〇〇kara=. 〇〇〇〇kara=. 〇〇〇〇kara=.		〇〇〇〇karaN=. 〇〇〇〇karaN=. 〇〇〇〇karaN=. 〇〇〇〇karaN=.
B	雷(haŋjai=). 台所(to:gura=).	〇〇〇〇ga=. 〇〇〇〇ga=.	〇〇〇〇jiN=. 〇〇〇〇(ji)N=.	〇〇〇〇kara=. 〇〇〇〇[kara.		〇〇〇〇[karaN. 〇〇〇〇[karaN.
C	風呂敷(puru[sjiki). 娘(me:[rabi). 天井(tiN[zjo:).	〇〇[〇〇ga. 〇〇[〇〇ga. 〇〇[〇〇ga.	〇〇[〇〇N. 〇〇[〇〇N. 〇〇[〇〇jiN.	〇〇[〇〇kara. 〇〇[〇〇kara. 〇〇[〇〇kara.		〇〇[〇〇karaN. 〇〇[〇〇karaN. 〇〇[〇〇karaN.
D	叔母(wubaN[ka).					
E	鯨([gu:zja:). 唐竹(kara[dai).	[〇〇〇〇ga. [〇〇〇〇ga.	[〇〇〇〇jiN. [〇〇〇〇jiN.	[〇〇〇〇kara. [〇〇〇〇kara.		[〇〇〇〇karaN. [〇〇〇〇karaN.

(4) 立長 (徳田さん) 1音節名詞(言い切り)。

	単独	が	も	から	まで	からも
A	血(cji:=).	〇〇ga=.	〇〇jiN=.	〇〇kara=.		〇〇karaN=.

	葉(pa:=)。	〇〇ga=。	〇〇jiN=。	〇〇kara=。	〇〇[karaN=。
	酒(sai=)。	〇〇ga=。	〇〇jiN=。	〇〇kara=。	〇〇karaN=。
	井戸(ko:=)。	〇〇ga=。	〇〇jiN=。	〇〇kara=。	〇〇karaN=。
B	手(ti:=)。	〇〇ga=。	〇〇jiN=。	〇〇[kara。	〇〇[karaN。
	木(hji:=)。	〇〇ga=。	〇〇jiN=。	〇〇[kara。	〇〇[karaN。
	家(ja:=)。	〇〇ga=。	〇〇jiN=。	〇〇kara=。	〇〇karaN=。
C	外([pa:]。	[〇〇ga。	[〇〇jiN。	[〇〇kara。	[〇〇karaN。
	桶([wui)。	[〇〇ga。	[〇〇jiN。	[〇〇kara。	[〇〇karaN。

(5) 立長 (徳田さん) 追加語彙

hutusji=(今年), NR(特別), 'abura=(油), hagan=(鏡), pat[tai(畑), sjo:[gacji [?](正月), ku:[nucji [?](九つ), [ka:ra:ja:(瓦葺き家), 'a:tu[kubi(晝), c:juburu[bacji(大峰, 反対は nukabacji=), 'a[nnja:(姉)。
[sjiidabi/[hjiidabi(年上), [mi:ga(利口), [jo:ni(ノベカ), jacjiba:=(八重歯), ['i:z:ja(どもり), [ho:z:ji(麴), [tuNga(団子), [c:ju:ka(急須), [pa(i)ja(柱), [kwa:gi(桑木), [po:ki(箒), [go:ra(垢), ['wa:gi(上着), [ti:c:ji(一つ), [ju:ki(斧), [gisjiki(萱), musji[z:ja(蚕), [mi:c:jiki(目つき), [mu:kwa:(髻), 'a:gai=(明かり), [maizjisji [?](尻の筋肉), [maibuni [?](尾骨), ['uNnacjigi(海松), sata[nabi(砂糖鍋)。[-①型]に見える単語は, wubaN[ka と同様, 助詞付き形の振る舞いは未詳。]

4. 11 鹿児島県大島郡与論町茶花
話者氏名 永野 展秀 (S. 15 生) 調査年月 2013 年 9 月

(1) 茶花 (永野さん) 2 拍名詞(言い切り)。

	単独	が (nu も)	も	から	まで	からも	ぐらい (gurai も)	ばかり
A	水(miz:ji=)。	〇〇ga=。	〇〇N=。	〇〇kara=。	〇〇gadi=。	〇〇karaN=。	〇〇gure:=。	〇〇bak[kai。
	鳥(tui=)。	〇〇ga=。	〇〇jiN=。	〇〇kara=。	〇〇gadi=。	〇〇karaN=。	〇〇gure:=。	〇〇bak[kai。
	鼻(pana=)。	〇〇ga=。	〇〇N=。	〇〇kara=。	〇〇gadi=。	〇〇karaN=。	〇〇gure:=。	〇〇bak[kai。
B	山(jama=)。	〇〇ga=。	〇〇N=。	〇〇kara=。	〇〇gadi=。	〇〇karaN=。	〇〇gure:=。	〇〇bak[kai。
	花(pana=)。	〇〇ga=。	〇〇N=。	〇〇kara=。	〇〇gadi=。	〇〇karaN=。	〇〇gure:=。	〇〇bak[kai。

	麦(mugi=)。	OOga=。	OOON=。	OOkara=。	OOgadi=。	OOkaraN=。	OOgure:=。	OObak[kai=。
C	海(l'uN)。	[OOga。	[OOjiN。	[OOkara。	[OOgadi。	[OOkaraN。	[OOgure:=。	[OObakkai。
	鍋([nabi)。	[OOga。	[OON。	[OOkara。	[OOgadi。	[OOkaraN。	[OOgure:=。	[OObakkai。
	舟([puni)。	[OOga。	[OON。	[OOkara。	[OOgadi。	[OOkaraN。	[OOgure:=。	[OObakkai。

(2) 茶花 (永野さん) 3拍名詞(言い切り)。

	単独	が	も	から	まで	からも	ぐらい	ばかり
A	畳(tatami=)。	OOOga=。	OOON=。	OOOka=。	OOOgadi=。	OOOkaN=。	OOOgure:=。	OOObak[kai=。
	印(sjirusji=)。	OOOga=。	OOON=。	OOOka=。	OOOgadi=。	OOOkaN=。	OOOgure:=。	OOObak[kai=。
	港(minato=)。	OOOga=。	OOON=。	OOOka=。	OOOgadi=。	OOOkaN=。	OOOgure:=。	OOObak[kai=。
B	鉢(pasaN=)。	OOOga=。	OOOjiN=。	OOO[kara。	OOO[gadi。	OOOkaN=。	OOOgure:=。	OOObak[kai=。
	女(wunagu=)。	OOOga=。	OOON=。	OOO[kara。	OOO[gadi。	OOOkaN=。	OOOgure:=。	OOObak[kai=。
	暦(kujumi=)。	OOOga=。	OOON=。	OOO[kara。	OOO[gadi。	OOOkaN=。	OOOgure:=。	OOObak[kai=。
	車(kuruma=)。	OOOga=。	OOON=。	OOO[kara。	OOO[gadi。	OOOkaN=。	OOOgure:=。	OOObak[kai=。
C	刀(hatana=)。	OOOga=。	OOON=。	OOO[kara。	OOO[gadi。	OOOkaN=。	OOOgure:=。	OOObak[kai=。
	葉(kus[sui)。	OO[OOga。	OO[OOjiN。	OO[OOkara。	OO[OOgadi。	OO[OOkaN。	OO[OOgure:=。	OO[OObakkai。
	櫛(=jiban=)。	OOOga=。	OOOjiN=。	OOO[kara。	OOO[gadi。	OOOkaN=。	OOOgure:=。	OOO[bakkai。[?]
D	指(l'ujubi)。	[OOOga。	[OOON。	[OOOka。	[OOOgadi。	[OOOkaN。	[OOOgure:=。	[OOObakkai。
	白髪(lsa'gi)。	[OOOga。	[OOON。	[OOOka。	[OOOgadi。	[OOOkaN。	[OOOgure:=。	[OOObakkai。
	松木(lmacjigi)。	[OOOga。	[OOON。	[OOOka。	[OOOgadi。	[OOOkaN。	[OOOgure:=。	[OOObakkai。
	マサキ([jacjiku)。	[OOOga。	[OOON。	[OOOka。	[OOOgadi。	[OOOkaN。	[OOOgure:=。	[OOObakkai。

(3) 茶花 (永野さん) 4拍名詞(言い切り)。

	単独	が	も	から	まで	からも	ぐらい	ばかり
A	餅米(muc.jigumi=)。 食料(paNe:=)。(古) 盃(sa:z.jiki=)。 煙(s.jiNbus.ji=)。	〇〇〇〇ga=。 〇〇〇〇ga=。 〇〇〇〇ga=。 〇〇〇〇ga=。	〇〇〇〇N=。 〇〇〇〇jiN=。 〇〇〇〇N=。 〇〇〇〇N=。	〇〇〇〇kara=。 〇〇〇〇kara=。 〇〇〇〇kara=。 〇〇〇〇kara=。	〇〇〇〇gadi=。 〇〇〇〇gadi=。 〇〇〇〇gadi=。 〇〇〇〇[gadi=。	〇〇〇〇karaN=。 〇〇〇〇karaN=。 〇〇〇〇karaN=。 〇〇〇〇karaN=。	〇〇〇〇gure:=。 〇〇〇〇gure:=。 〇〇〇〇gure:=。 〇〇〇〇gure:=。	〇〇〇〇[bakka _i 。 〇〇〇〇[bakka _i 。 〇〇〇〇[bakka _i 。 〇〇〇〇[bakka _i 。
B	雷(haNh.ja=)。(古) 台所(to:gura=)。(古)	〇〇〇〇ga=。 〇〇〇〇ga=。	〇〇〇〇jiN=。 〇〇〇〇N=。	〇〇〇〇kara=。 〇〇〇〇kara=。	〇〇〇〇gadi=。 〇〇〇〇gadi=。	〇〇〇〇karaN=。 〇〇〇〇karaN=。	〇〇〇〇gure:=。 〇〇〇〇gure:=。	〇〇〇〇[bakka _i 。 〇〇〇〇[bakka _i 。
C	風呂敷(puru[s.jiki=)。 娘(me:[rabi)。 天井(tiN[z.jo:)。	〇〇[〇〇ga。 〇〇[〇〇ga。 〇〇[〇〇ga。	〇〇[〇〇N。 〇〇[〇〇N。 〇〇[〇〇jiN。	〇〇[〇〇kara。 〇〇[〇〇kara。 〇〇[〇〇kara。	〇〇〇〇[gadi。 〇〇〇〇[gadi。 〇〇〇〇[gadi。	〇〇〇〇[karaN。 〇〇〇〇[karaN。 〇〇〇〇[karaN。	〇〇〇〇gure:=。 〇〇〇〇gure:=。 〇〇〇〇gure:=。	〇〇〇〇[bakka _i 。 〇〇〇〇[bakka _i 。 〇〇〇〇[bakka _i 。
D	叔母(wu[baNka)。	〇[〇〇〇ga。	〇[〇〇〇N。	〇[〇〇〇kara。	〇[〇〇〇gadi。	〇[〇〇〇karaN。	〇[〇〇〇gure:=。	〇[〇〇〇bakka _i 。
E	鯨(lgu:z.ja)。 唐竹(lkaratai)。	[〇〇〇〇ga。 [〇〇〇〇ga。	[〇〇〇〇jiN。 [〇〇〇〇jiN。	[〇〇〇〇kara。 [〇〇〇〇kara。	[〇〇〇〇gadi。 [〇〇〇〇gadi。	[〇〇〇〇karaN。 [〇〇〇〇karaN。	[〇〇〇〇gure:=。 [〇〇〇〇gure:=。	[〇〇〇〇bakka _i 。 [〇〇〇〇bakka _i 。

(4) 茶花 (永野さん) 1音節名詞(言い切り)。

	単独	が	も	から	まで	からも	ぐらい	ばかり
A	血(c.ji:=)。 葉(pa:=)。 酒(sai=)。 井戸(ko:=)。	〇〇ga=。 〇〇ga=。 〇〇ga=。 〇〇ga=。	〇〇jiN=。 〇〇jiN=。 〇〇jiN=。 〇〇jiN=。	〇〇kara=。 〇〇kara=。 〇〇kara=。 〇〇kara=。	〇〇gadi=。 〇〇gadi=。 〇〇gadi=。 〇〇gadi=。	〇〇karaN=。 〇〇karaN=。 〇〇karaN=。 〇〇karaN=。	〇〇gure:=。 〇〇gure:=。 〇〇gure:=。 〇〇gure:=。	〇〇bak[kai。 〇〇bak[kai。 〇〇bak[kai。 〇〇bak[kai。
B	手(ti:=)。 木(h.ji:=)。 家(ja:=)。	〇〇ga=。 〇〇ga=。 〇〇ga=。	〇〇jiN=。 〇〇jiN=。 〇〇jiN=。	〇〇kara=。 〇〇kara=。 〇〇kara=。	〇〇gadi=。 〇〇gadi=。 〇〇gadi=。	〇〇karaN=。 〇〇karaN=。 〇〇karaN=。	〇〇gure:=。 〇〇gure:=。 〇〇gure:=。	〇〇bak[kai。 〇〇bak[kai。 〇〇bak[kai。
C	外(lpa:=)。 桶(lwui)。	[〇〇ga。 [〇〇ga。	[〇〇jiN。 [〇〇jiN。	[〇〇kara。 [〇〇kara。	[〇〇gadi。 [〇〇gadi。	[〇〇karaN。 [〇〇karaN。	[〇〇gure:=。 [〇〇gure:=。	[〇〇bakka _i 。 [〇〇bakka _i 。

(5) 茶花 (永野さん) 追加語彙

hutusji=(今年), NR(特別), 'abura=(油), hagna=(鏡), pat[tai(畑), sjo:gacji=(正月), ku:nucji=(九つ), [ka:raja:(瓦葺き家), 'a:tukubi=(晩), c:jiburu[bacji(大蜂), 'an[nja:(姉).
sji:dabi=(年上), [mi:ga(利口, ありがとう), [jo:ni(ノミカ), [jacjiba:(八重歯), ['i:zja(どもり), [ho:zji [?](麴), [tuNga(団子), [c:ju:ka(急須), [paija:(柱), [kwa:gi(桑木), [po:ki(簪), [go:ra(垢), [ti:cji(一つ), [ju:ki(斧), [gisjiki(萱), [musjizja(蚕), [micjiki(目つき), [mu:kwa:(髻), ['a:gai(明かり), maizji[sji(尻の筋肉), [maibuni(尾骨), [me:sjibi(朝食), [punizjiru(骨汁), masjuzjiki=(塩漬), ['uNmacjigi(海松).
['atai(辺り), ['atu'ui(後植え), ['atu'usjo:sji(後始末), ['atu'umari(遅生まれ), ['atukusai(後腐れ), 'atu[sji:(朗継ぎ), ['atumo:sji(後回し), 'iki'akubi=(息欠伸), ['izjipuni(出船), ['izjipuni,joi(出船祝い), ['itukipada(絹着物).

4. 12 鹿児島県大島郡与論町 茶花 → 東区

話者氏名 井上 淑子 (S. 20 生) 調査年月 2013 年 9 月

(1) 茶花 (井上さん) 2 拍名詞(言い切り).

	単独	が	も	から	まで	からも	ぐらい	ばかり
A	水(mizji=).	OOnu=.	OON=.	OOKara=.	OOgadi=.	OOKaraN=.	OOgure:.=.	OObak[kai.
	鳥(tui=).	OOnu=.	OOjiN=.	OOKara=.	OOgadi=.	OOKaraN=.	OOgure:.=.	OObak[kai.
	鼻(pana=).	OOnu=.	OON=.	OOKara=.	OOga[di.	OOKa[raN.	OOgure:.=.	OObak[kai.
B	山(jama=).	OOnu=.	OON=.	OOKa[ra.	OOga[di.	OOKa[raN.	OOgure:.=.	OObak[kai.
	花(pana=).	OOnu=.	OON=.	OOKara=.	OOga[di=.	OOKa[raN.	OOgure:.=.	OObak[kai.
	麦(mugi=).	OOnu=.	OON=.	OOKa[ra=.	OOga[di=.	OOKa[raN=.	OOgure:.=.	OObak[kai.
C	海(['uN).	[OOnu.	[OOjiN.	[OOKara.	[OOgadi.	[OOKaraN.	[OOgure:.	[OO[bakka.i.
	鍋([nabi).	[OOnu.	[OON.	[OOKara.	[OOgadi.	[OOKaraN.	[OOgure:.	[OO[bakka.i.
	舟([puni).	[OOnu.	[OON.	[OOKara.	[OOgadi.	[OOKaraN.	[OOgure:.	[OO[bakka.i.

(2) 茶花 (井上さん) 3 拍名詞(言い切り).

	単独	が	も	から	まで	からも	ぐらい	ばかり
A	畳(tatami=).	OOOnu=.	OOON=.	OOOKara=.	OOOga[di.	OOOka[raN.	OOOgure:.=.	OOOobak[kai.

	印(sjirusji=)。 港(minato=)。	○○Onu=。 ○○Onu=。	○○ON=。 ○○ON=。	○○kara=。 ○○kara=。	○○Ogadi=。	○○OkarāN=。	○○Ogure: =。	○○Obak[kai]。
B	鉢(pasaN=)。 女(wunagu=)。 暦(kujumi=)。	○○Onu=。 ○○Onu=。 ○○Onu=。	○○OjiN=。 ○○ON=。 ○○ON=。	○○Oka[ra]。 ○○Oka[ra]。 ○○Oka[ra=]。	○○Oga[di]。 ○○Oga[di]。 ○○Ogadi=。	○○Oka[raN]。 ○○Oka[raN]。 ○○OkarāN=。	○○Ogu[re: =]。 ○○Ogu[re: =]。 ○○Ogu[re: =]。	○○Obak[kai]。 ○○Obak[kai]。 ○○Obak[kai]。
	車(kuruma=)。	○○Onu=。						
C	刀(hata[na=)。 菓(kus[sui]。 櫛袛(zjuba[N=]。	○○O[nu]。 ○○OOnu=。 ○○O[nu=]。	○○ON。 ○○O[ON]。 ○○O[ON]。	○○Oka[ra]。 ○○Okara=。 ○○Oka[ra]。	○○Oga[di]。 ○○Oga[di]。 ○○Oga[di]。	○○Oka[raN]。 ○○[OOkarāN]。 ○○Oka[raN]。	○○O[gu]re: =。 ○○O[gu]re: =。 ○○O[gu]re: =。	○○Obak[kai]。 ○○Obak[kai]。 ○○Obak[kai]。
D	指([ui]bi)。 白髪([sa:gi]。 松木([macji[gi]。 マサキ([jacjiku)。	[○○Onu]。 [○○Onu]。 [○○Onu]。 [○○Onu]。	[○○ON]。 [○○ON]。 ○○ON。 ○○O[ON]。	[○○Okara]。 [○○Okara]。 [○○Okara]。 [○○Okara]。	[○○Ogadi]。 [○○Ogadi]。 [○○Ogadi]。 [○○Ogadi]。	[○○OkarāN]。 [○○OkarāN]。 [○○OkarāN]。 [○○OkarāN]。	[○○O[gu]re: =]。 [○○O[gu]re: =]。 [○○O[gu]re: =]。 [○○O[gu]re: =]。	[○○Obakkai]。 [○○Obakkai]。 [○○Obakkai]。 [○○Obakkai]。

(3) 茶花 (井上さん) 4拍名詞(言い切り)。

	単独	が	も	から	まで	からも	ぐらい	ばっかり
A	餅米(mucjigumi=)。 食料(paNne:=)。 盃(sa:zjiki=)。 煙(sjiNbusji=)。	○○OOnu=。 ○○OOnu=。 ○○OOnu=。 ○○OOnu=。	○○OON=。 ○○OjiN=。 ○○OON=。 ○○OON=。	○○OOkara=。 ○○Oka[ra]。 ○○Okara=。 ○○Okara=。	○○Ogadi=。 ○○Oga[di]。 ○○Ogadi=。 ○○Ogadi=。	○○Oka[raN]。 ○○Oka[raN]。 ○○OkarāN=。 ○○OkarāN=。	○○Ogure: =。 ○○Ogure: =。 ○○Ogure: =。 ○○Ogure: =。	○○Obak[kai]。 ○○Obak[kai]。 ○○Obak[kai]。 ○○Obak[kai]。
B	雷(haNjajai=)。 台所(to:gura=)。	○○OOnu=。 ○○OOnu=。	○○OjiN=。 ○○OON=。	○○Oka[ra]。 ○○Oka[ra]。	○○Oga[di]。 ○○Oga[di]。	○○Oka[raN]。 ○○Oka[raN]。	○○Ogure: =。 ○○Ogure: =。	○○Obak[kai]。 ○○Obak[kai]。
C	風呂敷(purusjiki=)。 娘(me:ra[bi]。	○○O[nu]。 ○○O[Onu]。	○○ON。 ○○O[ON]。	○○Okara。 ○○Okara。	○○Ogadi。 ○○Ogadi。	○○OkarāN。 ○○OkarāN。	○○O[gu]re: =。 ○○O[gu]re: =。	○○Obak[kai]。 ○○Obak[kai]。

	天井(tiN[zjo:]。	〇〇[〇〇nu。	〇〇[〇〇jiN。	〇〇〇〇[kara。	〇〇〇〇[gadi。	〇〇〇〇[karN。	〇〇〇〇[gure:]。	〇〇〇〇bak[kai。
D	叔母(wu[baNka。	〇[〇〇〇〇nu。	〇[〇〇〇〇N。	〇[〇〇〇〇kara。	〇[〇〇〇〇gadi。	〇[〇〇〇〇karN。	〇[〇〇〇〇gure:]。	〇[〇〇〇〇bakkai。
E	鯨(lgu:zja(:)。	[〇〇〇〇nu。	[〇〇〇〇N。	[〇〇〇〇kara。	[〇〇〇〇gadi。	[〇〇〇〇karN。	[〇〇〇〇gure:]。	[〇〇〇〇bakkai。
	唐竹([karadai)。	[〇〇〇〇〇nu。	[〇〇〇〇〇jiN。	[〇〇〇〇〇kara。	[〇〇〇〇〇gadi。	[〇〇〇〇〇karN。	[〇〇〇〇〇gure:]。	[〇〇〇〇〇bakkai。

(4) 茶花(井上さん) 1 音節名詞(言い切り)。

	単独	が	も	から	まで	からも	ぐらい	ばかり
A	血(cji:=)。	〇〇nu=。	〇〇jiN=。	〇〇kara=。	〇〇gadi=。	〇〇karN=。	〇〇gure:=。	〇〇bak[kai。
	葉(pa:=)。	〇〇nu=。	〇〇jiN=。	〇〇ka[ra。	〇〇gadi=。	〇〇ka[raN。	〇〇gure:=。	〇〇bak[kai。
	酒(sai=)。	〇〇nu=。	〇〇jiN=。	〇〇kara=。	〇〇gadi=。	〇〇karN=。	〇〇gure:=。	〇〇bak[kai。
	井戸(ko:=)。	〇〇nu=。	〇〇jiN=。	〇〇kara=。	〇〇gadi=。	〇〇karN=。	〇〇gure:=。	〇〇bak[kai。
B	手(ti:=)。	〇〇nu=。	〇〇jiN=。	〇〇ka[ra。	〇〇ga[di。	〇〇ka[raN。	〇〇gu[re:]。	〇〇bak[kai。
	木(hji:=)。	〇〇nu=。	〇〇jiN=。	〇〇ka[ra。	〇〇ga[di。	〇〇ka[raN。	〇〇gu[re:]。	〇〇bak[kai。
	家(ja:=)。	〇〇nu=。	〇〇jiN=。	〇〇ka[ra。	〇〇ga[di。	〇〇ka[raN。	〇〇gu[re:]。	〇〇bak[kai。
C	外([pa:]。	[〇〇〇nu。	[〇〇〇jiN。	[〇〇〇kara。	[〇〇〇gadi。	[〇〇〇karN。	[〇〇〇gure:]。	[〇〇〇bakkai。
	桶([wui)。	[〇〇〇nu。	[〇〇〇jiN。	[〇〇〇kara。	[〇〇〇gadi。	[〇〇〇karN。	[〇〇〇gure:]。	[〇〇〇bakkai。

(5) 茶花(井上さん) 追加語彙

hutusji=(今年), NR(特別), 'abura=(油), hagan=(鏡), pat[tai(畑), sjo:ga[cji(正月), ku:nu[cji(九つ), [ka:raja:(瓦葺き家), 'a:tuku[bi(曉), c:jiburuba[cji(大蜂), 'a[nja:(姉)。
sjiida[bi(年上), [mi:ga(利口), jo:ni[paNkata(へま, ミス), jacji[ba:(八重歯), ['i:zja(どもり), [ho:zji(翹), [tuNga(団子), [cju:ka(急須), [paija:(柱), [kwa:gi(桑木), [po:ki(簪), [go:ra(垢), [ti:cji(一つ), [ju:ki(斧), [gisjiki(萱), [musjizja(蚕), [mu:kwa:(蟹), 'a:gai=(明かり), [maigja:(尻の筋肉), [maibuni(尾骨), me:sji[bi(朝食), [punizjiru(骨汁), masjuzji[ki(塩漬), ['uNmacjigi(海松)。
'atai=(辺り), ['atu'ui(後植え), ['atu'usjo:sji(後始末), ['atu'unari(遅生まれ), 'atukusa[ri(後腐れ), 'atu[sji:(跡継ぎ), ['atumo:sji(後回し), 'iki'aku[bi(息欠伸), ['izjipuni(出船), 'izjipuni[joi(出船祝い), 'itukinu(ki)pa[da(絹着物)。

与論方言の文法

町 博光*

1 はじめに

琉球方言は奄美諸島方言と沖縄本島・久米島を含んだ北琉球方言と宮古方言・八重山方言・与那国方言とに分けられる。さらに北琉球方言は、奄美方言と沖縄方言に分けるのが一般的である。ただし与論島方言は、北琉球方言の中の奄美方言に含まれるのか、沖縄方言に含まれるのか、議論の分かれるところである。

与論島方言は、茶花方言と東区（麦屋東・麦屋西）とそれ以外の地域（立長・城・朝戸・叶・那間・古里）に三分される。3地域の差はとくにアクセント・イントネーション面で著しく、島民は容易に聞き分けられる。東区と他の地域との差は音韻の面において著しい。

以下には、調査データに基づいて、動詞・形容詞・助動詞・助詞の文法的な特徴と敬語表現について見ていくこととする。例文は朝戸方言を中心に引用する。麦屋字との違いはそのつど断る。

2 動詞の形態論

2.1 動詞の活用

与論方言の動詞の活用形は、沖縄南部方言と奄美方言との特徴を併せ持っている。終止形に-N形と-i形が存在する。この両形の意味・用法差は他の奄美諸島方言と同様である。「書く」を例にとると、次のような差が認められる¹。

kakjun（書く）（イ）文の動作主の動作意志が認められると話し手が判断した場合に用いる。

（ロ）非習慣的・個別的な動作の表現

（ハ）主観性の強い表現

kakjui（書く）（イ）文の動作主の動作意志の有無には着目しない。

（ロ）習慣的・一般的な動作の表現

（ハ）動作の客観的な表現

この指摘にもとづいて、与論方言の例で説明すると次のようになる。

1 wa:ga kakjun. 私が 書く。

* まち ひろみつ：安田女子大学・教授

1 法政大学沖縄文化研究所『琉球の方言』（奄美大島宇検村湯湾方言）1976

2 ?ariga kakjui. あいつが 書く。

前者は「動作主の書こうとの意志」が認められる。したがって、-junによるのべたては一人称のときに用いられることが多くなる。後者には「動作主の意志」は認められず、「あいつが書いている」との事実の説明になっている。したがって、-juiは一人称・二人称のときは用いられず、おもに三人称のばあい用いられることになる。

2. 2 活用形のタイプ

与論方言の動詞の活用タイプは、

kakjun「書く」 kaki「書き」 kakannu「書かない」 kaci「書いて」

の4つの形から説明することができる。（『与論方言辞典』pp.793～794を整理して引用した。）kak-, kac-を語幹とし、-jun, -i, -annu, -i を活用語尾とする。これをもとにして『与論方言辞典』では規則動詞に5型、規則動詞に4型を認めている。

表1 与論方言の動詞の活用タイプ

規則変化	1型	①書く ②刺す ③飛ぶ ④飲む ⑤漕ぐ ⑥死ぬ ⑦行く ⑧置く ⑨持つ ⑩取る
	2型	①助ける ②あげる ③寄せる ④立てる ⑤撫でる ⑥比べる ⑦集める ⑧倒れる ⑨引き出す
	3型	①干る ②見る ③くびる ④要る ⑤言う
	4型	①追う ②問う ③思う
	5型	①使う
不規則変化	① する ②来る ③有る ④いらっしゃる	

規則変化の1型は、カ・サ・バ・マ・ガ・ナ・カ・タ・ラ行の四段動詞に対応している。ハ行四段動詞で語幹末尾がoやuのものは4型、四段動詞で語幹末尾がaのものは5型に対応する。

2型は、カ・ガ・サ・タ・ダ・バ・マ・ラ行の下二段動詞に対応している。

3型は、上一段動詞に対応する語と四段動詞の「くびる」「言う」に対応する。

不規則変化を見せるものは、それぞれ本土方言の変格活用に対応する。不規則変化の「①する」「②来る」は、否定の形がsjannu, kjannuであれば規則変化の4型と同じになる。不規則変化の?ajun「③有る」の否定形は、?arannuは「～ではない」の意である。「無い」はnennuとなる。「④いらっしゃる」は語幹の形が活用形によって変化する。

表2 与論方言の活用体系

語例	未然形	連用形	接続形	終止形1	終止形2	連体形	条件形
1 書く	kak-a	kak-i	kate-i	kak-jun	kak-jui	kak-juru	kak-i
飲む	num-a	num-i	nud-i	num-jun	num-jui	num-juru	num-i

2 助ける	taeikir-a	taeikir-i	taeikit-i	taeik-jun	taeik-jun	taeik-juru	taeikir-i
あげる	?agir-a	?agir-i	?agit-i	?ag-jun	?agju-i	?ag-juru	?agir-i
3 干る	p-ja	p-i:	pite-i	p-jun	p-jui	p-ju:ru	p-i:
見る	m-ja	m-i	mite-i	m-jun	m-jui	m-ju:ru	m-i:
4 追う	?w-a	?u-i	?u:t-i	?u:-jun	?u:-jui	?u:-juru	?u-i
思う	m-a(:)	mu-i	mu:t-i	mu:-jun	mu:-jui	mu:-juru	mu-i
5 使う	teiQk-o	teiQk-e:	teiQko:t-i	teiQk-en	teiQk-ei	teiQk-e:ru	teiQk-e:
① する	eir-a	eir-i	eite-i	e-jun	e-jui	e-juru	eir-i
② 来る	k-u	k-i	kite-i	k-jun	k-jui	k-ju:ru	kur-i
③ 有る	?ar-a	?ar-i	?at-i	?a-jun	?a-jui	?a-ju:ru	?ar-i
④ いらっ しゃる	?w-a	?j-e:	?wa:te-i	?j-en	?j-ei	?j-e:ru	?j-ei

規則動詞の1型には、語幹に kak- と kac- の両形があることがわかる。2型には tasik- と tasikir-, tasikit- の3形、3型には p と m など語幹が子音1音のみのものが該当する。4型には語幹が4形 (C-, Cu-, Cu:t-, Cu:- <Cは子音音素>) あり、子音音素1音のみのものが該当する。5型は活用語尾の母音が o や e になるものが上げられる。

不規則動詞の「①する」は標準語の「する」に対応する。規則動詞の4型と同様の活用パターンを示す。「②来る」は未然形が k-u である。k-a であれば、規則動詞の4型に対応する。「③有る」は「する」と同様の活用パターンをみせるが、否定形は arannu となり en (である) の否定形と同形となる。以下には各活用形のはたらきを見ていくこととする。

2. 3 活用形の用法

(1) 未然形

① 仮定条件を表す

wa:ga kakabo: ?uran kakjo:. 私が 書いたら おまえも 書けよ。

kakabo: [kakabo:] は [kakaba] の形でも実現する。ただし [kakaba] は、係り助詞 du を下接することが多い。

?uraga kakabadu wanun kakju:ru. おまえが 書けばぞ (書いたら) 私も 書く。

② 否定形に接続する

否定の形には2形がある。-nnu は自己の判断や推測を否定するばあいには用いられる。もう一方は -dzi に対応して客観的な状況を否定するのべたてに用いる²。

2 町博光「奄美諸島と論島方言の否定表現—nu (<ヌ>) と dzi (<ズ>) の用法差を中心に」『言語学林1995-1996』(1996)

dzi:du kakju:ru. e:ja kakannu. 字を 書く。絵は 描かない。

wa:ga kiteantein sa:dzi. 私が 来てあっても 知らない。(私が来ても気づかない。)

③ 意志・勧誘法

未然形に意志を表す -N (「む」に相当) がついて意志や勧誘を表す。

wana: dzi: kakan. 私は 字を 書こう。

de:ba: ma:dziN ?ikan. さあ いっしょに 行こう。

④ 願望表現法

wanun kakadana. 私も 書こう。

-dana を下接して願望表現をしたてる。-dana による願望表現は、-teasai や -bucai などによる願望表現ほど強い願望ではない。「書こうかどうか」と揺れているような心情の表現である。

(2) 連用形

① 名詞を作る

?arja: kakin eiriba jabuin eun do:. あいつは 書きも するが、破りも する よ。

kakin eirannu jumin eirannu. 書きも しないし 読みも しない。

?arin kakiga eu:ra. あいつも 書くだらう (書きがする) か。

kakiがいわゆる連用中止形となる。とりたての名詞形のばあい、kateiとなる。

?urin katei ?arin katei naraei. それも 書き これも 書き (して) すませ。

② 接辞を接続させる

wa:ga kakju:kutu ?uran kaki. 私が 書くから おまえも 書け。

nu:jin kamangane:ei kakibai eui. 何も 食べないで 書きばかり する。

-kutu は「こと」に相当する原因・理由を表す接辞である。-bai は「ばかり」に相当する。

(3) 接続形

複文において、従属文の述語の位置にくる動詞の形である。

kino:jin katei cu:jin kakjui. 昨日も 書いて 今日も 書く。

(4) 終止形

終止形には2形があることは先にふれた。ここでは『与論方言辞典』の記述にしたがって、-juiと-jun の用法差を見ておく。

① のべたて法

『与論方言辞典』には「のべたて法」として kakjui と kakjun の2形をとりあげ、以下のように説明している。(p.782)

arja: zi: kakjui.

「彼が字を書く (客観的・報告的のべたて)」

この -jui によるのべたては、彼が目の前で書いているという事実の報告のニュアンスがある。したがって、主語が一人称と二人称のときには使うことができない。これに対して、-jun によるのべたては、wa:ga kakjun というように主語が一人称のばあい

も使うことができる。これは自分の意志を表現しているニュアンスがある。(中略)

arja: zi: kakjun.

「彼は字を書く(主観的・推量的のべたて)」

② たずね法

たずね法には、文中に疑問詞を含まないア) 一般たずね法とイ) 解答をもとめないうたがいとウ) 疑問詞を用いたたずね法がある。

ア) 一般たずね法

?uraga kakjummi:. おまえが 書くか。

mi: は mui の形でも実現する。mui はやわらかな表現となる。

?uro: kakjundu kakandu. おまえは 書くか 書かないか。

du でむすぶたずね法は、「?undu girannudu. やるかやらないか。」のように相手に判断をもとめるたずね法である。

イ) うたがい

うたがいは自分自身に問いかける気持ちが強く、相手に判断を求める気持ちの弱いたずね法である。

?arin tegami kakju:ra. あいつも 手紙を 書くだらうか。

?arin tegami kakju:raga. あいつも 手紙を 書くだらうか。

?arin tegami kakjunge:ra. あいつも 手紙を 書くだらうか。

終止形 kakjun に -nge:ra (かしら) がついてうたがいの気持ちを表している。kakjunge:ra が省略された形が kakju:ra と kakjuraである。

ウ) 疑問詞たずね法

文中に疑問詞を含んで、相手に説明を求めるたずね法である。連体形と同じ形で文を結ぶばあいと共通語の「書くのか」にあたる形で結ぶばあいとがある。連体形で結んだばあいのほうが話者の感情が強く表れている。

nuga ?umanan dzi: kakju:ru. どうして ここに 字を 書くのか。

nu:nati ?umanan dzi: kakjunga. どうして ここに 字を 書くのか。

「いつ」「どこに」「だれが」「何で」の例を示しておく。いずれも ga で疑問を表している。

?itei ?umanan dzi: kateanga. いつ ここに 字を 書いたのか。

?idanai kateanga.→?umanai katean. どこに 書いたの。→ここに 書いた。

ta:ga ?umanan dzi: kateanga. だれが ここに 字を 書いたのか。

nu:ei ?umanan dzi: kateanga. 何で ここに 字を 書いたのか。

(5) 連体形

動詞が名詞の前にきて、名詞を修飾する形である。共通語では、連体形は終止形と同型であるが、与論方言では終止形と異なる。

wa:ga tegami kakju:ru nage: matteuri. 私が 手紙を 書いている あいだ まっておれ。

また, du「ぞ」の係りを受けて係り結びを完成させている。

dzi:du kakju:ru.ʔe:ja kakannu. 字(ぞ)を 書く。絵は 描かない。

(6) 条件形

未然形では, 仮にあることがらが起きたらということを前提とするいわゆる仮定条件を作るが, 条件形ではすでに起きたことを前提にした確定条件を表す。

wanun dzi: kakibo: ʔe:tan. 私も 字を 書けば よかった。

以上, 動詞の各活用形の用法を概観してきた。動詞の活用形の用法を, 受け身形や使役形あるいはテンスやアスペクトの観点から詳細に検討する必要がある。ここではふれることができなかった。

2. 5 補助動詞

補助動詞の活用形の働きを丁寧体の -bjun を例にして見ていこう。-bjun は動詞の連用形に接続して, 丁寧な表現を形作る。

(1) 未然形

否定形に接続する。否定の形には2形がある。丁寧体も動詞の使い分けと同様である。-nnu は自己の判断や推測を否定するばあいには用いられる。一方の -ɕi は客観的な状況否定に用いられる。

dzi:du kakja:bju:ru. ʔe:ja kakja:birannu. 字を(ぞ) 書きます。絵は 描きません。

matteanntin matteanntin kja:biradzi. 待っても 待っても いらっしゃいません。

推量法は, -bju:ra の形をとる。

ʔattea:ja: cikkama tatea:bju:ra. 明日の 朝 お立ちになるでしょう。

(2) 連用形

wa:ga kakja:bju:kutu ʔure:jɪn kateiʔwa:ri. 私が 書きますから あなたも 書いてください。

原因・理由を表す接辞 kutu に接続している。

(3) 接続形

kino:jɪn katea:bjui ɕu:jɪn katea:bjui . 昨日も お書きになり 今日も お書きになる。

(4) 終止形

終止形に2形があることは丁寧体でも同様である。

ʔanu pitea: dzi: kakja:bjui. あの 人は 字を お書きになる。

三人称が主語となり, 「書いていらっしゃる」という事実の報告のニュアンスがある。これに対して, -bjun は主語が一人称のばあいにも使うことができる。これは自分の意志を丁寧に表現している。

wa:ga dzi: kakja:bjun. 私が 字を 書きます。

(5) 連体形

終止形と形態が異なる。名詞に係ることを基本とする。

ʔure:ga tegami kakju:ru nage: matteura. あなたが 手紙を 書いていらっしゃる あいだ、
待っていきましょう。

また du (ぞ) を受けて係り結びを完成させる。

dzi:du kakja:bju:ru. ʔe:ja kakjibirannu. 字 (ぞ) を 書きます。絵は 描きません。

(6) 条件形

すでに起きたことを前提にした確定条件を表す。

ʔure:ga dzi: katea:biribo: naju:taru munu. あなたが 字を 書いていらっしゃれば
よかった のに。

3 形容詞の形態論

与論方言の形容詞には、2系が認められる。語幹末尾が-sa (ク活用形容詞) であるものと-sjan (シク活用形容詞) のものとである。ta:-san (高い) su-san (白い) のように sa 語尾を持つものと、mizira-sjan (珍しい) haba-sjan (香ばしい) のように -sjan 語尾を持つものとである。それぞれ「語幹+さ+あり」、「語幹+しさ+あり」に対応している。次表に san 活用形容詞の takasan³ (高い) magisan (大きい) , miziracan (珍しい) eida:can (涼しい) の活用形をまとめておく。

表3 与論方言形容詞の活用

	条件形1	条件形2	終止形1	終止形2	連体形	接続形
takasan	takasara	takasari	takasan	takasai	takasaru	takasati
magisan	magisara	magisari	magisan	magisai	magisaru	magisati
miziracan	miziracara	miziracari	miziracan	miziracai	miziracaru	miziracati
eida:can	eida:carara	eida:carari	eida:can	eida:cai	eida:caru	eida:cati

2. 1 形容詞の用法

(1) 文末での用法

①のべたて法

終止形には2形ある。

ʔunu saija takasan. この 酒は 高い。

ʔunu saija takasai. この 酒は 高い。

takasanは、他と比較しても高いという客観的な表現である。takasai は自分の判断として高いとする主観的な表現である。過去のいいきりの形も2形に別れる。

ʔunu saija takasatan. この 酒は 高かった。

ʔunu saija takasatai. この 酒は 高かった。

3 麦屋方言では、ta:saiとなる

前者は高かったと明確に述べるのに対して、後者には高かったらしいとのおしはかる気持ちが認められる。確信推量を表すには、「連体形+padzi (はず)」で表す。

Φunu saija takasataru padzi. この 酒は 高かった はず (だろう)。

②たずね法

一般的なたずね法では、文末に mi (:)を付けて疑問を表す。-mi: は-mui で実現されることもある。-mui はやや古風な言い方である。

Φunu saija takasammi:. この 酒は 高いか。

Φunu saija takasammui. この 酒は 高いか。

過去のたずね法にも-mi:または-muiを付けてたずねる。

Φunu saija takasatammi:. この 酒は 高かったか。

Φunu saija takasatammui. この 酒は 高かったか。

疑問詞でのたずね法は、文末に-ga をつけて表す。連用形、終止形1、終止形2につく。

?iduruga takakuga. どちらが 高いか。

?iduruga takasanga. どちらが 高いか。

?iduruga takasaiga. どちらが 高いか。

takakugaとtakasanga は一般的な事実の確認をしているニュアンスがある。両者ともに話し手の確認を求めているのに対して、takasangaはより客観的な判断を要求している。takasanga はいくぶん古風な感じを受ける。takasaiga は眼前で比較をしている両者にたずねている。-i終止形と-N終止形の用法差が認められる。動詞の終止形-junと-juiの用法差と同様である。推量形 -ra で話し手の疑いをあらわす。

Φunu saija takasara. この 酒は 高いだろうか。

(2) 連体法

係助詞 du の結びとなって係り結びを完成させる。

Φunu saidu takasaru. この 酒 (こそ) が 高い。

体言にかかり連体修飾をおこなう。

takasaru saidu masaru. 高い 酒 (こそ) が おいしい。

準体名詞 ei にかかるとあい、連体形 takasaru の-ruが脱落する。takasaruei とはならない。

takasacidu masaru. 高いの (こそ) が おいしい。

(3) 連用法

用言にかかり、状態の変化や動作の方向をあらわす。

takaku najun. 高く なる。

(4) 接続法

接続形はtakasatiである。ta:sati の形で表れることも多い。

takasatin hon. 高くても 買おう。

並べ立てる用法は、

?arin takasai φurin takasai. あれも 高いし これも 高い。

となる。

条件形には2形が認められる。

takasarabo: honnu. 高ければ 買わない。

takasaribo: honnu. 高ければ 買わない。

前者はいわゆる仮定条件であり、後者はいわゆる確定条件である。

(5) 否定法

否定形は -ne:、-nnuの形をとる。

?unu saiya takaku ne:. その 酒は 高く ない。

?unu saiya takaku nennu. その 酒は 高く ない。

-ne:は話者の主観的な判断であり、-nnuは客観的な判断である。過去の否定形は、-nentan となりnuが脱落する。

?unu saiya takaku nentan. その 酒は 高く なかった。

4 助辞のはたらき

今回の調査で得られた資料（文法）から、与論方言におこなわれる接辞を整理しておく。例文の番号は、調査資料の番号である。共通語訳は資料にしたがう。

4. 1 はだか格

はだか格は、名詞が格助辞をともなわない形である。主格を表す「が」や所有を表す「ぬ」が、はだか格となっている。連用格としては動作の対象を表す「を」と「に」に対応している。

40 wana: ta?unu saeimi koretcasai. おれは 蛸の さしみが 食いたい。

37 u?uja eikkamakara u?kati ?ju: tu?na je:tan. じいさんは 朝から 海へ 魚を とりに いった。(事実の報告/目撃過去)

41 uro: ?unu ?ju:nu na: eit?ummui. おまえは この 魚の 名まえを 知っているか。

69 amma:ja iteibakati ?e:munu ei?na {idzi tju:sa. (事実の報告) / ikju:tan. (目撃過去)}.

かあさんは 市場へ 買物に 行った。

70 miteino:ti gakkono: einse: itteo:tan. 道で 学校の 先生に 会った。

4. 2 ga (が) 格

ga 格は、動作の主体を表し、文の中で主語をあらわす。

02 ?uraga pattaikati ?iki. (年下に) / ?ure:ga pattaikati ?wa:rjo. (年上に) おまえが 畑へ 行け。

03 NN, pattaikatja: wa:ga {?ikjun / ?ikjundo: (目上へに)}.

23 ?umagaga ?udukara to:kjo:nai ujun. 孫が 去年から 東京に いる。

53 ?udu itokoga teu:gakkono: einse: nati. 去年 いとこが 中学の 先生に なった。

基本的に、ga をともなう名詞は人称代名詞や人を表す名詞に限定されていて、人が主語であることを示している。

?ure:ga ?wa:rja:. あなたが いらっしやいよ。

jakaga ʔe:tan. 兄が いらっしゃった。

など目上の人にも ga を用いている。しかし、おなじ敬意の対象になる「先生」や「町長」には nu 格が使われている。

ɛinei:nu ʔwa:tei. 先生が いらっしゃった。

teo:teo:nu ʔaisatsu ɛiteiʔe:tan. 町長が あいさつ していらっしゃった。

to:kjo:nu pitɕunu ʔei. 東京の 人が いらっしゃる。

これらの nu 格は ga 格には置き換えられない。ga 格と nu 格の使い分けには、まだ検討の余地が残っている。

4. 3 nu (の) 格

nu 格をとまなう名詞は自然物であり、ga 格をとまなう名詞は人称代名詞や人物名詞であり、使い分けがなされている。

15 mitea: pju:sai. 道が 広いなあ。

17 kino:ja {ɕu:je:kumaN~ɕu:je:kumaN} hadinu {teu:sai / teu:satan}. きのは 今日より
風が 強かった。

18 maciruka ɛuru tuinu tinto: tudi ʔaikjui. 真っ白な 鳥が 空を 飛んでいる。

38 ɸumo: {uŋkati / unnu}kja:sanu ʔju:nu masai. ここは 海に ちかいので 魚が うま
い。

74 hanakonu teiro: amma:tu kawatti pitɕui. 花子は 顔が かあさんに よく 似ている。

4. 4 nonti (で) 格

nonti は、さまざまなバリエーションで表れる。資料で得られた例文を列挙しておく。

70 1. miteina:nunti gakko:nu sense:tu itteo:tan. 道で 学校の 先生に 会った。

これは「古里・那間・叶」の例である。「茶花・立長」では、

70 2. miteina:di gakko:nu ɛinee:tu {itteo:tan. (敬語) / o:ti / o:tan (非敬語)} 道で 学校の 先生
に 会った。

と回答されている。「朝戸・城」では、以下のようにになっている。

70 3. mitei:no:ti gakko:nu ɛinse: itteo:tan. 道で 学校の 先生に 会った
麦屋西区でも no:ti が聞かれ、麦屋東では nonti と回答されている。

70 4. miteino:ti gakko:no sense:tu o:tan. 道で 学校の 先生に 会った。

70 5. miteina:nonti gakko:nu ɛinse: itteo:tan. 道で 学校の 先生に 会った。

ɛi は動詞 sjun (する) の中止形から派生したものとされる⁴。

4. 5 ɛi (で) 格

10 jambarukatja: ɸuɲiei ʔikjue: {kumaN~kuma:N} ɕiko:kiei ʔizaruho:ga jutacai. 沖縄には 船で
行くより 飛行機で 行った ほうが いい。

60 saburo:ja dɕiro:in bo:ɛi {utariti (事実の報告) / utarju:tan. (目撃過去)}. 三郎は 次郎に 棒で

4 高江洲頼子『琉球方言の動詞、形容詞の形態論に関する調査・研究』（平成21年3月）p.92

なぐられた。(事実の報告/目撃過去)

- 58 wutuwa daiei tiru tsukuti. (事実の報告) / wutuwa daiei tiru tsukuju:tan. (目撃過去) 夫は 竹で
かごを つくった。(事実の報告/目撃過去)

手段, 道具, 材料などを表す。共通語の「で」に相当する。

4. 6 daki (だけ) 格

共通語の「だけ」に相当する。56 の例は, daki に係の接辞 du が後接したものである。結びが -ru となり, 係り結びが完成している。

- 36 ʔumago: manzu:ja ho:daki koren. 孫は まんじゅうを 皮だけ 食べる。

- 56 ʔunu panaea: tudzikatidakidu kicatearu. その 話は 妻にだけ 聞かせた。

4. 7 nati 「ので」 格

- 23 2 nimuteunu unsanu wattaiei muttean. 荷物が 重かったので 二人で もった。

- 23 3 ni:muteinu ʔumusatarunati taiei muttean. 荷物が 重かったので 二人で もった。

上例が朝戸・城の例であり, 後者が茶花・立長の例である。nu はどちらかということ客観的に理由を説明する表現であり, nati は主観的に理由を説明する表現に多い。

4. 8 ntana (まで) 格

場所にも時間にも使われる。

- 27 ʔo:sakakara {to:kjo:nta:ranu / to:kjo:nta:nanu} kicatejna ʔiteasadaraga. 大阪から 東京までの
汽車賃は いくらだろうか。

- 29 {gozinta:ra / gozinta:na} muduribadu 《najui》. 五時までに 帰らなくては ならな
い。

- 30 ziro:, ʔunu mi:muteintea: ja:{nta:ra / nta:na} haigiti {muteizi kuriri (持って行ってくれ) / ʔizi
kuriri (行ってくれ)}. 次郎, この 荷物を 家まで かついで 行ってくれ。

4. 9 e:kuma (より) 格

- 17 kino:ja {çu:je:kuma~çu:je:kuma} hadinu {teu:sai / teu:satan}. きのは 今日より 風が
強かった。

- 39 ʔju:je:kupa cieinu hataga takasai. (ʔju:je:kupaでは j はその前のuの影響で ʔju:wje:kupa に
聞こえる) 魚より 肉の ほうが 高い。

「AよりもBのほうが」といった比較を表す。

5 与論方言の地域差

与論方言は, 茶花方言と東区(麦屋東・麦屋西)とそれ以外の地域(立長・城・朝戸・叶・那間・古里)に大別される。今回の資料をつぶさに検討して, 文法的な側面から地域差を見いだそうと試みた。文法的な面ではほとんど差は見いだせなかった。例文 19 や 23 の「いる」が麦屋東・麦屋西で ʔujun (他の集落は wujun), 68 「なおるだろう」の推量形が ʔadzi (他の集落は

padzi) など音声的な差が指摘されるだけであった。方言の差異はまず音声から耳立つということであろう。

6 おわりに

奄美群島の最南端に位置する与論島の方言は、沖縄南部方言との似通いがこれまでもよく指摘されている。とくに音韻の面で、奄美大島方言や徳之島方言との隔たりは大きく、音韻面での沖縄南部方言との近さがこれを裏付ける。一方で、動詞の終止形に2形あることなど奄美方言としてのまとまりも認められる。与論方言が奄美方言と沖縄南部方言のどちらに分属されるかは、どのような言語的特徴に焦点を当てているかで決まってくるのだろう。与論方言の方言区画上の位置は、まさに奄美方言と沖縄南部方言との境界にあると言える。

与論方言データ集

与論方言データ集の表記について

1 表記の基本方針

- (1) 語形は音声記号とかなの両方で表記する。それぞれ「基礎語彙（音声記号），（かな）」、「文法例文集（音声記号），（かな）」として用例をあげている。
- (2) アクセント符号は、次のものを使用する。
[音調の上がり目] 音調の下がり目]] 拍内の下降
- (3) 同一話者の発音が揺れている場合は、2つ（またはそれ以上）の発音を「～」でつないで表す。同一話者が複数の語形を回答した場合は、2つ（またはそれ以上）の語形を「 / 」で区切って併記する。異なる話者が異なる発音で発話したり、異なる語形を回答したりした場合は、「 // 」で区切って2つ（またはそれ以上）の語形を併記する。また、文法例文集では、複数語形の範囲を { } でくくって、{ / } のように表記する。
- (4) 語形に関するその他の情報は、（ ）の中に入れて示す。
- (5) その単語を使った例文は、[] の中に入れて表す。
- (6) <新>、<古> は語形の新旧を表す。

2 与論方言 音声記号・仮名対応表

2. 1 短母音音節

(空欄は、調査の範囲では該当する音が現れなかったことを表す)

?	音声	[ʔa, a]	[ʔi, i, ji]	[ʔu, u]	[ʔe, e, je]	[ja]	[ju]	[wa]	[wu]
	仮名	^あ, あ	^い, い, いい	^う, う	^え, え, いえ	や	ゆ	わ	うう
p	音声	[pa, ɸa]	[pi, ɸi]	[pu]					
	仮名	ぱ, ɸあ	ぴ, ɸい	ぷ					
b	音声	[ba]	[bi]	[bu]					
	仮名	ば	び	ぶ					
m	音声	[ma]	[mi]	[mu]		[mja]			
	仮名	ま	み	む		みゃ			
t	音声	[ta]	[ti]	[tu]	[te]				
	仮名	た	てい	とう	て				
d	音声	[da]	[di]	[du]			[dju]		
	仮名	だ	でい	どう			でゅ		
s	音声	[sa]	[ei]	[su]		[ea]			
	仮名	さ	し	す		しゃ			
n	音声	[na]	[ni]	[nu]		[na]			
	仮名	な	に	ぬ		にゃ			
r	音声	[ra]	[ri]	[ru]	[re]				
	仮名	ら	り	る	れ				
c	音声	[tea]	[tei]	[teu]					
	仮名	ちゃ	ち	ちゅ					
ʃ	音声	[ɕa, za]	[ɕi, zi]	[ɕu, zu]					
	仮名	ぢゃ, じゃ	ぢ, じ	ぢゅ					
k	音声	[ka]	[ki]	[ku]	[ke]				
	仮名	か	き	く	け				
g	音声	[ga]	[gi]	[gu]					
	仮名	が	ぎ	ぐ					
h	音声	[ha]	[çi]	[ɸu]	[he]				
	仮名	は	ひ	ɸ	へ				

2. 2 長母音音節（直音系列）

∅	音声	[a:]	[i:]	[u:]	[e:, je:]	[o:]
	仮名	あー	いー	うー	えー, いえー	おー
ʔ	音声	[ʔa:]	[ʔi:]	[ʔu:]	[ʔe:]	[ʔo:]
	仮名	^あー	^いー	^うー	^えー	^おー
p	音声	[pa:]	[pi:]	[pu:]	[pe:]	[po:]
	仮名	ぱー	ぴー	ぷー	ぺー	ぽー
b	音声	[ba:]	[bi:]	[bu:]	[be:]	
	仮名	ばー	びー	ぶー	べー	
m	音声	[ma:]	[mi:]	[mu:]	[me:]	[mo:]
	仮名	まー	みー	むー	めー	もー
t	音声	[ta:]	[ti:]	[tu:]		[to:]
	仮名	たー	ていー	とうー		とー
d	音声		[di:]	[du:]	[de:]	
	仮名		でいー	どうー	でー	
s	音声	[sa:]	[ei:]	[su:]	[se:]	[so:]
	仮名	さー	しー	すー	しえー	そー
n	音声	[na:]	[ni:]	[nu:]	[ne:]	[no:]
	仮名	なー	にー	ぬー	ねー	のー
r	音声		[ri:]	[ru:]	[re:]	
	仮名		りー	るー	れー	
c	音声	[tca:]	[tei:]	[teu:]	[tce:]	[teo:]
	仮名	ちゃー	ちー	ちゅー	ちえー	ちよー
ʃ	音声	[dʒa:]	[dʒi:]	[dʒu:]	[dʒo:]	
	仮名	ぢゃー	ぢー	ぢゅー	ぢよー	
k	音声	[ka:]	[ki:]	[ku:]		[ko:]
	仮名	かー	きー	くー		こー
g	音声				[ge:]	[go:]
	仮名				げー	ごー
h	音声		[çi:]	[φu:]	[he:]	[ho:]
	仮名		ひー	ふー	へー	ほー

2. 3 長母音音節（拗音系列）

∅	音声	[ja:]	[ju:]	[jo:]	[wa:]
	仮名	やー	ゆー	よー	わー
ʔ	音声	[ʔja:]	[ʔju:]	[ʔjo:]	[ʔwa:]
	仮名	^やー	^ゆー	^よー	^わー
p	音声	[pja:, ɸa:]	[pj:]		
	仮名	ぴゃー, ひゃー	ぴゅー		
b	音声	[bja:]			
	仮名	びゃー			
t	音声	[tja:]	[tju:]		
	仮名	てゃー	てゅー		
d	音声		[dju:]		
	仮名		でゅー		
s	音声		[ɕu:]		
	仮名		しゅー		
n	音声	[ɲa:]			
	仮名	にゃー			
r	音声	[ɾja:]			
	仮名	りゃー			
k	音声	[kja:]	[kju:]	[kjo:]	[kʷa:]
	仮名	きゃー	きゅー	きょー	くわー
g	音声	[gja:]	[gju:]		[gʷa:]
	仮名	ぎゃー	ぎゅー		ぐわー
h	音声	[ɸa:]	[ɸu:]		
	仮名	ひゃー	ひゅー		

2. 4 特殊拍

N	音声	[m, n, ŋ, ɴ]
	仮名	ん
Q	音声	[pp, tt, kk, ss, ɕɕ]
	仮名	っ

与論方言 基礎語彙集（音声記号）

語	古里・那間・叶	茶花・立長	朝戸・城	麦屋
頭(あたま)	ɸuradzi / teiburu (ɸuradzi の方を多く使う)	tei[bu]ru	ɸuradzi (総称) / kamatei / teiburu (品 位が下がる。人以外 にも使う)	ɸuradzi
髪の毛(かみのけ)	ɸuradzi nu ɕiː	[pi]gi	ɸuradzinu ɕiː	ɸuradzinu eiː
旋毛(つむじ)	teizi	NR	maki / taːteimaki (2 つつむじがあること)	teidzi / teidzimaki
雲脂(ふけ)	iːki	ɸu[ke	ʔiːki	ʔiːki
白髪(しらが)	saːgi	[saː]gi	saːgi	eaːgi
目(め)	mintama [mintama jadi 目を痛めた] / mintamanu jutacai (目 が良い)]	[minta]ma / [miː	mintama (目玉では なく目を指している)	mintama
眉(まゆ)	miːbuei	[maju	miːjoː<古> / miːbuei< 新>	miːbuei
額(ひたい)	pɪtteeː ~ pɪtteei ~ pittacai	pɪ[tteeː	pittacai<朝戸> / pikke<城>	pɪtteeː
鼻(はな)	pana	[pa]na	pana	pana
鼻血(はなぢ)	panadzi	[pana]dziː	panadziː	panadziː
耳(みみ)	min	[mi]n	min	min
口(くち)	kutei	kɥ[tei	kutei	kɥtei
唇(くちびる)	eiba	kɥ[teibiru	eiba	eiba
舌(した)	eɪtea	eɪ[tea	eitea	eɪtea
歯(は)	paː	[paː]	paː	paː
歯茎(はぐき)	paːguki	[paː]guki	paːdziː / paːguki	pagita
口蓋(あご)	utugai / kaːdzi (あご全 体)	[ʔutu]gai<誘>	ʔutugai	ʔutugai / kaːdzi (え ら)
髭(ひげ)	pigi	[pi]gi	pigi (植物のヒゲにも いう)	pigi
毛(け)	ɕiː [pigibuta (毛が濃 い人のこと)]	[ɕiː]	pigi	eiː
面(かお)	teira	teɪ[ra ~ tei[ra	teira	miːpana / teira (や や卑下した言い方)
首(くび)	kubi / ussu kubi (後ろ の首)	[kubi / nudui (喉)	kubi	kubi
肩(かた)	hata [hata pusagati (肩 が凝った)]	[ha]ta	hata	hata
胸(むね)	ɲigutei	[mu]ne<新>	ɲigutei	ɲigutei
乳(ちち)	teiː ~ teiː	[teiː] (人のも牛のも)	teiː	teiː
腹(はら)	wata [wata intei (おな かがいっぱい) / wata jadi (おなかが 痛い)]	[wa]ta	wata	uata
背中(せなか)	ɸucinaː	[cenaka / [ɸu]eɪ (「腰」か。背中の下 半分を言う)	ɸucinaː	ɸucinaː

[は音調の上がり目,] は音調の下がり目,]] は拍内の下降, <新> <古> は語形の新旧。

語	古里・那間・叶	茶花・立長	朝戸・城	麦屋
肝(きも)	kimu	[ki]mu	kimu / kimuɸuku (心臓を含めた内臓全体)	kimu
臍(へそ)	pʊsu	pʊ[su	pusu	pʊsu
腰(こし)	ɸʊci	[ɸu]ci	ɸuci	ɸuci
尻(しり)	mai [mai garusan (すぐ立って働く人のこと) / mai umusan (動きが鈍い人のこと)]	[ma]i	mai	mai
肛門(こうもん)	go:mai / mantama / mainumi:	[go:mai	go:mai	mainu mi:
手(て)	ti:	[ti]: (腕の付け根から指先まで)	ti:	ti: (手首から先・肩から指先まで)
腕(うで)	he:pa ~ hena	NR	he:pa	ke:pa / ʔudi (二の腕)
肘(ひじ)	pidzi	[çi]dzi<新>	pidzi	pidzi
力(ちから)	kja:	[tja:	tja:	tja:
拳(こぶし)	tizikun	[geŋkotsʊ	teidzikun<城> / tidzikun<朝戸>	NR
筋(すじ)	eizi	[sudzi	eidzi	eidzi
指(ゆび)	uibi / uɸui:bi (親指) / piteusaeiubi (人差し指) / na:ju:bi (中指)。「薬指」「小指」は共通語と同じ。	ʔujubi	ʔuibi	ʔuibi
爪(つめ)	teimi	[tei]mi	teimi	teimi
足(あし)	pagi (全体。また、つけ根から下をさす) / pagibe:sanu (足が速い)	[pagi	pagi	pagi
腿(もも)	mumu	[mu]mu	mumu	mumu
股(また)	matabaei	[mata	mata	mata
膝(ひざ)	teinci	çi[za	teinci	teinci
踝(くるぶし)	tanabuei	[kurubuei ~ [kuru]buei/ [guɸʊ (手首や足の出っ張った部分)	tanabuei	tanaguei
脛(すね)	eiji	su[ne<新>	eiji	eiji
ふくらはぎ	eijintari	ɸʊkurahagi<新>	eijinu tari	eijinu tai
踵(かかと)	adu	[kakato<新>	ʔadu	ʔadu / ʔatueidzi
体(からだ)	du: (「自分」のことも du と言う)	[karada<新>/ [du:<誘>	du:	du:
背丈(せたけ)	taki [taki nu ta:san (背が高い)]	[ce]take	taki	taki
骨(ほね)	pʊni	[pʊni	pʊni	pʊni
皮(かわ)	ho:	[pa]da	ho:	ho:
ほくろ	ada (「あざ」も ada)	[hokuro<新>/ [ada ~ [a]do	ʔada	ʔada

「～」は同一話者での発音の揺れ, 「 / 」は語形の違い, 「 // 」は話者による発音や語形の違い。

語	古里・那間・叶	茶花・立長	朝戸・城	麦屋
涙(なみだ)	minada / mi:nada / nada[wana nada ja:san (私は涙弱い＝ 涙もろい)]	[mi:na]da	nada	nada
声(こえ)	ɸui	[ɸu]i	ɸui	ɸui
息(いき)	iki	[iki ~ [i]ki	?iki	?iki
咳(せき)	saɸui	[saɸu]i	saɸui	NR
唾(つば)	teizi	[teidzi	teidzi	teudzu
欠伸(あくび)	akubi	[akubi	?akubi (「しゃっくり」 は sakurabi)	?akubi
涎(よだれ)	ju:dai	[ju]dari ~ [ju:]dari / [junadai	ju:dai	ju:dai
屁(へ)	pi:	[pi]:	pi:	pi:
糞(くそ)	kusɸ	kɸ[su	kusu	kɸsu
尿(にょう)	ei:bai	[ei:baɾi	ei:bai	ei:bai
おでき	nibutu	[nibutu<誘>/ [tei]nu / ?o[deki とも	nibutu (「汗疹」は ?aeibu)	nibutu
たんこぶ	guɸɸ ~ gupɸ (どちら かと言うと自然にでき たもの。打たれてでき たものにはあまり言わ ない)[guɸɸ nu idzi (こ ぶができた)]	[kobu<誘, 新>/ ki[zu / [guɸɸ <誘>	gabu	gupu
汗(あせ)	aei ~ aeu	[aei	?aei	?aei
垢(あか)	go:ra	a[ka<新>/ ju[bu]ri (汚れにも)	go:ra	go:ra
怪我(けが)	ge:gi	[kega<新>	kiga	du:ge:gi
病氣(びょうき)	jamme:	[jamme]: / (「病ん で」は jadi と言う)	jamme:	jamme:
血(ち)	tei:	[tei]:	tei:	tei:
傷(きず)	kizi	[kizu	kidzi	kidzi
薬(くすり)	kɸsui	kɸ[su]i	kusui	kɸsui
灸(きゅう)	jatteu:	[jat]teo:	jatteo:	jatteo:
命(いのち)	nutei	[nu]tei	?inutei	nutei
木(き)	çi:	[çi]:	çi:	ei:
葉(は)	pa:	[çi:]nu[pa]: / [pa]:	pa:	pa:
枝(えだ)	juda	[ju]da	juda	juda
梢(こずえ)	juda nu saki	[çi:nusaki<新>/ sura	NR	NR
実(み)	nai	[na]i	mi:	nai
根(ね)	nigui	[ne:<新>	pigi	ni: / nigui (根っこ)
草(くさ)	kɸsa	kɸ[sa	kusa	kɸsa
花(はな)	pana	[pa]na	pana	pana
種(たね)	taɲi	[ta]ni	taɲi	taɲi
苗(なえ)	nae / ne: (稲の苗)	[na]i	ne:	ne:

[は音調の上がり目,] は音調の下がり目,]] は拍内の下降, <新> <古> は語形の新旧。

語	古里・那間・叶	茶花・立長	朝戸・城	麦屋
稲(いね)	mai	[mai	mai	mai
穂(ほ)	pu	[pu]:	pu:	pu:
米(こめ)	ɸumi	[ɸu]mi	ɸumi	ɸumi
粳(もみ)	mun	[mu]N	mun	mumi
麦(むぎ)	mugi	[mu]gi	mugi	mugi
藁(わら)	wara	wa[ra ~ [wara (ふ つつ稲わらのこと)	wara	ɯara
麦わら	mundzara	mu[giwara	mundzara	NR
茅(かや)	gja:	[ka]ja (屋根葺き用 のすすき)	gieiki	gja:
粟(あわ)	ʔo:	[awa	ʔo:	ʔo
稗(ひえ)	NR	çi[e<新>	to:gi	NR
芋(いも)	ʔuN / muzi (水芋)	[ʔu]N (総称ではな い)	ʔuN	ʔuN
さつまいも	ʔuN	[ʔu]N	ʔuN	ʔuN
豆(まめ)	mami	[ma]mi	mami	mami
胡瓜(きゅうり)	ʔui	[kju:i	ʔui	kju:ri
蓬(よもぎ)	putei	pɯ[tei	putei	pɯtei
菜(な)	na:	[na: (大根の葉)	na:nupa:	na:
大根(だいこん)	de:kupi	[de:ku]ni	de:kupi	de:kjini
冬瓜(とうがん)	eibui	[subu]i	eibui	eibui
南瓜(かぼちゃ)	narukan	[naruka]N	narukan	narukan
瓜(うり)	ʔui	[ʔu]ri	ʔui	ʔui / dukkui
菰(いら)	bja: / nibiru (野蒜)	[bja]:	bja: / nibiru (野蒜) / piru (ニンニク)	[bja]:
茸(きのこ)	mingui	[kino]ko<新>	NR	naba ~ napa
きくらげ	mingui	[mingu]i	mingui	mingui
とうがらし	a:gueu	[ʔa:]gueɯ (怒りっぽ い人・乱暴者も ʔa:gueɯ と言う)	ʔa:gueu	ʔa:gueu
苦瓜(にがうり)	nigaʔuri	[go:]ja<新、最近移 入された>	go:ʔui / pindzo:ʔui / go:ja:<新>	pidzaʔui
胡麻(ごま)	guma	[go]ma<新>	guma	NR
苺(いちご)	iteubi	[iteumbi	iteubui / iteumbi	ʔiteubu
蘇鉄(そてつ)	ejtutei	ej[teitei	eitutei	ejteitei
松(まつ)	mateigi	[mateigi ~ [ma]tei[gi	mateigi	mateigi
竹(たけ)	dai	[da]i	dai	dai
梅(うめ)	ume (標準語)	u[me<新>	ʔume	NR
桃(もも)	mumu	[mu]mu	mumu	mumu
桑(くわ)	kʷa:gi	[kʷa]:gi	kʷa:gi	kuɸa:gi
薄(すすき)	gieiki	[giei]ki	gieiki	gieiki
くば(びろう樹)	ɸuba	[ɸuba	kuba	ɸuba

「～」は同一話者での発音の揺れ, 「 / 」は語形の違い, 「 // 」は話者による発音や語形の違い。

語	古里・那間・叶	茶花・立長	朝戸・城	麦屋
蜜柑(みかん)	kupibu	ku[nipu ~ φupipu	kupipu	kupibu
茎(くき)	kuki	ku[ki	kuki	NR
あおさ	?o:sa	[?o:sa	?o:sa	?o:sa
もずく	einui	ei[nui	einui	einui
藻(も)	mo:	[mo:	mo: / nateiwara (カイジン草)	NR
糸瓜(へちま)	naburja:	[nabure:	naburja:	NR
こずえ・砂糖黍の先端	sura	[*uginusa]ki ~ [uginusa]ki (「砂糖黍」のこと) / [sura (こずえ一般) / teidzi	pu:	sura
福木(ふくぎ)	pukugi	φu[ku]gi	pukugi	pukugi
烏賊(いか)	itea	[?i]tea	?itea	?itea
蛸(たこ)	taφu	[ta]φu	taφu	taφu
海老(えび)	?ibi	[?i]bi ~ [?ibi	?ibi	?ibi
雲丹(うに)	umba:mui	[ha]teitei / [umba:mu]i (黒いウニ)	?uni / hateitei (身が白いウニ) / umba:mui (身が黒いウニ)	hateitei
雲丹の身	(umba:mui nu) mi:	[ha]teiteinu[mi:	hateiteinu mi:	hateitei nu mi:
貝(かい)	kai (主に二枚貝。「サザエ」は hataina)	[kai	kai	kai
亀(かめ)	hami	[ha]mi	hami	hami
蟹(かに)	gan	[ga]n	gan	gan
蜷 (にな, まきがい)	nina (小さな巻貝)	[magai	jina	çina
魚(さかな)	?ju	[?ju]:	?ju:	?ju:
鱗(うろこ)	i:ki	[?i:ki	?i:ki	?i:ki
鰻(うなぎ)	unagi	[?unagi	?unagi	?unagi
鯨(くじら)	gu:dza:	[gu:dza]:	gu:dza:	gu:dza:
鰹(かつお)	katsuo	[katsuo<新>	katsuo	katsu:
飛魚(とびうお)	tubi?iju ~ tubiiju	[tubi?i]ju]:	tubi?ju:	tubju:
いるか	pitu	?i[ruka / p ^{hi} [tu<誘>	pitu	pitu
なまこ	eikki:	eik[ki]:	eikki:	eikki:
ひとで	jateimata	[çitode	NR	jateimata
やどかり	aman	[a]man	?aman	?a:man
牛(うし)	je:nan	[je:]nan ~ [e:]nan <古> / [?uei	?uei / ?e:nan (生産牛) / ?uguttui (雄牛)	?uei / e:nan (牛全体のこと)
馬(うま)	?uma	[u]ma	?uma	?uma
山羊(やぎ)	wu:jagi	[*u:ja]gi ~ [u:ja]gi / [mi:ja]gi (雌山羊)	jagi	jagi

[は音調の上がり目,] は音調の下がり目,]] は拍内の下降, <新> <古> は語形の新旧。

語	古里・那間・叶	茶花・立長	朝戸・城	麦屋
豚(ぶた)	waŋka	[waŋka	ʔwa: / ʔwaŋka	ʔuʔa: (大型の豚) / ʔuʔaŋka (中型の豚)
角(つの)	teinu	[tei]nu	teinu	teinu
犬(いぬ)	inu	[i]nu	ʔinu	ʔinu
猫(ねこ)	mjaŋka	[mjaŋ]ka	mjaŋka	mjaŋka
兎(うさぎ)	usagi	[usagi	ʔusagi	ʔusagi
鼠(ねずみ)	jumunu	[ju]munu	jumunu	jumunu
動物(どうぶつ)	[ʔi]ki[mu]nu	ʔikimuei	[ʔi]kimu] ei	ikimunu
虫(むし)	muei	[muei	muei	muei
蟻(あり)	aŋkɯ	[a]ŋku	ʔaŋku	ʔaŋku
蚊(か)	gaɖzan	[gazan	gaɖzan	ga:ɖzan
蜘蛛(くも)	kubu	NR	ɸubu	ɸubu
蜘蛛の巣	kubugaei	[ɸubugaei	ɸubugaei	ɸubugaei
蝶々(ちょうちょ)	papiru (蝶々・蛾)	[teo:teo: / [papiru は「蛾」のこと	papiru (蝶にも蛾にも使う)	papiru (蝶々 / 蛾)
蝸牛(かたつむり)	teijnpan	[teinna]N	teinnan	teijnpan
蛙(かえる)	atabiku	[ata]biku	ʔatabiku	ʔatabiku
蜂(はち)	patei	[pa]tei ~ [ɸxa]tei	patei	patei
蠅(はえ)	o:bai	[ʔo:ba]i / mu[eaŋka (コバエ)	ʔo:bai	ʔo:bai
蛆(うじ)	udzi	[ʔudzi	ʔudzi	ʔudzi
蚤(のみ)	nuntu	[nuntu	nun / nuntu	nuntu
蚯蚓(みみず)	mi:mizi	[mi:]midzi	mi:midzi	mi:midzi
虱(しらみ)	san	[san	san	ean ~ san
百足(むかで)	mukadi	[mu]kadi	mukadi	mukadi
蚕(かいこ)	mueidza	[mueidza ~ muei]ɖza	mueidza	mueidza
かまきり	jamahaga	[kamakiri<新> / [ieatu ~ [ieasa <誘> (海の妖怪)	kamakiri	jamahaga
蜻蛉(とんぼ)	be:ru: / ma:mutei (大きいトンボ)	[be:]ru	be:ru:	be:ru
ばった	ga:ta	[ga:]ta	ga:ta	ga:ta
鳥(とり)	[tu]i	[tu]i	[tu]i	tui
鶏(にわとり)	wudui (おんどり) / mi:dui (めんどり)	[tui	[wudu]i (おんどり) / [mi]:du]i (めんどり)	tui
とさか	hagan	ha[gan	[haga]N	hagan
雀(すずめ)	[ju]mu[du]i	ju[mudui	[ju]mudu]i	jumudui
鳩(はと)	[pa]tu	pa[tu	[pa]tu	patu
烏(からす)	NR	garaei	[ka]rasu	karasu

「～」は同一話者での発音の揺れ, 「 / 」は語形の違い, 「 // 」は話者による発音や語形の違い。

語	古里・那間・叶	茶花・立長	朝戸・城	麦屋
鶉(うずら)	ʔudzira	ʔudzira	[u]dʒi[ra	uzira
鷹(たか)	[tʰa]:	ta[: ~ [ta]: (さしば)	[ta]:	taka
卵(たまご)	[ɸu]ga	ɸu[ga	[ɸu]ga	tamagu / ɸuga
巢(す)	[ei]:	[ei]:	[ei]:	ei:
羽(はね)	[pa]ni	[pa]ni	[pa]ni	papi
空(そら)	[ti]n[to]:	tinto:	[ti]nto]:	tinto:
日(ひ)	[pi]:	[pi]:	[pi]: / [çi]:	NR
太陽(たいよう)	tida	tida	[ti]da	tida
光(ひかり)	a:gai	[pittea]i	[pittea]i	NR
蔭(かげ)	hagi	[hagi	[ha]gi	hagi
まぶしい	mi: pittearasai	mi: pittearasai	[mi]:piteara]sai	mi: ɸittearasanu
火(ひ)	matei	ma[tei	[ma]tei ~ [ma]teĩ	matei
水(みず)	midzi	[mi]dʒi	[mi]dʒi	midʒi
山(やま)	[ja]ma	[jama	jama	jama
川(かわ)	ko: (井戸) / ana go: (雨水をためる穴) / idzũgo: (地下水まで 掘った井戸)	NR	kawa	kawa
橋(はし)	paçi	[pa]çi	[pə]çi	paçi
丘(おか)	panta (大きい) / mui (小さい)	mui	[pa]nta (台地)	jamagama
陸地(りくち)	NR	[dʒi:	rikutei	çima
土・地面(つち・じ めん)	dʒi: (地面) / [du]ru (土) / buttara (柔らか い粘土状)	[du]ru	[dʒi]: / [du]ru (泥) [du]rua]çi[bi (泥遊 び)]	duru
星(ほし)	puei	puei	pu[çi	puei
月(つき)	teikkju:	teikkju:	tei[kkju:	teikkju:
雲(くも)	[ku]mu	[kʰu]mu	[ku]mu	kumu
霧(きり)	[ki]:	[ki]:	[ki]:	NR
露(つゆ)	[teu:	[teu:	[tsu]ju	teu: (露は降らない)
雨(あめ)	ʔami	ʔami	[a]mi	ami
風(かぜ)	hadi	hadi	[ha]di	hadi
竜巻(たつまき)	[ʔi]:[no	[ʔi]:[nu:	[ta]teimaki	tatsumaki
稲光(いなびかり)	pitteai pudui	pitteaipudui ~ pitteaiɸudui	[pitteaiɸudu]i / [pitteaipudu]i	inabitteai
地震(じしん)	ne: [ne: juti (地震で 揺れた)]	[ne:	[ni]:nu [ju]ti	dʒicɛn
虹(にじ)	[go:nu]dʒi	go: [nu]dʒi	nidʒi	nidʒi
明かり	a:gai	ʔa:gai	[pittea]i	a:gai
雷(かみなり)	[ha]n[na]i	happai	[kami]nai / [ka]mina]i	kaminari
潮(しお)	[ʔu]eu	[eu: ~ [eu]:	[eu]:	eu:

[は音調の上がり目,] は音調の下がり目,]] は拍内の下降, <新> <古> は語形の新旧。

語	古里・那間・叶	茶花・立長	朝戸・城	麦屋
煙(けむり)	[ei]m[bu]ei	ɛimbuei	[ei]mbuei / [ei]mubuei	ɛimbuei
浅瀬(あさせ)	mateiku / p̥ɛibana (リ ーフ)	mateiku (内海の) / p̥ɛibana (外海の)	[a]saei / asa[ei]	p̥ɛibana
遠浅(とおあさ)	NR	NR	[tu]:ei	NR
洞窟(どうくつ)	ʔjo:	ʔjo:	NR	jo: / abu
海(うみ)	[ʔu]N (「芋」は [ʔuN])	[ʔuN ~ [ʔu]N	[u]N	uN
水溜り(みずたまり)	[ʔi]ki (池) / φumui (水溜り) / o:gumui (少し大きい潮溜まり) / wari (大きい潮溜まり)	[tei]bu (海の水溜り) / [ʔi]ki (池)	[i]ki (池)	mizitamai
港(みなと)	minatu <新しい>	sambaei	[mi]na[tu]	minato / φunatsukiba
波(なみ)	nan (一般) / na:gui (荒くなった波)	na:gui	na[mi]	nan
泡(あわ)	[ʔo]:teibu / bumburu (湧いてくるもの)	[ʔo]:teibu	awa	NR
島(しま)	[ei]ma	[ei]ma	[ei]ma	ɛima
浜(はま)	pama	[pa]ma ~ [pama	[pa]ma	pama
珊瑚礁(さんごしょう)	ɛi: / p̥ɛi (「珊瑚」は ʔuru)	ʔuru	[u]ru	uru
砂(すな)	ɛina ~ ɛi:na	ɛina	[ei]na	ɛiɲa
石(いし)	[ʔi]ei (「岩」は hambara)	[ʔi]ei	[iei / [i]ei	iei
溝(みぞ)	jindzu ~ jundzu	jindzu	[ju]ndzu	mizipai
田(た)	ta:	[ta: ~ [ta]:	[ta]:	ta:
畦道(あぜみち)	ʔabuei	abucimitei (「畦」を abuei と言う)	a[bu]ei	abuei / azemitei
畑(はたけ)	[pattai	[pattai	[patta]i	pattai
野(の)	NR	NR	no	jamabattai
道(みち)	miteinna: ~ miteina:	mi[teinna]:	[mi]tei / [mi]teina:	mitei
崖(がけ)	NR	[pa]nta	gaki	ɛidziri
坂(さか)	saka <新?>	[pa]nta	[pa]nta	nubuigutei
頂上(ちょうじょう)	[tei]dzi (頭のとっぺん も意味する)	teizi	NR	teppen ui
東(ひがし)	agari:	agari:	[a]gari]: / [a]ga[ri	agaringata
東風	agari: hadi	agari:hadi	NR	agarihadi
北(きた)	miei	miei	[ɲi]ei	mieingata
北風	miei (nu) hadi	mieihadi	NR	mieingatahadi / pi:sahadi
西(にし)	ʔi:	[ʔi]:	[i]:	juŋgata
西風	ʔi:hadi	ʔi:hadi ~ ʔi:nuhadi	NR	juŋgatahadi
南(みなみ)	[pe]:	[pe: ~ pe]:	[pe]:	pe: / pe:ŋgata

「～」は同一話者での発音の揺れ, 「 / 」は語形の違い, 「 // 」は話者による発音や語形の違い。

語	古里・那間・叶	茶花・立長	朝戸・城	麦屋
南風	pe:hadi / pe:nu hadi	pe:nuhadi	[pe]:nu ha[di	pe:hadi
右(みぎ)	migi:	[mi]gi	[migi	migi
左(ひだり)	pidzai	pidzai	[piza]i	pidzai
前(まえ)	[me:	[me: ~ [me]:	[me]:	me:
後ろ(うしろ)	[ʔussu:	ʔussu:	[ussu:	ussu:
跡(あと)	ʔatu (「足跡」は ku]N)	NR	atu	atu
横(よこ)	[ju]ku	NR	juku	joko
上(うえ)	ʔui	[ʔu]i	ui	ui
下(した)	eitea	eitea	eitea	eitea
中(なか)	[na: / manna:	[na: ~ [na]:	[na]:	na:
底(そこ)	eiki (鍋の底) / suku (海や土地の底)	eiki	suku	eiki
内(うち)	[na: / ʔutei	[na: (中)	[na]:	utei
外(そと)	[pa:	[pa: ~ [pa]:	[pa]:	pa:
奥(おく)	[ʔu]ku	[na: (中)	ʔuku	na:
角(かど)	[ha]du	ha[du ~ [ha]du	kadu	hadu
傍(そば)	pa[ta	[pa]ta / hatapara	pata (傍)	pata
今日(きょう)	[eu:	[eu:	kju:	eu:
昨日(きのう)	kino:	ki[no]: ~ ki[no:	kino:	kinno:
一昨日(おととい)	wuttui	vuttui	ututui / uttui	uttui
明日(あした)	attea:	at[tea]:	attea:	attea:
明後日(あさって)	ʔasati	a[sati	asatti	asati
明明後日(しあさって)	juɱa / kja:riɱa	[kja:]ri[ɱa	[ei]a[satti	NR
今年(ことし)	ʔutuei / ʔutabi (「今度」の意)	ʔutuei	kutu[ei	ʔutabi / ʔutuei
去年(きょねん)	ʔudu	[ʔu]du	kjonɛN	udu
一昨年(おとし)	ji:nteunati	NR	ututuei	ototoei
来年(らいねん)	jaɲɲi ~ jaɲɲu	[jaɲɲi	jan[ɲi	jaɲɲi
再来年(さらねん)	mjanteu	NR	NR	NR
今(いま)	ɲama	[ɲama	ɲama	nama
昔(むかし)	mukaɛi	mukaɛi	mukaɛi	mukka:ɛi
夏(なつ)	natei	natei	natei	natei
冬(ふゆ)	pui	[pu]i	[pu]i	pui
朝(あさ)	eikkama	eikama	ei[kkama	eikama

[は音調の上がり目,] は音調の下がり目,]] は拍内の下降, <新> <古> は語形の新旧。

語	古里・那間・叶	茶花・立長	朝戸・城	麦屋
昼(ひる)	pju: / pju:ma (昼間)	pju:	[pju]:	pju:ma
夕方(ゆうがた)	june: / june:gata	june:	june:	june:
夜(よる)	[ju]ru	juru	juru	juru
夜中(よなか)	juna:	ju[na]:	juna:	juna:
暇(ひま)	ma:	[ma: ~ [ma]:	çima	çima
時(とき)	tuki	eitearu ban (した時)	tuki	çinitei
年(とし)	tuei	tuei	tuei	tuei
暦(こよみ)	kujumi	kujumi	kujumi	kujumi
着物(きもの)	kɪpada	kɪpada	kipara	kipara
襟(えり)	NR	NR	jeri	eri
袖(そで)	sudi	[su]di	sudi	sudi
裾(すそ)	me:eiɸa (前裾)	pa[ei	suso	suso
帯(おび)	?ubi (大きい) / kɪkibi (幅狭い)	kɪ[kibi	kikkibi (細い帯)	kikibi
紐(ひも)	pinui (細い) / wu: (牛を引っ張る紐)	[vu: ~ [vu]:	NR	teina
足袋(たび)	NR	tabi	tabi	tabi
袴(はかま)	pakama	hakama<新>	hakama	pakama
下駄(げた)	acidza	gi[ta	geta	geta
草履(ぞうり)	[sa]ba	saba	[sa]ba	saba
緒(お)	wu:	vu:	NR	çimo
布(ぬの)	[nu]nu	[nu]nu	[nu]nu	kidzi
表(おもて)	?umuti	?wa:bi	[u]muti	umuti
裏(うら)	?ura	ei[teo:ra	u[ra	ura
綾,模様(あや)	?ja: / ?aja	[?ja: ~ [?ja]:	[a]ja / mu[jo:	gara
手ぬぐい	tinugui	[ti]nu[gui	[ti]nugu[i	tinugui
蓑(みの)	[ju]nu	[ju]nu	minu	NR
湯(ゆ)	ju:	[ju:	ju / ju:	ju:
茶(ちゃ)	tea:	[tea: ~ [tea]:	tea	tea:
飯(めし)	mai	[ma]i	mai	mai
粥(かゆ)	kai / kaimai	[kai ~ [ka]i	[ka]ima[i	kai
餅(もち)	muttea:	[mu]t[tea:	muttea:	mutei / muttea:
雑炊(ぞうすい)	du:ei: / du:ei: mai	[du:]ei:]ma[i	zo:sui	micidzimai
味噌(みそ)	[mi]eu	[mi]eu	mieu	mieu
汁(しる)	[su]ru	[su]ru	eiru	eiru
塩(しお)	maeu	maeu	[ma]eu	maeu
塩辛い	eipugarasai ~ eiɸugarasai	harasai	[ma]suha[ra]sai	macugarasai
砂糖(さとう)	sata	sata	[sa]ta	sata
甘い(あまい)	?amasai	[nu]ru[be:sa]i	[a]masa[i / [a]masai	amasai

「～」は同一話者での発音の揺れ, 「 / 」は語形の違い, 「 // 」は話者による発音や語形の違い。

語	古里・那間・叶	茶花・立長	朝戸・城	麦屋
砂糖黍(さとうきび)	[wu]gi ~ βugi	vugi	wugi / wu:gi	φugi
粕(かす)	haei	haei	NR	NR
酒(さけ)	sai	[sa]i	[sa]i	sai
黴(かび)	ko:ɕi	ka[bi	ko:ɕi	ho:ɕi
麴(こうじ)	ho:ɕi	[ho:ɕi (酒 / 味噌に)	ko:ɕi	ho:ɕi
粒(つぶ)	[teidzi	teizi	teibu	teibu
糠(ぬか)	nuka	nuka	nuka	nuka
粉(こ・こな)	[φu]:	ku:	ku]na	ku:
大蒜(にんにく)	[pi]ru	piru	piru	piru
芽(め)	mi:	mintama	mi: / me:	guta
クワズイモ	wuigo:baca	[vuigo]:[baca	NR	φuigo:mudzi
肉(にく)	[ei]ei	iei	jiku	iei
果物(くだもの)	mi: / nai (食べられなくてもよい)	[na]i ~ [nai	NR	nai
油(あぶら)	?abura	abura	abura	abura
天ぷら	timpura ~ timpjura	tempura	tempura / temupura	timpura
灰(はい)	pai	[pa]i	pai	pai
匂い(におい)	hada	hada	hada	hada
味(あじ)	[?a]ɕi	[?a]ɕi ~ ?a[ɕi	adzi	adzi
料理(りょうり)	masamunu (ごちそう)	masamunu (ごちそう)	masamunu (おいしい料理)	masamunu
ご飯(ごはん)	mai	[ma]i	mai	mai
食事(しょくじ)	?acikui	NR	acikui	acikui
朝食(あさめし)	me:ei	[me]:ei[bi	me:ei	me:ei
昼食(ひるめし)	?aei:	[?a]ei:	aei:	aei:
夕食(ゆうめし)	juφui	ju[φui	juφui	juφui
膳(ぜん)	ɕinu	[ɕi]nu ~ ɕi[nu	ɕinu	ɕinu
食べる	koren[koron (食べよう)]/ agjun (敬語)	kore:ei (食べるのだ)	ko[re]i	koren
食べ物(たべもの)	koremunu	koremunu	koremunu	koremunu
家(いえ)	ja:	ja:	ja:	ja:
母屋(おもや)	?uija: / nakaja: (母屋の前の物置)	umuti	uija	?uija:
台所(だいどころ)	to:gura	to:gura	to:gura	to:gura
天井(てんじょう)	tendzo:	tindzo	tindzo:	tindzo:
床(ゆか)	jo:ea / juka	jo:ea	juka	jo:ea (床下) / ja:dai
棚(たな)	tana	tana	tana	tana

[は音調の上がり目,] は音調の下がり目,]] は拍内の下降, <新> <古> は語形の新旧。

語	古里・那間・叶	茶花・立長	朝戸・城	麦屋
竈(かまど)	hama	hamadu	hama	hama
いろり	ʔirori	hamadu	NR	ʔukutui
戸(と)	jadu	jadu	jadu	jadu
板(いた)	ʔita ~ ʔitea	itea	itea	ʔi[tea
節(ふし)	puei	pu:ei	p ^h uei ~ φuei	puei
穴(あな)	ʔana	ana	ana	ʔana
柱(はしら)	paja ~ paija	paija	paija	pajja ~ paija
釘(くぎ)	kugi	kugi	kugi	kugi
瓦(かわら)	ka:ra / kawara	ka:ra	ka:ra / ka:raja: (瓦葺きの家)	ka:ra
便所(べんじょ)	tataki / bendzo	puru	kʊsumai	maki
垣(かき)	daigaki / haki	haki	ieizaki (石垣)	haki
庭(にわ)	ʔamadaï	amadaï	amadaï	jamme]:
井戸(いど)	ko:	ko:	ko:	ko:
墓(はか)	paka	paka	p ^h aka	paka
煤(すす)	piguru / eiei	piguru	p ^h iguru	eiei
埃(ほこり)	pu:mu	pukkui	p ^h u:mu	pu:mu
門(もん)	mungutei	mungutei	mungutei	mongutei
縄(なわ)	teina	teina / nawa	pinui	teina
綱(つな)	teina	teina / nawa	teina	teina
鎖(くさり)	kusari	kusari	kusari	tein
袋(ふくろ)	pukuru	pukuru	p ^h ukuru	pukuru ~ φukuru
荷(に)	ni:mutei / mi:mutei	nimutej	mi:	ni:
皿(さら)	teu:dara / sara	mahai	kudara (小皿) / teu:dara (中皿) / use:batei (大皿)	sara
椀(わん)	mahai	ei:munumahai	mahai	wan / sara
茶碗(ちやわん)	teabanu ~ tea:banu	teabanu	teabanu / mai mahai (米を入れる椀) / eiru mahai (汁を入れる 椀)	tea:banu
壺(つぼ)	tukkui / teibu	tyukkui	teibu	tukkui
鉢(はち)	patei ~ hatei	patej	p ^h atej	patei
瓶(かめ)	hami	hami	hami	hami
水瓶(みずがめ)	midzigami	midzigami	mizigami	midzigami
桶(おけ)	wui ~ φui	wui	wui	φui ~ hui
水桶(みずおけ)	wui / midziφui	midziwui	wui	midziφui
鹽(たらい)	tare:	tare: ~ tarje:	tare:	tare:
ひしゃく	jibu	jibu	jibu	jibu
柄(え)	wui ~ φui	wui	wui	φui ~ hui
釜(かま)	hama	hama	p ^h agama / おかずを 炊くのは nabi	hama

「～」は同一話者での発音の揺れ, 「 / 」は語形の違い, 「 // 」は話者による発音や語形の違い。

語	古里・那間・叶	茶花・立長	朝戸・城	麦屋
しゃもじ	ibira	ibira	ibira	ʔibira
急須・鉄瓶(きゅうす)	teu:ka	teu:ka	teu:ka	teu:ka
箸(はし)	paɕi	paɕi	p ^h aeɕi	paɕi
包丁	hatana	po:tea	hatana / p ^h o:teo:	hatana
刀(かたな)	hatana	hatana	ju:ki (鉈)	hatana
小刀(こがたな)	eigu / kogatana	eigu	hatana gama	eigu
まな板(いた)	manatea	manatea	manaitea	manatea
臼(うす)	ʔuei / teikiuei	ueɕi	uei	teikiuei / ʔuei / ʔieiei (石臼)
杵(きね)	a:ɕin	a:ɕin	a:zin	a:ɕin
斧(おの)	ju:ki	ju:ki	ju:ki	juiki
鋸(のこ)	no:gi:	no:gi:	no:gi:	no:gi: ~ no:giji
鑿(のみ)	nun / nu:	nun	nun	nun
錐(きり)	ʔi:	i:	ʔi:	i: ~ ʔiji
箱(はこ)	paɸu ~ papu / hako	paɸu	p ^h aɸu	papu
筆(ふで)	pudi	pudi	p ^h udi	pudi
紙(かみ)	habi	habi	habi	habi
鋏(はさみ)	pasan	pasan	p ^h asan	pasan
印(しるし)	ʔin / eiruei	iŋkan	eiruei	eiruei
漆(うるし)	uruei	NR	uruei	ʔuruei
鏡(かがみ)	hagan	hagan	NR	hagan
櫛(くし)	sabaki	ɸuei	sabaki	sabaki
布団(ふとん)	ʔudu	udu	ʔudu	ʔudu
枕(まくら)	makkura	makkura	makkura ~ makura	makkura
箒(ほうき)	po:ki	po:ki	p ^h o:ki	po:ki
竿(さお)	so: / tei:bu: (釣り竿)	so:	bo:	so: ~ soʔo
杖(つえ)	gucanu	gucanu	gucanu	gucana
笠・傘(かさ)	hasa	hasa	hasa	hasa
針(はり)	pai	pai	p ^h ai	pai
糸(いと)	itteu:	itteu:	ʔitteu:	ʔitteu:
煙管(きせる)	kjei:	kjei:	kjei	kjei:
金(かね)(金属・銭)	hapi	hapi	hapi (金属) / ɕin (お金)	hapi
三味線(しゃみせん)	saneinu / sanein	saneinu	saneinu	saneinu
船(ふね)	puni	puni	ɸuni // p ^h uni / sabani (島の船)	puɺni
帆(ほ)	pu:	pu:	p ^h u:	pu:

[は音調の上がり目,] は音調の下がり目,]] は拍内の下降, <新> <古> は語形の新旧。

語	古里・那間・叶	茶花・立長	朝戸・城	麦屋
櫛(かい)	jaɸu	jaɸu	jaɸu	jaɸu
網(あみ)	ʔaŋ	aŋ	ʔam	aŋ
槍(やり)	u:ɟʊŋ	jai	ʔudʒʊŋ	jai
鋤(くわ)	koitei	koitej	koitei	koitei
鋤(牛にひかすすき)	wu:dai ~ ɸu:dai	wu:di:	wu:dai	ku:dai ~ ɸu:dai
鎌(かま)	hama	hama	hama	hama
ござ	jimbu:	mussu:	jimbu:	jimbu:
篋(へら)	pira	pira	pʰira	pira
箆(ざる)	soi	soi	soi	soi
籠(かご)	tiru	kagu	tiru	kagu
篩(ふるい)	jui (目が粗いもの) / jinɟama (目が細かいもの)	jundzama	jui	jui (目が粗いもの) / para (飛ばすもの) / jundzama (目が細かいもの)
俵(たわら)	to:ra	to:ra	to:ra	to:ra
筵(むしろ)	mussu:	mussu:	musu	mueeu:
薪(たきぎ)	tamunu	tamunu	tamunu	tamunu
人(ひと)	pɪteu	pɪteu	pʰɪtteu	pɪteu
親(おや)	ʔuja	uja	ʔuja	ʔuja
子(こ)	kʷa: / warabi	warabi / warabikʷa:	kʷa: / warabi (幼児)	kʷa: / warabi
長男(ちょうなん)	ʔujamuteigʷa: / eidagʷa:	ujamuteigʷa: / eidagʷa:	jaka / ɟidabi	ɟidaɸuiganukʷa: (長男 / 長女) / eidagʷa: / ɟidabi (年上)
二男(になん)	ɟinan	wakaigʷa:	ʔuttubi	NR
三男(さんなん)	sannan	wakaigʷa:	ʔuttubi	NR
四男(よんなん)	NR	wakaigʷa:	ʔuttubi	NR
長女(ちょうじょ)	ɟida / ɟidagʷa: / ɸunagunukʷa:	NR	aɲna:	ɟidaɸunagunukʷa:
二女(にじょ)	NR	NR	ʔuttubi	NR
三女(さんじょ)	NR	NR	ʔuttubi	NR
四女(よんじょ)	NR	NR	ʔuttubi	NR
末っ子(すえっこ)	ʔutugʷa: / naɟiki:	naɟikigʷa:	naɟiki:	naɟiki:
親子(おやこ)	ʔujakʷa:	ujakʷa	ujakʷa	ʔujakʷa:
孫(まご)	ʔumaga	umaga	umaga	ʔumaga
お父さん	ʔatea	atea	atea	atea
お母さん	amma:	amma:	amma:	amma:
お兄さん	jaka	jaka	jaka	jaka
お姉さん	ʔaɲna	aɲna:	aɲna:	aɲna: / aɲɲka <古>

「～」は同一話者での発音の揺れ, 「 / 」は語形の違い, 「 // 」は話者による発音や語形の違い。

語	古里・那間・叶	茶花・立長	朝戸・城	麦屋
弟(おとうと)	ʔuttubi / wuigaʔuttubi	uttubi	ʔuttubi / wuçi:bi:	ʔuttubi
妹(いもうと)	ʔuttubi / wunaguʔuttubi / unai	wunaguʔuttubi	ʔuttubi / wunai	ʔuttubi
兄弟(きょうだい)	kjo:dai / wunagukjo:dai (女兄 弟) / uttudzabura	teu:de:	kjo:dai	ʔutudzabura
お祖父さん	ʔuɸu	upu	uɸu	ʔupu ~ ʔuɸu
お祖母さん	pa:pa: ~ ɸa:ɸa:	pa:pa: ~ ɸa:ɸa:	p ^h a:pa: ~ ɸa:ɸa	pa:pa:
夫(おっと)	wutu	wutu	wutu	ɸutu
妻(つま)	tudzi	tudzi	t ^h udzi	tudzi / ʔapja:
夫婦(ふうふ)	atea'apja: ~ atea'aça:	ateaça: ~ ateapja:	ateapja:	ʔatea'apja: / tudziɸutu
叔父(おじ)	wudza ~ ɸudza	wudza (伯父) / wudzaŋka: (叔父)	wudza (伯父) / wuzan̄ka (叔父)	ɸudza
叔母(おば)	wuba ~ ɸuba	wuba	wuba (伯母) / wuban̄ka (叔母)	ɸuba
甥(おい)	mi:kk ^w a: / wuigami:k ^w a:	mi:k ^w a:	mi:k ^w a	mi:k ^w a:
姪(めい)	mi:kk ^w a: / wunagumi:k ^w a:	mi:k ^w a:	mi:k ^w a	mi:k ^w a:
従兄弟(いとこ)	ʔitoko / iteu:	iteu:	itoko	ʔiteu: / ʔutudzabura
婿(むこ)	mu:k ^w a:	mu:k ^w a:	mu:k ^w a:	mu:k ^w a:
家族(かぞく)	kine: / ja:nukine: ~ ja:nukipi:	ja:kine:	kine:	kine: / ja:kine:
親戚(しんせき)	paradzi	paradzi	p ^h aradzi	paradzi
男(おとこ)	wuiga ~ ɸuiga	wuiga	wuiga	ɸuiga
女(おんな)	wunagu ~ ɸunagu	wunagu	wunagu	hunagu ~ ɸunagu
目上(めうえ)	jaka	jaka	jaka	jaka
目下(めした)	uttubi	uttubi	NR	ʔuttubi
青年(せいねん)	jice: / wakamunu	jise: ~ jice:	jice:	jice:
大工(だいく)	he:ku ~ çe:ku	he:ku	he:ku	çe:ku / çe:ku:
友だち	ʔagu	agu / duei	agu	ʔagu / duei <古> / ducintea: <古>
娘(むすめ)	me:rabi	me:rabi	me:rabi	me:rabi
私(わたし)	wanu / du: (「自分」 のこと)[du:ja nun naraneiga (自分は何 もできないが)]	wanu	wanu	wanu / wanuteui (私 一人)
私たち(除外的・ 包括的)	wa:tea (包括・排除の 両方に使う)	wa:tea (包括・排除 の両方に使う)	wa:tea (包括) / wa:teo: (排除)	wa:tea (包括・排除 の両方に使う) / wattai (私たち二 人) / wa:miteai (私たち三人)
あなた	ʔure:	ure:ganaci	ure:	ʔure:
あなたたち	ʔure:ta:	ure:ta: ~ urje:ta:	ure:ta:	ʔure:ta ~ ʔure:ta: / ʔure:tatu:ru (あなた たち二人)

[は音調の上がり目,] は音調の下がり目,]] は拍内の下降, <新> <古> は語形の新旧。

語	古里・那間・叶	茶花・立長	朝戸・城	麦屋
お前(おまえ)	ʔura	ura	ura	ʔura
お前たち	ʔuratea	uratea	uratea	ʔuratea / urattai (お前たち二人)
皆(みな)	mu:ru	mu:ru	mu:ru	mu:ru (全て)
名(な)	na:	na:	na:	na:
老人(ろうじん)	tʏsui	tʏsui	tusui	tueui
お祝い(おいわい)	joi ~ jo:i	joi	joi	joi
結婚(けっこん)	wutumuttei ~ wutumuttei	wutumutei	t ^h udzitarumi	mi:biki
結納(ゆいのう)	tudzitarumi	ʝi:bitei	kuteidarumi	kuteimusubi
喧嘩(けんか)	ʔikkoi ~ ʔekkoi	ikkoi	hekkoi	ekkoi
農作業などの相互扶助	juitaba: / ʝueigutu / t ^h arʝeigutu (農作業)	juitaba:	jui	jui
相撲(すもう)	eima	eima	eɨma	eima
一つ(ひとつ)	ti:ttei	ti:teɨ	ti:teɨ	ti:tei
二つ(ふたつ)	ta:tei	ta:teɨ	ta:teɨ	ta:tei
三つ(みっつ)	mi:tei	mi:teɨ	mi:teɨ	mi:tei
四つ(よっつ)	ju:tei	ju:teɨ	ju:teɨ	ju:tei
五つ(いつつ)	ʔiteitei	iteɨteɨ	iteɨteɨ	ʔiteitei
六つ(むっつ)	mu:tei	mu:teɨ	mu:teɨ	mu:tei
七つ(ななつ)	nanatei	nanateɨ	nanateɨ	nanatei
八つ(やっつ)	ja:tei	ja:teɨ	ja:teɨ	ja:tei
九つ(ここのつ)	ku:nutei	ku:nuteɨ	ku:nuteɨ	ku:nutei
十(とお)	tu:	tu:	tu:	tu:
一人(ひとり)	teui	teui	teui	teui
二人(ふたり)	tai	tai	tai	tai
三人(さんにん)	miteai	mitteai	miteai	mitteai
四人(よにん)	juttai	juttai	juttai	juttai
五人(ごにん)	gunin	gunin	gunin	gunin
六人(ろくにん)	rukunin	rukunin	rukunin	rukunin
七人(しちにん)	eiteɨnin	eiteɨnin	eiteɨnin	nananin
八人(はちにん)	pateɨnin	pateɨnin ~ φateɨnin	p ^h ateɨnin	pateɨnin
九人(くにん)	kju:nin / kunin	kunin	kju:nin	kju:nin
十人(じゅうにん)	dzu:nin	dzu:nin	dzu:nin	dzu:nin
いくら	ʔiteasa	itteaga	ikku:tei	ʔiteasa
いつ	ʔitei	iteiga	ʔitei	ʔittei ~ itei
だれ	taru / ta:	taru	taru	taru
どこ	ʔida	ida	ʔida	ʔida
どれ	nu: / ʔiduru	iduru	ʔiduru	ʔiduru

「～」は同一話者での発音の揺れ, 「 / 」は語形の違い, 「 // 」は話者による発音や語形の違い。

語	古里・那間・叶	茶花・立長	朝戸・城	麦屋
なぜ	nu:nati	nu:ganta:	nu:nati	nu:nati
なに	nu:	nu:	nu:	nu ~ nu:
いくつ	?itecasaga (ものの数を たずねるとき) / ?ikku:tei (年齢をたず ねるとき)	ikku:tei	iteasa / ikku:tei	?itecasa
これ	φuri	φuri	φuri	φuri
それ	?uri	uri	uri	?uri
あれ	?ari	ari	ari	?ari
ここ	φuma	φuma	φuma	φuma
そこ	?uma	φuma	uma	?uma
あそこ	?ama	[?ama	[ama	ama
物(もの)	munu	[mu]nu	munu	ɛinamunu / munu
色(いろ)	?iru	NR	iru	iru
音(おと)	?utu	[?u]tu	utu	utu
夢(ゆめ)	?imi	[?i]mi	jumi	imi
仕事(しごと)	ɛigutu	ɛigutu	[ɛi]gutu	ɛigutu
鬼(おに)	?ɸni	?u]ni	[u]ni	ɸni
心(こころ)	kukuru / kimu / kimugukuru	ki]mu / k ^h ukuru	[kuku]ru	kimu
情け(なさけ)	nasaki	nasaki	nasa[ki	kimukukuru
言葉(ことば)	φutuba	φutuba	kutuba	φutuba
歌(うた)	[?u]ta	[?u]ta	uta	uta
踊り(おどり)	wudui ~ βudui	vu[du]i	wu[du]i	φu:dui
鼓(つづみ)	teidzin (「太鼓」は gu]N)	[gu]N (太鼓)	NR	NR
宝(たから)	takaramunu[?attara munu (大切なも の)]	takaramunu	takara	takaramunu
型(かた)	hata	NR	kata	NR
形(かたち)	hatatei	katatei	katatei	katatei
休息(きゅうそく)	juφui	juφui	juφui / (「休もう」は juφu:ti / juφan と 言う)	jasumi
魂(たましい)	ma:bui	ma:bui	tamaei: / mabujuei (魂を寄せること)	tamaei: / ma:bui
刺青(いれずみ)	pandziki (昔の女性の 手にあったもの)	pandziki	NR	iredzumi
真似(まね)	[ne]:[bi	[ne]:bi	me:bi	me:bi
嘘(うそ)	juku	[ju]ku	juku	jukujei
小さい	?insai	?insai	insai	insai
大きい	?upieai ~ ?uφieai	?upueai	uφieai ~ upieai ~ upueai	upusai

[は音調の上がり目,] は音調の下がり目,]] は拍内の下降, <新> <古> は語形の新旧。

語	古里・那間・叶	茶花・立長	朝戸・城	麦屋
低い	pik _u sai	pik _u sai	pikusai	pikusai
同じ	manne:（「同じ長さ」 のことを mannagi と 言う）	[ma]n[ne:	NR	junumunu
短い	?int _u asai	?int _u asai	int _u asai	int _u asai
丸い	[ma]ru[sai]i	marusai	marusai	marusai
暖かい	nuk _u sai	nuk _u sai	nukusai	nukusai
寒い	pi:sai	[pi:sai]i	pi:sai	pi:sai
冷たい	pid _u rusai	pid _u rusai	[pid _u ru]sai	pid _u rusai

「～」は同一話者での発音の揺れ,「 / 」は語形の違い,「 // 」は話者による発音や語形の違い。

与論方言 基礎語彙集（かな）

語	古里・那間・叶	茶花・立長	朝戸・城	麦屋
頭(あたま)	ふらぢ / ちぶる (「ふらぢ」の方を多く使う)	ち[ぶ]る	ふらぢ(総称) / か まち / ちぶる (品位 が下がる。人以外に も使う)	ふらぢ
髪の毛(かみのけ)	ふらぢぬ ひー	[び]ぎ	ふらぢぬ ひー	ふらぢぬ しー
旋毛(つむじ)	ちじ	NR	まき / たーちまき (2 つつむじがあること)	ちぢ / ちぢまき
雲脂(ふけ)	いーき	ふ[け]	へーき	へーき
白髪(しらが)	さーぎ	[さ]ーぎ	さーぎ	しゃーぎ
目(め)	みんなたま [みんなたま やでい 目を痛めた) / みんなたまぬ ゆた しゃい (目が良い)]	[みんな]ま / [みー	みんなたま (目玉では なく目を指している)	みんなたま
眉(まゆ)	みーぶし	[まゆ]	みーよー<古>/ みー ぶし<新>	みーぶし
額(ひたい)	びっちえー ~ びっ ちえい ~ びっちや い	び[っちえー	びっちえー<朝戸>/ びっけー<城>	びっちえー
鼻(はな)	ばな	[ば]な	ばな	ばな
鼻血(はなぢ)	ばなぢ	[ばな]ぢー	ばなぢー	ばなぢー
耳(みみ)	みん	[み]ん	みん	みん
口(くち)	くち	く[ち]	くち	くち
唇(くちびる)	しば	く[ちびる]	しば	しば
舌(した)	しちや	し[ちや]	しちや	しちや
歯(は)	ばー	[ば]ー	ばー	ばー
歯茎(はぐき)	ばーぐき	[ばー]ぐき	ばーぢし / ばーぐき	ばぎた
口蓋(あご)	うとうがい / かーぢ (あご全体)	[へうとう]がい<誘>	へうとうがい	へうとうがい / かー ぢ(えら)
髭(ひげ)	びぎ	[び]ぎ	びぎ (植物のヒゲに もいう)	びぎ
毛(け)	ひー [びぎぶた (毛 が濃い人のこと)]	[ひ]ー	びぎ	しー
面(かお)	ちら	ち[ら ~ ち[ら]	ちら	みーばな / ちら (やや卑下した言い 方)
首(くび)	くび / うっすーくび (後ろの首)	[くび / ぬどうい (喉)]	くび	くび
肩(かた)	はた [はた ふさがて い (肩が凝った)]	[は]た	はた	はた
胸(むね)	んにぐち	[む]ね<新>	にぐち	にぐち
乳(ちち)	ちー~ちー	[ち]ー (人のも牛の も)	ちー	ちー

「[は音調の上がり目,] は音調の下がり目,]] は拍内の下降, <新> <古> は語形の新旧。

語	古里・那間・叶	茶花・立長	朝戸・城	麦屋
腹(はら)	わた[わた いんち (おなかがいっぱい) わた やでい (おなか が痛い)]	[わ]た	わた	わた
背中(せなか)	ふしな一	[しえなな / [ふ]し。 (「腰」か。背中の下 半分を言う)	ふしな一	ふしんにや一
肝(きも)	きむ	[き]む	きむ / きむふく (心 臓を含めた内臓全 体)	きむ
臍(へそ)	ふす	ふ[す	ふす	ふす
腰(こし)	ふし	[ふ]し	ふし	ふし
尻(しり)	まい [まい がるさん (すぐ立って働く人の こと) / まい うむさん (動きが鈍い人のこ と)]	[ま]い	まい	まい
肛門(こうもん)	ごーまい / まんたま / まいぬみー	[ごーまい	ごーまい	まいぬ みー
手(て)	ていー	[てい]ー (腕の付け 根から指先まで)	ていー	ていー (手首から 先・肩から指先ま で)
腕(うで)	へーにや～へな	NR	へーにや	けーにや / へうでい (二の腕)
肘(ひじ)	ぴぢ	[ひ]ぢ<新>	ぴぢ	ぴぢ
力(ちから)	きや一	[てや一	てや一	てや一
拳(こぶし)	ていじくん	[げんこつ	ちぢくん<城> / てい ぢくん<朝戸>	NR
筋(すじ)	しじ	[すぢ	しぢ	しぢ
指(ゆび)	ういび / うふいーび (親指) / ぴちゅさ しういび (人差し指) / なーゆーび (中 指)。「薬指」「小 指」は共通語と同じ。	へうゆび	へういび	へういび
爪(つめ)	ちみ	[ち]み	ちみ	ちみ
足(あし)	ぱぎ (全体。また、つ け根から下をさす) [ぱぎべーさぬ (足が速い)]	[ぱぎ	ぱぎ	ぱぎ
腿(もも)	むむ	[む]む	むむ	むむ
股(また)	またばし	[また	また	また
膝(ひざ)	ちんし	ひ[ざ	ちんし	ちんし
踝(くるぶし)	たなぶし	[くるぶし ～ [くる] ぶし/[ぐふ (手首 や足の出っ張った 部分)	たなぶし	たなぐし

「～」は同一話者での発音の揺れ, 「 / 」は語形の違い, 「 // 」は話者による発音や語形の違い。

語	古里・那間・叶	茶花・立長	朝戸・城	麦屋
脛(すね)	しに	す[ね<新>	しに	しに
ふくらはぎ	しにんたり	ふくらはぎ<新>	しにぬ たり	しにぬ たい
踵(かかと)	あどう	[かかと<新>	^あどう	^あどう / ^あとうしち
体(からだ)	どうー (「自分」のこと も どうと言う)	[からだ<新>/ [どうー<誘>	どうー	どうー
背丈(せたけ)	たき[たき ぬ たーさん (背が高い)]	[しえ]たけ	たき	たき
骨(ほね)	ふに	[ふに	ふに	ふに
皮(かわ)	ほー	[ぱ]だ	ほー	ほー
ほくろ	あだ (「あざ」もあだ)	[ほくろ<新>/ [あだ ～ [あ]ど	^あだ	^あだ
涙(なみだ)	みなだ / みーなだ / なだ [わな なだ やーさん (私は涙弱 い=涙もろい)]	[みーな]だ	なだ	なだ
声(こえ)	ふい	[ふ]い	ふい	ふい
息(いき)	いき	[いき ～ [い]き	^いき	^いき
咳(せき)	さふい	[さふ]い	さふい	NR
唾(つば)	ちじ	[ちぢ	ちぢ	ちゅぢゅ
欠伸(あくび)	あくび	[あくび	^あくび (「しゃっく り」は「さくらび」)	^あくび
涎(よだれ)	ゆーだい	[ゆ]だり ～ [ゆー] だり / [ゆなだい	ゆーだい	ゆーだい
屁(へ)	ピー	[ピ]ー	ピー	ピー
糞(くそ)	くす	く[す	くす	くす
尿(にょう)	しーばい	[しーばり	しーばい	しーばい
おでき	にぶとう	[にぶとう<誘>/ [ち ぬ / ^お[でき とも	にぶとう (「汗疹」は ^あしぶ)	にぶとう
たんこぶ	ぐふ、～ ぐふ、 (ど ちらかと言うと自然に できたもの。打たれて できたものにはあまり 言わない) [ぐふ ぬ いち(こぶができた) た]	[こぶ<誘, 新>/ き ず / [ぐふ、<誘>	がぶ	ぐふ
汗(あせ)	あし、～ あしゅ	[あし	^あし	^あし
垢(あか)	ごーら	あ[か<新>/ ゆ[ぶ] り (汚れにも)	ごーら	ごーら
怪我(けが)	げーぎ	[けが<新>	きが	どうー げーぎ
病気(びょうき)	やんめー	[やんめ]ー / (「病 んで」は「やでい」と 言う)	やんめー	やんめー
血(ち)	ちー	[ちー	ちー	ちー

「[は音調の上がり目,] は音調の下がり目,]] は拍内の下降, <新> <古> は語形の新旧。

語	古里・那間・叶	茶花・立長	朝戸・城	麦屋
傷(きず)	きじ	[きず]	きぢ	きぢ
薬(くすり)	くすい	く[す]い	くすい	くすい
灸(きゅう)	やっちゅー	[やっ]ちよー	やっちよー	やっちよー
命(いのち)	ぬち	[ぬ]ち	へいぬち	ぬち
木(き)	ひー	[ひー]	ひー	しー
葉(は)	ぱー	[ひー]ぬ[ぱ]ー / [ぱ]ー	ぱー	ぱー
枝(えだ)	ゆだ	[ゆ]だ	ゆだ	ゆだ
梢(こずえ)	ゆだ ぬ さき	[ひーぬさき<新>/すら	NR	NR
実(み)	ない	[な]い	みー	ない
根(ね)	にぐい	[ねー<新>	びぎ	にー / にぐい (根っこ)
草(くさ)	くさ	く[さ]	くさ	くさ
花(はな)	ばな	[ば]な	ばな	ばな
種(たね)	たに	[た]に	たに	たに
苗(なえ)	なえ / ねー (稲の苗)	[な]い	ねー	ねー
稲(いね)	まい	[まい]	まい	まい
穂(ほ)	ぷ	[ぷ]ー	ぷー	ぷー
米(こめ)	ふみ	[ふ]み	ふみ	ふみ
粳(もみ)	むん	[む]ん	むん	むみ
麦(むぎ)	むぎ	[む]ぎ	むぎ	むぎ
藁(わら)	わら	わ[ら ~ [わら (ふつつ稲わらのこと)	わら	わら
麦わら	むんぢやら	む[ぎ]わら	むんぢやら	NR
茅(かや)	ぎゃー	[か]や (屋根葺き用のすすき)	ぎしき	ぎゃー
粟(あわ)	^おー	[あわ]	^おー	^お
稗(ひえ)	NR	ひ[え<新>	とーぎ	NR
芋(いも)	^うん / むじ (水芋)	[^う]ん (総称ではない)	^うん	^うん
さつまいも	^うん	[^う]ん	^うん	^うん
豆(まめ)	まみ	[ま]み	まみ	まみ
胡瓜(きゅうり)	^うい	[きゅーい]	^うい	きゅーり
蓬(よもぎ)	ぷち	ぶ[ち]	ぷち	ぷち
菜(な)	なー	[なー (大根の葉)]	なーぬぱー	なー
大根(だいこん)	でーくに	[でーく]に	でーくに	でーきに
冬瓜(とうがん)	しぶい	[すぶ]い	しぶい	しぶい
南瓜(かぼちゃ)	なるかん	[なるか]ん	なるかん	なるかん
瓜(うり)	^うい	[^う]り	^うい	^うい / どうつくい

「～」は同一話者での発音の揺れ, 「 / 」は語形の違い, 「 // 」は話者による発音や語形の違い。

語	古里・那間・叶	茶花・立長	朝戸・城	麦屋
韭(にら)	びゃー / にびる (野蒜)	[びゃ]ー	びゃー / にびる (野蒜) / びる (ニンニク)	[びゃ]ー
茸(きのこ)	みんぐい	[きの]こ<新>	NR	なば ~ なば
きくらげ	みんぐい	[みんぐ]い	みんぐい	みんぐい
とうがらし	あーぐしゅ	[^あー]ぐしゅ。(怒りっぽい人・乱暴者も「[^あー]ぐしゅ。」と言う)	^あーぐしゅ	^あーぐしゅ
苦瓜(にがうり)	にが^うり	[ご]ーや<新、最近移入された>	ごー^うい / にんぢょー^うい / ごーやー<新>	にぢゃ^うい
胡麻(ごま)	ぐま	[ご]ま<新>	ぐま	NR
苺(いちご)	いちゅび	[いちゅん]び	いちゅぶい / いちゅんび	^いちゅぶ
蘇鉄(そてつ)	しとうち	し[ちち	しとうち	しちち
松(まつ)	まちぎ	[まちぎ ~ [ま]ちぎ]	まちぎ	まちぎ
竹(たけ)	だい	[だ]い	だい	だい
梅(うめ)	うめ (標準語)	う[め<新>	^うめ	NR
桃(もも)	むむ	[む]む	むむ	むむ
桑(くわ)	くわーぎ	[くわ]ーぎ	くわーぎ	くわーぎ
薄(すすき)	ぎしき	[ぎし]き	ぎしき	ぎしき
くば(びろう樹)	ふば	[ふ]ば	くば	ふば
蜜柑(みかん)	くにぶ	く[にぶ ~ ふにぶ]	くにぶ	くにぶ
茎(くき)	くき	く[き	くき	NR
あおさ	^あーさ	[^あー]さ	^あーさ	^あーさ
もずく	しぬい	し[ぬい	しぬい	しぬい
藻(も)	もー	[もー	もー / なちわら (カイジン草)	NR
糸瓜(へちま)	なぶりやー	[なぶれー	なぶりやー	NR
こずえ・砂糖黍の先端	すら	[うぎぬさ]き (「うぎ」は「砂糖黍」のこと) / [すら (こずえ一般) / ちち	ふー	すら
福木(ふくぎ)	ふくぎ	ふ[く]ぎ	ふくぎ	ふくぎ
烏賊(いか)	いちゃ	[^い]ちゃ	^いちゃ	^いちゃ
蛸(たこ)	たふ	[た]ふ	たふ	たふ
海老(えび)	^いび	[^い]び ~ [^い]び	^いび	^いび
雲丹(うに)	うんばーむい	[は]ちち / [うんばーむ]い (黒いウニ)	うに / はちち (身が白いウニ) / うんばーむい (身が黒いウニ)	はちち
雲丹の身	(うんばーむい ぬ) みー	[は]ちちぬ[みー	はちちぬ みー	はちち ぬ みー

「[は音調の上がり目,] は音調の下がり目,]] は拍内の下降, <新> <古> は語形の新旧。

語	古里・那間・叶	茶花・立長	朝戸・城	麦屋
貝(かい)	かい (主に二枚貝。 「サザエ」は「はたい にや」)	[かい]	かい	かい
亀(かめ)	はみ	[は]み	はみ	はみ
蟹(かに)	がん	[が]ん	がん	がん
蛭 (にな, まきが い)	ににや (小さな巻貝)	[まが]い	いいな	ひにや
魚(さかな)	へゆ	[へゆ]ー	へゆー	へゆー
鱗(うろこ)	いーき	[へいー]き	へいーき	へいーき
鰻(うなぎ)	うなぎ	[へう]なぎ	へうなぎ	へうなぎ
鯨(くじら)	ぐーちゃー	[ぐー]ちゃー	ぐーちゃー	ぐーちゃー
鰹(かつお)	かつお	[かつお<新>	かつお	かつー
飛魚(とびうお)	とびへいゆ ~ とび いゆ	[とびへいゆ]ー	とびへゆー	とびゆー
いるか	ぴとう	へい[るか / び[とう< 誘>	ぴとう	ぴとう
なまこ	しっきー	しっ[き]ー	しっきー	しっきー
ひとで	やちまた	[ひと]で	NR	やちまた
やどかり	あまん	[あ]まん	へあまん	へあーまん
牛(うし)	いえーなん	[えー]なん ~ いえ えー]なん<古> / [へ うし	へうし / へえーなん (生産牛) / へうぐっ うい (雄牛)	へうし / えーなん (牛全体のこと)
馬(うま)	へうま	[う]ま	へうま	へうま
山羊(やぎ)	うーやぎ	[うー]やぎ / [みー や]ぎ (雌山羊)	やぎ	やぎ
豚(ぶた)	わんか	[わん]か	へわー / へ わんか	へわー (大型の豚) へ わんか (中型の 豚)
角(つの)	ちぬ	[ち]ぬ	ちぬ	ちぬ
犬(いぬ)	いぬ	[い]ぬ	へいぬ	へいぬ
猫(ねこ)	みゃんか	[みゃん]か	みゃんか	みゃんか
兎(うさぎ)	うさぎ	[う]さぎ	へうさぎ	へうさぎ
鼠(ねずみ)	ゆむぬ	[ゆ]むぬ	ゆむぬ	ゆむぬ
動物(どうぶつ)	[へい]き[む]ぬ	へいきむし	[へい]きむ] し	いきむぬ
虫(むし)	むし	[む]し	むし	むし
蟻(あり)	あんく	[あ]んく	へあんく	へあんく
蚊(か)	がちゃん	[が]ちゃん	がちゃん	がーちゃん
蜘蛛(くも)	くぶ	NR	ふぶ	ふぶ
蜘蛛の巣	くぶがし	[ふぶ]がし	ふぶがし	ふぶがし
蝶々(ちょうちょ)	ぱびる (蝶々・蛾)	[ちょー]ちょー / [ぱ びる は「蛾」のこと	ぱびる (蝶にも蛾に も使う)	ぱびる (蝶々 / 蛾)

「～」は同一話者での発音の揺れ, 「 / 」は語形の違い, 「 // 」は話者による発音や語形の違い。

語	古里・那間・叶	茶花・立長	朝戸・城	麦屋
蝸牛(かたつむり)	ちんにゃん	[ちんな]ん	ちんなん	ちんにゃん
蛙(かえる)	あたびく	[あた]びく	^あたびく	^あたびく
蜂(はち)	ぱち	[ぱ]ち、～ [ぶふあ]ち	ぱち	ぱち
蠅(はえ)	おーばい	[^おーば]い / む [しゃんか (コバエ)]	^おーばい	^おーばい
蛆(うじ)	うち	[^う]ち	^うち	^うち
蚤(のみ)	ぬんとう	[ぬん]とう	ぬん / ぬんとう	ぬんとう
蚯蚓(みみず)	みーみぢ	[みー]みぢ	みーみぢ	みーみぢ
虱(しらみ)	さん	[さん]	さん	しゃん ～ さん
百足(むかで)	むかでい	[む]かでい	むかでい	むかでい
蚕(かいこ)	むしぢや	[むしぢや ～ むしぢや]	むしぢや	むしぢや
かまきり	やまはが	[かまきり<新> / [いしゃとう ～ [いしやさ <誘> (海の妖怪)]	かまきり	やまはが
蜻蛉(とんぼ)	べーるー / まーむち (大きいトンボ)	[べー]る	べーるー	べーる
ばった	がーたー	[がー]た	がーた	がーた
鳥(とり)	[とう]い	[とう]い	[とう]い	とうい
鶏(にわとり)	うどうい (おんどり) / みーどうい (めんどり)	[とう]い	[うどう]い (おんどり) / [みー]どうい (めんどり)	とうい
とさか	はがん	は[がん]	[はが]ん	はがん
雀(すずめ)	[ゆ]む[どう]い	ゆ[むどう]い	[ゆ]む[どう]い	ゆむどうい
鳩(はと)	[ば]とう	ば[とう]	[ば]とう	ばとう
烏(からす)	NR	がらし	[か]らす	からす
鶉(うずら)	^うちら	^うちら	[う]ぢ[ら]	うじら
鷹(たか)	[た]ー	た[ー ～ [た]ー (さしば)]	[た]ー	たか
卵(たまご)	[ふ]が	ふ[が]	[ふ]が	たまぐ / ふが
巣(す)	[し]ー	[し]ー	[し]ー	しー
羽(はね)	[ば]に	[ば]に	[ば]に	ばに
空(そら)	[てい]ん[と]ー	ていんとー	[てい]んと]ー	ていんとー
日(ひ)	[び]ー	[び]ー	[び]ー / [ひ]ー	NR
太陽(たいよう)	ていだ	ていだ	[てい]だ	ていだ
光(ひかり)	あーがい	[び.っちゃ]い	[びっちゃ]い	NR
蔭(かげ)	はぎ	[はぎ]	[は]ぎ	はぎ
まぶしい	みー ぴ.っちゃらさい	みー ぴ.っちゃらさい	[み]ーびちゃら]さい	みー ふいつちゃらさぬ
火(ひ)	まち	ま[ち]	[ま]ち ～ [ま]つい	まち

「[は音調の上がり目,] は音調の下がり目,]] は拍内の下降, <新> <古> は語形の新旧。

語	古里・那間・叶	茶花・立長	朝戸・城	麦屋
水(みず)	みぢ	[み]ぢ	[み]ぢ	みぢ
山(やま)	[や]ま	[やま	やま	やま
川(かわ)	こー (井戸) / あな ごー (雨水をためる 穴) / いぢゅんご ー (地下水まで掘っ た井戸)	NR	かわ	かわ
橋(はし)	ぱし	[ぱ]し	[ぱ]し	ぱし
丘(おか)	ぱんた (大きい) / む い (小さい)	むい	[ぱ]んた (台地)	やまがま
陸地(りくち)	NR	[ぢー	りくち	しま
土・地面(つち・じ めん)	ぢー (地面) / [どう]る (土) / ぶったら (柔ら かい粘土状)	[どう]る	[ぢー / [どう]る (泥) [どう]るあ]し[び (泥遊 び)]	どうる
星(ほし)	ぶし	ぶし	ぶ[し	ぶし
月(つき)	ちつきゅー	ちつきゅー	ち[つきゅー	ちつきゅー
雲(くも)	[く]む	[く]む	[く]む	くむ
霧(きり)	[き]ー	[きー	[き]ー	NR
露(つゆ)	[ちゅー	[ちゅー	[つ]ゆ	ちゅー (露は降りな い)
雨(あめ)	^あみ	^あみ	[あ]み	あみ
風(かぜ)	はでい	はでい	[は]でい	はでい
竜巻(たつまき)	[^い]ー[の	[^い]ー[ぬー	[た]ちまき	たつまき
稲光(いなびかり)	びっちやい ぶどうい	びっちやいぶどうい ～ びっちやいふど うい	[びっちやいふどう]い /[びっちやいぶどう] い	いなびっちやい
地震(じしん)	ねー[ねー ゆてい (地震で揺れた)]	[ねー	[に]ーぬ [ゆ]てい	ぢしん
虹(にじ)	[ごーぬ]ぢ	ごー[ぬ]ぢ	にぢ	にぢ
明かり	あーがい	^あーがい	[びっちや]い	あーがい
雷(かみなり)	[は]ん[にや]い	はんにやい	[かみ]ない / [か]み ない	かみなり
潮(しお)	[^う]しゅ	[しゅー ～ [しゅ] ー	[しゅ]ー	しゅー
煙(けむり)	[し]ん[ぶ]し	しんぶし	[し]んぶし / [し]むぶ し	しんぶし
浅瀬(あさせ)	まちく / ぴしばな (リーフ)	まちく (内海の) / ぴしばな (外海の)	[あ]さし / あさ[し	ぴしばな
遠浅(とおあさ)	NR	NR	[とう]ーし	NR
洞窟(どうくつ)	^よー	^よー	NR	よー / あぶ
海(うみ)	[^う]ん (「芋」は [^ うん)	[^うん～[^う]ん	[う]ん	うん

「～」は同一話者での発音の揺れ, 「 / 」は語形の違い, 「 // 」は話者による発音や語形の違い。

語	古里・那間・叶	茶花・立長	朝戸・城	麦屋
水溜り(みずたまり)	[^{へい}]き (池) / ふむい (水溜り) / おーぐむい (少し大きい潮溜まり) / わり (大きい潮溜まり)	[ち]ぶ (海の水溜り) / [^{へい}]き (池)	[い]き (池)	みじたま
港(みなと)	みなと <新>	さんばし	[み]な[とう]	みなと / ふなつきば
波(なみ)	なん (一般) / なーぐい (荒くなった波)	なーぐい	な[み]	なん
泡(あわ)	[^{へお}]ーちぶ / ぶんぶる (湧いてくるもの)	[^{へお}]ーちぶ	あわ	NR
島(しま)	[し]ま	[し]ま	[し]ま	しま
浜(はま)	ばま	[ば]ま ~ [ばま]	[ば]ま	ばま
珊瑚礁(さんごしょう)	シー / ぴし (「珊瑚」は ^へ うる)	^へ うる	[う]る	うる
砂(すな)	しな~しーな	しな	[し]な	しにゃ
石(いし)	[^{へい}]し (「岩」は はんばら)	[^{へい}]し	[い]し / [い]し	いし
溝(みぞ)	いいんぢゅ ~ ゆんぢゅ	いいんぢゅ	[ゆ]んぢゅ	みじばい
田(た)	たー	[たー ~ [た]ー]	[た]ー	たー
畦道(あぜみち)	^へ あぶし	あぶしみち (「畦」を あぶしと言う)	あ[ぶ]し	あぶし / あぜみち
畑(はたけ)	[ば]ったい	[ば]ったい	[ば]ったい	ばったい
野(の)	NR	NR	の	やまばったい
道(みち)	みちんなー ~ みちなー	み[ちんな]ー	[み]ち / [み]ちなー	みち
崖(がけ)	NR	[ば]んた	がき	しぢり
坂(さか)	さか <新?>	[ば]んた	[ば]んた	ぬぶいぐち
頂上(ちょうじょう)	[ち]ぢ(頭のてっぺんも意味する)	ちじ	NR	てっぺん うい
東(ひがし)	あがりー	あがりー	[あ]がりー / [あ]がり	あがりんがた
東風	あがりー はでい	あがりーはでい	NR	あがりはでい
北(きた)	みし	みし	[に]し	みしんがた
北風	みし (ぬ) はでい	みしはでい	NR	みしんがたはでい / ぴーさはでい
西(にし)	^{へい} ー	[^{へい}]ー	[い]ー	ゆんがた
西風	^{へい} ーはでい	^{へい} ーはでい ~ ^{へい} ーぬはでい	NR	ゆんがたはでい
南(みなみ)	[ぺ]ー	[ぺー ~ ペ]ー	[ぺ]ー	ぺー / ぺーんがた
南風	ぺー (ぬ) はでい	ぺーぬはでい	[ぺ]ーぬ は[でい]	ぺーはでい

「[は音調の上がり目,] は音調の下がり目,]] は拍内の下降, <新> <古> は語形の新旧。

語	古里・那間・叶	茶花・立長	朝戸・城	麦屋
右(みぎ)	みぎー	[み]ぎ	[みぎ	みぎ
左(ひだり)	ぴちやい	ぴちやい	[ぴじや]い	ぴちやい
前(まえ)	[めー	[めー ～ [め]ー	[め]ー	めー
後ろ(うしろ)	[うっすー	うっすー	[うっすー	うっすー
跡(あと)	^あと (「足跡」はく)ん	NR	あと	あと
横(よこ)	[ゆ]く	NR	ゆく	よこ
上(うえ)	^うい	[^う]い	うい	うい
下(した)	しちや	しちや	しちや	しちや
中(なか)	[なー / まんなー	[なー ～ [な]ー	[な]ー	なー
底(そこ)	しき (鍋の底) / すく (海や土地の底)	しき	すく	しき
内(うち)	[なー / ^うち	[なー (中)	[な]ー	うち
外(そと)	[ぱー	[ぱー ～ [ぱ]ー	[ぱ]ー	ぱー
奥(おく)	[^う]く	[なー (中)	^うく	なー
角(かど)	[は]どう	は[どう ～ [は]どう	かどう	はどう
傍(そば)	ぱ[た	[ぱ]た / はたばら	ぱた (傍)	ぱた
今日(きょう)	[しゅー	[しゅー	きゅー	しゅー
昨日(きのう)	きのー	き[の]ー ～ き[の]ー	きのー	きんのー
一昨日(おととい)	ううっとうい	ううっとうい	うとうとい / うっとうい	うっとうい
明日(あした)	あっちやー	あっ[ちや]ー	あっちやー	あっちやー
明後日(あさって)	^あさてい	あ[さてい	あさってい	あさてい
明後日(しあさって)	ゆふあ / きやーりあふあ	[きやー]り[ふあ	[し]あ[さってい	NR
今年(ことし)	ふとうし / ふたび (「今度」の意)	ふとうし	くとう[し	ふたび / ふとうし
去年(きよねん)	ふどう	[ふ]どう	きよねん	うどう
一昨年(おとし)	いいーんちゅなてい	NR	うとうとし	おとし
来年(らいねん)	やんに～やんにゅ	[やんに	やん[に	やんに
再来年(さらいねん)	みゃんちゅ	NR	NR	NR
今(いま)	にやま	[にやま	にやま	なま
昔(むかし)	むかし	むかし	むかし	むっかーし
夏(なつ)	なち	なち	なち	なち
冬(ふゆ)	ふい	[ふ]い	[ぶ]い	ふい
朝(あさ)	しっかま	しかま	し[っかま	しかま

「～」は同一話者での発音の揺れ, 「 / 」は語形の違い, 「 // 」は話者による発音や語形の違い。

語	古里・那間・叶	茶花・立長	朝戸・城	麦屋
昼(ひる)	ぴゅー / ぴゅーま (昼間)	ぴゅー	[ぴゅ]ー	ぴゅーま
夕方(ゆうがた)	ゆねー / ゆねーが た	ゆねー	ゆねー	ゆねー
夜(よる)	[ゆ]る	ゆる	ゆる	ゆる
夜中(よなか)	ゆなー	ゆ[な]ー	ゆなー	ゆなー
暇(ひま)	まー	[まー ~ [ま]ー	ひま	ひま
時(とき)	とうき	しちやる ばん (し た時)	とうき	ひにち
年(とし)	とうし	とうし	とうし	とうし
暦(こよみ)	くゆみ	くゆみ	くゆみ	くゆみ
着物(きもの)	きばだ	きばだ	きばら	きばら
襟(えり)	NR	NR	いえり	えり
袖(そで)	すでい	[す]でい	すでい	すでい
裾(すそ)	めーしば (前裾)	ば[し	すそ	すそ
帯(おび)	へうび (大きい) / き きび (幅狭い)	き[きび	きつきび (細い帯)	ききび
紐(ひも)	びぬい (細い) / う うー (牛を引っ張る 紐)	[ううー ~ [うう]ー	NR	ちな
足袋(たび)	NR	たび	たび	たび
袴(はかま)	ばかま	はかま<新>	はかま	ばかま
下駄(げた)	あしぢゃ	ぎ[た	げた	げた
草履(ぞうり)	[さ]ば	さば	[さ]ば	さば
緒(お)	ううー	ううー	NR	ひも
布(ぬの)	[ぬ]ぬ	[ぬ]ぬ	[ぬ]ぬ	きち
表(おもて)	へうむてい	へわーび	[う]むてい	うむてい
裏(うら)	へうら	し[ちよーら	う[ら	うら
綾模様(あや)	へやー / へあや	[へやー ~ [へや]ー	[あ]や / む[よー	がら
手ぬぐい	ていぬぐい	[てい]ぬ[ぐい	[てい]ぬぐ]い	ていぬぐい
蓑(みの)	[ゆ]ぬ	[ゆ]にゆ	みぬ	NR
湯(ゆ)	ゆー	[ゆー	ゆ / ゆー	ゆー
茶(ちゃ)	ちゃー	[ちゃー ~ [ちゃ] ー	ちゃ	ちゃー
飯(めし)	まい	[ま]い	まい	まい
粥(かゆ)	かい / かいまい	[かい ~ [か]い	[か]いまい	かい
餅(もち)	むっちゃー	[む]っ[ちゃー	むっちゃー	むち / むっちゃー
雑炊(ぞうすい)	どうーしー / どうーし ー まい	[どうーし]ーまい	ぞーすい	みしぢまい
味噌(みそ)	[み]しゅ	[み]しゅ	みしゅ	みしゅ
汁(しる)	[す]る	[す]る	しる	しる
塩(しお)	ましゅ	ましゅ	[ま]しゅ	ましゅ

「[は音調の上がり目,] は音調の下がり目,]] は拍内の下降, <新> <古> は語形の新旧。

語	古里・那間・叶	茶花・立長	朝戸・城	麦屋
塩辛い	しふがらさい ~ し ふがらさい	はらさい	[ま]すは[ら]さい	ましゅがらさい
砂糖(さとう)	さた	さた	[さ]た	さた
甘い(あまい)	^あまさい	[ぬ]る[べーさ]い	[あ]まさ]い / [あ]まさ い	あまさい
砂糖黍(さとうき び)	[う]ぎ ~ うぎ	ううぎ	ううぎ / ううーぎ	ふぎ
粕(かす)	はし	はし	NR	NR
酒(さけ)	さい	[さ]い	[さ]い	さい
黴(かび)	こーぢ	か[び] / [こー]ぢ(酒 / 味噌に)	こーぢ	ほーぢ
麴(こうじ)	ほーぢ	[ほー]ぢ	こーぢ	ほーぢ
粒(つぶ)	[ち]ぢ	ちじ	ちぶ	ちぶ
糠(ぬか)	ぬか	ぬか	ぬか	ぬか
粉(こ・こな)	[ふ]ー	くー	く]な	くー
大蒜(にんにく)	[び]る	びる	びる	びる
芽(め)	みー	みんな	みー / めー	ぐた
クワズイモ	うういごーばしや	[うういご]ー[ばしや	NR	ふいごーむぢ
肉(にく)	[し]し	しし	にく	しし
果物(くだもの)	みー / ない (食べら れなくてもよい)	[な]い ~ [ない	NR	ない
油(あぶら)	^あぶら	あぶら	あぶら	あぶら
天ぷら	ていんぷら ~ てい んびゅら	てんぷら	てんぷら / てむぷら	ていん, ぷら
灰(はい)	ぱい	[ぱ]い	ぱい	ぱい
匂い(におい)	はだ	はだ	はだ	はだ
味(あじ)	[^あ]ぢ	[^あ]ぢ ~ ^あ[ぢ	あぢ	あぢ
料理(りょうり)	まさむぬ (ごちそう)	まさむぬ (ごちそう)	まさむぬ (おいしい 料理)	まさむぬ
ご飯(ごはん)	まい	[ま]い	まい	まい
食事(しょくじ)	^あしくい	NR	あしくい	あしくい
朝食(あさめし)	めーしび	[め]ーし[び	めーしび	めーしび
昼食(ひるめし)	^あっしー	[^あ]っしー	あっしー	あっしー
夕食(ゆうめし)	ゆふい	ゆ[ふ]い	ゆふい	ゆふい
膳(ぜん)	ぢぬ	[ぢ]ぬ ~ ぢ[ぬ	ぢぬ	ぢぬ
食べる	これん [ころん (食 べよう)] / あぎゅん (敬語)	これーし (食べるの だ)	こ[れ]い	これん
食べ物(たべもの)	これむぬ	これむぬ	これむぬ	これむぬ
家(いえ)	やー	やー	やー	やー

「～」は同一話者での発音の揺れ, 「 / 」は語形の違い, 「 // 」は話者による発音や語形の違い。

語	古里・那間・叶	茶花・立長	朝戸・城	麦屋
母屋(おもや)	へういやー / なかや ー (母屋の前の物 置)	うむてい	ういや	へういやー
台所(だいどころ)	とーぐら	とーぐら	とーぐら	とーぐら
天井(てんじょう)	てんちよー	ていんちよ	ていんちよー	ていんちよー
床(ゆか)	よーしゃ / ゆか	よーしゃ	ゆか	よーしゃ (床下) / やーだい
棚(たな)	たな	たな	たな	たな
竈(かまど)	はま	はまどう	はま	はま
いろり	へいろり	はまどう	NR	へうくとうい
戸(と)	やどう	やどう	やどう	やどう
板(いた)	へいた ~ へいちや	いちや	いちや	へい[ちや
節(ふし)	ふし	ぶーし	ふし ~ ふし	ふし
穴(あな)	へあな	あな	あな	へあな
柱(はしら)	ばや ~ ばいや	ばいや	ばいや	ばや ~ ばいや
釘(くぎ)	くぎ	くぎ	くぎ	くぎ
瓦(かわら)	かーら / かわら	かーら	かーら / かーらやー (瓦葺きの家)	かーら
便所(べんじょ)	たたき / べんちよ	ぶる	くすまい	まき
垣(かき)	だいがき / はき	はき	いしじゃき (石垣)	はき
庭(にわ)	へあまだい	あまだい	あまだい	やんめ]ー
井戸(いど)	こー	こー	こー	こー
墓(はか)	ばか	ばか	ばか	ばか
煤(すす)	びぐる / しし	びぐる	びぐる	しし
埃(ほこり)	ぷーむ	ぶっくい	ぷーむ	ぷーむ
門(もん)	むんぐち	むんぐち	むんぐち	もんぐち
縄(なわ)	ちな	ちな / なわ	びぬい	ちな
綱(つな)	ちな	ちな / なわ	ちな	ちな
鎖(くさり)	くさり	くさり	くさり	ちん
袋(ふくろ)	ぷくる	ぶくる	ぷくる	ぶくる ~ ふくる
荷(に)	にーむち	にむち	みー	にー
皿(さら)	ちゅーだら / さら	まはい	くだら (小皿) / ちゅ ーだら (中皿) / うせ ーばち (大皿)	さら
椀(わん)	まはい	しーむぬまはい	まはい	わん / さら
茶碗(ちやわん)	ちやばぬ ~ ちやー ばぬ	ちやばぬ	ちやばぬ / まい ま はい (米を入れる椀) / しる まはい (汁を 入れる椀)	ちやーばぬ
壺(つぼ)	とうっくい / ちぶ	とうっくい	ちぶ	とうっくい

「[は音調の上がり目,] は音調の下がり目,]] は拍内の下降, <新> <古> は語形の新旧。

語	古里・那間・叶	茶花・立長	朝戸・城	麦屋
鉢(はち)	ぱち ～ はち	ぱち	ぱち	ぱち
瓶(かめ)	はみ	はみ	はみ	はみ
水瓶(みずがめ)	みちがみ	みちがみ	みじがみ	みちがみ
桶(おけ)	ううい ～ ふい	ううい	ううい	ふい
水桶(みずおけ)	ううい / みちふい	みちううい	ううい	みちふい
盥(たらい)	たれー	たれー ～ た ^レ いえー	たれー	たれー
ひしゃく	にぶ	にぶ	にぶ	にぶ
柄(え)	ううい ～ ふい	ううい	ううい	ふい
釜(かま)	はま	はま	ぱがま / おか ^ず を炊くのは なび	はま
しゃもじ	いびら	いびら	いびら	へいびら
急須・鉄瓶(きゅうす)	ちゅーか	ちゅーか	ちゅーか	ちゅーか
箸(はし)	ぱし	ぱし	ぱし	ぱし
包丁	はたな	ぼーちゃ	はたな / ぼーちょー	はたな
刀(かたな)	はたな	はたな	ゆーき (鉈)	はたな
小刀(こがたな)	しぐ / こがたな	しぐ	はたな がま	しぐ
まな板(いた)	まなちや	まなちや	まないちや	まなちや
臼(うす)	へうし / ちきうし	うし	うし	ちきうし / へうし / へいしし (石臼)
杵(きね)	あーちん	あーちん	あーじん	あーちん
斧(おの)	ゆーき	ゆーき	ゆーき	ゆいき
鋸(のこ)	のーぎー	のーぎー	のーぎー	のーぎー ～ のーきいい
鑿(のみ)	ぬん / ぬー	ぬん	ぬん	ぬん
錐(きり)	へー	いー	へー	いー ～ へいいい
箱(はこ)	ぱふ ～ ぱふ / はこ	ぱふ	ぱふ	ぱふ
筆(ふで)	ぶでい	ぶでい	ぶでい	ぶでい
紙(かみ)	はび	はび	はび	はび
鋏(はさみ)	ぱさん	ぱさん	ぱさん	ぱさん
印(しるし)	へいん / しるし	いんかん	しるし	しるし
漆(うるし)	うるし	NR	うるし	へうるし
鏡(かがみ)	はがん	はがん	NR	はがん
櫛(くし)	さばき	ふし	さばき	さばき
布団(ふとん)	へうどう	うどう	へうどう	へうどう
枕(まくら)	まつくら	まつくら	まつくら ～ まくら	まつくら
箒(ほうき)	ぼーき	ぼーき	ぼーき	ぼーき
竿(さお)	そー / ちーぶー (釣竿)	そー	ぼー	そー ～ そ ^へ お

「～」は同一話者での発音の揺れ, 「 / 」は語形の違い, 「 // 」は話者による発音や語形の違い。

語	古里・那間・叶	茶花・立長	朝戸・城	麦屋
杖(つえ)	ぐしゃぬ	ぐしゃぬ	ぐしゃぬ	ぐしゃな
笠・傘(かさ)	はさ	はさ	はさ	はさ
針(はり)	ばい	ばい	ばい	ばい
糸(いと)	いっちゅー	いっちゅー	へいっちゅー	へいっちゅー
煙管(きせる)	きしー	きっしー	きし	きっしー
金(かね)(金属・銭)	はに	はに	はに (金属) / ちん (銭)	はに
三味線(しゃみせん)	さんしぬ / さんしん	さんしぬ	さんしぬ	さんしぬ
船(ふね)	ぶに	ぶに	ふに // ふに / さばに (島の船)	ぶ]に
帆(ほ)	ふー	ぶー	ふー	ぶー
櫓(かい)	やふ	やふ	やふ	やふ
網(あみ)	へあん	あん	へあん	あん
槍(やり)	うーぢゅん	やい	へうぢゅん	やい
鍬(くわ)	こいち	こいち	こいち	こいち
鋤(牛にひかすすき)	うーだい ~ ふーだい	うーでいー	うーだい	くーだい ~ ふーだい
鎌(かま)	はま	はま	はま	はま
ござ	にんぶー	むっすー	にんぶー	にんぶー
篋(へら)	びら	びら	びら	びら
箆(ざる)	そい	そい	そい	そい
箆(かご)	ている	かぐ	ている	かぐ
篩(ふるい)	ゆい (目が粗いもの) / いいんぢやま (目が細かいもの)	ゆんぢやま	ゆい	ゆい (目が粗いもの) / ばら (飛ばすもの) / ゆんぢやま (目が細かいもの)
俵(たわら)	とーら	とーら	とーら	とーら
筵(むしろ)	むっすー	むっすー	むす	むっしゅー
薪(たきぎ)	たむぬ	たむぬ	たむぬ	たむぬ
人(ひと)	びちゅ	びちゅ	びちゅ	びちゅ
親(おや)	へうや	うや	へうや	へうや
子(こ)	くわー / わらび	わらび / わらびくわー	くわー / わらび (幼児)	くわー / わらび
長男(ちやうなん)	へうやむちぐわー / しだぐわー	うやむちぐわー / しだぐわー	やか / ひだび	しだふいがぬくわー (長男 / 長女) / しだぐわー / しだび (年上)
二男(じなん)	ぢなん	わかいぐわー	へうとうび	NR
三男(さんなん)	さんなん	わかいぐわー	へうとうび	NR
四男(よなん)	NR	わかいぐわー	へうとうび	NR

「[は音調の上がり目,] は音調の下がり目,]] は拍内の下降, <新> <古> は語形の新旧。

語	古里・那間・叶	茶花・立長	朝戸・城	麦屋
長女(ちょうじょ)	しだ / しだぐわー / ふなぐぬくわー	NR	あんにやー	しだふなぐぬくわー
二女(じじょ)	NR	NR	へうっとうび	NR
三女(さんじょ)	NR	NR	へうっとうび	NR
四女(よんじょ)	NR	NR	へうっとうび	NR
末っ子(すえっこ)	へうとうぐわー / なしきー	なしきぐわー	なしきー	なしきー
親子(おやこ)	へうやくわー	うやくわ	うやくわ	へうやくわー
孫(まご)	へうまが	うまが	うまが	へうまが
お父さん	へあちゃ	あちゃ	あちゃ	あちゃ
お母さん	あんまー	あんまー	あんまー	あんまー
お兄さん	やか	やか	やか	やか
お姉さん	へあんにや	あんにやー	あんにやー	あんにやー / あにんか <古>
弟(おとうと)	へうっとうび / ういいがへうっとうび	うっとうび	へうっとうび / ううひーびー	へうっとうび
妹(いもうと)	へうっとうび / ううなぐへうっとうび / うない	ううなぐへうっとうび	へうっとうび / ううない	へうっとうび
兄弟(きょうだい)	きょーだい / ううなぐきょーだい (女兄弟) / うっとうぢやぶら	ちゅーでー	きょーだい	へうとうぢやぶら
お祖父さん	へうふ	うふ	うふ	へうふ ~ へうふ
お祖母さん	ばーばー ~ ふあーふあー	ばーばー ~ ふあーふあー	ばーばー ~ ふあーふあ	ばーばー
夫(おっと)	ううとう	ううとう	ううとう	ふ.とう
妻(つま)	とうぢ	とうぢ	とうぢ	とうぢ / へあびやー
夫婦(ふうふ)	あへちやあびやー ~ あへちやあひやー	あちやひやー ~ あちやびやー	あちやびやー	へあへちやあびやー / とうぢふとう
叔父(おじ)	ううぢや ~ ふぢや	ううぢや (伯父) / ううぢやんかー (叔父)	ううぢや (伯父) / ううじゃんか (叔父)	ふぢや
叔母(おば)	ううば ~ ふば	ううば	ううば (伯母) / ううばんか (叔母)	ふば
甥(おい)	みーつくわー / ういいがみーくわー	みーくわー	みーくわ	みーくわー
姪(めい)	みーつくわー / ううなぐみーくわー	みーくわー	みーくわ	みーくわー
従兄弟(いとこ)	へいとこ / いちゅー	いちゅー	いとこ	へいちゅー / へうとうぢやぶら
婿(むこ)	むーくわー	むーくわー	むーくわー	むーくわー

「～」は同一話者での発音の揺れ, 「 / 」は語形の違い, 「 // 」は話者による発音や語形の違い。

語	古里・那間・叶	茶花・立長	朝戸・城	麦屋
家族(かぞく)	きねー / やーぬきねー ～ やーぬきにー	やーきねー	きねー	きねー / やーきねー
親戚(しんせき)	ぱらぢ	ぱらぢ	ぱらぢ	ぱらぢ
男(おとこ)	うういが ～ ふいが	うういが	うういが	ふいが
女(おんな)	ううなぐ ～ ふなぐ	ううなぐ	ううなぐ	ふなぐ
目上(めうえ)	やか	やか	やか	やか
目下(めした)	うっとうび	うっとうび	NR	へうっとうび
青年(せいねん)	にしえー / わかむぬ	にせー ～ にしえー	にしえー	にしえー
大工(だいく)	へーく～ひえーく	へーく	へーく	ひえーく / ひえーく
友だち	へあぐ	あぐ / どうし	あぐ	へあぐ / どうし <古> / どうしんちゃー <古>
娘(むすめ)	めーらび	めーらび	めーらび	めーらび
私(わたし)	わぬ / どうー (「自分」のこと)[どうーやぬん ならんしが (自分は何もできないが)]	わぬ	わぬ	わぬ / わぬちゆい (私一人)
私たち(除外的・包括的)	わーちゃ (包括・排除の両方に使う)	わーちゃ(包括・排除の両方に使う)	わーちゃ (包括) / わーちょー (排除)	わーちゃ (包括・排除の両方に使う) / わったい (私たち二人) / わーみちやい (私たち三人)
あなた	へうれー	うれーがなし	うれー	へうれー
あなたたち	へうれーたー	うれーたー ～ うりえーたー	うれーたー	へうれーた ～ へうれーたー / へうれーたとうーる (あなたたち二人)
お前(おまえ)	へうら	うら	うら	へうら
お前たち	へうらちゃ	うらちゃ	うらちゃ	へうらちゃ / うらったい (お前たち二人)
皆(みな)	むーる	むーる	むーる	むーる (全て)
名(な)	なー	なー	なー	なー
老人(ろうじん)	とうすい	とうすい	とうすい	とうしゆい
お祝い(おいわい)	よい ～ よーい	よい	よい	よい
結婚(けっこん)	うとうむつち ～ うとうむち	うとうむち	とうちたるみ	みーびき
結納(ゆいのう)	とうちたるみ	にーびち	くちだるみ	くちむすび
喧嘩(けんか)	へいっこい ～ へえっこい	いっこい	へっこい	えっこい
農作業などの相互扶助	ゆいたばー / ゆいしぐとう / たるしぐとう (農作業)	ゆいたばー	ゆい	ゆい

「[は音調の上がり目,] は音調の下がり目,]] は拍内の下降, <新> <古> は語形の新旧。

語	古里・那間・叶	茶花・立長	朝戸・城	麦屋
相撲(すもう)	しま	しま	しま	しま
一つ(ひとつ)	ていーち	ていーち	ていーち	ていーち
二つ(ふたつ)	たーち	たーち	たーち	たーち
三つ(みっつ)	みーち	みーち	みーち	みーち
四つ(よっつ)	ゆーち	ゆーち	ゆーち	ゆーち
五つ(いつつ)	へいち	いち	いち	へいち
六つ(むっつ)	むーち	むーち	むーち	むーち
七つ(ななつ)	ななち	ななち	ななち	ななち
八つ(やっつ)	やーち	やーち	やーち	やーち
九つ(ここのつ)	くーぬち	くーぬち	くーぬち	くーぬち
十(とお)	とうー	とうー	とうー	とうー
一人(ひとり)	ちゅい	ちゅい	ちゅい	ちゅい
二人(ふたり)	たい	たい	たい	たい
三人(さんにん)	みっちやい	みっちやい	みっちやい	みっちやい
四人(よにん)	ゆったい	ゆったい	ゆったい	ゆったい
五人(ごにん)	ぐにん	ぐにん	ぐにん	ぐにん
六人(ろくにん)	るくにん	るくにん	るくにん	るくにん
七人(しちにん)	しちにん	しちにん	しちにん	ななにん
八人(はちにん)	ぱちにん	ぱちにん ~ ふあ ちにん	ぱちにん	ぱちにん
九人(くにん)	きゅーにん / くにん	くにん	きゅーにん	きゅーにん
十人(じゅうにん)	ぢゅーにん	ぢゅーにん	ぢゅーにん	ぢゅーにん
いくら	へいちゃさ	いっちやが	いっくーち	へいちゃさ
いつ	へいち	いちが	へいち	へいっち ~ いち
だれ	たる / たー	たる	たる	たる
どこ	へいだ	いだ	へいだ	へいだ
どれ	ぬー / へいどうる	いどうる	へいどうる	へいどうる
なぜ	ぬーなてい	ぬーがんとー	ぬーなてい	ぬーなてい
なに	ぬー	ぬー	ぬー	ぬ ~ ぬー
いくつ	へいちゃさが (ものの 数をたずねるとき) / へいっくーち (年齢を たずねるとき)	いっくーち	いちやさ / いっくー ち	へいちゃさ
これ	ふり	ふり	ふり	ふり
それ	へうり	うり	うり	へうり
あれ	へあり	あり	あり	へあり
ここ	ふま	ふま	ふま	ふま
そこ	へうま	ふま	うま	へうま
あそこ	へあま	へあま	あま	あま
物(もの)	むぬ	むぬ	むぬ	しなむぬ / むぬ

「~」は同一話者での発音の揺れ, 「 / 」は語形の違い, 「 // 」は話者による発音や語形の違い。

語	古里・那間・叶	茶花・立長	朝戸・城	麦屋
色(いろ)	へいる	NR	いる	いる
音(おと)	へうとう	[へう]とう	うとう	うとう
夢(ゆめ)	へいみ	[へい]み	ゆみ	いみ
仕事(しごと)	しぐとう	しぐとう	[し]ぐとう	しぐとう
鬼(おに)	へうに	へう]に	[う]に	うに
心(こころ)	くくる / きむ / きむ ぐくる	き]む / くくる	[く]くる	きむ
情け(なさけ)	なさき	なさき	なさ[き	きむくくる
言葉(ことば)	ふ.とうば	ふ.とうば	くとうば	ふとうば
歌(うた)	[へう]た	[へう]た	うた	うた
踊り(おどり)	ううどうい ~ うどう い	うう[どう]い	うう[どう]い	ふーどうい
鼓(つづみ)	ちちん (「太鼓」は ぐ]ん)	[ぐ]ん (太鼓)	NR	NR
宝(たから)	たからむぬ [へあつた ら むぬ (大切なも の)]	たからむぬ	たから	たからむぬ
型(かた)	はた	NR	かた	NR
形(かたち)	はたち	かたち	かたち	かたち
休息(きゅうそく)	ゆふい	ゆふい	ゆふい / (「休もう」は 「ゆふーてい」 / 「ゆ ふあん」と言う)	やすみ
魂(たましい)	まーぶい	まーぶい	たましー / まぶゆし (魂を寄せること)	たましー / まーぶ い
刺青(いれずみ)	ばんぢき (昔の女性 の手にあったもの)	ばんぢき	NR	いれづずみ
真似(まね)	[ね]ー[び	[ね]ーび	めーび	めーび
嘘(うそ)	ゆく	[ゆ]く	ゆく	ゆくいえい
小さい	へいんさい	へいんさい	いんさい	いんさい
大きい	へうぴしゃい ~ へうふ いしゃい	へうふ.しゃい	うふいしゃい ~ うぴ しゃい ~ うふしゃい	うぷさい
低い	ぴくさい	ぴくさい	ぴくさい	ぴくさい
同じ	まんねー (「同じ長 さ」のことを まんなぎ と言う)	[ま]ん[ねー	NR	ゆぬむぬ
短い	へいんちゃさい	へいんちゃさい	いんちゃさい	いんちゃさい
丸い	[ま]る[さ]い	まるさい	まるさい	まるさい
暖かい	ぬくさい	ぬくさい	ぬくさい	ぬくさい
寒い	ぴーさい	[ぴーさ]い	ぴーさい	ぴーさい
冷たい	ぴちゆるさい	ぴちゆるさい	[ぴちゆる]さい	ぴちゆるさい

「[は音調の上がり目,] は音調の下がり目,]] は拍内の下降, <新> <古> は語形の新旧。

与論方言 文法例文集（音声記号）

01	共通語	おれは きょうは いそがしい
01	1. 茶花・立長	wana: eu:ja iteunacai.
01	2. 古里・那間・叶	{wana/ wajuja} teu:ja iteunaçai.
01	3. 朝戸・城	wana: çu:ja ?iteunacai.
01	4. 麦屋西区	wana: kju:ja {?iteunacan / ?iteunacai}.
01	5. 麦屋東区	{wana: / wajuja} eu:ja mittan (とても) {iteunasai / iteunasaido:}.
02	共通語	おまえが 畑へ 行け。
02	1. 茶花・立長	uraga pattaikati paijo:.
02	2. 古里・那間・叶	uraga pattai katija iki.
02	3. 朝戸・城	?uraga pattaikati ?iki. (年下()) / ?ure:ga pattaikati ?uwa:jo. (年上())
02	4. 麦屋西区	?uraga pattaikati {pai / ?iki}.
02	5. 麦屋東区	{uro: (目下()) / uraga (目上())} pattaikati {pai / paijo: / iki / ikijo:}.
03	共通語	うん・畑へは おれが いい。
03	1. 茶花・立長	pattaikatja: wa:ga ikjun.
03	2. 古里・那間・叶	jɪn pattai katija ?waga ikjun.
03	3. 朝戸・城	NN, pattaikatja: wa:ga {?ikjun / ?ikjundo: (目上())}.
03	4. 麦屋西区	?N:, pattaikati wa:ga {?ikjun / pajun / pajui (人が行くのを見た時)}.
03	5. 麦屋東区	to: pattaikati wa:ga {ikjundo: / pajundo:}.
04	共通語	おれの 鋤は どこに ある。
04	1. 茶花・立長	wa: koitea: idanan ajunga.
04	2. 古里・那間・叶	wa: koitea idanan arjunga.
04	3. 朝戸・城	wa: koitea: ?idanan ?ajunga.
04	4. 麦屋西区	wa: koitea: ?idanan ?ajunga.
04	5. 麦屋東区	wa: koitee: idanan ajunga.
05	共通語	この 鎌は 太郎のか。
05	1. 茶花・立長	ɸunu hamo: taro:cidarai.
05	2. 古里・那間・叶	ɸunu hamo: taro:nu çi:.
05	3. 朝戸・城	ɸunu {hamaja / hamo:} taro:ei:.
05	4. 麦屋西区	kunu hamo: taro:ei:.
05	5. 麦屋東区	ɸunu {hamo: / hamaja} taro:ei:.
06	共通語	どれが おまえの 笠だ
06	1. 茶花・立長	iduruga ura haso:.
06	2. 古里・那間・叶	iduruga ura {hasaga/ hasaja}.
06	3. 朝戸・城	?idu:ru:ga ?ura hasaga. / ?idu:ru ?ure: {hasai: / hasadarai (目上())} .
06	4. 麦屋西区	?iduruga ?ura hasaga.
06	5. 麦屋東区	iduruga ura hasaga.
07	共通語	その 笠が おれのだ。
07	1. 茶花・立長	unu hasaga wa:ei.
07	2. 古里・那間・叶	uru hasaga wa:çi: / uru haso: wa:çida:.
07	3. 朝戸・城	?unu haso: wa:eido:.
07	4. 麦屋西区	?unu haso: wa:ei.
07	5. 麦屋東区	ɸuriga wa:eido:.

～は発音のゆれ、{ / } は複数の言い方があること、() は説明、《 》 は任意的であることを表す。

08	共通語	この ふろしきは おまえのか。
08	1. 茶花・立長	ɸunu puruɕikja uraci:.
08	2. 古里・那間・叶	ɸunu puruɕikja: ura ɕi:.
08	3. 朝戸・城	ɸunu ɸuroɕikja {ʔuraci: / ʔure:ci:}.
08	4. 麦屋西区	ʔunu {puruɕikja:~ɸuruɕikja:} ʔuraci:.
08	5. 麦屋東区	ɸunu puruɕikja uraci:.
09	共通語	それは おとうとの かもしれない。
09	1. 茶花・立長	urja: uttubinuei ge:ra.
09	2. 古里・那間・叶	urja uttubinuci ge:ra wakarannu.
09	3. 朝戸・城	ʔurja: ʔuttubinuei ge:ra wakaran.
09	4. 麦屋西区	ʔurja: ʔuttubinuei ge:ra wakaran.
09	5. 麦屋東区	{urja: / urija} {uttubinueija arandarai / uttubinueige:ra wakaran}.
10	共通語	沖縄には 船で 行くより 飛行機で 行った ほうが いい。
10	1. 茶花・立長	ukinawakatja: puɲi:ei ikiee:kumma ɕiko:kiei: izaru ho:du maei.
10	2. 古里・那間・叶	okinawa katja puɲiɕi {ikju:ɕi e:kuma / ikiɕi e:kuma} ɕiko:kiɕi {ikibo: / pajuɕa} {hamine: / hamɪŋkue:}.
10	3. 朝戸・城	jambarukatja: ɸuɲiei ʔikjuee: {kumaN~kuma:N} ɕiko:kiei ʔizaruho:ga jutaeai.
10	4. 麦屋西区	ʔokinawakatja: puɲiei ʔikju:ee:kumma ɕiko:kiei {paigadu / paicidu / ʔikigadu} mae:.
10	5. 麦屋東区	jambarukatja: puɲiei ikanjukuma: ɕiko:kiei ikibadu maeido:.
11	共通語	飛行機は 一日に 一回しか ない。
11	1. 茶花・立長	ɕiko:kja: itejnitejni ikkwaidu airu.
11	2. 古里・那間・叶	ɕiko:kja: {piteui:N / pitteuinonti} teukke:du {ajui / ajiru}.
11	3. 朝戸・城	ɕiko:kja: pitteui tsuke:du ʔairu.
11	4. 麦屋西区	ɕiko:kja: pitteuinan teukke:du ʔairu.
11	5. 麦屋東区	ɕiko:kja pitteuinunti tejkke:du ajui 《do:》.
12	共通語	空港なら こっちの 道を 行きなさい。
12	1. 茶花・立長	ɕiko:zo:nara ɸumanu miteintea: paijo:.
12	2. 古里・那間・叶	ku:ko:embo: {ɸunu/ ɸumanu} miteina: kara pai.
12	3. 朝戸・城	ku:ko: jendo: ɸunu {miteinna: / miteina: / miteikara} {ʔiki / pai}.
12	4. 麦屋西区	ku:ko:katiembo: kumanu miteikara pai.
12	5. 麦屋東区	ku:ko:katja: ɸumanu miteina:kara {pai / paijo:}.
13	共通語	道の まんなかを あるいては いけない。
13	1. 茶花・立長	miteinu manna:karo: aikuno:ja:.
13	2. 古里・那間・叶	miteina:nu manna:kara ajitea: narannu.
13	3. 朝戸・城	{miteina:nu / miteinu} manna: 《ja》 {ʔaitei ʔwanno: (年上(に)) / ʔaitea: naranu (同僚(に)) / {ʔaikuno: ~ ʔaikuna:} (年下(に))}.
13	4. 麦屋西区	pundo:nu maɲna:ja ʔaitea: {naraɲnu / naranu}.
13	5. 麦屋東区	miteina:nu manna:kara aitea: narando:.
14	共通語	道が 広いなあ。
14	1. 茶花・立長	miteiga upɕeo:.
14	2. 古里・那間・叶	ʔwai miteina: 《ja》 {pu:so: / upɕo:}.

{ / } は複数の言い方があること、() は説明、《 》は任意的であることを表す。

14	3. 朝戸・城	mitea: pju:sai.
14	4. 麦屋西区	pundo:ja ?upuco:ja:.
14	5. 麦屋東区	miteina.nu pju:saija: / gappara miteina: e:ja: (広い道だなあ。)
15	共通語	あ・雨が ふってきた。
15	1. 茶花・立長	wai {amiga / aminu} putikjui.
15	2. 古里・那間・叶	{asse: / ?wai} ami {nu} putikjui.
15	3. 朝戸・城	?a:, ?aminu puti {kitean / ki: / kjui}.
15	4. 麦屋西区	{?aecei / ?ja} ?aminu putikjui. (?ja (は降ってくると思っていたのに降ってきた時))
15	5. 麦屋東区	aece: aminu putikjui.
16	共通語	いとこの 布団が やねの 上に ほしてある。
16	1. 茶花・立長	taro:nu (太郎の) ?utonga ja:nu uinan {putatteibo (対話) / puteai (独話)}.
16	2. 古里・那間・叶	taro:nu (太郎の) uduga ja:nu {teizinan / ?uinan} puteai.
16	3. 朝戸・城	?itukunu ?uduntea: ja:nu {?uinan / ?uinai} puteai.
16	4. 麦屋西区	?itokonu ?udunu ja:nu ?uina: puttean. (人に訊ねられて答えるとき) / ?amana: ?itokunu ?uduga putteai. (見て言うとき)
16	5. 麦屋東区	taro:nu (太郎の) uduntea:na {ja:nu / jainu} uinan puteai.
17	共通語	きのうは 今日より 風が 強かった。
17	1. 茶花・立長	kino:ja eu:e:kumma hadiga teu:saida:.
17	2. 古里・那間・叶	kino:ja {çu:je:kuma~ çu:je:kumma} hadiga teu:satan.
17	3. 朝戸・城	kino:ja {çu:je:kuman~çu:je:kuman} hadinu {teu:sai / teu:satan}.
17	4. 麦屋西区	kinu:ja çu:e:kumma hadija teu:satan.
17	5. 麦屋東区	kinno:ja {eu:jekuma: / eu:jakuma:} hadinu teu:satapa:.
18	共通語	真っ白な 鳥が 空を 飛んでいる。
18	1. 茶花・立長	su:tuinu tinto:kara tui aikjui.
18	2. 古里・那間・叶	maççiru:kaçiru tuinu tinto:kara tui aikjui.
18	3. 朝戸・城	maçiruka euru tuinu tinto: tui aikjui.
18	4. 麦屋西区	su:saru tuiga tipto: {tudui / tudaikjui / tui aikjui (飛びながら移動している時)}.
18	5. 麦屋東区	su:saru tui {tuiga / tuinu} tinto:kara tui aikjui.
19	共通語	あの 山には いのしが いるそうだ。
19	1. 茶花・立長	anu jamanapa inueieiga uitteu:sa.
19	2. 古里・那間・叶	anu jamanapa {inuçiga / inuçinu} vujutteu:sa.
19	3. 朝戸・城	?anu jamanapa ?inueieiga uitteu:sai.
19	4. 麦屋西区	?anu jamanapa ?inueieinu ?uiteu:sa.
19	5. 麦屋東区	anu jamanapa eieinu ?uiteu:sa.
20	共通語	あれは 学校だ。 役場では ない。
20	1. 茶花・立長	arja: gakkoe: jakubo: arazida.
20	2. 古里・那間・叶	arja gakkode:ru. jakubo: arannu.
20	3. 朝戸・城	?arja: gakkode:ru. jakubo: {?aran / ?aranu / ?ajabiranu (年上)}.
20	4. 麦屋西区	?arja: gakkode:ru. jakubo: ?arannu.
20	5. 麦屋東区	arja gakkodo: {jakubaja / jakubo:} arando:.
21	共通語	あれが 役場だ。
21	1. 茶花・立長	ariga jakuba {e: / de:da / denda:}. (後者二つは断定強い。)

{/} は複数の言い方があること、() は説明、《 》は任意的であることを表す。

21	2. 古里・那間・叶	aridu jakubaje:ru./ ariga jakubade:ru.
21	3. 朝戸・城	?ariga jakubado:.
21	4. 麦屋西区	?arja: jakubade:ru.
21	5. 麦屋東区	amaga jakubado:.
22	共通語	あの 目の おおきい・ 色の 白い 男は だれだろう。
22	1. 茶花・立長	anu mintamanu upɕaru irunu su:saru uigo: {tarudaraga / taruda:ga}.
22	2. 古里・那間・叶	anu mintamanu upɕaru irunu su:saru {uigo: / uiga:ja} taruga 《teo:》.
22	3. 朝戸・城	?anu mintamanu uɸuearu ?irunu su:saru uigo: {taruganai / tarudaraga}.
22	4. 麦屋西区	?anu mintamanu ?upiearu ?irunu su:saru wuigo: taruda:ga.
22	5. 麦屋東区	anu mintamanu uɸiearu irunu su:saru ɸuigaja tarudaraga.
23	共通語	孫が 去年から 東京に いる。
23	1. 茶花・立長	umagaga ɸudukara to:kjo:nan {ujui (眼前) / ujun (非眼前)}.
23	2. 古里・那間・叶	umagaga ɸudukara to:kjo:nan Uujun.
23	3. 朝戸・城	?umagaga ɸudukara to:kjo:nai ujun.
23	4. 麦屋西区	?umago: ɸudukara to:kjo:nan {?ujun / ɸujun}.
23	5. 麦屋東区	umagaga ɸudukara to:kjo:nan ɸujundo:.
24	共通語	孫は いつ 東京から 帰るか。
24	1. 茶花・立長	umagaja itei to:kjo:kara muditi kunjga.
24	2. 古里・那間・叶	umago: itei to:kjokara mudzunga.
24	3. 朝戸・城	?umago: ?itei to:kjo:kara mudjunga.
24	4. 麦屋西区	?umago: ?itei to:kju:kara mudjunga.
24	5. 麦屋東区	{umago: / umagaja} itei to:kjo:kara mudjunga.
25	共通語	八月には 帰って くる ようだ。
25	1. 茶花・立長	pateigatejna muditi ki:gisaida:.
25	2. 古里・那間・叶	pateigatejna muditi ki:gisai.
25	3. 朝戸・城	pateigatejna muditi {kju:rupazi 《do:》 / ki:gisai}.
25	4. 麦屋西区	{pateigateinja / pateigateijnja} muditi ki:gisai.
25	5. 麦屋東区	pateigatejna: muditi ki:gisaido:.
26	共通語	かあさんは あした 東京へ むすこに 会いに いく。
26	1. 茶花・立長	amma:ja attea: to:kjo:kati kwa:kati {iteejna / painda: / ikjunda}.
26	2. 古里・那間・叶	amma:ja attea: to:kjo:kati uigamukwa itteenja {pajun / ikjun}.
26	3. 朝戸・城	?ammaga ?attea: to:kjo:kati uiganukwa: ?iteenna: {?ikjun (今から行く) / ?ikjui (既に出発している)}.
26	4. 麦屋西区	ka:teapa ?attea: to:kjo:kati kwa: ?itte:ja ?ikjun.
26	5. 麦屋東区	apja:ja attea: to:kjo:kati warabinu pata:ti itteenja pajun.
27	共通語	大阪から 東京までの 汽車賃は いくらだろうか。
27	1. 茶花・立長	o:sakakara to:kjo:katinu kjeatejna iteasadaraga.
27	2. 古里・那間・叶	o:sakakara to:kjo:nta:nanu kiɕatejna {iteasada:ga / iteasadaraga}.
27	3. 朝戸・城	o:sakakara {to:kjo:nta:ranu / to:kjo:nta:nanu} kjeatejna ?iteasadaraga.
27	4. 麦屋西区	?o:sakakara to:kjo:ntananu kjeatejna ?iteasada:ga.
27	5. 麦屋東区	o:sakakara to:kjo:nta:nanu kjeatejna iteasadaraga.
28	共通語	四時まで 駅で まっておれ。
28	1. 茶花・立長	jozinta:na jekide {matteuri / mateurjo}.

{/} は複数の言い方があること、() は説明、《 》は任意的であることを表す。

28	2. 古里・那間・叶	jozinta:na jekinan matteurjo:
28	3. 朝戸・城	juzinta:na jekinonti {matteuri / matteiwa:ri (目上へ(に))}.
28	4. 麦屋西区	judziñtana ?ekinonñi matteuri.
28	5. 麦屋東区	jozinta:na jekinonti matteurijo:.
29	共通語	五時までに 帰らなくては ならない。
29	1. 茶花・立長	gozinta:na {mudiribadu najuru (子どもが友だちに言う時) / mudirjo:ja: (母が子に言う時)}.
29	2. 古里・那間・叶	gozinta:na muduribadu nairu.
29	3. 朝戸・城	{gozinta:ra / gozinta:na} muduribadu 《najui》.
29	4. 麦屋西区	godziñtara mudirañda:bo: narañnu.
29	5. 麦屋東区	gozinta:na {mudiribadu / muduribadu najuido:}.
30	共通語	次郎 この 荷物を 家まで かついで 行ってくれ。
30	1. 茶花・立長	ziro: ðunu pimoteuntea: ja: {kati / inta:na} muteipaijo:.
30	2. 古里・那間・叶	ziro:, ðunu pimotsuntea ja: {nta:na / kati} hatamiti mutizikuriri.
30	3. 朝戸・城	ziro:, ðunu mi:muteintea: ja: {nta:ra / nta:na} haeigiti {muteizi kuriri (持って行ってくれ) / ?izi kuriri (行ってくれ)}.
30	4. 麦屋西区	dziro:, ðunu pimotsuntea: ja:ñta:ra hatamiti ?idzikuriri.
30	5. 麦屋東区	ziro: ðunu pimotsuntea:na ja:nta:na hatamiti izikuriri.
31	共通語	荷物が 重かったので 二人で もった。
31	1. 茶花・立長	pimuteunu unsanu wattaiei muttean.
31	2. 古里・那間・叶	pimotsunu unsanu taiçi muttean.
31	3. 朝戸・城	mi:muteinu ?umusatarunati taiçi muttean.
31	4. 麦屋西区	pimotsunu ?umusanu taiçi muttean.
31	5. 麦屋東区	pi:nu umusanu taiçi muttean.
32	共通語	この 上着は このまえ 沖縄で 二千元で 買った。
32	1. 茶花・立長	ðunu uwagja: ðune:da okinawano:ti nisenençi ho:tan.
32	2. 古里・那間・叶	ðunu {?wa:gja / ?wa:gja} ðune:da okinawanunti niçenençi ho:tan.
32	3. 朝戸・城	ðunu ?wa:gja: ðune:da jambaruno:ti nisenençi ho:ta.
32	4. 麦屋西区	ðunu wa:gja: ðune:da jambaruñti nisenençi ho:tan.
32	5. 麦屋東区	ðunu ?wa:gja ðune:da ukina:nunti nisenençi ho:tan.
33	共通語	沖縄には めずらしい 菓子が ある。
33	1. 茶花・立長	okinawanapa miziracaru kwaciga {ajunda: (見て) / ajui (見て) / ajuteu:sa (伝聞)}.
33	2. 古里・那間・叶	okinawanapa kawaturu {kwaçiga / kwaçinu} ajui.
33	3. 朝戸・城	jambarunapa miziracaru kwacinu {?ajun / ?ajui / ?ai}.
33	4. 麦屋西区	?okinawanapa: midziracaru ?a:magaiga ?ajui.
33	5. 麦屋東区	okina:napa miziracaru kwacinu ajui.
34	共通語	孫は お菓子が 好きだ。
34	1. 茶花・立長	umagaja kwacintea: masacunda:.
34	2. 古里・那間・叶	umago: {kwaçiga çikibo: / kwaçi:du haminçaçui}.
34	3. 朝戸・城	?umago: {kwaci / ?a:magai} sukida.
34	4. 麦屋西区	?umago: ?a:magai {masacun / masacui}.
34	5. 麦屋東区	umagaja kwacinu sukido:.

{/} は複数の言い方があること、() は説明、《 》は任意的であることを表す。

35	共通語	箱の 中に まんじゅうが いくつ あると おもうか。
35	1. 茶花・立長	paɸunu na:nan manzu:ja iku:tei ajun.
35	2. 古里・那間・叶	paɸunu na:nan manzu:ga ikku:tei ajuntei {ma:rjuiga / mu:juiga}.
35	3. 朝戸・城	paɸuna na:nai kwaciga ʔiteasa {ʔajuntei / ʔajuitei / ʔaitei} mo:juiga.
35	4. 麦屋西区	pakunu na:nan maɸdzu:ja ʔikutei ʔajuntei mu:juiga.
35	5. 麦屋東区	paɸunu na:nan manzu:ga iku:tei ajuntei ma:ri:ga.
36	共通語	孫は まんじゅうを 皮だけ 食べる。
36	1. 茶花・立長	umagaja manzu:ja ho:bakkaidu koreru.
36	2. 古里・那間・叶	umago: manzu:nu {ho:daki koren / ho:dakidu koreru}.
36	3. 朝戸・城	ʔumago: manzu:ja ho:daki koren.
36	4. 麦屋西区	ʔumago: maɸdzu:ja ho:daki {koren / koreru}.
36	5. 麦屋東区	{umago: / umagaja} manzu:ja ho:dakidu {korendo: / kore:ru}.
37	共通語	じいさんは 朝から 海へ 魚を とり に いった。(事実の報告/目撃過去)
37	1. 茶花・立長	uɸa eikamakara un̄kati ju: tuɸna e:tan.
37	2. 古里・那間・叶	ʔuɸa: eikamakara ʔun̄kati ʔju: tuɸna {ʔwa:teai (報告) / ʔe:tan (目撃)}
37	3. 朝戸・城	uɸuja eikkamakara un̄kati ʔju: tuɸna je:tan
37	4. 麦屋西区	uɸuwa eikama kara un̄kati {ʔju: / ʔju:wo} tuɸna {idzan (行った。事実の報告) / iki:do: (行きよる。目撃過去 / idzitu:sa (行ったそうだ))}.
37	5. 麦屋東区	uɸa: eikamakara un̄kati ʔju: tuɸna {je:tan (目上へ) / pajitan (目下へ) / ikju:tan (目下へ)}.
38	共通語	ここは 海に ちかいので 魚が うまい。
38	1. 茶花・立長	ɸumo: unnu kja:sanu ju:nu masai.
38	2. 古里・那間・叶	ɸumo: ʔun̄kati kja:sarunati ʔju:ja masan.
38	3. 朝戸・城	ɸumo: {un̄kati / unnu} kja:sanu ʔju:nu masai .
38	4. 麦屋西区	ɸumo: unpi kja:sanu nati ʔju:ga masai.
38	5. 麦屋東区	ɸumo: un̄kati kja:sarunatiɸju:nu {masando: (知識経験を言う場合) / masai (食べた時の感想として言う場合)}.
39	共通語	魚より 肉の ほうが 高い。
39	1. 茶花・立長	ju:jekumapa nikunu takasai.
39	2. 古里・那間・叶	ʔju:je:kun̄ nikunu hatanu {ta:san (他人に伝える時) / ta:sai (目の前にある時)}.
39	3. 朝戸・城	ʔju:je:kupa eieinu hataga takasai. (ʔju:je:kupa では j はその前の u の影響で ʔju:wje:kupa に聞こえる)
39	4. 麦屋西区	ʔju: je:ka nikuno ho:ga takasai. (eiei は肉の意味では使わない。動物の名前)
39	5. 麦屋東区	ʔju: je:kuman̄ niku hataga takasai.
40	共通語	おれは 蛸の さしみが 食べたい。
40	1. 茶花・立長	wana: taɸunu sacimiga koreteasai.
40	2. 古里・那間・叶	wana: taɸunu saciminu kore:teasai.
40	3. 朝戸・城	wana: taɸunu sacimi koreteasai
40	4. 麦屋西区	wana taɸunu sacimiga koreteasai.
40	5. 麦屋東区	wana: taɸunu sacimi 《du》 koreteasai.
41	共通語	おまえは この 魚の 名まえを 知っているか。
41	1. 茶花・立長	uro: ɸunu ju:nu na:intea: eitteumui.

{/} は複数の言い方があること、() は説明、《 》は任意的であることを表す。

41	2. 古里・那間・叶	{ʔura:ja / ʔuro:} ɸunu ʔju:nu {na:n̄tea / na:ja} {eitteummui (同等・目下へ) / eiteiʔemmui (目上へ)}.
41	3. 朝戸・城	uro: ɸunu ʔju:nu na: eitteummui.
41	4. 麦屋西区	{antawa / uro:} ɸunu ʔju:nu na:inteən { eitteummi: / eitteu:mi: }.
41	5. 麦屋東区	uro: ɸunu ju:nu na: eitteumi.
42	共通語	これは かつおだろう。
42	1. 茶花・立長	ɸurja: katsuo jecami.
42	2. 古里・那間・叶	ɸurija {katei / katsuo} demma:pi:.
42	3. 朝戸・城	ɸurja: katsuoga je:ra.
42	4. 麦屋西区	{ɸurija / ɸurja:} katsuo jemmai.
42	5. 麦屋東区	ɸurja: katsuo de:raja.
43	共通語	酒は どうやって つくるか おまえは 知っているだろう？
43	1. 茶花・立長	saija iteaci teukujunga uro: eitteucami.
43	2. 古里・那間・叶	saija ʔiteaci teukutunteitei ʔuro: eitteummui.
43	3. 朝戸・城	saija idzaei tsukujunei uro: eitteuecami.
43	4. 麦屋西区	saija iteacitei tsukujunga uro: {eitteummi: / eitteuruɸadzi (推量)}.
43	5. 麦屋東区	saija iteaci teukujueiga uro: eitteuraja:.
44	共通語	酒は 米から つくる。
44	1. 茶花・立長	saija ɸumikara teukujun.
44	2. 古里・那間・叶	saija ɸumikara teukujun.
44	3. 朝戸・城	saija ɸumikara tsukujun.
44	4. 麦屋西区	saija ɸumikara tsukujun.
44	5. 麦屋東区	saija ɸumikara teukujun.
45	共通語	酒さえ あれば なにも いらぬ。
45	1. 茶花・立長	saije:ka aribo: nu:n̄ ʔjannu.
45	2. 古里・那間・叶	saiso:ka ʔaribo: nu:i:n̄ ʔjannu.
45	3. 朝戸・城	saiso:ga aribo: nu:i ʔjannu.
45	4. 麦屋西区	sai do:ka aribo: nu:j̄in̄ ʔjannu.
45	5. 麦屋東区	saiso:ka aribo: nu:n̄ jannu.
46	共通語	うちの じいさんは 酒も たばこも のまない。
46	1. 茶花・立長	ja:nu uɸu:ja saiin tabakun agirannu.
46	2. 古里・那間・叶	wa:teaga ʔuɸa: sain tabakun {eirannu / numannu}.
46	3. 朝戸・城	wa: uɸuja saiin tabakun pukannu
46	4. 麦屋西区	wa:teaga uɸa: sain tabakun numannu.
46	5. 麦屋東区	wa:teaga uɸuja: saiin tabakun agirannu. (「酒」は numannu. 「たばこ」は pukannu という).
47	共通語	その 水は のむな。 のむなら この 水を のめ。
47	1. 茶花・立長	ɸunu midza: numuna. numjumbo: ɸunu midzi numi.
47	2. 古里・那間・叶	ʔunu miza: numunna. numju:rabo: ɸunu mizi numi.
47	3. 朝戸・城	unu midza: numuna. numimbo: ɸunu midzi numi.
47	4. 麦屋西区	ɸunu midzija numunno:. {numiba naimbo: / nomiteasambo: (飲みたければ)} ɸunu midzuntea: numi.
47	5. 麦屋東区	unu {midza:~midza} numuna. numjumbo: ɸunu midzinuhata numi.

{/} は複数の言い方があること、() は説明、《 》は任意的であることを表す。

48	共通語	なぜ おまえは たべないのか。
48	1. 茶花・立長	nu:nati uro: koronnuga.
48	2. 古里・那間・叶	nu:natti ?uro: {konnuga / koronnuga}.
48	3. 朝戸・城	nu:nati uro: koronnuga.
48	4. 麦屋西区	nu:nati uro: koronnuga.
48	5. 麦屋東区	nu:nanti uro: koronnuga.
49	共通語	おれは さつまいもなんか 食べないぞ。
49	1. 茶花・立長	wana: unnago: koronnu.
49	2. 古里・那間・叶	wana: ?unnago: koronnu.
49	3. 朝戸・城	wana: unnago: korondo:.
49	4. 麦屋西区	wana: unnago: korondo:.
49	5. 麦屋東区	wana: unnago {korondo: / kondo:}.
50	共通語	もう 食べられる ものは 全部 食べた。
50	1. 茶花・立長	ja: ko:ri:muna mu:ru ko:tan.
50	2. 古里・那間・叶	ja: ko:rju:ru muna: mu:ru ko:tan.
50	3. 朝戸・城	ja: ko:rjuru muna: mu:ru ko:tan.
50	4. 麦屋西区	ja: ko:rju:ru muna: mu:ru ko:tan.
50	5. 麦屋東区	ja: ko:rjuru muna: mu:ru ko:tan.
51	共通語	食べて ねるだけなら いぬや ねこと おなじだ。
51	1. 茶花・立長	ko:ti nibujurudakijembo: inuja mjanjkatu manje:jei.
51	2. 古里・那間・叶	ko:ti nibuju:ru daki {?embo: / ?e:rabo:} inumja:tu {manne:jei / jurumunujei}.
51	3. 朝戸・城	ko:ti nibujuru daki jembo: inunaga mjanjkanagatu juru munu de:ru.
51	4. 麦屋西区	ko:ti nibuiuru dakijembo: inuja mjanjkatu jurumunu.
51	5. 麦屋東区	ko:ti nibujuru daki de:rabo: inunaga mjanjkanagatu manne:deru.
52	共通語	さとうは あまい。くすりは あまくない。
52	1. 茶花・立長	sataja amasai. kusuija amakune.
52	2. 古里・那間・叶	{sataja / sato:} ?amasai. kusuija ?amakunne:.
52	3. 朝戸・城	sato: amasai. kusuija amakunne:.
52	4. 麦屋西区	sataja amasai kusuija amaku nennu.
52	5. 麦屋東区	{sato: / sataja} amasan. kusuija amakunen.
53	共通語	去年 いとこが 中学の 先生に なった。
53	1. 茶花・立長	φuda itokonu teu:gakko:nu eince: nati. (cf. wana: teu:gakko:nu eince: natan. (私は中学校の先生になった))
53	2. 古里・那間・叶	φudu: ?iteu:mi:kwa:nu teu:gakunu sense: nati.
53	3. 朝戸・城	φudu itokoga teu:gakko:nu einse: nati.
53	4. 麦屋西区	φuda: itoko nu teu:gakuno sense:pi nati.
53	5. 麦屋東区	φudu itokoga teu:gakko:nu sense: {nati / natido / natan / natando}.
54	共通語	いとは 英語の 本が 読める。
54	1. 茶花・立長	itokonu jeigonu {honnu / hongu} jumarjui.
54	2. 古里・那間・叶	iteu:mi:kwa:ja je:gonu hon intea jumi najui.
54	3. 朝戸・城	itokoja je:gonu honja juminajun.
54	4. 麦屋西区	itokoja je:gono hongu {jumiun / juminajun}.
54	5. 麦屋東区	itokoja jeigonu hon juminajun.

{ / } は複数の言い方があること、() は説明、《 》 は任意的であることを表す。

55	共通語	あの 人こそ ほんとうの 金持ちだ。
55	1. 茶花・立長	anu citea: eonnu hapimuteido.
55	2. 古里・那間・叶	?anu piteudu eonnu ?e:kijej.
55	3. 朝戸・城	anu pitea: sonnu hapimutei jei.
55	4. 麦屋西区	anu piteu koso sonnu hapimutei da.
55	5. 麦屋東区	anu piteudu: eonnu hapimuteido.
56	共通語	その 話は 妻にだけ 聞かせた。
56	1. 茶花・立長	φunu munugattaija tudzidakikati kicatean.
56	2. 古里・那間・叶	?unu panacēja tuzikatidaki kicatean.
56	3. 朝戸・城	φunu panaca: tudzikatidakidu kicatearu.
56	4. 麦屋西区	{φunu / unu} munugattaija abja:katidaki kicaeiteasai (「聞かせたい」の意).
56	5. 麦屋東区	unu {φanaca:~panaca:} {aφa:~apja:a} katidaki kicatean.
57	共通語	妻に 夕飯を 作らせる。
57	1. 茶花・立長	{tudziji / tudzikati / tudzijan} {juφuija / juφuio} {teukuraeu:ei / teukuracan}.
57	2. 古里・那間・叶	{tuzikati / tuzinan} juφui {teukuracun (今日・一回) / teukuratteun (習慣)}.
57	3. 朝戸・城	tudzikatidu juφuija teuracuru.
57	4. 麦屋西区	abja:ni {juφuintea / juφui} teukuracun.
57	5. 麦屋東区	aφa:kati juφui {teukuracun / teukuratean}.
58	共通語	夫は 竹で かごを つくった。(事実の報告/目撃過去)
58	1. 茶花・立長	utuja daiei kagu {teukuti / teukujun}.
58	2. 古里・那間・叶	{wutuja / wuta:} daiei soi {teukutai (報告) / teukutan (目撃)}.
58	3. 朝戸・城	wutuwa daiei tiru tsukuti. (事実の報告) / wutuwa daiei tiru tsukuju:tan. (目撃過去)
58	4. 麦屋西区	{wutuwa/wuta:} daiei tiruntean {tsukutan (事実の報告) / tsukutui (目撃現在) / tsukutai (目撃過去)}.
58	5. 麦屋東区	{ateo: / ateaja:} daiei kagu {tsukuti / tsukutan}.
59	共通語	次郎は おとうとの 三郎と けんかした。(事実の報告/目撃過去)
59	1. 茶花・立長	dziro:ja uttubinu saburo:tu ikkoieitei/ ikkoieita. (ikkoieita は0共通語的)
59	2. 古里・那間・叶	ziro:ja ?uttubinu saburo:tu {?ekkoieitei (報告) / ?ekkoieitei (目撃)}.
59	3. 朝戸・城	dziro:ja utubinu saburo:tu ekko: {citei (事実の報告) / eu:tan. (目撃過去)}.
59	4. 麦屋西区	dziro:ja ateanu (父親の) saburo:tu ekko: {citean (事実の報告) / eu:tan (目撃過去)}.
59	5. 麦屋東区	dziro:ja uttubinu saburo:tu {e:kuitei / e:kuitean}.
60	共通語	三郎は 次郎に 棒で なぐられた。(事実の報告/目撃過去)
60	1. 茶花・立長	saburo:ja dziro:ni bo:ei {suguraiti / utariti / utaritan}.
60	2. 古里・那間・叶	saburo:ja ziro:nan bo:ei {suguraitai (報告) / suguraiti (目撃)}.
60	3. 朝戸・城	saburo:ja dziro:in bo:ei {utariti (事実の報告) / utarju:tan. (目撃過去)}.
60	4. 麦屋西区	saburo:ja dziro:kati bo:ei {tatakaritan (事実の報告) / tatakariti (事実の報告) / nagurarju:tan (目撃過去)}.
60	5. 麦屋東区	saburo:ja dziro:nan bo:ei {suguraiti / eiguraiti}.
61	共通語	次郎は じいさんに しかられた。(事実の報告/目撃過去)
61	1. 茶花・立長	dziro:ja uφunai {?i:kurusariti (非敬語) / numo:rariti / numo:riti (敬語)}.
61	2. 古里・那間・叶	ziro:ja uφunan {?i:kurusaritai (報告) / ?i:kurusariti (目撃)}.
61	3. 朝戸・城	dziro:ja uφun {i:kurusariti (事実の報告) / i:kurusarju:tan (目撃過去)}.

{/} は複数の言い方があること、() は説明、《 》は任意的であることを表す。

61	4. 麦屋西区	dziro:ja uɸukara {i:ku:sariti tju:sa (伝聞) / i:ku:sarju:tan (目撃過去)}.
61	5. 麦屋東区	dziro: uɸunan {i:kurusariti / i:kusariti}.
62	共通語	おれは きのうは 新聞を よまなかった。
62	1. 茶花・立長	wana: kinu:ja eimbuna judinne:.
62	2. 古里・那間・叶	wana: kino:ja eimbuna jumantan.
62	3. 朝戸・城	wana: kino:ja eimbuna jumantan.
62	4. 麦屋西区	wana kino:ja eimbun janteun { jumantan (読まなかった) / jumarantan (読めなかった) }.
62	5. 麦屋東区	wana: kino:ja eimbun 《ja》 jumantan.
63	共通語	その 新聞は きょうのだ。きのうのは これだ。
63	1. 茶花・立長	ɸunu eimbuna eu:nuci. kinu:nuca: {ɸuri:jei / ɸuri:ji: / ɸurido:}.
63	2. 古里・那間・叶	?unu eimbuna eu:nuci. kino:nusa: ɸuri 《jei》.
63	3. 朝戸・城	ɸunu eimbuna {eu:nu / ɸu:nu} munu do:. kino:nusa ɸuri do:.
63	4. 麦屋西区	unu eimbuna eu:nuci. {kino:nuca: / kino:nu munuja:} ɸurido:.
63	5. 麦屋東区	ɸunu eimbuna eu:nucije: kino:nuca ɸurije:.
64	共通語	雨の ふる 日には ばあさんは 家で テレビばかり 見ている。(事実の報告/目撃過去)
64	1. 茶花・立長	?aminu {ɸujuru:pi:ja~pujuru:ci:ja} pa:pa:ja ja:no:ti terebibakkai miteui.
64	2. 古里・那間・叶	?aminu pujuru pi:ja pa:pa:ja ja:nunti terebi bakkai {miteun (他人に伝える) / miteui (自分で納得)}.
64	3. 朝戸・城	ami ɸujuru pi:ja pa:pa:ja ja:no:ti terebibakkai miteui.
64	4. 麦屋西区	aminu ɸu:ru pi:ja ɸa:ɸa:ja ja:nonti terebi bakkai miteui.
64	5. 麦屋東区	aminu ɸi:ja pa:pa:ja ja:nunti terebibakkai miteui.
65	共通語	お祝いの ときには ばあさんまで おどった。(事実の報告/目撃過去)
65	1. 茶花・立長	{joinutsukja: / joinutukja:} pa:pa:gadi {uduti / udutan}. (cf. wana: kinu: udutan (私は昨日踊った))
65	2. 古里・那間・叶	joinu ban 《ja》 pa:pa:gadi wuduti ?e:tan.(?e:tan は「報告」にも「目撃過去」にも言える。聞き手は目上へでも目下へでもよい)
65	3. 朝戸・城	joinu bapa pa:pa:gadi wudui eu:ti. (事実の報告) / joinu bapa pa:pa:gadi wudui eu:tan. (目撃過去)
65	4. 麦屋西区	u:joinu tukja ɸa:ɸa: gadi {wuduti tju:sa (踊ったそうだ) / wudui eitei (事実の報告) / wu:dui eu:tan (目撃過去)}.
65	5. 麦屋東区	joinu tukja: pa:pantara ɸu:duieitei.
66	共通語	花子は きょうから 病気で ねている。(事実の報告/目撃過去)
66	1. 茶花・立長	hanako:ja kino:kara {jadi jintui / jintun}. (cf. wana: kino:kara jadi jintun (私は昨日から病気で寝ている))
66	2. 古里・那間・叶	hanako kino:kara jadi {jintun (報告) / jintui (目撃)}.
66	3. 朝戸・城	hanakoja kino:kara jadi jintui.
66	4. 麦屋西区	hanakoja kino:kara jadi jibutui.
66	5. 麦屋東区	hanakoja kino:kara jadi jintun.
67	共通語	花子は かあさんに ごはんを たべさせて もらった。
67	1. 茶花・立長	hanako:ja amma:in aeikuio ko:sariti.
67	2. 古里・那間・叶	hanakoja ?amma:nan ?aeikui ko:tei muro:tan.

{/} は複数の言い方があること、() は説明、《 》は任意的であることを表す。

67	3. 朝戸・城	hanakoja ammain aeikui {ko:sariti tju:sa (事実の報告) / ko:sarju:tan (目撃過去)}.
67	4. 麦屋西区	hanakoja amma: kati maintean ko:tei { muro:ti (事実の報告) / mure:tan (目撃過去) }.
67	5. 麦屋東区	hanakoja ŋunagunujanān aeikui ko:timuro:tun.
68	共通語	医者が くれた くすりを のめば なおるだろう。
68	1. 茶花・立長	{ieaga / icanu} {tabatearu~taba:tearu} kusui numibo: no:juruŋadzi.
68	2. 古里・那間・叶	?icanu kuritaru kusui numibo: {no:iecami~no:juccami}.
68	3. 朝戸・城	icanu taba:ru kusui numibo: no:juru padzi.
68	4. 麦屋西区	ieaga kuritaru kusuintea: numibo: no:juru ŋadzi.
68	5. 麦屋東区	icanu kuritaru kusui numibo: {no:juruŋadzi/ no:jurupadzi}.
69	共通語	かあさんは 市場へ 買物に 行った。(事実の報告/目撃過去)
69	1. 茶花・立長	amma:ja iteibakati he:munu {eijnŋadzi / eijnŋa:idi}.
69	2. 古里・那間・叶	?amma:ja ?iteibakati he:munu eijnŋa ?e:tan.
69	3. 朝戸・城	amma:ja iteibakati ɕe:munu eijnŋa {idzi tju:sa. (事実の報告) / ikju:tan. (目撃過去)}.
69	4. 麦屋西区	amma:ja iteibakati he:munu ŋi ({idzan / idzi} (事実の報告) / idzai (目撃過去)).
69	5. 麦屋東区	ka:sana misekati he:munu eijnŋaiku:tan.
70	共通語	道で 学校の 先生に 会った。
70	1. 茶花・立長	miteina:di gakko:nu eince:tu {itteo:tan (敬語) / o:ti / o:tan (非敬語) }.
70	2. 古里・那間・叶	miteina:nunti gakko:nu sense:tu ?itteo:tan.
70	3. 朝戸・城	miteino:ti gakko:nu einse: itteo:tan.
70	4. 麦屋西区	miteno:ti gakko:nu sense:tu o:tan.
70	5. 麦屋東区	miteina:nonti gakko:nu sense:tu o:tan.
71	共通語	なにを 買おうか。
71	1. 茶花・立長	nu: he:raga.
71	2. 古里・那間・叶	nu: he:raga.
71	3. 朝戸・城	nu: ɕe:raga.
71	4. 麦屋西区	nu:ntean ho:juŋga.
71	5. 麦屋東区	nu: he:raga. (独り言)
72	共通語	和子のと おなじ げたを 花子にも かってやろう。
72	1. 茶花・立長	kazukoeitu manne: acidzao hanakojimo ho:titureatean. (「買ってあげた」に当たる形式)
72	2. 古里・那間・叶	{kazukotu / kazukoeitu} manne: euru getantea: hanakokatin ho:ti turasan.
72	3. 朝戸・城	kazukotu manne: eiru acidzantea: hanakokatin ho:ti {turasan / kuriran}.
72	4. 麦屋西区	kazukotu jurumununu acidzantean hanakokatin ho:ti kuriran.
72	5. 麦屋東区	kadzukoeitu mannen eijuru acidzatean hanakokatin ho:ti {turasan / ta:san}.
73	共通語	和子と 花子は 友だちだ。
73	1. 茶花・立長	kazukotu hanakoja {agunati / agudo: / agujei}.
73	2. 古里・那間・叶	kazukotu hanakoja {?aguntea: / ?aguntea:jei / ?agu / ?agujei}.
73	3. 朝戸・城	kazukotu hanakoja agu do:.
73	4. 麦屋西区	kazukotu hanakoja agu nati.
73	5. 麦屋東区	kadzukotu hanakoja agudo:.
74	共通語	花子は 顔が かあさんに よく 似ている。
74	1. 茶花・立長	hanako:ja teiranu amma:tu mittapniteui.

{/} は複数の言い方があること、() は説明、《 》は任意的であることを表す。

74	2. 古里・那間・叶	hanakoja teiranu ʔammatu ju: {niteui / miteui}.
74	3. 朝戸・城	hanakonu teiro: amma:tu kawatti niteui
74	4. 麦屋西区	hanakoja teiranu amma:ni {junneei / manneei} niteui.
74	5. 麦屋東区	hanakoja {teiraga / teijanu} ka:sannan eikkai {niteui / niteuido}.

{/} は複数の言い方があること、() は説明、《 》は任意的であることを表す。

与論方言 文法例文集（かな）

01	共通語	おれは きょうは いそがしい。
01	1. 古里・那間・叶	{わな/ わぬや} ちゅーや いちゅなひやい。
01	2. 茶花・立長	わなー しゅーや いちゅなしやい。
01	3. 朝戸・城	わなー ひゅーや ^いちゅなしやい。
01	4. 麦屋西区	わなー きゅーや {^いちゅなしやん / ^いちゅなしやい}。
01	5. 麦屋東区	{わなー / わぬや} しゅーや みったん (とても) {いちゅなさい / いちゅなさいどー}。
02	共通語	おまえが 畑へ 行け。
02	1. 古里・那間・叶	うらが ぱったいかていや いき。
02	2. 茶花・立長	うらが ぱったいかてい ぱいよー。
02	3. 朝戸・城	^うらが ぱったいかてい ^いき。 (年下に) / ^うれーが ぱったいかてい うわーりよ。 (年上に)
02	4. 麦屋西区	^うらが ぱったいかてい {ぱい / ^いき}。
02	5. 麦屋東区	{うろー (目下へ) / うらが (目上へ) } ぱったいかてい {ぱい / ぱいよー / いき / いきよー}。
03	共通語	うん・畑へは おれが いく。
03	1. 古里・那間・叶	いいん ぱったいかていや わが いきゅん。
03	2. 茶花・立長	ぱったいかてやー わーが いきゅん。
03	3. 朝戸・城	んん ぱったいかてやー わーが {^いきゅん / ^いきゅんどー (目上へ) }。
03	4. 麦屋西区	んー ぱったいかてい わーが {^いきゅん / ばゅん / ばゆい (人が行くのを見た時) }。
03	5. 麦屋東区	とー ぱったいかてい わーが {いきゅんどー / ばゅんどー}。
04	共通語	おれの 鍬は どこに ある。
04	1. 古里・那間・叶	わー こいちゃ いだなん ありゅんが。
04	2. 茶花・立長	わー こいちゃー いだなん あゆんが。
04	3. 朝戸・城	わー こいちゃー ^いだなん ^あゆんが。
04	4. 麦屋西区	わー こいちゃー ^いだなん ^あゆんが。
04	5. 麦屋東区	わー こいちゃえー いだなん あゆんが。
05	共通語	この 鎌は 太郎のか。
05	1. 古里・那間・叶	ふぬ はもー たろーぬ ひー。
05	2. 茶花・立長	ふぬ はもー たろーしだらひ。
05	3. 朝戸・城	ふぬ {はまや / はもー} たろーしー。
05	4. 麦屋西区	くぬ はもー たろーしー。
05	5. 麦屋東区	ふぬ {はもー / はまや} たろーしー。
06	共通語	どれが おまえの 笠だ
06	1. 古里・那間・叶	いどうるが うら {はさが/ はさや}。
06	2. 茶花・立長	いどうるが うら はそー。
06	3. 朝戸・城	^いどうーるが ^うら はさが。 / ^いどうーる ^うれー {はさいー / はさだらひ(目上へ)} 。
06	4. 麦屋西区	^いどうるが ^うら はさが。
06	5. 麦屋東区	いどうるが うら はさが。
07	共通語	その 笠が おれのだ。
07	1. 古里・那間・叶	うる はさが わーひ。 / うる はそー わーひだー。

～は発音のゆれ、{ / } は複数の言い方があること、() は説明、《 》 は任意的であることを表す。

07	2. 茶花・立長	うぬ はさが わーし。
07	3. 朝戸・城	へうぬ はそー わーしどー。
07	4. 麦屋西区	へうぬ はそー わーし。
07	5. 麦屋東区	ふりが わーしどー。
08	共通語	この ふろしきは おまえのか。
08	1. 古里・那間・叶	ふぬ ぷるひきやー うら ひー。
08	2. 茶花・立長	ふぬ ぷるしきや うらしー。
08	3. 朝戸・城	ふぬ ふろしきや {へうらしー / へうれーしー}。
08	4. 麦屋西区	へうぬ {ぷるしきやー〜ふるしきやー} へうらしー。
08	5. 麦屋東区	ふぬ ぷるしきや うらしー。
09	共通語	それは おとうとの かもしれない。
09	1. 古里・那間・叶	うりや うっとうびぬひ げーら わからぬ。
09	2. 茶花・立長	うりやー うっとうびぬし げーら。
09	3. 朝戸・城	へうりやー へうっとうびぬし げーら わからん。
09	4. 麦屋西区	へうりやー へうっとうびぬし げーら わからん。
09	5. 麦屋東区	{うりやー / うりや} {うっとうびぬしや あらんだらい / うっとうびぬしげーら わからん}。
10	共通語	沖縄には 船で 行くより 飛行機で 行った ほうが いい。
10	1. 古里・那間・叶	おきなわ かてや ぷにひ {いきゅーひ えーくま/ いきひ えーくま} ひこーき ひ {いきぼー / ぱゆひや} {はみぬー/ はみんくえー}。
10	2. 茶花・立長	うきなわかてやー ぷにーし いきしえーくんま ひこーきしー いじやる ほーどう まし。
10	3. 朝戸・城	やんばるかてやー ぷにし へいきゅしえー{くまん〜くまーん} ひこーきし へい じやるほーが ゆたしやい。
10	4. 麦屋西区	へおきなわかてやー ぷにし へいきゅーしえーくんま ひこーきし {ばいがどう / ばいしどう / へいきがどう} ましえー。
10	5. 麦屋東区	やんばるかてやー ぷにし いかりゆくまー ひこーきし いきばどう ましどー。
11	共通語	飛行機は 一日に 一回しか ない。
11	1. 古里・那間・叶	ひこーきやー {びちゆいーん / ぴちちゆいのんてい} ちゅっけーどう {あゆい / あいいる}。
11	2. 茶花・立長	ひこーきやー いちにちに いっくわいどう あいる。
11	3. 朝戸・城	ひこーきやー ぴちちゆい つけーどう へあいる。
11	4. 麦屋西区	ひこーきやー ぴちちゆいなん ちゅっけーどう へあいる。
11	5. 麦屋東区	ひこーきや びちちゆいぬんてい ちゅっけーどう あゆい《どー》。
12	共通語	空港なら こっちの 道を 行きなさい。
12	1. 古里・那間・叶	くーこーえんぼー {ふぬ/ ふまぬ} みちなー から ばい。
12	2. 茶花・立長	ひこーじよーなら ふまぬ みちんちゃー ばいよー。
12	3. 朝戸・城	くーこー いえんどー ふぬ {みちんなー / みちなー / みちから}{へいき / ばい}。
12	4. 麦屋西区	くーこーかていえんぼー くまぬ みちから ばい。
12	5. 麦屋東区	くーこーかてやー ふまぬ みちなーから {ばい / ばいよー}。

〜は発音のゆれ、{ / } は複数の言い方があること、() は説明、《 》は任意的であることを表す。

13	共通語	道の まんなかを あるいては いけない。
13	1. 古里・那間・叶	みちなーぬ まんなーから あいちゃー ならんぬ。
13	2. 茶花・立長	みちぬ まんなーかろー あいくのーやー。
13	3. 朝戸・城	{みちなーぬ まんなーや / みちぬ まんなー}{^あいち わんのー (年上に) / ^あいちゃー ならぬ (同僚に) / {^あいくのー ~ ^あいくなー }(年下に) }。
13	4. 麦屋西区	ぶんどーぬ まんなーや ^あいちゃー {ならんぬ / ならぬ}。
13	5. 麦屋東区	みちなーぬ まんなーから あいちゃー ならんどー。
14	共通語	道が 広いなあ。
14	1. 古里・那間・叶	わい みちなー 《や》 {びゅーそー / うぶひよー}。
14	2. 茶花・立長	みちが うしょー。
14	3. 朝戸・城	みちやー びゅーさい。
14	4. 麦屋西区	ぶんどーや ^うぶしょーやー。
14	5. 麦屋東区	みちなーぬ びゅーさいやー。 / がっぱら みちなー えーやー。(広い道だなあ。)
15	共通語	あ、雨が ふってきた。
15	1. 古里・那間・叶	{あっせー / わい} あみ 《ぬ》 ぶていきゆい。
15	2. 茶花・立長	わい {あみが / あみぬ} ていきゆい。
15	3. 朝戸・城	^あー, ^あみぬ ぶてい {きちゃん / きー / きゆい}。
15	4. 麦屋西区	{^あっし / や'}, ^あみぬ ぶていきゆい。(「や」は降ってくると思っていたなかったのに降ってきた時)
15	5. 麦屋東区	あっしえー あみぬ ぶていきち。
16	共通語	いとこの 布団が やねの 上に ほしてある。
16	1. 古里・那間・叶	たろーぬ (太郎の) うどうが やーぬ {ちじなん / ^ういなん} ぶちやい。
16	2. 茶花・立長	たろーぬ (太郎の) ふとんが やーぬ ういなん {ちゃっちぼ (対話)/ ちやい (独話)}。
16	3. 朝戸・城	^いとくぬ ^うどうんちゃー やーぬ {^ういなん / ^ういなんい} ぶちやい。
16	4. 麦屋西区	^いとこぬ ^うどうぬ やーぬ ^ういなー ぶっちゃん。(人に訊ねられて答える時) / ^あまなー ^いとくぬ ^うどうが ぶっちゃん。(見て言う時)
16	5. 麦屋東区	たろーぬ (太郎の) うどうんちゃーな {やーぬ / やにぬ} ういなん ちやい。
17	共通語	きのうは 今日より 風が 強かった。
17	1. 古里・那間・叶	きのーや {ひゅーいえーくま~ひゅーいえーくんま} はでいが ちゅーさたん。
17	2. 茶花・立長	きのーや しゅーえーくんま はでいが ちゅーさいだー。
17	3. 朝戸・城	きのーや {ひゅーいえーくまん~ひゅーえーくまん} はでいぬ {ちゅーさい / ちゅーさたん}。
17	4. 麦屋西区	きぬーや ひゅーえーくんま はでいや ちゅーさたん。
17	5. 麦屋東区	きんのーや {しゅーいえくまー / しゅーやくまー} はでいぬ ちゅーさたんやー。
18	共通語	真っ白な 鳥が 空を 飛んでいる。
18	1. 古里・那間・叶	まっひるーかひる とういぬ ていんとーから とうでい あいきゆい。
18	2. 茶花・立長	すーとういぬ ていんとーから とうでい あいきゆい。
18	3. 朝戸・城	ましか しゅる とういぬ ていんとー とうでい ^あいきゆい。

{/} は複数の言い方がること、() は説明、《 》は任意的であることを表す。

18	4. 麦屋西区	すーさる とういが ていんとー {とうどうい / とうだいきゅい / とうでい あいきゅい (飛びながら移動している時)}。
18	5. 麦屋東区	すーさる {とういが / とういぬ} ていんとーから とうでい あいきゅい。
19	共通語	あの 山には いのししが いるそうだ。
19	1. 古里・那間・叶	あぬ やまなにや {いぬひひが / いぬひひぬ} う ゆっちゅーさ。
19	2. 茶花・立長	あぬ やまなんや いぬししが ういっちゅーさ。
19	3. 朝戸・城	^あぬ やまなんや ^いぬししが ういっちゅーさい。
19	4. 麦屋西区	^あぬ やまなんや ^いぬししぬ ^ういっちゅーさ。
19	5. 麦屋東区	あぬ やまなんや ししぬ ふいっちゅーさ。
20	共通語	あれは 学校だ。 役場では ない。
20	1. 古里・那間・叶	ありや がっこーでーる。 やくぼー あらんぬ。
20	2. 茶花・立長	ありヤー がっこーえー。 やくぼー あらじだ。
20	3. 朝戸・城	^ありヤー がっこー でーる。 やくぼー {^あらん / ^あらぬ / ^あやびらぬ (年上に)}。
20	4. 麦屋西区	^ありヤー がっこーでーる。 やくぼー ^あらんぬ。
20	5. 麦屋東区	ありや がっこーどー。 {やくばや / やくぼー} あらんどー。
21	共通語	あれが 役場だ。
21	1. 古里・那間・叶	ありどう やくばいえーる。 / ありが やくばでーる。
21	2. 茶花・立長	ありが やくば{えー / でーだ / でんだー}。(後者二つは断定強い。)
21	3. 朝戸・城	^ありが やくばどー。
21	4. 麦屋西区	^ありヤー やくばでーる。
21	5. 麦屋東区	あまが やくばどー。
22	共通語	あの 目の おおきい・ 色の 白い 男は だれだろう。
22	1. 古里・那間・叶	あぬ みたたまぬ うびやる いるぬ すーさる {ういごー / ういがーや} たるが 《ちょー》。
22	2. 茶花・立長	あぬ みたたまぬ うびさる いるぬ すーさる ういごー {たるだらが / たるだーが}。
22	3. 朝戸・城	^あぬ みたたまぬ うふしやる ^いるぬ すーさる ういごー {たるがない / たるだらが}。
22	4. 麦屋西区	^あぬ みたたまぬ ^うびしやる ^いるぬ すーさる うういごー たるだーが。
22	5. 麦屋東区	あぬ みたたまぬ うしやる いるぬ すーさる ふいかわ たるだらが。
23	共通語	孫が 去年から 東京に いる。
23	1. 古里・那間・叶	うまがが ふどうから とーきよーなん うゆん。
23	2. 茶花・立長	うまがが ふどうから とーきよーなん {うゆい (眼前) / うゆん (非眼前)}。
23	3. 朝戸・城	^うまがが ふどうから とーきよーない うゆん。
23	4. 麦屋西区	^うまごー ふどうから とーきよーなん {^うゆん / ふゆん}。
23	5. 麦屋東区	うまがが ふどうから とーきよーなん ふゆんどー。
24	共通語	孫は いつ 東京から 帰るか。
24	1. 古里・那間・叶	うまごー いち とーきよーから むぢゆんが。
24	2. 茶花・立長	うまがや いち とーきよーから むでいてい きゆんが。
24	3. 朝戸・城	^うまごー ^いち とーきよーから むでゆんが。
24	4. 麦屋西区	^うまごー ^いち とーきよーから むでゆんが。
24	5. 麦屋東区	{うまごー / うまがや} いち とーきよーから むでゆんが。

～は発音のゆれ、{ / } は複数の言い方があること、() は説明、《 》 は任意的であることを表す。

25	共通語	八月には 帰って くる ようだ。
25	1. 古里・那間・叶	ばちがちにや むでいてい きーぎさい。
25	2. 茶花・立長	ばちがちんや むでいてい きーぎさいだー。
25	3. 朝戸・城	ばちがちんや むどうてい {きゅーるぱじ《どー》/ きーぎさい}。
25	4. 麦屋西区	{ばちがちんや / ばちがちにや} むでいてい きーぎしやい。
25	5. 麦屋東区	ばちがちにやー むでいてい きーぎさいどー。
26	共通語	かあさんは あした 東京へ むすこに 会いに いく。
26	1. 古里・那間・叶	あんまーや あっちゃー とーきよーかてい ういかむくわ いっちえんにや {ばゆん / いきゅん}。
26	2. 茶花・立長	あんまーや あっちゃー とーきよーかてい くわーかてい {いちええんにや / ぱいんだー / いきゅんだー}。
26	3. 朝戸・城	^あんまが ^あっちゃー とーきよーかてい ういがぬくわー ^いちええんなー {^いきゅん (今から行く) / ^いきゅい (既に出発している)}。
26	4. 麦屋西区	かーちゃんや ^あっちゃー とーきよーかてい くわー ^いっちえーや ^いきゅん。
26	5. 麦屋東区	あひぱーや あっちゃー とーきよーかてい わらびぬ ぱたーてい いっちえんにや ばゆん。
27	共通語	大阪から 東京までの 汽車賃は いくらだろうか。
27	1. 古里・那間・叶	おーさかから とーきよーんたーなぬ きひやちにや {いちやさだーが/ いちやさだらが}。
27	2. 茶花・立長	おーさかから とーきよーかていぬ きしゃちんや いちやつさだらが。
27	3. 朝戸・城	おーさかから {とーきよーんたーらぬ / とーきよーんたーなぬ} きしゃちんや ^いちやさだらが。
27	4. 麦屋西区	^おーさかから とーきよーんたなぬ きしゃちんや ^いちやさだーが。
27	5. 麦屋東区	おーさかから とーきよーんたーなぬ きしゃちんや いちやさだらが。
28	共通語	四時まで 駅で まっておれ。
28	1. 古里・那間・叶	よじんたーな いえきなん まっちゅりよー
28	2. 茶花・立長	よじんたーな いえきで {まっちゅり / まちゅりよー}。
28	3. 朝戸・城	ゆじんたーな いえきのんてい {まっちゅり / まっちわーり (目上へに)}。
28	4. 麦屋西区	ゆぢんたな ^えきのんてい まっちゅり。
28	5. 麦屋東区	よじんたーな いえきのんてい まっちゅりよー。
29	共通語	五時までに 帰らなくては ならない。
29	1. 古里・那間・叶	ごじんたーな むどうりばどう ないる。
29	2. 茶花・立長	ごじんたーな {むでいりばどう なゆる (子どもが友だちに言う時)/ むでいりよーやー (母が子に言う時)}。
29	3. 朝戸・城	{ごじんたーら / ごじんたーな} むどうりばどう 《なゆい》。
29	4. 麦屋西区	ごぢんたーら むでいらんだーぼー ならんぬ。
29	5. 麦屋東区	ごじんたーな {むでいりばどう。 / むでいりばどう なゆいどー。}
30	共通語	次郎、この 荷物を 家まで かついで 行ってくれ。
30	1. 古里・那間・叶	じろー ふぬ にもつんちゃ {やーんたーな / やーかてい} はたみてい むていじくりり。
30	2. 茶花・立長	じろー ふぬ にもちゅんちゃー {やーかてい / やーいんたーな} むちゅばいよー。

{/} は複数の言い方があること、() は説明、《 》は任意的であることを表す。

30	3. 朝戸・城	じろー ふぬ みーむちんちゃー やー{んたーら / んたーな} はしぎてい {むちじ くりり (持って行ってくれ)/ へいじ くりり (行ってくれ)}。
30	4. 麦屋西区	ぢろー ふぬ にもつんちゃー やーんたーら はたみてい へいぢくりり。
30	5. 麦屋東区	じろー ふぬ にもつんちゃーな やーんたーな はたみてい いじくりり。
31	共通語	荷物が 重かったので 二人で もった。
31	1. 古里・那間・叶	にもつぬ うんさぬ たいひ むっちゃん。
31	2. 茶花・立長	にむちゆぬ うんさぬ わったいし むっちゃん。
31	3. 朝戸・城	みーむちぬ へうむさたるなてい たいし むっちゃん。
31	4. 麦屋西区	にもつぬ へうむさぬ たいし むっちゃん。
31	5. 麦屋東区	にーぬ うむさぬ たいし むっちゃん。
32	共通語	この 上着は このまえ 沖縄で 二千円で 買った。
32	1. 古里・那間・叶	ふぬ {わーぎや/ わーぎゃ} ふねーだ おきなわぬんてい にひえんえんひ ほーたん。
32	2. 茶花・立長	ふぬ うわぎゃー ふねーだ おきなわのーてい にせんえんし ほーたん。
32	3. 朝戸・城	ふぬ わーぎゃー ふねーだ やんばるのーてい にしえんえんし ほーた。
32	4. 麦屋西区	ふぬ わーぎゃー ふねーだ やんばるんてい にせんえんし ほーたん。
32	5. 麦屋東区	ふぬ わーぎや ふねーだ うきなぬんてい にせんえんし ほーたん。
33	共通語	沖縄には めずらしい 菓子が ある。
33	1. 古里・那間・叶	おきなわなんや かわとうる {くわひが / くわひぬ} あゆい。
33	2. 茶花・立長	おきなわなんや みじらしゃる くわしが {あゆんだー (見て) / あゆい (見て) / あゆちゅーさ (伝聞)}。
33	3. 朝戸・城	やんばるなんや みじらしゃる くわしぬ {^あゆん / ^あゆい / ^あい}。
33	4. 麦屋西区	^おきなわなん j あー みぢらしゃる ^あーまがい が ^あゆい。
33	5. 麦屋東区	おきなーなんや みじらしゃる くわしぬ あゆい。
34	共通語	孫は お菓子が 好きだ。
34	1. 古里・那間・叶	うまごー {くわひが ひきぼー/ くわひーどう はみんひゃひゆい}。
34	2. 茶花・立長	うまがや くわしんちゃー まさしゆんだー。
34	3. 朝戸・城	へうまごー {くわし / ^あーまがい} すきだ。
34	4. 麦屋西区	へうまごー ^あーまがい {まさしゆん / まさしゆい}。
34	5. 麦屋東区	うまがや くわしぬ すきどー。
35	共通語	箱の 中に まんじゅうが いくつ あると おもうか。
35	1. 古里・那間・叶	ばふぬ なーなん まんじゅーが いくーち あゆんち {まーりゆいが / むーゆいが}。
35	2. 茶花・立長	ばふぬ なーなん まんじゅーや いくーち あゆん。
35	3. 朝戸・城	ばふぬ なーない くわしが へいちやさ {^あゆんち / ^あゆいち / ^あいち} もーゆいが。
35	4. 麦屋西区	ばくぬ なーなん まんぢゅーや へいくち ^あゆんち むーゆいが。
35	5. 麦屋東区	ばふぬ なーなん まんじゅーが いくーち あゆんち まーりーが。
36	共通語	孫は まんじゅうを 皮だけ 食べる。
36	1. 古里・那間・叶	うまごー まんじゅーぬ {ほーだき これん/ ほーだきどう これる}。
36	2. 茶花・立長	うまがや まんじゅーや ほーばっかいどう これる。
36	3. 朝戸・城	へうまごー まんじゅーや ほーだけ これん。

～は発音のゆれ, { / } は複数の言い方があること, () は説明, 《 》 は任意的であることを表す。

36	4. 麦屋西区	へうまごー まんぢゅーや ほーだき {これん / これる}。
36	5. 麦屋東区	{うまごー / うまがや} まんじゅーや ほーだきどう {これんどー / これーる}。
37	共通語	じいさんは 朝から 海へ 魚を とりに いった。(事実の報告 / 目撃過去)
37	1. 古里・那間・叶	へうふあー しかまから へうんかてい ゆー とうんにや {わーちゃい (報告) / へえーたん (目撃)}
37	2. 茶花・立長	うふあ しかまから うんかてい ゆー とうんにや えーたん。
37	3. 朝戸・城	うふや しかまから うんかてい ゆー とうんにや いえーたん
37	4. 麦屋西区	うふわ しかま から うんかてい {ゆー / ゆーうお} とうんにや {いちゃん (行った、事実の報告) / いきーどー (行きよる、目撃過去) / いぢてゆーさ (行ったそうだ)}。
37	5. 麦屋東区	うふあー しかまから うんかてい ゆー とうんにや {いえーたん (目上へ) / ぱいいたん (目下へ) / いきゅーたん (目下へ)}。
38	共通語	ここは 海に ちかいので 魚が うまい。
38	1. 古里・那間・叶	ふもー へうんかてい きゃーさるなてい ゆーや まさん。
38	2. 茶花・立長	ふもー うんぬ きゃーさぬ ゆーぬ まさい。
38	3. 朝戸・城	ふもー {うんかてい / うんぬ} きゃーさぬ ゆーぬ まさい。
38	4. 麦屋西区	ふもー うんに きゃーさぬ なてい ゆーが まさい。
38	5. 麦屋東区	ふもー うんかてい きゃーさるなていぢゆーぬ {まさんどー (知識経験を言う場合) / まさい (食べた時の感想として言う場合)}。
39	共通語	魚より 肉の ほうが 高い。
39	1. 古里・那間・叶	ゆーいえーくん にくぬ はたぬ {たーさん (他人に伝える時) / たーさい (目の前にある時)}。
39	2. 茶花・立長	ゆーいえくまんや にくぬ たかさい。
39	3. 朝戸・城	ゆーいえーくにや ししぬ はたが たかさい。
39	4. 麦屋西区	ゆー いえーか にくの ほーが たかさい。(「しし」は肉の意味では使わない。動物の名前)
39	5. 麦屋東区	ゆー いえーくまん にく はたが たかさい。
40	共通語	おれは 蛸の さしみが 食べたい。
40	1. 古里・那間・叶	わなー たふぬ さしみぬ これーちゃさい。
40	2. 茶花・立長	わなー たふぬ さしみが これちゃさい。
40	3. 朝戸・城	わなー たふぬ さしみ これちゃさい
40	4. 麦屋西区	わな たふぬ さしみが これちゃさい。
40	5. 麦屋東区	わなー たふぬ さしみ《どう》これちゃさい。
41	共通語	おまえは この 魚の 名まえを 知っているか。
41	1. 古里・那間・叶	{へうらーや / へうろー} ふぬ ゆーぬ {なーんちゃ / なーや} {しっちゅんむい (同等・目下へ) / しちへえんむい (目上へ)}。
41	2. 茶花・立長	うろー ふぬ ゆーぬ なーいんちゃー しっちゅんむい。
41	3. 朝戸・城	うろー ふぬ ゆーぬ なー しっちゅんむい。
41	4. 麦屋西区	{あんたわ / うろー} ふぬ ゆーぬ なーいんちゃん {しっちゅんみー / しっちゅーみー}。
41	5. 麦屋東区	うろー ふぬ ゆーぬ なー しっちゅみ。

{/} は複数の言い方があること、() は説明、《 》は任意的であることを表す。

42	共通語	これは かつおだろう。
42	1. 古里・那間・叶	ふりや {かち / かつお} でんまーに一。
42	2. 茶花・立長	ふりやー かつお いえっしやみ。
42	3. 朝戸・城	ふりやー かつおが いえーら。
42	4. 麦屋西区	{ふりや / ふりやー} かつお いえんまい。
42	5. 麦屋東区	ふりやー かつお でーらや。
43	共通語	酒は どうやって つくるか おまえは 知っているだろう？
43	1. 古里・那間・叶	さいや へいちゃし ちゅくとうんちち へうろー しっちゅんむい。
43	2. 茶花・立長	さいや いちゃし ちゅくゆんが うろー しっちゅしやみ。
43	3. 朝戸・城	さいや いぢやし つくゆんし うろー しっちゅっしやみ。
43	4. 麦屋西区	さいや いちゃしち つくゆんが うろー {しっちゅんみー / しっちゅるふあぢ (推量)} (推量)}
43	5. 麦屋東区	さいや いちゃし ちゅくゆしが うろー しっちゅらやー。
44	共通語	酒は 米から つくる。
44	1. 古里・那間・叶	さいや ふみから ちゅくゆん。
44	2. 茶花・立長	さいや ふみから ちゅくゆん。
44	3. 朝戸・城	さいや ふみから つくゆん。
44	4. 麦屋西区	さいや ふみから つくゆん。
44	5. 麦屋東区	さいや ふみから ちゅくゆん。
45	共通語	酒さえ あれば なにも いらぬ。
45	1. 古里・那間・叶	さいそーか へありぼー ぬーいん や'んぬ。
45	2. 茶花・立長	さいいえーか ありぼー ぬーん や'んぬ。
45	3. 朝戸・城	さいそーが ありぼー ぬーい や'んぬ。
45	4. 麦屋西区	さい どーか ありぼー ぬーいん や'んぬ。
45	5. 麦屋東区	さいそーか ありぼー ぬーん や'んぬ。
46	共通語	うちの じいさんは 酒も たばこも のまない。
46	1. 古里・那間・叶	わーちやが へうふあー さいん たばくん {しらんぬ / ぬまんぬ}。
46	2. 茶花・立長	やーぬ うふーや さいいん たばくん あぎらんぬ。
46	3. 朝戸・城	わー うふや さいいん たばくん ぶかんぬ
46	4. 麦屋西区	わーちやが うふあー さいん たばくん ぬまんぬ。
46	5. 麦屋東区	わーちやが うふやー さいいん たばくん あぎらんぬ。 (「酒」は「ぬまんぬ」。 「たばこ」は「ぶかんぬ」と言う)。
47	共通語	その 水は のむな。 のむなら この 水を のめ。
47	1. 古里・那間・叶	へうぬ みじやー ぬむんな。 ぬみゆーらぼー ふぬ みじ ぬみ。
47	2. 茶花・立長	ふぬ みぢやー ぬむな。 ぬみゆんぼー ふぬ みぢ ぬみ。
47	3. 朝戸・城	うぬ みぢやー ぬむな。 ぬみんぼー ふぬ みぢ ぬみ。
47	4. 麦屋西区	ふぬ みぢや ぬむんの一。 {ぬみば ないんぼー / のみちやさんぼー (飲みたければ)} ふぬ みづんちやー ぬみ。
47	5. 麦屋東区	うぬ {みぢやー〜みぢや} ぬむな。 ぬみゆんぼー ふぬ みぢぬはた ぬみ。
48	共通語	なぜ おまえは たべないのか。
48	1. 古里・那間・叶	ぬーなってい へうろー {こんぬが / ころんぬが}。
48	2. 茶花・立長	ぬーなてい うろー ころんぬが。
48	3. 朝戸・城	ぬーなてい うろー ころんぬが。

～は発音のゆれ、{ / } は複数の言い方があること、() は説明、《 》 は任意的であることを表す。

48	4. 麦屋西区	ぬーなてい うろー ころんぬが。
48	5. 麦屋東区	ぬーなんてい うろー ころんぬが。
49	共通語	おれは さつまいもなんか 食べないぞ。
49	1. 古里・那間・叶	わなー へうんなごー ころんぬ。
49	2. 茶花・立長	わなー うんなごー ころんぬ。
49	3. 朝戸・城	わなー うんなごー ころんどー。
49	4. 麦屋西区	わなー うんなごー ころんどー。
49	5. 麦屋東区	わなー うんなご {ころんどー / こんどー}。
50	共通語	もう 食べられる ものは 全部 食べた。
50	1. 古里・那間・叶	にやー こーりゆーる むなー むーる こーたん。
50	2. 茶花・立長	にやー こーりるむな むーる こーたん。
50	3. 朝戸・城	にやー こーりゆる むなー むーる こーたん。
50	4. 麦屋西区	にやー こーりゆーる むなー むーる こーたん。
50	5. 麦屋東区	にやー こーりゆる むなー むーる こーたん。
51	共通語	食べて ねるだけなら いぬや ねこと おなじだ。
51	1. 古里・那間・叶	こーてい にぶゆーる だき {へえんぼー / へえーらぼー} いぬみやーとう {まん ねーいiei / ゆるむぬいiei}。
51	2. 茶花・立長	こーてい にぶゆるだきいえんぼー いぬや みやんかとう まんにえーいiei。
51	3. 朝戸・城	こーてい にぶゆる だき いえんぼー いぬなが みやんかながとう ゆる むぬ で ーる。
51	4. 麦屋西区	こーてい にぶいる だきいえんぼー いぬや みやんかとう ゆるむぬ。
51	5. 麦屋東区	こーてい にぶゆる だき でーらぼー いぬなが みやんかながとう まんねーでる。
52	共通語	さとうは あまい。 くすりは あまくない。
52	1. 古里・那間・叶	{さたや / さとー} ^あまさい。 くすいや ^あまくんねー。
52	2. 茶花・立長	さたや あまさい。 くすいや あまくね。
52	3. 朝戸・城	さとー あまさい。 くすいや あまくんねー。
52	4. 麦屋西区	さたや あまさい。 くすいや あまく ねんぬ。
52	5. 麦屋東区	{さとー / さたや} あまさん。 くすいや あまくねん。
53	共通語	去年 いとこが 中学の 先生に なった。
53	1. 古里・那間・叶	ふどうー へいちゆーみーくわーぬ ちゆーがくぬ せんせー なてい。
53	2. 茶花・立長	ふだ いとこぬ ちゆーがっこーぬ しんしえー なてい。〔わなー ちゆーがっこ ーぬ しんしえー なたん。(私は中学校の先生になった)〕
53	3. 朝戸・城	ふどう いとこが ちゆーがっこーぬ しんせー なてい。
53	4. 麦屋西区	ふだー いとこぬ ちゆーがくの せんせーに なてい。
53	5. 麦屋東区	ふどう いとこが ちゆーがっこーぬ せんせー {なてい / なていど / なたん / なたんど}。
54	共通語	いとこは 英語の 本が 読める。
54	1. 古里・那間・叶	いちゆーみーくわーや いえーごぬ ほん いんちゃ ゆみ なゆい。
54	2. 茶花・立長	いとこぬ いえいごぬ {ほんぬ / ほんが} ゆまりゆい。
54	3. 朝戸・城	いとこや いえーごぬ ほんや ゆみなゆん。
54	4. 麦屋西区	いとこや いえーごの ほんが {ゆみうん / ゆみなゆん}。
54	5. 麦屋東区	いとこや いえいごぬ ほん ゆみなゆん。

{/} は複数の言い方があること、() は説明、《 》は任意的であることを表す。

55	共通語	あの 人こそ ほんとうの 金持ちだ。
55	1. 古里・那間・叶	^あぬ びちゅどう しょんぬ ^えーきいえい。
55	2. 茶花・立長	あぬ ひちゃー しょんぬ はにむちどー。
55	3. 朝戸・城	あぬ びちゃー そんぬ はにむち いえい。
55	4. 麦屋西区	あぬ びちゅ こそ そんぬ はにむち だ。
55	5. 麦屋東区	あぬ びちゅどうー しょんぬ はにむちどー。
56	共通語	その 話は 妻にだけ 聞かせた。
56	1. 古里・那間・叶	^うぬ ばなしや とうじかていだき きかちゃん。
56	2. 茶花・立長	ふぬ むぬがつたいや とうぢだきかてい きかちゃん。
56	3. 朝戸・城	ふぬ ばなしやー とうぢかていだきどう きかちやる。
56	4. 麦屋西区	{ふぬ / うぬ} むぬがつたいや あびやーかていだき きかしちゃさい (「聞かせたい」の意)。
56	5. 麦屋東区	うぬ {ふあなしやー~ばなしやー} {あふあー~あびやーあ} かていだき きかちゃん。
57	共通語	妻に 夕飯を 作らせる。
57	1. 古里・那間・叶	{とうじかてい / とうじなん} ゆふい {ちゅくらしゅん (今日・一回) / ちゅくらっちゅん (習慣)}。
57	2. 茶花・立長	{とうぢに / とうぢかてい / とうぢにゃん} {ゆふいや / ゆふいお} {ちゅくらしゅーし / ちゅくらしゃん}。
57	3. 朝戸・城	とうぢかていどう ゆふいや ちゅらしゅる。
57	4. 麦屋西区	あびやーに {ゆふいんちや / ゆふい} ちゅくらしゅん。
57	5. 麦屋東区	あふあーかてい ゆふい {ちゅくらしゅん / ちゅくらちゃん}。
58	共通語	夫は 竹で かごを つくった。(事実の報告 / 目撃過去)
58	1. 古里・那間・叶	{うとうや / ううたー} だいい そい {ちゅくたい (報告) / ちゅくたん (目撃)}。
58	2. 茶花・立長	うとうや だいい かぐ {ちゅくてい / ちゅくゆん}。
58	3. 朝戸・城	うとうわ だいい ている つくてい。(事実の報告) / うとうわ だいい ている つくゆーたん。(目撃過去)
58	4. 麦屋西区	{うとうわ/ううたー} だいい ているんちゃん {つくたん (事実の報告) / つくとうい (目撃現在) / つくたい (目撃過去)}。
58	5. 麦屋東区	{あちよー / あちゃやー} だいい かぐ {つくてい / つくたん}。
59	共通語	次郎は おとうとの 三郎と けんかした。(事実の報告 / 目撃過去)
59	1. 古里・那間・叶	じろーや ^うっとうびぬ さぶろーとう {^えっこいしちやい (報告) / ^えっこいしち (目撃)}。
59	2. 茶花・立長	ぢろーや うっとうびぬ さぶろーとう いっこいしち/ いっこいした。(いっこいしたは共通語的)
59	3. 朝戸・城	ぢろーや うっとうびぬ さぶろーとう えっこー {しち (事実の報告) / しゅーたん (目撃過去)}。
59	4. 麦屋西区	ぢろーや あちやぬ (父親の) さぶろーとう えっこい {しちゃん (事実の報告) / しゅーたん (目撃過去)}。
59	5. 麦屋東区	ぢろーや うっとうびぬ さぶろーとう {えーくいち / えーくいちゃん}。

～は発音のゆれ、{ / } は複数の言い方があること、() は説明、《 》は任意的であることを表す。

60	共通語	三郎は 次郎に 棒で なぐられた。(事実の報告 / 目撃過去)
60	1. 古里・那間・叶	さぶろーや じろーなん ぼーし {すぐらりたい (報告) / すぐらりてい (目撃)}。
60	2. 茶花・立長	さぶろーや ぢろーに ぼーし {すぐらりてい / うたりてい / うたりたん}。
60	3. 朝戸・城	さぶろーや ぢろーいん ぼーし {うたりてい (事実の報告) / うたりゅーたん (目撃過去)}。
60	4. 麦屋西区	さぶろーや ぢろーかてい ぼーし {たたかりたん(事実の報告) / たたかりてい (事実の報告) / なぐらりゅーたん (目撃過去)}。
60	5. 麦屋東区	さぶろーや ぢろーなん ぼーし {すぐらりてい / しぐらりてい}。
61	共通語	次郎は じいさんに しかられた。(事実の報告 / 目撃過去)
61	1. 古里・那間・叶	じろーや うふなん {へーくるさりたい (報告) / へーくるさりてい (目撃)}。
61	2. 茶花・立長	ぢろーや うふない {へーくるさりてい (非敬語) / めもーらりてい / めもーりてい (敬語)}。
61	3. 朝戸・城	ぢろーや うふん {いーくるさりてい (事実の報告) / いーくるさりゅーたん (目撃過去)}。
61	4. 麦屋西区	ぢろーや うふから {いーくーさりてい てゅーさ(伝聞) / いーくーさりゅーたん (目撃過去)}。
61	5. 麦屋東区	ぢろー うふなん {いーくるさりてい / いーくさりてい}。
62	共通語	おれは きのは 新聞を よまなかつた。
62	1. 古里・那間・叶	わなー きのーや しんぶんや ゆまんたん。
62	2. 茶花・立長	わなー きぬーや しんぶんや ゆでいんねー。
62	3. 朝戸・城	わなー きのーや しんぶんや ゆまんたん。
62	4. 麦屋西区	わな きのーや しんぶん やんちゅん {ゆまんたん (読まなかつた) / ゆまらんたん (読めなかつた)}。
62	5. 麦屋東区	わなー きのーや しんぶん 《や》 ゆまんたん。
63	共通語	その 新聞は きょうのだ。 きのは これは。
63	1. 古里・那間・叶	へうぬ しんぶんや しゅーぬし。 きのーぬさー ふり 《いえい》。
63	2. 茶花・立長	ふぬ しんぶんあ しゅーぬし。 きぬーぬしゃー {ふりいえい / ふりいいー / ふりどー}。
63	3. 朝戸・城	ふぬ しんぶんや {しゅーぬ / ひゅーぬ} むぬ どー。 きのーぬさ ふり どー。
63	4. 麦屋西区	うぬ しんぶんや しゅーぬし。 {きのーぬしゃー / きのーぬ むぬやー} ふりどー。
63	5. 麦屋東区	ふぬ しんぶんや しゅーぬしいえい。 きのーぬしゃ ふりいえい。
64	共通語	雨の ふる 日には ばあさんは 家で テレビばかり 見ている。(事実の報告 / 目撃過去)
64	1. 古里・那間・叶	へあみぬ ふゆる ぴーや ぱーぱーや やーぬんてい てれび ばっかい {みちゅん (他人に伝える) / みちゅい (自分で納得)}。
64	2. 茶花・立長	へあみぬ {ふゆるぴーやへふゆるひーや} ぱーぱーや やーのーてい てれびばっかい みちゅい。
64	3. 朝戸・城	あみ ふゆる ぴーや ぱーぱーや やーのーてい てれびばっかい みちゅい。
64	4. 麦屋西区	あみぬ ふいる ぴーや ふあーふあーや やーのんてい てれび ばっかい みちゅい。

{ / } は複数の言い方があること、() は説明、《 》 は任意的であることを表す。

64	5. 麦屋東区	あみぬ ふいーや ぱーぱーや やーぬんてい てれびばっかい みちゆい。
65	共通語	お祝いの ときには ばあさんまで おどった。(事実の報告 / 目撃過去)
65	1. 古里・那間・叶	よいぬ ばん《や》 ぱーぱーがでい うどうてい ^えーたん。(「^えーたん」は「報告」にも「目撃過去」にも言える。聞き手は目上へでも目下へでもよい)
65	2. 茶花・立長	{よいぬつきやー / よいぬとうきやー} ぱーぱーがでい {うどうてい / うどうたん}。〔わなー きぬー うどうたん (私は昨日踊った)〕
65	3. 朝戸・城	よいぬ ばんや ぱーぱーがでい うどうい しゅーてい。(事実の報告)/ よいぬ ばんや ぱーぱーがでい うどうい しゅーたん。(目撃過去)
65	4. 麦屋西区	うーよいぬ とうきや ふあーふあー がでい {うどうてい ゆーさ (踊ったそうだ)/ うどうい しち (事実の報告)/ うーどうい しゅーたん (目撃過去)}。
65	5. 麦屋東区	よいぬ とうきやー ぱーぱんたら ふーどういしち。
66	共通語	花子は きのうから 病気で ねている。(事実の報告 / 目撃過去)
66	1. 古里・那間・叶	はなこ きのーから やでい {にんとうん (報告)/ にんとうい (目撃)}。
66	2. 茶花・立長	はなこーや きのーから {やでい にんとうい / にんとうん}。〔わなー きのーから やでい にんとうん (私は昨日から病気で寝ている)〕
66	3. 朝戸・城	はなこや きのーから やでい にんとうい。
66	4. 麦屋西区	はなこや きのーから やでい にぶとうい。
66	5. 麦屋東区	はなこや きのーから やでい にんとうん。
67	共通語	花子は かあさんに ごはんを たべさせて もらった。
67	1. 古里・那間・叶	はなこや ^あんまーなん ^あしくい こーち むろーたん。
67	2. 茶花・立長	はなこーや あんまーいん あしくいお こーさりてい。
67	3. 朝戸・城	はなこや あんまいん あしくい {こーさりてい てゆーさ (事実の報告)/ こーさりゆーたん (目撃過去)}。
67	4. 麦屋西区	はなこや あんまー かてい まいんちゃん こーち {むろーてい (事実の報告)/ むれーたん (目撃過去)}。
67	5. 麦屋東区	はなこや ふなぐぬやなん あしくい こーていむろーとうん。
68	共通語	医者が くれた くすりを のめば なおるだろう。
68	1. 古里・那間・叶	^いしやぬ くりたる くすい ぬみぼー {のーいっしやみへのーゆっしやみ}。
68	2. 茶花・立長	{いしやが / いしやぬ} {たばちやるゝたばーちやる} くすい ぬみぼー のーゆるふあぢ。
68	3. 朝戸・城	いしやぬ たばーる くすい ぬみぼー のーゆる ばぢ。
68	4. 麦屋西区	いしやが くりたる くすいんちゃー ぬみぼー のーゆる ふあぢ。
68	5. 麦屋東区	いしやぬ くりたる くすい ぬみぼー {のーゆるふあぢ/ のーゆるばぢ}。
69	共通語	かあさんは 市場へ 買物に 行った。(事実の報告 / 目撃過去)
69	1. 古里・那間・叶	^あんまーや ^いちばかてい へーむぬ しんにや ^えーたん。
69	2. 茶花・立長	あんまーや いちばかてい へーむぬ {しにんにやいち / しんにやーいち}。
69	3. 朝戸・城	あんまーや いちばかてい ひえーむぬ しんにや {いぢ てゆーさ (事実の報告)/ いきゆーたん (目撃過去)}。
69	4. 麦屋西区	あんまーや いちばかてい へーむぬ に ({いぢやん / いぢ} (事実の報告)/ いぢやい (目撃過去))。
69	5. 麦屋東区	かーさんや みせかてい へーむぬ しんにやいくーたん。

～は発音のゆれ、{ / } は複数の言い方があること、() は説明、《 》 は任意的であることを表す。

70	共通語	道で 学校の 先生に 会った。
70	1. 古里・那間・叶	みちなーぬんてい がっこーぬ せんせーとう へいっちょーたん。
70	2. 茶花・立長	みちなーでい がっこーぬ しんしえーとう {いっちょーたん (敬語)/ おーてい / おーたん (非敬語)}。
70	3. 朝戸・城	みちのーてい がっこーぬ しんせー いっちょーたん。
70	4. 麦屋西区	みちえのーてい がっこーの せんせーとう おーたん。
70	5. 麦屋東区	みちなーのんてい がっこーぬ せんせーとう おーたん。
71	共通語	なにを 買おうか。
71	1. 古里・那間・叶	ぬー へーらが。
71	2. 茶花・立長	ぬー へーらが。
71	3. 朝戸・城	ぬー ひえーらが。
71	4. 麦屋西区	ぬーんちゃん ほーゆんが。
71	5. 麦屋東区	ぬー へーらが (独り言)。
72	共通語	和子のと おなじ げたを 花子にも かってやろう。
72	1. 古里・那間・叶	{かずことう / かずこしとう} まんねー しゆる げたんちゃー はなこかていん ほーてい とうらさん。
72	2. 茶花・立長	かずこしとう まんねー あしぢゃお はなこにも ほーていとうらちゃん。 (「買ってあげた」に当たる形式)
72	3. 朝戸・城	かずことう まんねー しる あしぢゃんちゃー はなこかていん ほーてい {とうらさん / くりらん}。
72	4. 麦屋西区	かずことう ゆるむぬぬ あしぢゃんちゃん はなこかていん ほーてい くりらん。
72	5. 麦屋東区	かぢゆこしとう まんねん しゆる あしぢゃちゃん はなこかていん ほーてい {とうらさん / たーさん}。
73	共通語	和子と 花子は 友だちだ。
73	1. 古里・那間・叶	かずことう はなこや {^あぐんちゃー / ^あぐんちゃーいえい / ^あぐ / ^あぐいえい}。
73	2. 茶花・立長	かずことう はなこや {あぐなてい / あぐどー / あぐいえい}。
73	3. 朝戸・城	かずことう はなこや あぐ どー。
73	4. 麦屋西区	かずことう はなこや あぐ なてい。
73	5. 麦屋東区	かぢゆことう はなこや あぐどー。
74	共通語	花子は 顔が かあさんに よく 似ている。
74	1. 古里・那間・叶	はなこや ちらぬ ^あんまとう ゆー {にちゆい / みちゆい}。
74	2. 茶花・立長	はなこーや ちらぬ あんまーとう みったんにちゆい。
74	3. 朝戸・城	はなこぬ ちろー あんまーとう かわつてい にちゆい
74	4. 麦屋西区	はなこや ちらぬ あんまーに {ゆんねし / まんねし} にちゆい。
74	5. 麦屋東区	はなこや {ちらが / ちやぬ} かーさんなん しつかい {にちゆい / にちゆいど}。

{/} は複数の言い方がること、() は説明、《 》は任意的であることを表す。

沖 永 良 部 の こ と ば

沖永良部方言 調査の概要

沖永良部島の概要

沖永良部島は、鹿児島島の南約 552 km に位置し、面積 93.8 km² の隆起サンゴ礁の島である。和泊町と知名町と二つの町からなる。和泊町は 21 の集落（和泊、和、皆川、杏里、与論浜、玉城、内城、後蘭、谷山、仁志、内喜名浜、半崎、畦布、伊延、出花、西原、国頭、美瀬浜、喜美留、手々知名、長浜）からなり、人口は 6,884 人（平成 27 年 9 月現在）、知名町（知名、屋子母、大津勘、徳時、住吉、正名、田皆、下城、上城、新城、久志検、赤嶺、竿津、余多、上平川、下平川、屋者、芦清良、黒貫、瀬利覚、小米）は 21 の集落よりなり、人口は 6,329 人（平成 27 年 11 月現在）である。

温暖な気候を利用して、ジャガイモやサトウキビなどの農作物の他、テッポウユリ（エラブユリ）やフリースタなどの花の栽培、牛の飼育が盛んで、エラブユリは世界的に知られている。また、和泊町の国頭小学校には日本一と呼ばれるガジュマルの木がある。

島への交通手段は、飛行機が鹿児島空港から 1 日 3 便、那覇空港から 1 日 2 便、奄美大島空港から 1 日 1 便、与論空港から 1 日 1 便運航している。フェリーは、鹿児島港から和泊港へ 1 日 1 便、那覇港から和泊港へ 1 日 1 便、鹿児島港から知名港へ月 9 便ほど運行している。

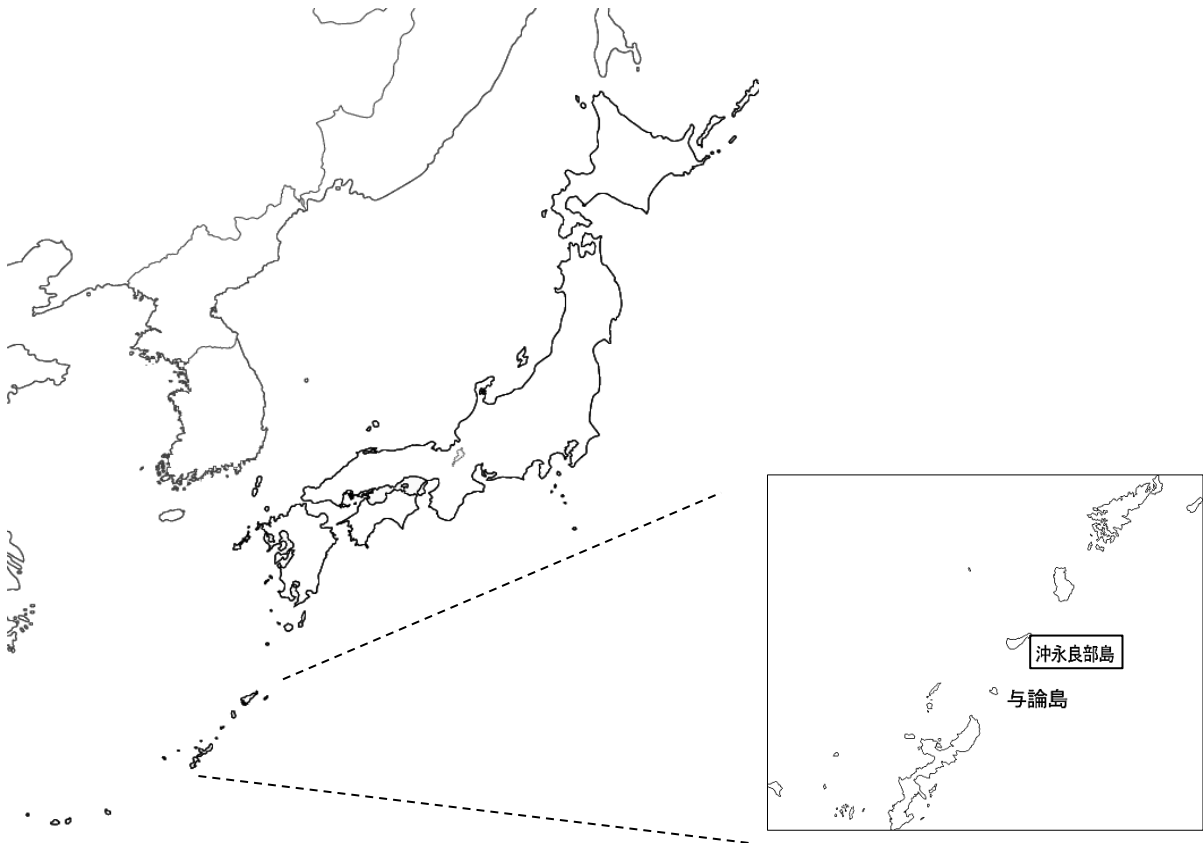


図 1 沖永良部島の位置

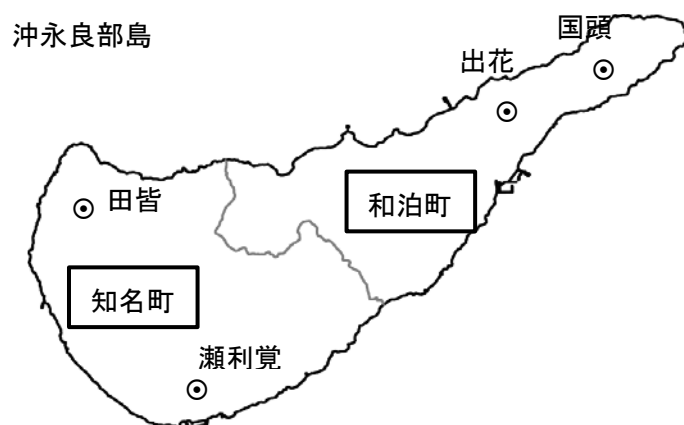


図2 調査地点

2 調査の概要

2.1 調査地点

調査は2012年12月1日～12月6日に行った。調査地点と調査内容、調査担当者は以下の通りである。

12月5日	国頭	基礎語彙A	又吉，當山
		基礎語彙B	高山，田代
		基礎語彙C	ペラール，徳永
		文法（前半）	金田，荻野
		文法（後半）	デイビス，高見
		アクセント	松森，金
	出花	基礎語彙A	當山
		基礎語彙B	高山，田代
		基礎語彙C	ペラール，徳永
		文法（前半）	金田，荻野
		文法（後半）	デイビス，高見
		アクセント	松森，金
	田皆	基礎語彙A	ローレンス
		基礎語彙B	松本，小川
		基礎語彙C	中島，盛
		文法（前半）	田窪，山田
		文法（後半）	木部，ハイス
		アクセント	新田，中澤
	瀬利覚	基礎語彙A	ローレンス
		基礎語彙B	松本，小川
		基礎語彙C	中島，盛

		文法（前半）	田窪，山田
		文法（後半）	木部，ハイス
		アクセント	新田，中澤

2.2 調査者

調査参加者は以下の27名である（所属は調査当時）。

青井隼人（東京外国語大学博士課程），大槻知世（東京大学修士課程），小川晋史（国立国語研究所），荻野千砂子（大分大学），金田章宏（千葉大学），木部暢子（国立国語研究所），金娥璘（九州大学修士課程），盛思超（国立国語研究所／麗澤大学博士課程），高見あずさ（東京外国語大学修士課程），高山林太郎（東京大学博士課程），田窪行則（京都大学），田代竜也（琉球大学修士課程），クリス・デイビス（琉球大学），當山奈那（琉球大学博士課程），徳永晶子（国立国語研究所／一橋大学博士課程），中島由美（一橋大学），中澤光平（東京大学博士課程），仲原穰（琉球大学非常勤講師），新田哲夫（金沢大学），トマ・ペラール（フランス国立科学研究所常勤研究員），又吉里美（岡山大学），町博光（広島大学），松本泰丈（別府大学），松森晶子（日本女子大学），山田真寛（学振PD／京都大学），ハイス・ファン・デル・ルベ（琉球大学研究生），ウェイン・ローレンス（オークランド大学）

[五十音順]

2.3 話者

話者は以下の方々である（年齢は調査当時）。

国頭 南ヨシエさん（78歳），末川文子さん（73歳），佐々木鉄也さん（82歳），川上忠志さん（69歳），田仲玲子さん（68歳），福島カネさん（87歳），鍋田武則さん（69歳），先田光演さん（70歳），大栄方子さん（73歳）
出花 池山トヨさん（82歳），宮元茂壽さん（77歳），西村トミさん（79歳），竹下吉隆さん（70歳），宮元貴子さん（75歳），上山ミツさん（84歳），泉ハナさん（84歳），川端ツヤさん（84歳），泉秀樹さん（55歳），出花栄子さん（80歳），東仁さん（63歳），泉貞吉さん（72歳），山下キクさん（79歳），川畑セツさん（82歳），前原シゲ子さん（81歳）
田皆 白川キミ子さん（85歳），名里武也さん（76歳），松本正憲さん（71歳），白山成良さん（83歳），奥間ミサエさん（73歳），新納ヨシさん（74歳），新納安栄さん（76歳），新納俊子さん（72歳），奥間ヨシさん（80歳）
瀬利覚 村田裕子さん（76歳），内ツルさん（78歳），藤崎竹子さん（75歳），村田ヨシさん（80歳），東ミツエさん（83歳），森米子さん（77歳），吉田義一さん（74歳），安楽博公さん（72歳），井上久江さん（73歳），森ツヤ子さん（77歳），坂井カネ子さん（74歳），坂井定子さん（80歳）

謝辞

お忙しい中，本調査に協力してくださり，ありがとうございました。この場を借りて御礼申し上げます。

沖永良部方言の音韻

木部 暢子*

1 はじめに

沖永良部方言は奄美群島の南部に位置する。行政上は鹿児島県に属するが、言語上は琉球語のうち、国頭語に位置づけられる。図示すると、以下のとおりである。

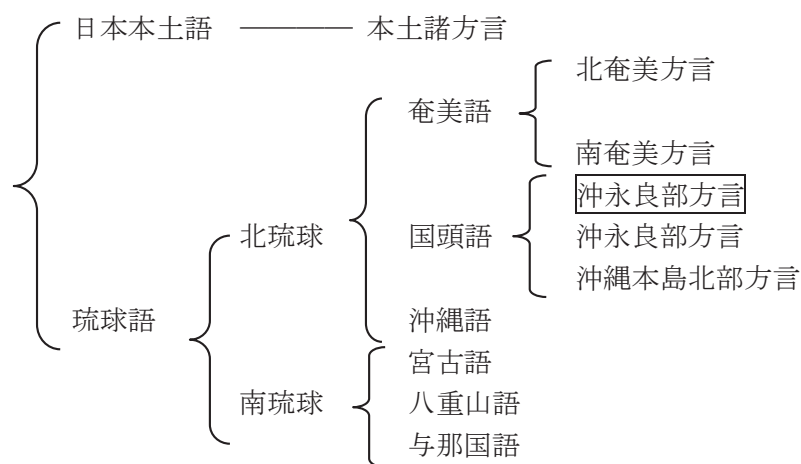


図1 沖永良部方言の位置

2 母音

2.1 短母音

短母音は /a/, /i/, /u/ の3つで、/a/ は共通語の /a/ に、/i/ は共通語の /i/ と /e/ に、/u/ は共通語の /u/ と /o/ に対応している。母音だけで音節を作るときには、基本的に声門閉鎖音 /ʔ/ を伴う。以下に調査語の中から例をあげておく。(用例の「～」は同一話者での発音の揺れを、「 / 」は語形の違いを、「 // 」は話者による発音や語形の違いを表す。以下同じ。)

表1 短母音 /a/, /i/, /u/

	語	田皆	瀬利覚	出花	国頭
a	ほくろ	ʔaza (ʌあざ)	ʔaza (ʌあざ)	ʔadza (ʌあざ)	ʔadza (ʌあざ)
	お母さん	ʔama (ʌあんま)	ama (あんま)	ʔama (ʌあま)	ʔama (ʌあま)
i	犬(いぬ)	ʔinu: (ʌいぬー)	ʔinu: (ʌいぬー)	ʔinu: (ʌいぬー)	ʔinu (ʌいぬ)～ ʔinu: (ʌいぬー)
	かまきり	ʔicatu (ʌいしゃとう)	ʔicatu (ʌいしゃとう)	ʔicatu (ʌいしゃとう)～ ʔicatu: (ʌいしゃとうー)	ʔicatu: (ʌいしゃとうー)

* きべ のぶこ：国立国語研究所・教授

u	どれ	uduru (うどる)	uduru (うどる)	ʔuduru (へうどる)	ʔuduru (へうどる)
	芋(いも)	ʔumu: (へうむー)	ʔumu: (へうむー)	ʔumu: (へうむー)	ʔumu: (へうむー)

少数だが /e/ と /o/ も使われる。/e/ は共通語の /ai/, /ae/ に対応しており、地域によっては長母音の /e:/ で現れることもある。おそらく、*ai, *ae > *e: > e, *ou > *o: > o のような変化過程を経て生じたものと思われる。[tinto] (ていんと：空) の [to] も、長母音の [to:] が短母音化したものと考えられる。[jeri, eri] (いえり：襟), [itoko] (いところ：従兄弟), [katsuo] (かつお：鰹) は新しい語形か。[sampo] (さんぽ：鵜) の [po] は由来がよく分からない。

表2 短母音 /e/, /o/

	語	田皆	瀬利覚	出花	国頭
e	腕(うで)	ʔudi: (へうでいー)	heɲɲa: (へんにゃー)	ɕiɲɲa: (ひんにゃ) ~ heɲɲa: (へんにゃ)	heɲɲa: (へんにゃー)
	しゃもじ	micige (みしげ)	micige (みしげ)	micige (みしげ)	micige: (みしげー)
	畑(はたけ)	ɸate (ふあて)	hate (はて)	hatte (はって) ~ ɸatte (ふあって)	ɸatte: (ふあってー)
	襟(えり)	jeri (いえり)	NR	jeri (いえり)	eri (えり)
o	従兄弟 (いとこ)	itoko (いとこ)	itoko (いとこ)	ʔutudza (へうとうぢゃ)	ʔutudza (へうとうぢゃ)
	鰹(かつお)	katsuo (かつお)	katsuo (かつお)	katsuo (かつお)	katsuo (かつお)
	鵜(うずら)	sampo (さんぽ)	NR	sampo (さんぽ)	sampo (さんぽ)
	空(そら)	tinto (ていんと)	tinto (ていんと) ~ tinto: (ていんとー)	tipto (ていんと)	tepto: (てんとー)

2. 2 長母音

長母音は /a:/, /i:/, /u:/, /e:/, /o:/ の5つである。沖永良部方言には、1語(1形態素)は2拍以上の長さを持つという制約があり、「歯」「手」「藻」など、共通語では1拍の語が沖永良部方言では長音で発音される。これらの語は、複合語の要素になったときも長音で発音される。例えば、「歯」は単独で [ɸa:] (ふあー), ないし [ha:] (はー) だが、複合語でも [ɸa:ɕici:] (ふあーぢし：歯茎) である。/e:/ は共通語の /ai, ae/ に、/o:/ は共通語の /aw, au, ao/ に対応する。

表3 長母音 /a:/, /i:/, /u:/, /e:/, /o:/

	語	田皆	瀬利覚	出花	国頭
a:	歯(は)	ha: (はー) //	ha: (はー)	ɸa: (ふあー)	ɸa: (ふあー)
	歯茎 (はぐき)	ɸʷa:ɕici: (ふあーししー)	ɸʷa:ɕici (ふあーぢし)	haguki (はぐき)	ɸa:ɕici (ふあーぢし)
	踵(かかと)	ʔa:du: (へあーどー)	ʔa:du: (へあーどー)	ʔa:du: (へあーどー)	ʔa:du: (へあーどー)
	豆(まめ)	ma:mi: (まーみー)	ma:mi: (まーみー)	ma:mi: (まーみー)	ma:mi: (まーみー)
i:	手(て)	ti: (ていー)	ti: (ていー)	ti: (ていー)	tʰi: ~ti: (ていー)

	耳(みみ)	mi:mi: (みーみー)	mimi: (みみー)	mimi: (みみー)	mimi: (みみー)
	雲脂 (ふけ)	ʔi:ki: (ゐーきー)	ʔi:ki: (ゐーきー) <古>	ɸuke (ふけ)	ʔi:tei: (ゐーちー)
u:	藻(も)	mu: (むー)	mu: (むー)	mu: (むー)	mu: (むー)
	十(とお)	tu: (とうー)	tu: (とうー)	tu: (とうー)	tu: (とうー)
	菜(な)	na: (なー)	ʔudzuru (ゎーぢゆる)	ʔudiba: (ゎーでくばー) / ʔo:ɸa: (ゎーふあー)	ʔu:ti:ba: (ゎーていーば)
e:	灰(はい)	ɸe: (ひえー)	he: (へー)	he: (へー)	he: (へー)
	蠅(はえ)	he: (へー)	he: (へー)	he: (へー)	he: (へー)
	蜻蛉 (とんぼ)	jamante (やまんて)	ʔje:da (ゎいえーだ) ~ʔe:da (ゎえーだ)	ʔe:ɕa (ゎえーざ)	jamada: (やまだー)
o:	栗(あわ)	ʔo: (ゎおー)	ʔo: (ゎおー)	ʔo: (ゎおー)	ʔo: (ゎおー)
	蛸(たこ)	to: (とー)	to: (とー)	tʰo: (ゎとー)	to: (とー)
	麴(こうじ)	ho:ɕi (ほーじ)	ho:ɕi (ほーじ)	ho:ɕi (ほーじ)	ho:ɕi (ほーじ)

沖永良部方言では、長母音と短母音が揺れることが多い。例えば、「板」は [itea:] (いちやー) でもいいし、[itea] (いちや) でもいい。以下に揺れの例をあげる（網掛け部分が揺れの例）。

表 4 長母音と短母音の揺れの例

	語	田 皆	瀬 利 覚	出 花	国 頭
a~a:	板(いた)	itea: (いちやー)~ itea (いちや)	ita (いた)	ʔitea: (ゎいちやー)~ ʔi:tea (ゎいーちや)	i:tea (ゎいーちや)
	鼻(はな)	ɸʷana (ふあな)	hana (はな)	hana: (はなー)~ hana (はな)	hana: (はなー) ~ ɸana: (ふあなー)
	草(くさ)	kusa (くさ)	kusa: (くさー)	kusa: (くさー)~ kusa (くさ)	kusa (くさ)
i~i:	時(とき)	tuki (とうき)~ tuki: (とうきー)	tuki (とうき)~ tuki: (とうきー)	tuki: (とうきー)	tuki: (とうきー)
	酒(さけ)	saki (さき)	saki: (さきー)~ saki (さき)	saki (さき)	saki (さき)
	首 (くび)	kubi (くび)	kubi (くび)	kubi (くび)	kubi: (くびー)~ kubi (くび)
u~u:	頭(あたま)	teuburu (ちゅぶる)	teuburu (ちゅぶる)	teiburu (ちぶる)~ teiburu: (ちぶるー)	teiburu (ちぶる)
	いるか	ɕitu (しとう)	NR	ɕittu (しっとう)~ ɕittu: (しっとうー)	ɕitu(しっとう)
	女(おんな)	wunagu: (ううなぐー)	wunagu (ううなぐ)~ wunagu: (ううなぐー)	wunagu (ううなぐ)	wunagu: (ううなぐー)
o~o:	櫂(かい)	kai (かい)	joku (よく)~ jo:ku(よーく)	ʔjo: (ゎよー)	ʔjo'o (ゎよお)

天井 (てんじょう)	tindzo: (ていんち よー)~tindzo (て いんちよ)	tindzo: (ていんちよー)	tindzo (ていんちよ)	tendzo: (ていんちよー)

2. 3 二重母音

二重母音には, /ai/, /ui/, /oi/ の3種類がある。以下に例をあげる。

表5 二重母音 /ai/, /ui/, /oi/

	語	田皆	瀬利覚	出花	国頭
ai	尿(にょう)	ɛibai (しばい)	ɛibe: (しべー)	ɛi:bai (しーばい)	ɛi:bai(しーばい)
	蝸牛(かたつむり)	teintai (ちんたい)	teinte: (ちんてー)	teĩntai (ちんたい)	teĩntai (ちんたい)
ui	声(こえ)	ɸui (ふい)	ɸui (ふい)	ɸui (ふい)	ɸui (ふい)
	冬瓜(とうがん)	eu:bui (しーぶい)	eubui (しぶい)	eibui (しぶい)	eibui (しぶい)
oi	鰕(くわ)	k'oi (こい)	koi: (こいー)	k'oi (へこい)	k'oi (へこい)

沖永良部方言と共通語との母音の対応関係を図示すると、以下のようになる。

沖永良部方言

共通語

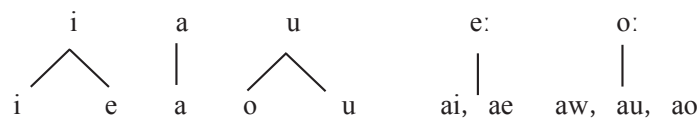


図2 沖永良部島方言と標準日本語の母音の対応

3 子音

3. 1 両唇音

両唇音には、無声閉鎖音の /p/, 有声閉鎖音の /b/, 鼻音の /m/ がある。

3. 1. 1 両唇閉鎖音 /ɸ/, /b/

沖永良部方言では, /p/ はほとんど使われない。調査語彙の範囲では以下の3語に/p/ が現れた。

表6 両唇音 /b/

	語	田皆	瀬利覚	出花	国頭
pa	梢(砂糖黍 のこずえ)	timpana (ていんぱな)	NR	sura: (すらー)	sura (すら)
pu	天ぷら	agimun (あぎむん)	tempura (てんぷら) / teikiagi (ちきあぎ)	teikijagi (ちきあぎ)	tempura (てんぷら)
po	鶉(うずら)	sampo (さんぽ)	NR	sampo (さんぽ)	sampo (さんぽ)

/b/ は共通語の /b/ に対応している。語頭にcomingことはあまりなく、多くは語中に現れる。

表7 両唇音 /b/

	語	田皆	瀬利覚	出花	国頭
ba	尿(にょう)	ɛibai (しばい)	ɛibe: (しべー)	ɛi:bai (しーばい)	ɛi:bai(しーばい)
	草履(ぞうり)	saba (さば)	saba (さば)	saba (さば)	saba (さば)
ba:	傍(そば)	suba: (すばー) ~ ɛiba: (しばー)	ɛiba: (しばー)	suba: (すばー)	suba: (すばー)
bi	首(くび)	kubi (くび)	kubi (くび)	kubi (くび)	kubi: (くびー)~ kubi (くび)
	指(ゆび)	jubi (ゆび)	u:bi (うーび)	?uibi (へいび)	jubi: (ゆびー)
bi:	海老(えび)	tanaga (たながー)	?ibi: (へいびー)	?ibi (へいび)	?ibi: (へいびー)
bu	油(あぶら)	abura:(あぶらー)	abura:(あぶらー)	abura:(あぶらー)	abura:(あぶらー)
	冬瓜(とうがん)	eu:bui (しーぶい)	eubui (しぶい)	ɛibui (しぶい)	ɛibui (しぶい)
be	便所(べんじょ)	bendzo (べんぢょ)	bendzo (べんぢょ)	kandzu (かんぢゅ)	kʰandzu (かんぢゅ)
be:	テレビばかり	terebibe: (テレビベー)	terebibe: (テレビベー)	terebibe: (テレビベー)	terebibe: (テレビベー)

3. 1. 2 両唇音 /m/

両唇鼻音の /m/ は共通語の /m/ に対応している。以下に例をあげる。

表8 両唇音 /m/

	語	田皆	瀬利覚	出花	国頭
ma	豆(まめ)	ma:mi: (まーみー)	ma:mi: (まーみー)	ma:mi: (まーみー)	ma:mi: (まーみー)
	山(やま)	jama (やま)	jama (やま)	jama (やま)	jama: (やまー)
	お母さん	?ama (へあんま)	ama (あんま)	?ama (へあま)	?ama (へあま)
ma:	豆(まめ)	ma:mi: (まーみー)	ma:mi: (まーみー)	ma:mi: (まーみー)	ma:mi: (まーみー)
mi	耳(みみ)	miN (みん)	miN (みん)	miN (みん)	miN (みん)
mi:	耳(みみ)	mi:mi: (みーみー)	mimi: (みみー)	mimi: (みみー)	mimi: (みみー)
	夢(ゆめ)	imi: (いみー)	imi: (いみー)	imi: (いみー)	imi: (いみー)
	甥(おい)	mi:kkʷa: (みーつくわー)	mi:kʷa: (みーくわー)	mi:kʷa (みーくわ)	mi:kʷa: (みーくわー)
mu	腿(もも)	mumu (むむ)	mu:mu: (むーむー)	mumu: (むむー)	mumu: (むむー)
mu:	皆(みな)	mu:nu (むーぬ)	mu:nage: (むーなげー) ~mu:nage (むーなげ)	mu:ru (むる)	mu:ru (むーる)
	藻(も)	mu: (むー)	mu: (むー)	mu: (むー)	mu: (むー)
me:	娘 (むすめ)	me:rabi (めーらび)	me:rabi (めーらび)	me:nabi (めーらび)	me:rabi (めーらび)

3. 2 歯茎音

沖永良部方言の歯茎音には, /t/, /d/, /s/, /z/, /n/, /r/ がある。

3. 2. 1 歯茎閉鎖音 /t/, /d/

歯茎閉鎖音（無声）の /t/ は、共通語の /t/ に対応している。沖永良部方言の /ta/ は共通語の /ta/ に、/ti/ は /te/ に、/tu/ は /to/ に対応す。また、沖永良部方言の /te/ は共通語の /tai, tae/ に、/to/ は /tao, taw/ に対応する。

表 9 歯茎閉鎖音 /t/

	語	田皆	瀬利覚	出花	国頭
ta	ばった	ga:ta (がーた)	ga:ta (がーた)	gatta: (がったー)	gatta (がった)
ta:	肩(かた)	hata: (はたー)	hata: (はたー)	hata: (はたー)	hata: (はたー)～ hata (はた)
	田(た)	ta: (たー)	ta: (たー)	ta: (たー)	ta: (たー)
ti	太陽(たいよう)	tida (でいだ)	tida (でいだ)	tida (でいだ)	tida (でいだ)
	明後日 (あさって)	asati (あさてい)	asati (あさてい)	asati (あさてい)	juwa: (ゆわー) / ja: (やー)
ti:	手(て)	tí: (ていー)	tí: (ていー)	ti: (ていー)	tʰi: ～ti: (ていー)
tu	鶏(にわとり)	tui (とうい)	tui (とうい)	tui (とうい)	tui (とうい)
tu:	十(とお)	tu: (とうー)	tu: (とうー)	tu: (とうー)	tu: (とうー)
te	畑(はたけ)	ɸate (ふあて)	hate (はて)	hatte (はって)～ ɸatte (ふあって)	ɸatte: (ふあってー)
to:	蛸(たこ)	to: (とー)	to: (とー)	tʰo: (へとー)	to: (とー)
	俵(たわら)	to:ra: (とーら)	to:ra: (とーら)	to:ra: (とーら)	to:ra: (とーら)

歯茎閉鎖音（有声）の /d/ は、共通語の /d/ に対応している。沖永良部方言の /da/ は共通語の /da/ に、/di/ は /de/ に、/du/ は /do/ に対応する。また、/de/ は共通語の /dai, dae/ に対応する。（表 10 の [do:gu]（どーぐ：茶碗）は新しい語形か。）

表 10 歯茎閉鎖音 /d/

	語	田皆	瀬利覚	出花	国頭
da	涙(なみだ)	na:da: (なーだー)	nanda: (なだー)	nada: (なだー)	mi:nada (みーなだ)
di	袖(そで)	sudi (すでい)	sudi: (すでいー)	sudi (すでい)	sudi (すでい)
	筆(ふで)	ɸyde (ふで)	ɸude (ふで)	ɸudi (ふでい)	ɸudi (ふでい)
du	どれ	uduru (うどうる)	uduru (うどうる)	?uduru (へうどうる)	?uduru (へうどうる)
du:	踵(かかと)	?a:du: (^あーどうー)	?a:du: (^あーどうー)	?a:du: (^あーどうー)	?a:du: (^あーどうー)
de:	竹(たけ)	de: (でー)	de: (でー)	de: (でー)	de: (でー)
do:	茶碗(ちゃわん)	do:gu (どーぐ)	do:gu (どーぐ)	teabanu: (ちゃばぬー)	teateaban (ちゃばん)

3. 2. 2 歯茎摩擦音 /s/, /z/

歯茎摩擦音（無声）の /s/ は、共通語の /s/ に対応している。母音 /a, u/ の前では [s]、母音 /i/ の前では硬口蓋音の [ɕ]、母音 /e/ の前では [s] ないし [ɕ] である。

表 11 歯茎摩擦音 /s/

	語	田皆	瀬利覚	出花	国頭
sa	酒(さけ)	saki (さき)	saki: (さきー)～ saki (さき)	saki (さき)	saki (さき)
sa:	草(くさ)	kusa (くさ)	kusa: (くさー)	kusa: (くさー)～ kusa (くさ)	kusa (くさ)
si	島(しま)	ɕima (しま)	ɕima: (しま)	ɕima (しまー)	ɕima: (しまー)
	箸(はし)	ɸaɕi (はし)	haɕi (はし)	haɕi (はし)～ ɸ ^w aɕi (ふあし)	haɕi (はし)～ ɸaɕi (ふあし)
si:	巢(す)	ɕi: (しー)	ɕi: (しー)	ɕi: (しー)	ɕi: (しー)
su	袖(そで)	sudi (すでい)	sudi: (すでいー)	sudi (すでい)	sudi (すでい)
	薬(くすり)	kusui (くすい)	kɯsui (くすい)	kussui (くすい)	kussui (くすい)
su:	糞(くそ)	kusu: (くっすー)	kusu: (くっすー)	kusu: (くっすー)	kussu: (くっすー)～ kusu: (くすー)
se:	咳(せき)	ɕe: (しえー)	se (せ) // ɕe (しえ)	ɕe: (しえー)	se: (せー)
so:	竿(さお)	so: (そー)	so: (そー)	so'o (そお)	so'o (そお)

歯茎摩擦音（有声）の /z/ は、共通語の /z/ に対応している。母音 /a, u/ の前では [z], または [dz], 母音 /i/ の前では [ɕz] である。

表 12 歯茎摩擦音 /z/

	語	田皆	瀬利覚	出花	国頭
za	ほくろ	ʔaza (ゝあざ)	ʔaza (ゝあざ)	ʔaɕza (ゝあざ)	ʔaɕza (ゝあざ)
	匂い(におい)	haza (はざ)	hada (はだ)	haɕza (はだ)	haɕza (はだ)
zi	風(かぜ)	haɕzi (はち)	haɕzi (はち)	haɕzi (はち)	haɕzi (はち)
	鯨(くじら)	gudzija (ぐぢら)	kudzira (くぢら) / gudzija (ぐぢら)	kudzira (くぢら)	gudzija (ぐぢら)
zi:	傷(きず)	kiɕzi (きち)	kiɕzi (きち)	kiɕzi: (きちー)	kiɕzi: (きちー)
	鼻血(はなぢ)	ɸ ^w anaɕzi (ふあなぢ)	hanaɕzi (はなぢー)	hanaɕzi: (はなぢー)	ɸanaɕzi: (ふあなぢー)
zu:	去年 (きょねん)	ɸuzu: (ふずー)	ɸudu: (ふどうー)～ ɸudzu: (ふずー)	ɸudzu (ふず)	ɸudzu: (ふずー)

3. 2. 3 歯茎鼻音 /n/

歯茎鼻音の /n/ は、共通語の /n/ に対応している。母音 /a, u, e, o/ の前では [n], 母音 /i/ の前では硬口蓋音の [ɲ] で発音される。

表 13 歯茎鼻音 /n/

	語	田皆	瀬利覚	出花	国頭
na	夏(なつ)	natei (なち)	natei (なち)	natei (なち)	natei (なち)
	棚(たな)	tana (たな)	tana (たな)	tana (たな)	tana (たな)

na:	名(な)	na: (な一)	na: (な一)	na: (な一)	na: (な一)
ni	ひしゃく	nibu (にぶ)	nibu (にぶ)	nibu (にぶ)	nibu (にぶ)
ni:	鬼(おに)	upi: (うに一)	upi: (うに一)	upi: (うに一)	upi: (うに一)
nu	糠(ぬか)	nuka: (ぬか一)	nuka: (ぬか一)	nuka: (ぬか一)	nuka (ぬか)
nu:	犬(いぬ)	ʔinu: (へいぬ一)	ʔinu: (へいぬ一)	ʔinu: (へいぬ一)	ʔinu (へいぬ)~ ʔinu: (へいぬ一)
ne	夕方(ゆうがた)	ju:ne (ゆーね)	jo:ne (よーね)	jo:ne (よーね)	jo:ne: (よーね一)
ne:	なに	nu: (ぬ一)	nu: (ぬ一)	nu: (ぬ一)	nu: (ぬ一)
no:	鋸(のこ)	no:gi: (のーぎ一)	no:gi: (のーぎ一)	no:dzi: (のーぢー)~ no:dziN (のーぢん)	no:dzi: (のーぢ一)

3. 2. 4 歯茎はじき音 /ɾ/

歯茎はじき音の /ɾ/ は、共通語の /ɾ/ に対応している。

表 14 歯茎はじき音 /ɾ/

	語	田皆	瀬利覚	出花	国頭
ra	瓦(かわら)	kawara: (かわら)	ka:ra (かーら)	ka:ra (かーら) / kawara (かわら)	ka:ra (かーら)
	娘(むすめ)	me:rabi (めーらび)	me:rabi (めーらび)	me:nabi (めーらび)	me:rabi (めーらび)
ri	これ	ɸuri (ふり)	uri (うり)	ɸuri (ふり)~ ʔuri (へうり)	ɸuri (ふり)
ri:	東(ひがし)	agari (あがり)	agari (あがり)	agari (あがり)	agari (あがり)
ru	丸い(まるい)	marusa (まるさ)	marusa (まるさ)	marusa (まるさ)	marusan (まるさん)
ru:	色(いろ)	iru: (いる一)	iru: (いる一)	iru: (いる一)	iru: (いる一)
re:	盥(たらい)	tarai (たらい)	tare (たれ)~ tare: (たれ一)	tare (たれ)	ta:re: (たーれ一)

3. 3 硬口蓋音

硬口蓋音には、破擦音(無声)の /c/ がある。沖永良部方言では、/c/ の後には母音 /i/ しか立たないので、共通語の「チ」と「ツ」が沖永良部方言ではどちらも [tei] で現れる。

表 15 硬口蓋破擦音 /c/

	語	田皆	瀬利覚	出花	国頭
ci	血(ち)	tzi: (ち一)	tei: (ち一)	tei: (ち一)	tei: (ち一)
	蝸牛(かた つむり)	teintai (ちんたい)	teinte: (ちんて一)	teĩntai (ちんたい)	teĩntai (ちんたい)
	口(くち)	kutei (くち)	kutei (くち)	kutei: (くち一)	kuttei: (くち一)~ kutei (くち)
	爪(つめ)	tzimi (ちみ)	teimi (ちみ)	teimi: (ちみ一)	teimi: (ちみ一)

	月(つき)	tejkju (つき)	teikju (ちきゅ)	teikkju: (ちっきゅー)	teikkju: (ちっきゅー)
	夏(なつ)	natei (なち)	natei (なち)	natei (なち)	natei (なち)
tei:	乳(ちち)	tzi: (ちー)	tei: (ちー)	tei: (ちー)	tei: (ちー)

3. 4 軟口蓋音

軟口蓋音には、無声閉鎖音の /k/ と有声閉鎖音の /g/ がある。

3. 4. 1 軟口蓋音 /k/

/k/ は共通語の /k/ に対応している。ただし、出花と国頭では、共通語の /ki/ に /ci/ [tei] が対応する場合がある（表の網掛け部分）。

表 16 軟口蓋音 /k/

	語	田皆	瀬利覚	出花	国頭
ka	鰹(かつお)	katsuo (かつお)	katsuo (かつお)	katsuo (かつお)	katsuo (かつお)
	力(ちから)	teikkjara (ちっきやら)	tejkara (ちから)	teikara (ちから)	teikara (ちから)
ka:	瓦(かわら)	kawara: (かわらー)	ka:ra (かーら)	ka:ra (かーら) / kawara (かわら)	ka:ra (かーら)
ki	昨日(きのう)	kijpu (きにゅ)	kujpu (くにゅ)~ kujpu: (くにゅー)	kinpu: (きんにゅー)	kinpu: (きんにゅー)
	酒(さけ)	saki (さき)	saki: (さきー)~ saki (さき)	saki (さき)	saki (さき)
	肝(きも)	kimu: (くむー)	kimu: (くむー)	teimu (ちむー)	teimu: (ちむー)
	息(いき)	?iki (へいき)	?iki (へいき)	?itei (へいち)	?ittei (へいち)
ki:	胡瓜(きゅうり)	ki:ui (きゅーうい)	NR	ki:?ui (きーへうい)~ kju:ri (きゅーり)	kiui (きゅい)~ kju:i (きゅーい)
ku	口(くち)	kutei (くち)	kutei (くち)	kutei: (くちー)	kuttei: (くちー)~ kutei (くち)
	蜜柑(みかん)	kuribu (くりぶ)	kurubu (くりぶ)	kuribu: (くりぶー)~ kuribu (くりぶ)	kuribu (くりぶ)
	九つ(このつ)	kunutei (くぬち)	kunutei: (くぬちー)	kunutei: (くぬちー)	kunutei: (くぬちー)
ku:	茎(くき)	ku:ki: (くーきー)	φuki (ふき)	ku:tei: (くーちー)	φujni (ふに)
ke	怪我(けが)	jamatei (やまち)	kega (けが)	kiga: (きがー) / jamatei: (やまちー)	jamatei (やまちー) / kega (けが)
ke:	粥(かゆ)	ke: (けー)	ke: (けー)~ ke (け)	ke: (けー)	ke: (けー)
ko	従兄弟 (いとこ)	itoko (いとこ)	itoko (いとこ)	?utudza (へうとうぢゃ)	?utudza (へうとうぢゃ)

3. 4. 2 軟口蓋音 /g/

/g/ は共通語の /g/ に対応している。ただし、出花と国頭では、共通語の /gi/ に /zi/ [ɖzi] が対応する場合がある（下の表の網掛け部分）。これは、上記の /ki/ と並行的な現象である。

表 17 軟口蓋音 /g/

	語	田皆	瀬利覚	出花	国頭
ga	ばった	ga:ta (がーた)	ga:ta (がーた)	gatta: (がったー)	gatta (がった)
	孫(まご)	ʔumaga (うまが)	mʔa:ga (まーが)~ ma:ga (まーが)	mʔaga (まが)~ maga (まが)	mʔaga (まが)
ga:	男(おとこ)	jinga: (いんがー)	jinga: (いんがー)	jinga (いんが)~ jinga: (いんがー)	jinga: (いんがー)
gi	福木 (ふくぎ)	ɸukugi (ふくぎ)	ɸukutangi (ふくたんぎ)	ɸukugi: (ふくぎー)	ɸukugi: (ふくぎー)
	松(まつ)	mateigi (まちぎ)	mateigi (まちぎ)	mateigi (まちぎ)	mateigi (まちぎ)
	山羊(やぎ)	ja:gi (やーぎ)	jagi (やぎ)	jadzi (やぢ)	jadzi (やぢ)
	鰻(うなぎ)	ʔunagi (うなぎ)	ʔunagi (うなぎ)	ʔunadzi (うなぢ)	ʔunadzi (うなぢ)
gi:	鋸(のこ)	no:gi: (のーぎー)	no:gi: (のーぎー)	no:ɖzi: (のーぢー)~ no:ɖzin (のーぢん)	no:ɖzi: (のーぢー)
gu	胡麻(ごま)	guma (ぐま)	guma (ぐま)	guma (ぐま)	guma (ぐま)
	鯨(くじら)	gudzija (ぐぢら)	kudzira (くぢら) / gudzija (ぐぢら)	kudzira (くぢら)	gudzija (ぐぢら)
gu:	女(おんな)	wunagu: (ううなぐー)	wunagu (ううなぐ)~ wunagu: (ううなぐー)	wunagu (ううなぐ)	wunagu: (ううなぐー)
ge	しゃもじ	micige (みしげ)	micige (みしげ)	micige (みしげ)	micige: (みしげー)
go	クワズイモ	jugo:mba:ca (ゆごーんばーしゃ)	jugobaca (ゆごばしゃ)	jugobaca (ゆごばしゃ)	jugobaca (ゆごばしゃ)
go:	穴(あな)	go: (ごー)	ʔana (あな)	go: (ごー)	go: (ごー)

3. 5 声門音

声門音には、声門摩擦音（無声）の /h/ と声門閉鎖音の /ʔ/ がある。

3. 5. 1 声門摩擦音 /h/

/h/ は共通語の /h/ に対応し、母音 /a/ の前では [h] ないし [ɸ]（表の網掛け部分）、母音 /i/ の前では [ç] ないし [ɸ]（表の網掛け部分）、母音 /u/ の前では両唇音 /ɸ/、母音 /e/, /o/ の前では /h/ である。日本語のハ行音は古くは *p で、*p > *ɸ > h のような変化を起こして現在に至ったと推定されている（*は想定形を表す）。沖永良部方言の [ha~ɸa], [çi~ɸi] は、その変化の段階を表すものである。一方で /h/ は、共通語の /k/ にも対応する（例えば [hadzi] (はぢ：風), [çi:] (ひー：木) など）。この /h/ は [ha], [çi] で安定していて、[ha~ɸa], [çi~ɸi] のように揺れることはない。

表 18 声門摩擦音 /h/

	語	田皆	瀬利覚	出花	国頭
ha	鼻(はな)	ɸ ^w ana (ふあな)	hana (はな)	hana: (はな一) ~ hana (はな)	hana: (はな一) ~ ɸana: (ふあな一)
	葉(は)	ɸ ^w a: (ふあ一) // ha: (は一)	çi:nuɸ ^w a (ひーぬふあ)	ɸa: (ふあ一)	ɸa: (ふあ一)
	肩(かた)	hata: (はた一)	hata: (はた一)	hata: (はた一)	hata: (はた一) ~ hata (はた)
	風(かぜ)	hadzi (はぢ)	hadzi (はぢ)	hadzi (はぢ)	hadzi (はぢ)
ha:	亀(かめ)	hami: (はみ一)	hami: (はみ一)	ha:mi: (は一み一)	ha:mi: (は一み一)
hi	大きい	umagisa (まぎさ)	ɸuisa (ふいさ)	uɸisa (うふいさ)	uɸisan (うふいさん)
	大蒜 (にんにく)	çiru (ひる)	çiru: (ひる一)	çiru (ひる)	ɸiru (ふいる) ~ çiru (ひる)
	日(ひ)	çi: (ひ一)	çi: (ひ一)	çi: (ひ一)	çi: (ひ一)
	篋(へら)	çira (ひら)	hera (へら)	çira (ひら)	çira (ひら)
	煙(けむり)	çibuei (ひぶし)	çibuei (ひぶし)	çibuei (ひぶし)	çibuei (ひぶし)
	木(き)*	çi: (ひ一)	çi: (ひ一)	çi: (ひ一)	çi: (ひ一)
hi:	毛(け)	çigi (ひぎ) / çi: (ひ一)	çigi (ひぎ)	çi: (ひ一)	çi: (ひ一)
hu	冬(ふゆ)	ɸuju (ふゆ)	ɸuju (ふゆ)	ɸuju (ふゆ)	ɸuju (ふゆ)
	袋(ふくろ)	ɸukkuru (ふくる)	ɸukuru (ふくる)	ɸukuru (ふくる)	ɸukkuru (ふくる)
	骨(ほね)	ɸuɸi (ふに)	ɸuɸi (ふに)	ɸuɸi (ふに)	ɸuɸi (ふに)
	茎(くき)	ku:ki: (く一き一)	ɸuki (ふき)	ku:tei: (く一ち一)	ɸuɸi (ふに)
	声(こえ)	ɸui (ふい)	ɸui (ふい)	ɸui (ふい)	ɸui (ふい)
	今年(ことし)	ɸuɸuei (ふとうし)	ɸutuei (ふとうし)	ɸutabi (ふたび) / ɸutuei (ふとうし)	ɸutuei (ふとうし)
hu:	穂(ほ)	ɸu: (ふ一)	ʔɸinuɸu: (へいにぬふ一)	ɸu: (ふ一)	ɸu: (ふ一)
he	腕(うで)	ʔudi: (へうでい一)	heɸɸa: (へんにや一)	çɸɸa: (ひんにや) ~ heɸɸa: (へんにや)	heɸɸa: (へんにや一)
he:	灰(はい)	çe: (ひえ一)	he: (へ一)	he: (へ一)	he: (へ一)
	南(みなみ)	çe: (ひえ一)	he: (へ一)	he: (へ一)	he: (へ一)
	蠅(はえ)	he: (へ一)	he: (へ一)	he: (へ一)	he: (へ一)
ho:	箒(ほうき)	ho:ki (ほ一き)	ho:ki (ほ一き)	ho:tei (ほ一ち)	ho:tei (ほ一ち)
	皮(かわ)	ho: (ほ一)	ho: (ほ一)	ho: (ほ一)	ho: (ほ一)
	川(かわ)	ho: (ほ一)	ho: (ほ一)	ho:ra (ほ一ら)	ho:ra (ほ一ら)
	麴(こうじ)	ho:ɸi (ほ一じ)	ho:ɸi (ほ一じ)	ho:ɸi (ほ一じ)	ho:ɸi (ほ一じ)

沖永良部方言の /h/ と共通語の /h/, /k/ との対応関係は、かなり複雑であるが、共通語のハ行とカ行を基準にして対応関係を整理すると、以下のようになる。

表 19 ハ行音

	ハ行子音			
共通語	ha (ハ)	çi (ヒ)	he (ヘ)	φu (フ)・ho (ホ)
和泊・知名	ha~φa	çi~φi	çi	φu

表 20 カ行音

	カ行子音					
共通語	ka (カ)		ki (キ)	ke (ケ)		ku (ク)・ko (コ)
和泊町	ka	ha	tei	ki	çi	ku ・ çu
知名町			ki			

表 20 に示したように、「キ」と「ケ」に対応する音は、和泊町と知名町で発音が異なる。カ行の例を以下にあげておこう

表 21 カ行音の例

共通語	沖永良部	語	知名町瀬利覚	和泊町国頭
ka	ka	鯉(かつお) *	katsuo (かつお)	katsuo (かつお)
		瓦(かわら) *	ka:ra (かーら)	ka:ra(かーら)
		墓(はか)	haka (はか)	haka(はか) ~φaka (ふあか)
	ha	紙(かみ)	habi (はび)	habi :(はびー)
	ha>a	中(なか)	na: (なー)	na: (なー)
ki	tei, ki	肝(きも)	kimu: (きむー)	teimu: (ちむー)
		息(いき)	?iki (へいき)	?ittei (へいっち)
		昨日(きのう)	kipu (きにゅ) (田皆)	kinpu: (きんにゅー)
ke	ki	酒(さけ)	saki: (さきー)~saki (さき)	saki (さき)
		情け(なさけ) *	nasaki (なさき)(田皆)	nasaki (なさき)
	hi	毛(け)	çigi (ひぎ)	çi: (ひー)
		木(き) **	çi: (ひー)	çi: (ひー)
	hi>i	竹(たけ)	de: (でー)	de: (でー)
ku	ku	草(くさ)	kusa: (くさー)	kusa (くさ)
		袋(ふくろ)	φukkuru (ふくる)	φukkuru (ふくる)
		大工(だいく)	se:ku: (せーくー)(田皆)	se:ku: (せーくー)
	φu	茎(くき)	φuki (ふき)	φuni (ふに)
		くば(びろう樹)	φuba (ふば)	φuba: (ふばー) ~φuba (ふば)
ko	ku	九つ(ここのつ)	kunutei: (くぬちー)	kunutei: (くぬちー)
	φu	背中(せなか)	φuei (ふし)	φuei: (ふしー)
		暦(こよみ)	φujumi: (ふゆみー)(田皆)	kujumi: (くゆみー)
	φu>u	蛸(たこ)	to: (とー)	to: (とー)

	ho	麴(こうじ)	ho:ɕi (ほーじ)	ho:ɕi (ほーじ)

* 「鰹」, 「瓦」, 「情け」は新しく共通語から取り入れた語形か。

** 「木」は、奄美祖語では *ke であったと推定されている(上村 1955)。

3. 5. 2 声門音 /ʔ/

声門閉鎖音の /ʔ/ は、「2. 1 短母音」で述べたように、母音だけで音節を作るときに母音の前に現れる。接近音 /j/, /w/ では、3. 6で述べるように、/j/ と /ʔj/, /w/ と /ʔw/ がそれぞれ対立している。また、[kʔ], [mʔ], [tʔ] のような喉頭化した子音が現れることがある。ただし、喉頭化しない [k], [m], [t] と対立しているわけではない。以下に喉頭化子音の例をあげる。

表 22 喉頭化子音

	語	田皆	瀬利覚	出花	国頭
kʔ	鰹(くわ)	kʔoi (くわい)	koi: (こいー)	kʔoi (くわい)	kʔoi (くわい)
	桑(くわ)	kʔwa (くわ) ~ kʔwa:gi (くわーぎ)	kʔwangi (くわんぎ)	kʔwa: (くわー)	kʔwa: (くわー)
mʔ	孫(まご)	ʔumaga (うまが)	mʔa:ga (まーが)	mʔaga (まが) ~ maga (まが)	mʔaga (まが)
			~ma:ga (まーが)		
tʔ	手(て)	ti: (ていー)	ti: (ていー)	ti: (ていー)	tʔi: ~ti: (ていー)
	二つ(ふたつ)	ta:tei (たーち)	ta:tei (たーちー)	ta:tei (たーち)	tʔa:tei (たーち)

3. 6 接近音

接近音には /j/, /w/ がある。

/j/ は硬口蓋の接近音で、共通語の /j/ に対応する。沖永良部方言では、声門閉鎖 /ʔ/ を伴う /ʔj/ と声門閉鎖を伴わない /j/ が対立している。例えば、[ju:] (ゆ: 湯) と [ʔju:] (ゆー: 魚) は [ʔ] の有無により意味が区別されている(ミニマルペアの例)。ミニマルペアの例ではないが、[jo:ne] (よーね: 夕方) の [jo] と [ʔjo:] (よー: 櫓) の [ʔjo] も別の音として区別されている。

表 23 接近音 /j/

	語	田皆	瀬利覚	出花	国頭
ja	山(やま)	jama (やま)	jama (やま)	jama (やま)	jama: (やまー)
ja:	家(いえ)	ja: (やー)	ja: (やー)	ja: (やー)	ja: (やー)
ji	男(おとこ)	jinga: (いんがー)	jinga: (いんがー)	jinga (いんが) ~ jinga: (いんがー)	jinga: (いんがー)
ji:	柄(え)	ji: (いー)	ji: (いー)	ji: (いー)	ji: (いー)
	鋤(牛にひかす すき)	ji:zai (いーざい)	ji:de: (いーでー) ~ji:de (いーで)	ji:zai (いーざい)	ji:zai (いーざ い)
ju	枝(えだ)	juda (ゆだ)	juda (ゆだ)	juda (ゆだ) ~ juda: (ゆだー)	juda (ゆだ)
ju:	湯(ゆ)	ju: (ゆー)	ju: (ゆー)	ju: (ゆー)	ju: (ゆー)
ʔju:	魚(さかな)	ʔju: (ゆー)	ʔju: (ゆー)	ʔju: (ゆー)	ʔju: (ゆー)
jo:	夕方(ゆうがた)	ju:ne (ゆーね)	jo:ne (よーね)	jo:ne (よーね)	jo:ne: (よーね)

ʔjo:	櫛(かい)	kai (かい)	joku (よく)~ jo:ku(よーく)	ʔjo: (へよー)	ʔjo'o (へよお)

/j/ はまた、子音の後ろに続いて、口蓋化した子音を作る。調査語の範囲では、次のような口蓋化子音が現れた。

表 24 口蓋化子音

	語	田皆	瀬利覚	出花	国頭
bja:	葦(にら)	bja: (びやー)	bja: (びやー)	bja: (びやー)	bja: (びやー)
bjo:	病気(びょうき)	ja:di (やーでい)	jadi (やーでい)	bjo:ki (びよーき)	bjo:ki (びよーき)
mja	猫(ねこ)	mja: (みやー)	mja (みや)	mja: (みやー)	ʔmja: (へみやー)
mju	食べる	kamin (かみん)	kamjun (かみゆん)	kamin (かみん)	kamin (かみん)
tja	知っている か	atiarukaja (あてい あるかや)	atjan (あてあん)	atjai (あてあい)	atie (あていあえ)
dja:	○○だ(断定)	○○dja: (であー)	○○dja (であ)	○○dja: (であー)	○○dja: (であー)
sja	かまきり	ʔieatu (へいしやとう)	ʔieatu (へいしやとう)	ʔieatu (へいしやとう)~ ʔieatu: (へいしやとうー)	ʔieatu: (へいしやとうー)
sja:	白髪(しらが)	ea:ga (しゃーぎ)	ea:gi (しゃーぎ)	ea:gi: (しゃーぎ)	ea:gi (しゃーぎ)
sju:	潮(しお)	ueu: (うしゅー)	ueu (うしゅー)	eu: (しゅー) / ueu: (うしゅー)	eu: (しゅー)
zja	蚊(か)	gadzamu (がぢやむ)	gadzamu (がぢやむ)	gadzamu (がぢやむ)	gadzamu (がぢやむ)
zju	溝(みぞ)	nidzu (にぢゅ)~ ndzu (んぢゅ)	jindzu (にんぢゅ) / jindzu (いんぢゅ)	nidzu (にぢゅ)	nidzu (にぢゅ)
zjo:	天井 (てんじょう)	tindzo: (ていんぢょ ー)~tindzo (てい んぢょ)	tindzo: (ていんぢょー)	tindzo (ていんぢょ)	tendzo: (ていんぢょー)
nja:	腕(うで)	ʔudi: (へうでいー)	heɲna: (へんにや)	ɕiɲna: (ひんにやー) heɲna: (へんにやー)	heɲna: (へんにやー)
nju	昨日(きのう)	kinpu (きにゅ)	kupnu (くにゅ)~ kupnu: (くにゅー)	kinpu: (きんにゅー)	kinpu: (きんにゅー)
njo:	蓑(みの)	na:sa (にやーさ)	no:sa (によーさ)	no:sa (のーさ)	no:sa (によーさ)
cja	お父さん	ʔatea (へあちや)	atea (あちや)	ʔatea (へあちや)	ʔatea (へあちや)
	いくら	iteasa (いちゃさ)	ikjasa: (いちゃさー) // ikjasa (いちゃさ)	ʔiteasa (へいちゃさ)	ʔiteasa: (へいちゃさー)
cja:	板(いた)	itea: (いちゃー)~ itea (いちゃ)	ita (いた)	ʔitea: (へいちゃー)~ ʔi:tea (へいーちゃ)	i:tea (へいーちゃ)
cju	一昨年 (おとし)	miteunati (みちゅなてい)	miteunati (みちゅなてい)	miteu (みちゅ)	miteu (みちゅ)
	苺(いちご)	ʔiteibi (へいちゅび)	ʔiteubi (へいちゅび)	ʔiteubi (へいちゅび)	ʔiteubi (へいちゅび)

cju:	人(ひと)	teu: (ちゅー)	teu: (ちゅー)	teu: (ちゅー)	te'u: (へちゅー)
cjo:	兄弟 (きょうだい)	回答なし	kjo:dai (きょーだい)	teo:de: (ちよーでー)	teo:de: (ちよーでー)
kja	私たち	wakkja (わっきゃ)	wakkja(わっきゃ)	watea (わちゃ)	watea: (わちゃー)
kju	月(つき)	teikju (つき)	teikju (ちきゅ)	teikkju: (ちっきゅー)	teikkju: (ちっきゅー)
gja:	茅(かや)	gja: (ぎゃー)	gja: (ぎゃー)	gja: (ぎゃー)	gja: (ぎゃー)
hja:	坂(さか)	ça: (ひゃー)	ça:mitei (ひゃーみち)	ça: (ひゃー)	φja: (ふいゃー)~ ça: (ひゃー)
hju:	今日(きょう)	çu: (ひゅー)	çu: (ひゅー)	çu: (ひゅー)	çu: (ひゅー)

/w/ は両唇の接近音で、共通語の /w/ に対応する。出花と国頭では、/wa/ と /ʔwa/ が対立している。例えば、[wa:bi] (わーび: 上) の [wa] と [ʔwa:] (へわー: 豚) の [ʔwa] は、[ʔ] の有無により区別される。また、沖永良部方言には /wu/ の音がある。これは、母音の /u/ とは区別されている。例えば、[wutu] (うとう: 夫) と [utu] (うとう: 音) は、[w] と [u] の違いだけで意味が区別されるミニマルペアである。この /wu/ は古典語の「を」に由来する音で、上の例は、古典語の「をひと (夫)」、「おと (音)」の区別を引き継いだものである。

表 25 接近音 /w/

	語	田皆	瀬利覚	出花	国頭
wa	腹(はら)	watta: (わったー)	wata: (わたー)	wata: (わたー)	wata: (わたー)
wa:	上(うえ)	ʔui (へうい)	ui (うい)	wa:bi (わーび) / ui (うい)	wa:bi (わーび)
ʔwa:	豚(ぶた)	ʔwa: (へわー)	ʔwa (へわ)	ʔwa: (へわー)	ʔwa: (へわー)
wu	一昨日(おと とい)	wutti (ううってい)	wuti (ううってい)	wutti (ううってい)	wutti: (ううっていー)
	夫(おっと)	wutu (ううとう)	wutu (ううとう)	wuttu (ううっとう)	wuttu: (ううっとうー)
wu:	緒(お)	wu: (ううー)	wu: (ううー)	wu: (ううー)	wu: (ううー)

/w/ はまた、子音の後ろに続いて、唇音化した子音を作る。調査語の範囲では、次のような唇音化子音が現れた。

表 26 唇音化子音

	語	田皆	瀬利覚	出花	国頭
k ^w a:	桑(くわ)	k ^w a (くわ)~ k ^w a:gi (くわーぎ)	k ^w angi (くわんぎ)	k ^w a: (くわー)	k ^w a: (くわー)
g ^w a:	蚕(かいこ)	mueig ^w a (むしぐわ)	mueig ^w a (むしぐわ)	mueig ^w a:(むしぐわー) ~mueig ^w a(むしぐわ)	mueig ^w a (むしぐわ)

3. 7 特殊音

特殊音には、撥音 /N/ (ん) と促音 /Q/ (っ) がある。これらは母音を伴わずに1つの拍を作る。撥音は鼻にかかる音で、後ろに両唇音の [p], [b], [m] があるときには両唇の鼻音 [m] に、歯茎音の [t], [d], [n] があるときには歯茎の鼻音 [n] に、軟口蓋音の [k], [g] があるときには軟口蓋の鼻音 [ŋ] に、後ろに摩擦音の /s/ , 母音 /a, i, u/ があるとき、および語末では、口のどこも閉じない鼻音 [N] になる。

表 27 撥音 /N/

	語	田皆	瀬利覚	出花	国頭
m	昼(ひる)	çimma (ひんま)	çimma (ひんま)	çiŋma (ひんま)	çiŋma (ひんま)
n	腕(うで)	ʔudi: (^うでいー)	heŋna: (へんにゃー)	çiŋna: (ひんにゃー) heŋna: (へんにゃー)	heŋna: (へんにゃー)
ŋ	南瓜 (かぼちゃ)	naŋk ^w an (なんくわん)	naŋko (なんこ)	naŋk ^w an (なんくわん)	go:bura (ごーぶら)
N	食べる	kamin (かみん)	kamjun (かみゅん)	kamin (かみん)	kamin (かみん)

促音は子音を重ねる発音で、調査の範囲では、[tt], [kk], [tɕ], [ss], [ɕɕ] の促音が現れた。

表 28 促音 /Q/

	語	田皆	瀬利覚	出花	国頭
tt	四人(よにん)	juttai (ゆったい)	jute: (ゆってー)	jutai (ゆったい)	juttai (ゆったい)
kk	月(つき)	tɕikju (つき)	tɕikju (ちきゅ)	tɕikkju: (ちっきゅー)	tɕikkju: (ちっきゅー)
cc	灸(きゅう)	jatɕeu (やっちゅ)	jaito (やいと)	jatɕeu: (やっちゅー)	janɕeu: (やんちゅー)
ss	薬(くすり)	薬(くすり)	kusui (くすい)	kɕsui (くすい)	kussui (くすい)
	大根 (だいこん)	jacee (やっしえ)	jase (やせ)	jacee: (やっしえー) / de:kupni (でーくに)	jasse: (やっしえー) / de:kupni (でーくに)

4 音素目録

以上の音素の一覧をあげておく。

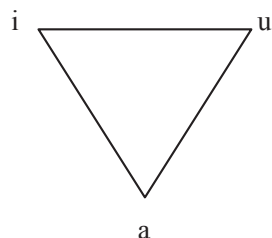


図 3 短母音音素

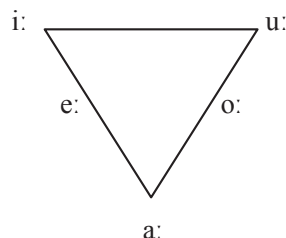


図 4 長母音音素

表 28 子音音素

調音方法		両唇	歯茎	硬口蓋	軟口蓋	声門
破裂	無声	p	t		k	ʔ
	有声	b	d		g	
鼻音		m	n [n~ɲ]			ɳ [ɳ~m~n~ŋ]
摩擦	無声		s [s~ɕ]			h [h~ç~ϕ]
	有声		z [z~ɗ~ɗz]			
はじき			r			
破擦	無声			c		
接近		w		j		

5 音節

沖永良部方言の音節の構造は, (O) (G) N (Co) である。(O は onset (頭子音), G は glide (わたり音), N は nucleus (中核母音), Co は coda (結び) を, () は任意であることを表す。)

音節の必須の要素は「中核母音」で, これに「頭子音」, 「わたり音」, 「結び」がついて, 1 つの音節を作る。以下に音節構造と音節の例をあげておこう。

表 29 音節構造

O (頭子音)	G (わたり音)	N (中核母音)	Co (結び)
p, b, m	w	a, i, u, e, o	Q
t, d, s, z, n, r	j	a:, i:, u:, e:, o:	N
c		ai, oi, ui	
k, g			
h, ʔ			

音節の例

(1) N	a.sa.ti (あさてい : 明後日)
(2) ON	ha: (はー : 歯)
(3) GN	ju: (ゆー : 湯)
(4) OGN	k ^w a: (くわー : 鋏)
(5) GNCo	waN (わん : 腕)
(6) ONCo	min (みん : 耳)
(7) OGNC	naŋ.k ^w aN (なんくわん : 南瓜)

参考文献

- 上村孝二 (1955) 「奄美大島方言の発音について」 鹿児島大学紀要「文科報告」 4 号
 松本幹男 (2000) 「<研究ノート>沖永良部島方言と喜界島方言における中舌母音について」 『語学研究』 95, 拓殖大学
 甲東哲編著 (2011) 「分類沖永良部島民族語彙集」 先田光演編集, 南方新社
 中本正智 (1976) 『琉球方言音韻の研究』 法政大学出版局

沖永良部島諸方言の格体系

横山 晶子*¹

1 はじめに

「格」はもともと名詞の屈折に関する文法範疇であり、名詞句と文の主要部の関係を標示する。沖永良部諸方言において、名詞句と主要部の関係は名詞の屈折ではなく、名詞に後続する助詞によって標示される。本稿では「格」をこうした名詞句と主要部の関係性自体を指す用法で用い、格を表す助詞（格助詞）についての記述を行う。

2012年国立国語研究所の与論・沖永良部調査では、沖永良部島四集落（田皆・瀬利覚・出花・国頭）において調査を行った。本稿では、本共同調査で得られたデータを用いて分析を行う。ただし、データが不十分な箇所については筆者の調査地である国頭集落の調査データを引用した。このため、まず2節で国頭方言の格体系について述べたのち、3節で上記4方言の異同を述べる。最後に4節で、沖永良部島諸方言と日本共通語における格体系の比較を行う。

本稿で用いる表記は、報告書の「沖永良部方言データ集の表記について」に従う。また、例文は4段表記とし、1段目に表層形、2段目に深層形、3段目にグロス（文法・語彙情報）、4段目に自由訳を載せる。共同調査によって得られたデータには、「質問X」という形で質問番号を記す。グロスの略号は「6略号」の通りである。

2 国頭方言の格体系

格助詞は、大きく文法格（grammatical case）と意味格（semantic case）に分類することが出来る。文法格は、「主語」「目的語」などの中心的な文法関係を表し、意味格はそれ以外の意味的役割を表す(Blake1994:32)。以下では、まず文法格、次いで意味格について記述を行う。

2. 1 文法格

国頭方言において、形態的に標示される文法格は、主格、属格、与格である（表1）。主格、属格にはそれぞれ2形式（=ga/nu）が存在し、接続する名詞の意味的特徴によって形式が選択される（形式の選択については2. 1. 2）。与格には=niが用いられる。

表1. 国頭方言の文法格

	ラベル	形式	標示する文法関係、意味
主格1	NOM1	=ga	自動詞・他動詞文の主語（①動作・状態の主体、②状態の対象）
主格2	NOM2	=nu	自動詞・他動詞文の主語（①動作・状態の主体、②状態の対象）
属格1	GEN1	=ga	名詞を修飾する名詞（①所属、②性質、③基準、④同格）
属格2	GEN2	=nu	名詞を修飾する名詞（①所属、②性質、③基準、④同格）
与格	DAT	=ni	間接目的語（①動作・授与・受身的動作・基準の相手②被使役者）

*¹ よこやま あきこ：一橋大学大学院博士後期課程

2. 1. 1 文法格の類型論的特徴

国頭方言における格標示は、S（自動詞文の主語）とA（他動詞文の主語）が同一の格標示を取り、P（他動詞文の直接目的語）が異なる格標示を取る、対格型（accusative）の体系である²。主格助詞には=gaと=nuの2形式が存在し、前接する名詞の意味特徴によって選択される（2. 1. 2）。他動詞文の直接目的語は形態的に標示されない。

(1) は述語が1項動詞の自動詞文であり、wa「私」が自動詞文の主語(S)となる。(2) は述語が2項動詞の他動詞文であり、wa「私」が他動詞文の主語（動作主: A）となる。自動詞文、他動詞文ともにwa「私」の主語標示は、格助詞=gaによって担われることが分かる。

- (1) fatte:=ci=wa **wa=ga** ic-ju-N
 fatte:=ci=wa **wa=ga** ik-ju-N
 畑=ALL=TOP **1SG=NOM** 行く-NPST-IND
 畑へは私が行く。（質問1）

- (2) **wa=ga** taro: abit-a-N
 wa=ga taro: abi-a-N
 1SG=NOM 太郎 呼ぶ-PST-IND
 私が太郎を呼んだ。（筆者データ）

次に、(3) は述語が1項動詞の自動詞文であり、cju:「人」が自動詞文の主語(S)となる。(4) は述語が2項動詞の他動詞文であり、cju:「人」が他動詞文の主語（動作主: A）となる。自動詞文、他動詞文ともにcju:「人」の主語標示は、格助詞=nuによって担われることが分かる。

- (3) kibiru=niti hju:=mu **cju:=nu** sizj-u=sa
 kibiru=niti hju:=mu **cju:=nu** sin-u=sa
 喜美留=LOC2 今日=ADD **人=NOM** 死ぬ-PROG=SFP
 喜美留で今日も人が死んでいる。（筆者データ）

- (4) aru **cju:=nu** uN isi muc-i iz-i faNgit-a-N=gi=jo:
 aru **cju:=nu** uN isi mut-i ik-i faNgi-a-N=gi=jo:
 ある **人=NOM** その 石 持つ-SEQ いく-SEQ 捨てる-PST-IND=EVD=SFP
 ある人がその石を持って行って捨てたんだよ。（筆者データ）

ここで、他動詞文 (2)(4) 直接目的語（被動作主: P）に目を向けると、(2)はtaro:「太郎」(4)はisi「石」で、共に助詞による格標示がないことが分かる。このため、国頭方言の格標示はS・A=ga/nu、P=Øと表すことが出来る。

² ただし、実際のデータの中には主語の標示が形態的になされないものもある（質問2など）。こうしたデータの説明は今後の課題である。

主格、属格における助詞=ga/nuの選択は、前接する名詞が「有生性の階層」(animacy hierarchy: Silverstein 1978, Dixon 1979)のどこに位置するかで、大凡の説明をする事が出来る。Dixon(1979: 85)によると、通言語的に有生性の階層は(5)のように表すことが出来る。

1 人称代名詞 > 2 人称代名詞 > 3 人称代名詞 > 固有名詞 > 人間名詞 > 動物名詞 > 無生物

(6) 国頭方言における名詞句階層

1 人称 > 2 人称非尊 > 2 人称尊 > 3 人称 > 固有 > 呼称 > 人間 > 動物 > 無生物

(6) で提案した名詞句階層に主格、属格における格助詞の形式を当てはめると図 1、図 2 のように表すことが出来る。主格助詞は「呼称」以上の名詞において=ga を選択し、それ以下の名詞において=nu を選択する。属格助詞は 2 人称以上の代名詞において格助詞を取らず(7)、3 人称代名詞、固有名詞、呼称名詞において=ga を、それ以下の名詞において=nu を選択する。



³ ただし、1 人称、2 人称非尊称の双数形 (wate:, ute:) の場合には代名詞単独の名詞修飾は出来ず、属格の標示には必ず=ga を伴う。

但し、実際のデータには主格、属格が=ga/nuのどちらの形式も取る場合（質問18、19など）や、主語が主格助詞を取らない場合もある（質問2など）。こうしたデータの説明は今後の課題である。

2. 1. 3 主格 (nominative)

主格助詞 =ga/nuは、自動詞文・他動詞文の主語を標示する。主語は基本的に①動作・状態の主体を表すが、述語が状態性の場合には②状態の対象を表すこともある。

(8) は述語が一項動詞の自動詞文で、=nuで標示される kwa:si「お菓子」は主語であり、状態の主体を表す。(9) は jumajuN「読める」は能力（状態）を表す述語であり、=nuで標示されるhoN「本」は状態の対象を表す。

- (8) nafa=ni=wa mizira-sja=nu kwa:si=nu a-N
 nafa=ni=wa mizira-sja=nu kwa:si=nu a-N
 沖縄=LOC1=TOP 珍しい-ADJ-ADN 菓子=NOM ある-IND
 沖縄には珍しいお菓子がある。（質問 33）

- (9) utuzja=wa eigo=nu hoN=nu jum-a-ju-N
 utuzja=wa eigo=nu hoN=nu jum-ra-ju-N
 いとこ=TOP 英語=GEN 本=NOM 読む-POT-NPST-IND
 いとこは英語の本が読める。（質問 54）

2. 1. 4 属格 (genitive)

属格助詞 =ga/nuは、名詞を修飾する名詞を標示する。修飾名詞は、被修飾名詞の①所属、②性質、③基準、④同格などを表す。(10) は=gaが前のtaro:「太郎」がmuN「もの」を修飾し、taro:「太郎」がmuN「もの」の所有者であることを表す。

(11) は=nuで標示されるeigo「英語」がhoN「本」を修飾し、本の性質（内容）を表す。(12) は=nuで標示されるfaku「箱」がna:「中」を修飾し、被修飾名詞の位置の基準を表す。(13) は=nuで標示されるutu「弟」がsaburo:「三郎」を修飾し、意味的に同内容であることを示す。

- (10) huN hama=wa taro:=ga muN=kaja
 huN hama=wa taro:=ga muN=kaja
 この 鎌=TOP 太郎=GEN もの=Q
 この鎌は太郎のものかな？（質問 5）

- (11) utuzja=wa eigo=nu hoN=nu jum-a-ju-N
 utuzja=wa eigo=nu hoN=nu jum-ra-ju-N
 いとこ=TOP 英語=GEN 本=NOM 読む-POT-NPST-IND
 いとこは英語の本が読める。（質問 54）

- (12) faku=nu na:=ni maNzju:=wa ikuci a-N=kaja
 faku=nu na:=ni maNzju:=wa ikuci a-N=kaja
 箱=GEN 中=LOC1 饅頭=TOP いくつ ある-IND=Q
 箱の中に饅頭はいくつあるかな？（質問 35）

- (13) ziro:=wa utu=nu saburo:=tu ju:zai sj-a-N
 ziro:=wa utu=nu saburo:=tu ju:zai sj-a-N
 次郎=TOP 弟=GEN 三郎=COM 喧嘩 する-PST-IND
 次郎は弟の三郎と喧嘩した。(質問 59)

2. 1. 5 与格 (dative)

与格助詞=ni は他動詞文の間接目的語を標示し、①動作・授与・受身的動作・基準の相手、②使役文における被使役者を表す。

(14) は=niで標示される hanako「花子」が、述語ho:juN「買う」の間接目的語であり、授与の相手を表す。(15) は=niで標示される ama「母」が、述語micjuN「似ている」という状態の基準の相手を表す。(16) は=niで標示される tuzi「妻」が、使役態の述語cukurasjuN「作らせる」の被使役者を表す。

- (14) kazuko=ga muN=tu ji:=nu geta hanako=ni=mu ho:t-i kuri-ra:
 kazuko=ga muN=tu ji:=nu geta hanako=ni=mu ho:-i kuri-ra:
 和子=GEN もの=COM 同じ=GEN 下駄 花子=DAT=ADD 買う-SEQ あげる-INT
 和子の物と同じ下駄を、花子にも買ってあげよう。(質問 72)

- (15) hanako=wa cira=nu ama=ni ju: micj-u-N
 hanako=wa cira=nu ama=ni ju: micj-u-N
 花子=TOP 顔=NOM 母=DAT よく 似る-PROG-IND
 花子は顔が母によく似ている。(質問 74)

- (16) tuzi=ni jumuge: cuku-racj-a-N
 tuzi=ni jumuge: cuku-ras-a-N
 妻=DAT 夕飯 作る-CAUS-PST-IND
 妻に夕飯を作らせた。(質問 57)

2. 2 意味格

意味格には、具格、共格、比較格、場所格、向格、奪格、終局格の7つの格がある(表2)。4で触れる通り、具格=si、場所格2=niti、奪格=karaの用法に共通語との違いがみられる。

表2. 国頭方言の意味格

	ラベル	形式	表す意味
具格	INS	=si	①手段、②起因、③主体、④限界、⑤領域、⑥様態
共格	COM	=tu	①共同動作・相互動作・基準の相手、②並列する名詞
比較格	COMPR	=jooka	比較の対象
場所格1	LOC1	=ni	①存在の場所 ②事態が生じる時間 ③変化の結果
場所格2	LOC2	=niti	動きの場所
向格	ALL	=ci	①移動の着点 ②動作の方向

奪格	ABL	=kara	①移動・時間・範囲・変化前の起点、②空間的な経過域
終局格 1	TER1	=Ntabe	場所・時間範囲の終点
終局格 2	TER2	=Ntani	場所・時間範囲の終点

2. 3. 1 具格 (instrumental)

具格=si は①手段、②起因、③主体、④動作にかかる時間、⑤領域、⑥様態を表す。共通語における「で」の用法とほぼ重なるが「で」が表す「動きの場所」の意味は持たない⁴。「動きの場所」の意味は、国頭方言において場所格 2=nitiが担う (2. 3. 4)。

(17) は=si で標示される hini「船」が「沖縄へ行く」移動の手段を表す。(18) は=si で標示されるbjooki「病気」が「学校を休んだ」原因を表す。(19) は=siで標示されるdu:「自分(祖父)」が「召し上がる」という行為の主体を表す。(20) は=siで標示されるicineN「1年」が「英語が話せる」という動作にかかる時間を表す。(22) は=siで標示されるnihoN「日本」が「一番高い」という評価が成り立つ領域を表す。(22) は=siで標示されるfadasi「裸足」が「走る」という動きの様態を示す。

- (17) nafa=ci ic-ju=si=wa **hini=si** ik-o=joka hiko:ki=du jukwa-N
 nafa=ci ik-ju=si=wa **hini=si** ik-ru=joka hiko:ki=du jukwa-N
 沖縄=ALL 行く-NPST=COMP=TOP 船=INS 行く-RU=COMPR 飛行機=FOC 良い-IND
 沖縄へ行くには、船で行くより飛行機が良い。(質問 10)

- (18) **bjo:ki=si** gakko: jasud-a-N
bjo:ki=si gakko: jasum-a-N
 病気=INS 学校 休む-PST-IND
 病気で学校を休んだ。(筆者データ)

- (19) zja:zja=wa **du:=si** o-kaju oisj-a-N=doo
 zja:zja=wa **du:=si** o-kaju ois-a-N=doo
 祖父=TOP REFL=INS HON-粥 食べる.HON-PST-IND=SFP
 祖父は自分でお粥を召し上がった。(筆者データ)

- (20) **icineN=si** e:go hanas-a-ju-N=dja:
icineN=si e:go hanas-ra-ju-N=dja:
 1年=INS 英語 話す-POT-NPST-IND=SFP
 1年で英語が話せるよ。(筆者データ)

- (21) **nihoN=si** icibaN taka-sa-nu jama=wa huzisaN=dja:
nihoN=si icibaN taka-sa-nu jama=wa huzisaN=dja:
 日本=INS 一番 高い-ADJ-ADN 山=TOP 富士山=SFP
 日本で一番高い山は富士山だ。(筆者データ)

⁴ 「庭で犬が鳴いている」(日本語記述文法研究会編 2009=2011: 6) など。

- (22) fadasi=si saiuduja sj-a-N
fadasi=si saiuduja sj-a-N
裸足=INS 走ること する-PST-IND
裸足で走った（筆者データ）

2. 3. 2 共格 (comitative)

共格=tu は①共同動作・相互動作・基準の相手、②並列する名詞を表し、共通語の「と」に対応する。(23) は=tuで標示される jiNganu kwaa「男の子（息子）」が、主体ama「母」と「会う」という相互動作を行う相手を表す。

(24) は=tu で標示される inu ?mja:「犬や猫」が、「同じである」という判断の基準を表す。(25) は=tu が前の名詞 kazuko「和子」と、後の名詞 hanako「花子」を並列する機能を持つ。

- (23) ama=wa na:cja to:kjo:=ci jiNga=nu kwa:=tu o:i=ga ic-ju-N=do:
ama=wa na:cja to:kjo:=ci jiNga=nu kwa:=tu o:=ga ik-ju-N=do:
母=TOP 明日 東京=ALL 男=GEN 子=COM 会う=目的 行く-NPST-IND=SPF
母は明日東京へ、男の子供（息子）と会いに行くよ。（質問 26）

- (24) kad-i nibu-ju-nu=daki ja-riba inu ?mja:=tu ji:=nu muN
kam-i nibu-ju-nu=daki ja-riba inu ?mja:=tu ji:=nu muN
食べる-SEQ 眠る-NPST-ADN COP-COND1 犬 猫=COM 同じ=GEN もの
食べて眠るだけなら、犬や猫と同じだ。（質問 51）

- (25) kazuko=tu hanako=wa agu=dja:
kazuko=tu hanako=wa agu=dja:
和子=COM 花子=TOP 友達=SPF
和子と花子は友達だ。（質問 73）

2. 3. 3 比較格 (comparative)

比較格=jo:ka/joka は比較の基準を表し、共通語の「より」に対応する。(26) は=joka で標示される hju:「今日」が、「風が強い」という程度の比較基準となる対象を表す。

- (26) kiNnju:=wa hju:=joka hazi=nu cju:-sa at-a-N
kiNnju:=wa hju:=joka hazi=nu cju:-sa a-a-N
昨日=TOP 今日=COMPR 風=NOM 強い-ADJ ある-PST-IND
昨日は今日より風が強かった。（質問 17）

2. 3. 4 場所格 (locative)

場所格には=ni, nitiの2つの形式がある。=niは①存在の場所、②時、③変化の結果などを表し、=nitiは動きの場所を表す。

2. 3. 4. 1 場所格 1 =ni

場所格=niは共通語の「に」の用法とほぼ重なるが「移動の着点」⁵「動作の対象」⁶など、動作に方向性を伴う意味は向格=ciが担う（2. 3. 5）。

(27) は=niで標示される jama「山」は「猪がいる」という存在の場所を表す。(28) は=niで標示される je:nu tuki「祝いの時」は「お婆さんまで踊った」という事態が生じた時間を表す。(29) はniで標示される seNse:「先生」は、主体である utuzja「いところ」の変化の結果を表す。

- (27) anu jama=ni=wa inusisi=nu u-mu=di jussa:
 anu jama=ni=wa inusisi=nu u-mu=di i-ju=sa:
 あの 山=LOC1=TOP 猪=NOM いる-EMPH=QUOT 言う-NPST=SFP
 あの山には猪がいると言うよ。（質問 19）

- (28) je:=nu tuki=ni=wa azi=gadi wudut-a-N
 je:=nu tuki=ni=wa azi=gadi wudu-a-N
 祝い=GEN 時=LOC1=TOP お婆さん=まで 踊る-PST-IND
 祝いの時には、お婆さんまで踊った。（質問 65）

- (29) huzu utuzja=nu cju:gakko:=nu seNse:=ni nat-a-N
 huzu utuzja=nu cju:gakko:=nu seNse:=ni na-a-N
 去年 いところ=NOM 中学校=GEN 先生=LOC1 なる-PST-IND
 去年、いところが中学校の先生になった。（質問 53）

2. 3. 4. 2 場所格 2 =niti

場所格=nitiは共通語の「で」の「動きの場所」の用法と重なる。(30) =niti で標示される mici「道」は「先生に会う」という動きが生じた場所を表す。

- (30) mici=niti gakko:=nu seNse:=ni o:t-a-N
 mici=niti gakko:=nu seNse:=ni o:-a-N
 道=LOC2 学校=GEN 先生=DAT 会う-PST-IND
 道で学校の先生に会った。（質問 70）

2. 3. 5 向格 (allative)

向格=ci は①移動の着点②動作の対象を表し、共通語の「に」と「へ」にまたがる用法を持つ。

(31) は=ciで標示される fatte:は「行く」という移動の着点を表す。(32) は=ciで標示される hanakoが「（犬が）吠える」という動作の対象を表す。

- (31) ura fatte:=ci ik-i
 ura fatte:=ci ik-ri
 2SG 畑=ALL 行く-IMP
 あんたが畑に行け。（質問 2）

⁵ 「子供が学校に行く」（日本語記述文法研究会編 2009=2011: 6）など

⁶ 「犬が花子に吠える」など

- (32) inu=ga hanako=ci fuit-a-N
inu=ga hanako=ci fui-a-N
犬=NOM 花子=DIR 吠える-PST-IND
犬が花子に吠えた。

2. 3. 6 奪格 (ablative)

奪格は①移動・時間・範囲・変化前の起点、②空間的な経過域を表す。①は共通語の「から」と対応し、②空間的な経過域は、共通語の「を」の用法の一部に対応する(2. 4)。

(33) は=karaで標示される to:kjo:「東京」が、「来る」という移動の起点を表す。(34) は、=karaで標示される huzu「去年」が、事態の時間的開始点を表す。(35) は=karaで標示される mici「道」が「歩く」という動作の経過領域を表す。(35) のように、動詞が空間的な位置変化を明示しない場合、共通語では「から」を用いることは出来ない(*道の真ん中から歩く)。しかし、国頭方言においてはこれが可能であり、共通語との格体系の違いだと言える。

- (33) maga=wa ici to:kjo:=kara mudut-i c-ju-i=jo:
maga=wa ici to:kjo:=kara mudu-i c-ju-i=jo:
孫=TOP いつ 東京=ABL 帰る-SEQ 来る-NPST-Q=Q
孫はいつ東京から帰ってくるの? (質問 24)

- (34) maga=nu/ga huzu=kara to:kjo:=ni uN
maga=nu/ga huzu=kara to:kjo:=ni u-N
孫=NOM 去年=ABL 東京=LOC1 いる-IND
孫は去年から東京にいる。(質問 23)

- (35) mici=nu maNnaka=kara ak-una=jo:
mici=nu maNnaka=kara ak-run-a=jo:
道=GEN 真ん中=ABL 歩く-PROH=SFP
道の真ん中を歩くなよ。(質問 13)

2. 3. 7 終局格 (terminative)

終局格=Ntani (Ntane)、=Ntabeは、場所・時間範囲の終点を表し、共通語の「まで」に対応する。2つの形式は交換可能であり、意味や機能の使い分けはないと思われる。

(36) は=Ntani (Ntane) で標示される jozi「4時」が「待つ」という行為を頼む時間的範囲の終点を表す。(37) は=Ntabeで標示される ja:「家」が「荷物を担ぐ」という行為の場所的な終点を指す。

- (36) jozi=Ntabe/Ntani eki=niti macj-u-ri=jo:
jozi=Ntane/Ntani eki=niti mat-u-ri=jo:
4時=TER2 駅=LOC2 待つ-PROG-IMP=SFP
4時まで駅で待っていてね。(質問 28)

- (37) ziro: huN nimucu ja=Ntabe hatamit-i ik-i=jo:
 ziro: huN nimucu ja=Ntabe hatami-i ik-i=jo:
 次郎 この 荷物 家=TER1 担ぐ-SEQ 行く-IMP=SFP
 次郎、この荷物を家まで担いで行けよ。(質問 30)

3 4 方言の比較

調査では知名町2集落(田皆、瀬利覚)、和泊町2集落(出花、国頭)で調査を行った。4方言の格助詞の形式を一覧にしたものが表3である。

表3. 4方言における格助詞の形式一覧

	ラベル	田皆	瀬利覚	出花	国頭
主格1	NOM1	=ga	=ga	=ga	=ga
主格2	NOM2	=nu	=nu	=nu	=nu
属格1	GEN1	=ga	=ga	=ga	=ga
属格2	GEN2	=nu	=nu	=nu	=nu
与格	DAT	=ni	=ni	=ni	=ni
具格	INS	=si	=si	=si	=si
共格	COM	=tu	=tu	=tu	=tu
比較格	COMPR	=nika	=jo(:)ka	=jo(:)ka	=jo(:)ka
場所格1	LOC1	=ni	=ni	=ni	=ni
場所格2	LOC2	=niti	=niti	=niti	=niti
向格	ALL	=gaci	=ci	=ci	=ci
奪格	ABL	=kara	=kara	=kara	=kara
終局格1	TER1	=Ntane	=Ntabe	=Ntabe	=Ntabe
終局格2	TER2			=Ntani	=Ntani

本調査の範囲において、4方言の比較を通じて指摘できるのは以下の3点である。

(1) 4方言は基本的に格助詞の形式・用法を共有するが、田皆方言では2つの格助詞について異なる形式を用いる。具体的には、比較格=jo(:)ka「～より」は=nika (38)、向格=ci「～へ」は=gaci (39)という形式を用いる。

(2) 終局格(～まで)において、和泊町の2方言は=Ntani(Ntane), =Ntabeの両形式を用いるのに対し、知名町の2方言は、田皆方言が=Ntane, 瀬利覚方言は=Ntabeとそれぞれ1形式しか観察されない(40, 41 なお該当する質問項目は3つ)。

(3) 「空間的な経過域」は、和泊2方言において=karaで表される一方、知名2方言では、主に対格で表示される(42, 43)。

- (38) kinju:=ja hju:=nika hazi=nu cju:-sa att-a-N
 kinju:=ja hju:=nika hazi=nu cju:-sa a-a-N
 昨日=TOP 今日=COMPR 風=NOM 強い-ADJ ある-PST-IND
 昨日は今日より風が強かった。(質問 17: 田皆)

- (39) ura=ga fate=gaci ik-i
ura=ga fate=gaci ik-i
2SG=NOM 畑=ALL 行く-IMP
あんたが畑へ行け。(質問 2: 田皆)
- (40) ku:ko:=ci=wa unu mici ik-i
ku:ko:=ci=wa unu mici ik-i
空港=ALL=TOP この道 行く-IMP
空港へはこの道を行け。(質問 12: 瀬利覚)
- (41) ku:ko:=gaci=ja unu mici ik-i
ku:ko:=gaci=ja unu mici ik-i
空港=ALL=TOP この道 行く-IMP
空港へはこの道を行け。(質問 12: 田皆)
- (42) mici=nu maNnaka=kara ac-i=wa na-ra-n=djaa
mici=nu maNnaka=kara ak-i=wa na-ran-n=djaa
道=GEN 真ん中=ABL 歩く-SEQ=TOP なる-NEG-IND=SPF
道の真ん中を歩いてはいけないよ (質問 13: 出花)
- (43) mici=nu maNnaka ac-i=wa sim-a-n=doo
mici=nu maNnaka ak-i=wa sim-ran-n=doo
道=GEN 真ん中 (ACC) 歩く-SEQ=TOP 済む-NEG-IND=SPF
道の真ん中を歩いてはいけないよ (質問 13: 田皆)

4 沖永良部諸方言と日本共通語の比較

沖永良部島諸方言と日本共通語の格助詞の違いとして、まず 2. 1 に取り上げたように主格／属格に複数形式があり、名詞の意味内容について選択されることが挙げられる。また、形式的な側面の他に、それぞれの格助詞が担う意味範囲の違いが指摘できる。以下では、それぞれの格形式の担う意味範囲の差異について、Haspelmath (2012) の semantic map (意味地図) を参考に比較する。

4. 1 格助詞形式の対応

沖永良部諸方言と共通語における、格助詞形式の対応は表 4 の通りである。表から分かる通り、場所格、具格、向格、奪格について形式が 1 対 1 の対応をしている訳ではないことが分かる。

表 4. 沖永良部島諸方言と日本共通語の格助詞

	ラベル	沖永良部諸方言	共通語
主格 1	NOM1	=ga	が
主格 2	NOM2	=nu	

属格1	GEN1	=ga	の
属格2	GEN2	=nu	
与格	DAT	=ni	に(与格)
具格	INS	=si	で
共格	COM	=tu	と
比較格	COMPR	=jo(:)ka /nika	より
場所格1	LOC1	=ni	に(場所格)
場所格2	LOC2	=niti	で
向格	ALL	=ci/gaci	へ、に(場所格)
奪格	ABL	=kara	から、を
終局格1	TER1	=Ntabe	まで
終局格2	TER2	=Ntani	

4. 2 「で」、場所格=niti、具格=si

まず、共通語において1つの格形式が担う意味機能を、複数の形式が担う事例について述べる。共通語の格助詞「で」は、場所から手段や動作の様態まで非常に広い意味で用いられるが、沖永良部島諸方言においては、場所に関しては場所格の=niti、手段や起因などその他意味については道具格の=siが表す(図3)。

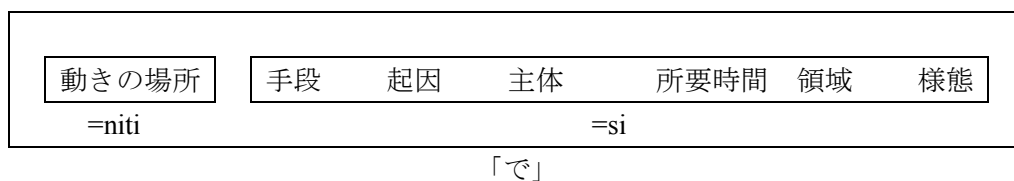


図3. 共通語「で」、沖永良部諸方言=niti, =si の意味地図

4. 3 「に」、向格=ci、具格 =si

次に、共通語の「に」(場所格)は存在の場所から動作の対象まで広い意味を担うが、沖永良部諸方言は、存在の場所、時間、変化の結果などは場所格の=ni、移動の着点や動作の対象など「方向性」を伴うものは方向格の=ciで標示される。=ciは、共通語の「へ」の機能とも重なる(図4)。

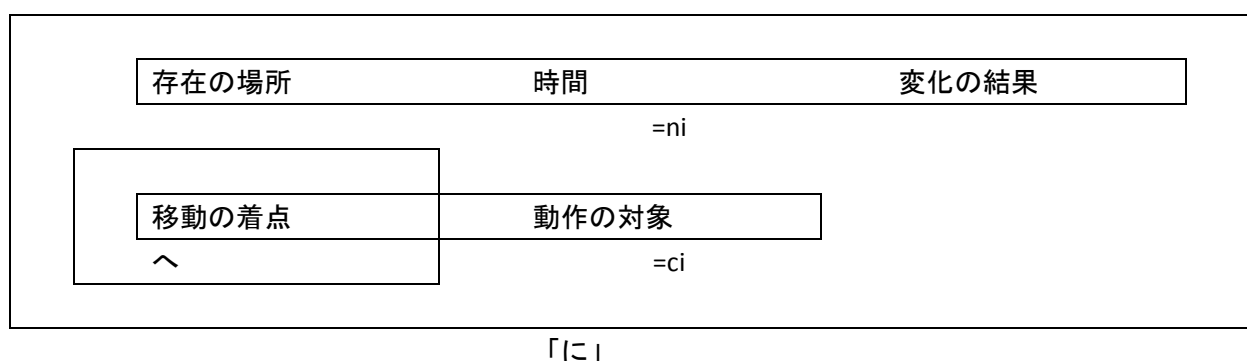


図4. 共通語「に」「へ」、沖永良部諸方言=ni, =ci の意味地図

4. 4 「から」「を」、奪格=kara

最後に、共通語において複数の形式にまたがる意味用法を、1つの格形式が担う例について述べる。共通語においては、「空間的な経過域」は特に動詞が空間的な位置変化を明示しない場合「を（対格）」によって担われ、「鳥が空から飛ぶ」「道の真ん中から歩く」のように言うことは出来ない。一方で、沖永良部諸方言（少なくとも、和泊2方言）の奪格=karaは、移動・時間・範囲・変化前の起点という共通語の「から」が持つ機能に加えて、空間的な経過域といった共通語の「を」が担う機能も持ち「鳥が空から飛ぶ」「道の真ん中から歩く」のように言うことが可能である（図5）。

移動・時間・範囲・変化前の起点	空間的な経過域
から	
=kara	動作・変化の対象
	を

図5. 共通語「から」「を」、和泊方言=kara

5 まとめ

本稿では沖永良部島諸方言における格体系について記述を行った。文法格には主格=ga/nu、属格=ga/nu、与格=ni、意味格には具格=si、共格=tu、比較格=jo:ka/nika、場所格=ni、=niti、向格=ci/gaci、奪格=kara、終局格=tani、=tabeがある。今回調査した4方言（田皆、瀬利覚、出花、国頭）は多くの格助詞において形式を共有するが、田皆方言は比較格に=nika、向格に=gaciという形式を用いる。また、共通語の格形式と比較すると（1）主格・属格にそれぞれ二形式=ga/nuが存在し、名詞の意味内容によって選択される（2）場所格=ni、=niti、向格=ci、具格=si、奪格=karaについて、それぞれ対応する共通語の格助詞と意味範囲が異なる、といった差異が観察された。

6 略号一覧

略号	機能		略号	機能	
ABL	ablative	奪格	INT	intentional	意図
ACC	accusative	対格	LOC1	locative1	場所格 1
ADD	additional	付加	LOC2	locative2	場所格 2
ADJ	adjective	形容詞	NOM	nominative	主格
ALL	allative	向格	NPST	non-past	非過去
CAUS	causative	使役	PROG	progressive	進行
COM	comitative	共格	PROH	prohibitive	禁止
COMP	complementizer	補文標識	PST	past	過去
COMPR	comparative	比較格	Q	question	疑問
DAT	dative	与格	QUOT	quotative	引用
EMPH	emphasis	強調	RU	ru-form	ル形（接続法）
EVD	evidential	証拠	SEQ	sequential	継起法

FOC	focus	焦点	SFP	sentence final particle	終助詞
GEN	genitive	属格	SG	singular	単数
IMP	imperative	命令	TER1	terminative	終局格 1
IND	indicative	直説法	TER2	terminative 2	終局格 2
INS	instrumental	具格	TOP	topic	話題

7 参考文献

- Blake, Barry. 1994. *Case*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Dixon, R. M. W. 1979. Ergativity. *Language*, 55:59–138. Linguistic Society of America.
- Haspelmath, Martin. 2011. Terminology of case. *The Oxford Handbook of Case*, 505-517. Oxford University Press.
- Haspelmath, Martin. (2003). ‘The geometry of grammatical meaning: Semantic maps and cross-linguistic comparison’ in: Tomasello, Michael (ed.), *The new psychology of language. vol. 2.*, 211-242. Mahwah, NJ: Lawrence Erlbaum.
- Shilverstein, Michael. 1976. Hierarchy of features and ergativity. In Dixon, R.M.W. (ed.) *Grammatical categories in Australian languages*, 112-171. Canberra: Australian Institute of Aboriginal Studies.
- 佐々木冠 (2006) 「格」佐々木冠、渋谷勝己、工藤真由美、井上優、日高水穂編『方言の文法』1-46. 岩波書店.
- 日本記述文法研究会編 (2009=2011) 『現代日本語文法 2』くろしお出版.

沖永良部語正名方言の疑問文

ハイス ファン・デル・ルベ*¹

はじめに

本稿は、沖永良部語正名方言の疑問文の形式とその使用を考察する。資料は、2013 年以来収集したものである。資料提供者（話者）は、M.F. (1936 女性)，H.T. (1950 男性)，N.N. (1942 男性) の 3 人である。

日本語記述文法研究会 (2003) によれば、疑問の定義は、次のとおりである。

疑問は、その命題に対して話し手の判断がなりたないことをあらわす。疑問の中心的な機能は、質問である。典型的な質問には、①話し手に不明な情報があるため判断がなりたらず、②聞き手に問いかけることによって疑問の解消をめざすという 2 つの基本的性質がある。質問の 2 つの基本性質のうち、①を欠くのが確認要求の疑問文であり、②を欠くのが疑いの疑問文である。確認要求の疑問文や、疑いの疑問文のほかにも、質問を行う時点での話し手の見込みや、状況や文脈との関係、あるいは情報の得られ方などから疑問文にはさまざまな大部が存在する。

一番典型的な疑問文は、①と②という特徴を両方もち、聞き手から情報を引き出すことを目的とする。

上に述べた 2 つの性質の中の 1 つが欠けている疑問文もある。たとえば、確認要求の疑問文は、話し手の判断がなりたっていないという性質が欠けており、疑いの疑問文は、聞き手に問いかけるという性質が欠けている。

疑問文が疑問終助詞によってマークされる点は、北琉球語群に属している言語変種の中で広く見られる特徴である。沖永良部の東側の諸方言 (Van der Lubbe & Tokunaga 2015: 362) とことなり、沖永良部語正名方言でも、疑問が終止形として機能する語形につく終助詞によってマークされる。話し相手が言ったことがそのまま繰り返される問い返し疑問と、nu: 「何？」?itji 「いつ？」などのように 1 つの疑問詞による疑問だけに助詞がつかないこともある。

「疑問文は、話し手にとって何が不明なのかという観点から、真偽疑問文 (= 肯否疑問文, yes-no question/polar question)，選択疑問文 (alternative question)，補充疑問分 (疑問詞疑問文, wh-question/content question) の 3 のタイプに分けられる。

確認要求や疑いは、疑問たらしめる 2 つの性質の中の 1 つを欠いているが、疑問には属する。修辞疑問は、特徴①を欠いているが、②聞き手に問いかけることによって疑問の解消をめざすという意味では、「聞き手に問いかける」という性質を持っているため、ここで記述することにする。

¹ Gijs van der Lubbe : 琉球大学大学院博士後期課程

表 1. 沖永良部語正名方言のさまざまな疑問文の‘疑問らしさ’。

	条件①	条件②
肯否疑問	○	○
選択肢疑問	○	○
疑問詞疑問	○	○
確認要求の疑問	×	○
疑いの疑問	○	△
修辞疑問	×	×

1. 肯否疑問

肯否疑問文は、上に述べた疑問文の定義があてはまる典型的な疑問文である。沖永良部語正名方言では、沖縄語首里方言 (Shimoji 2012 : 360) や与論語東区方言 (菊&高橋 2005 : 782-783) と同じように肯否質問と疑問詞質問文のマーキングがことなる。動詞・第 1 形容詞の第二終止形につく助詞の *nja* か *na* によってマークされる。動詞述語文、または、いわゆる第 1 形容詞が述語になる形容詞述語文が過去でない肯定文であれば、述語が第 2 終止形をとり、*-nja* がつく。

- 1) A: *ʔura=mu ʔik-i-N=nja?*
あなたも行くか？
B: *ʔik-i-N=do:*
行くよ
- 2) A: *ʔunu kwa:ʃi=wa ʔma:sa-N=nja?*
そのお菓子はおいしいか？
B: *ʔiN, ʔma:sa-N*
うん、おいしい
- 3) A: *ʔari=ga gai-tʃu-ʃi waka-i-Ø=nja?*
彼が言っていること分かるか？
B: *ʔai, waka-ra-N*
いや、分からない

名詞か、いわゆる第 2 形容詞が述語になる肯否疑問文のばあい、*na* がつく。

- 4) A: *ʔukja kwa-Nkja=mu ʃimamuni dʒo:dʒi=na?*
あなた方の子どもたちも島言葉が上手か？
B: *ʔai, wakja kwa-Nkja=wa ʃimamuni <zeNzeN> tʃikoi-jus-a-N=do:*
いや、私たちの子どもは島の言葉がぜんぜん使えないよ。
- 5) A: *ʔanu tʃu:=wa ʃima=nu tʃu:=na?*
あの人は島の人か？
B: *ʔana-N*
違う (=ではない)。

コピュラの丁寧形 *dero* にも *-nja* ではなく *-na* がつく。

- 6) A: ?adziφu=nu nijisan=wa horodzi dero=na?
畦布の西さんは親戚ですか？
B: ?iN, horodzi =doja:
うん，親戚だよ。

次の図に示したように，沖永良部語正名方言の *nja* と *na* の使い分けとほぼ同じ使い分けが，奄美大島であまねく見られる。

表 2. 北琉球語群のさまざまな言語変種における疑問助詞 *nja* と *na* の使い分け。

	名詞 (弟か)	動詞非過去形 (降るか)	動詞過去形 (降ったか)	動詞否定形 (降らないか)
沖永良部島正名	?utu:=na?	φuiN=nja	φutti=na	φuradi=na*
奄美大島名瀬	?ututu:=na?	φurjuN=nja	φuti=na φutaN=nja	φuradzi=na φuraN=na
奄美大島湯湾	?ututu:=na?	φujuN=nja	φuti=na	?

*70 代後半以下の話者は，*φuraN=nja* のように否定形の第 2 終止形に *nja* も用いるが，70 後半以上の話者は，この形式は，間違っている形式という。このことから，比較的，最近できた形式であると考えてよからう。

奄美群島で使われている諸語のなかでは，*-mu* 系と *-ri* 系との 2 つの終止形が共存する言語が多い。奄美語名瀬方言と湯湾方言には，*-mu* 系と *-ri* 系の終止形の両方がある。Niinaga (2014 : 459) は，*nja* を *na* の異形態素として分析し，次のように *na* が *-ri* 系の語尾 *-i* についたときに，共時的におこる音韻同化の結果であると述べている。

-i + na > 口蓋化 /i-nja/ > 鼻音化 > /-n=nja/

通時的におこった音韻変化であるとすれば，沖永良部語における *nja* と *na* の使い分けの説明にもなるし，現在，沖永良部語諸方言に *-ri* 系の形式がなくても，かつてはあったという証拠にもなる。なお，沖永良部語国頭方言に次の語形が確認されている（徳永 2014 : 10）。用例の音声表記は，本稿で使用するものに合わせた。

- 7) <wodomari>=Ntabe ?atf-u-i=na:?
和泊まで 歩くのか？

この ?atf-u-i=na: という形式は，*-ri* 系に由来する *-i* 終止形に *na* がつき，*-N=nja* にまで同化していない形のものである。国頭方言にこの *-i* 終止形の痕跡が確認されていることからすると，沖永良部語においても *-i* 終止形の使用がつい最近まで普通であったと言えよう。

否定肯否疑問文のばあい，動詞・第 1 形容詞・コピュラの否定形に *nja* がつくことがゆるされるか否かに関しては，話者の意見が一致していない。70 代半ばの話者は，否定形に *nja* の使用を好まないようである。それよりは，否定中止形の *-adi*² に肯否質問助詞 *na* をつけたほうが正しいという意識がある。70 代前半と 60 代の話者にとっては，否定形 + *nja* の使用は，違和感がないようである。

² 沖永良部語正名方言の否定中止形の *-adi* は，日本語の否定中止形の *-ズ* に相当すると考えられる。

- 8) A: kam-adi=na? ↔ kam-a-N=nja?
食べないか?
B: kam-i-N=do:
食べるよ
- 9) A: jo:fa na:di=na? ↔ jo:fa na-N=nja?
お腹は空いていないのか? (=ひもじくないのか?)
B: jo:fa-N=do:
お腹空いているよ (=ひもじいよ)
- 10) A: kam-i-ʃi=wa na:di=na? ↔ kam-i-ʃi=wa na-N=nja?
食べるのは、ないか?
B: na-N=dja:
ないわ

過去のばあいには、叙述法では、動詞・形容詞・コピュラが-ta-過去形をとるが、過去のことが肯否疑問の対象になるばあいには、-ti 中止形に na がつく。北琉球語群の変種のなかでは、久米島町謝名堂方言 (Van der Lubbe 2012) と国頭村奥方言にも同じ現象がみられる。北琉球語群の変種の中では、与論語 (菊 2007 : 43-44) , 喜界語小野津方言 (白田 2013 : 267) , 奄美語名瀬方言 (上村・須山 1997 : 446) において日本語のテ中止形に相当する形式が過去をあらわすことが確認されているため、現在沖永良部語のばあいに中止形とされる-ti がかつて単独でも過去をあらわしていたと考えられる。

- 11) a. × mifu ho:-ta-n=nja?
b. mifu ho:-ti=na?
味噌を買ったか?
- 12) A: ?ura=wa <aniki>=tu madʒini ?ik-adana ?a-tti=na?
あなたは兄貴と一緒に行かなかったか?
B: ?ai, madʒini ?i-dʒa-N=do:
いいえ、一緒に行ったよ。
- 13) A: kinju=nu <tfo:sa>=wa mutʃikaʃa-tti=na?
昨日の調査は難しかったか?
B: ?ai, jasa ?a-tta-ʃiga
いいえ、容易かったけど。
- 14) A: ʔuneda ki-tʃu-ta-nu tʃu:=wa jamatu=nu tʃu: ja-tti=na?
この間来ていた人は、大和の人だったか?
B: ?iN, gaN=do:
うん、そうだよ。

肯否疑問文では、1つの構成素がフォーカス（焦点化）されることもある。フォーカスされる構成素には、フォーカス助詞 du がつく。du で飾られる構成素が疑問の対象になる。

次の用例は、話し手が、誰かが車で畑に行くということを知っているばあいに、行くのが聞き手かどうかを問う文である。

- 15) A: ʔura=ga=du kuruma=ʃi horo=gatʃi ʔik-i-N=nja?
あなたが車で畑に行くのか?
B: ʔiN
うん。

次の用例では、話し手は、聞き手が畑に行くということを知っていて、車で行くかどうかを問うている。

- 16) A: ʔura=wa kuruma=ʃi=du horo=gatʃi ʔik-i-N=nja?
あなたは車で畑に行くのか?
B: ʔiN
うん。

次の用例では、話し手は、聞き手が車でどこかへ行くということが分かっている、行くのが畑かどうかを問うている。

- 17) A: ʔura=wa kuruma=ʃi horo=gatʃi=du ʔik-i-N=nja?
あなたは車で畑に行くのか?
B: ʔiN
うん。

du は、他の品詞・構成素をもフォーカス化させることができる。次の用例では、A が歩いている B を見て、どこから来たかを問うたところ、B が島の反対側にある国頭に行ってきたと答える。そこで A が車で行かず、歩いてきたかを聞くために、フォーカスを「歩いて」という副詞節においている。

- 18) A: ʔuda=kara ki-tʃi=jo?
どこから来た?
B: kuNgjani=gatʃi ʔi-dzi ki-tʃa-ʃiga,
国頭に行ってきたけど,
dari-ta-N=dja
疲れたよ。
A: ʔa-tʃi=du kuNgjani=gatʃi ʔi-dzi ki-tʃi=na?
歩いて国頭に行ってきたのか?
B: ʔai, kuruma=ʃi=du ʔi-dzi ki-tʃa-N=doja:
いや、車で行ってきたよ。

動詞述語文において、その動詞によって表現される運動がフォーカスの対象になるばあいは、du は、動詞の終止形につかず、動詞がいわゆる連用形によって名詞化し、その連用形に du がつき、日本語の「する」に相当する ʃi:mu がテンスを担うことになる。

動詞に du がつくのは、取り立てるような重いフォーカスを受けるときだけである。次の用例の I では、A は、B が芋を調理することは知っているが、どのような調理法かが分からなくて、炒めるか他の調理法を使うかを問うているが、II では、A は、B が芋を調理することを知っていて、芋を煮るのではなく炒めるという調理法を使うかどうかを問うている。II で話し手が求める回答は、yes か no だけではなく、なぜそうするかという説明も求めるようである。

- 19) I. A: ?umu=wa ?ikk-i-N=nja?
芋は炒めるのか？
B: ?iN, ?ikk-i-N=do:
うん、炒めるよ
- II. A: wa:ʃi=wa ʃi-ra-N-gane ?umu ?ikki=du ʃi-N=nja?
煮るんじゃなくて芋を炒めるのか？
B: ?iN, ?ikk-i-N=do:
うん、炒めるよ

次の用例では、Aは、Bが立ち上がって何かをしようとしているのを見て、残るのではなく、本当に戻るかどうかを問うている。

- 20) A: mudui=du ʃi-N=nja?
戻るのか？
B: ?iN, mudu-i-Ø=do:
うん、戻るよ

継続相をあらわすシテオル相当形式である-tumu形が述語になる動詞述語文がフォーカスの対象になるばあい、-tumu形の起源としての分析的な形-ti wu:muが見えてくる。-ti中止形にduがつき、有生物の存在動詞wu:muがテンスを担う。

次の用例では、AさんはBさんが芋を調理していることを知っていて、他の調理法ではなく、炒めるという調理法を使っているかどうかを問うている。

- 21) A: ?umu ?i-tʃi=du wu-N=nja?
芋を炒めているのか？
B: ?iN ?i-tʃu-N=do:
うん、炒めているよ。
- 22) A: ?ama=wa nama nibuti=du wu-N=nja?
お母さんは今眠っているか？
B: ?ai, na: ?ui-ta-N=do:
いや、もうおきたよ

いわゆる第1形容詞が述語になる形容詞述語文においてもduによるフォーカスがおこなわれる。第1形容詞は、-sa/-ʃa連用形と無生物の存在動詞?a:muからできたものであり、融合形の-samu/-ʃamuで終わることもあるが、沖永良部語正名方言の第1形容詞は、沖縄語首里方言（Shimoji 2012 : 365）とことなり、必ずしも融合するわけではない。述語がフォーカスの対象になるばあい融合せず、-sa/-ʃa連用形にduがつき、?a:muがテンスを担うことになる。

次の用例では、Aは、母のお菓子が他の味ではなく、苦いかどうかを問うている。

- 23) A: wakja ?ama=gakwa:ʃi=wa nigjasa=du ?a-N=nja?
うちの母のお菓子は苦いのか？
B: ?ai, nigjasa na-N=do:
いいえ、苦くないよ。

次の用例では、Aは、去年の仕事が暇ではなく、忙しかったかどうかを問うている。

- 24) A: ϕudu $jigutu=wa$ $?ifuga\text{fa}=du$ $?a-tti=na?$
去年仕事は忙しかったのか？
B: $?iN$, $?ifuga\text{fa}$ $?a-tta-N=do$:
うん、忙しかったよ。

名詞述語文の肯否疑問文において述語になる名詞がフォーカスされるばあい、過去形でしか du があらわれない。次の用例のとおりである。

次の用例では、Aさんは、Bさんに第三者である「あの人」がオランダの人かどうかを問うている。

- 25) A: $?anu$ $t\text{fu}:=wa$ $<?oraNda>=nu$ $t\text{fu}:=na?$
あの人はオランダの人なのか？
B: $?iN$, $gaN=j\text{o}$:
うん、そうだよ。

次の用例では、Aさんは、Bさんに第三者である「あの人」が昔区長であったかどうかを問うている。

- 26) A: $?anu$ $t\text{fu}:=wa$ $muka\text{fi}$ $<kut\text{fo}>=du$ $ja-tti=na?$
あの人は昔区長だったのか？
B: $?anaN$. $<t\text{fo:tfo}>=du$ $ja-tta-ru$
いいえ。町長だったんだよ。

肯否疑問マーカー na が機能名詞 ba : につくばあいは、形式としては、肯否疑問であるが、話し手が聞き手に yes/no という回答を求めるのではなく、その出来事の訳を問う。

次の用例は、BがAの家にアンテナが2つもあることに驚いてその訳を知りたくて問いかける文である。

- 27) A: $wakja$ $ja:=ne$ $<?aNtena>$ $ta:t\text{fi}$ $?a:-\text{figa}...$
うちの家にアンテナ2つあるけど...
B: $he:$, $ta:t\text{fi}$ $?a:-nu$ $ba:=na?$
へー、2つあるわけなの？
A: $<gaikoku>=nu$ $<sakka:>$ $mi:-nu$ $me:$ $<hitsujo:>=dja$
外国のサッカーを見るために必要なんだよ。

次の用例は、Aが民謡の勉強会に参加したBに夜10時に道で会ったときの会話である。Aは、Bが参加した民謡勉強会が6時に始まることを知っており、10時まで続いたことに驚いて問いかけている。

- 28) A: $nagadu$ $?uto-tu-ta-nu$ $ba:=na?$
長く歌っていたのか？

- B: hju:=wa tfirage ?ikja-tu-ta-N-tuni
今日はすごく盛り上がっていたから、
nama=ntane ?uto-tu-ta-N=dja
今まで歌っていたよ。

次の用例では、Aは、Bがテレビを買ってお金がないことに驚き、普段テレビは、さほど高くないはずなのになぜお金がないのか、その訳を知りたくて問いかけている。

- 29) A: numi-ga ?ik-a-dja?
飲みに行かないか？
B: mi:sa-nu <terebi> ho:-ti dʒiN=nu na:-mu=djo
新しいテレビを買ってお金がないな。
A: <terebi>=wa gaNji ta:sa-nu ba:=na?
テレビはそんなに高いのか？
B: <soni:>=du ja-tta-ru
Sony だったんだよ。

2. 選択肢疑問文

選択肢疑問文は、複数の可能性のうちどれが正しいかが話し手にとって不明であるため、聞き手にそれを選択肢として提示する疑問文である。肯否疑問と同じく *nja* か *na* によってマークされるが、*?iN* 「はい」、*?ai* 「いいえ」だけでは回答にならず、選択肢の1つを選んで回答しなければならない。選択肢疑問文においては、2つ以上の選択肢がとりたてられ、助詞 *du* によるフォーカス化がおこる。

次の用例では、AがBに2つの物の中でどちらを使うかを問うている。

- 30) A: ?uri=du tfiko-i-Ø=nja? ?ari=du tfiko-i-Ø=nja?
それを使うのか？あれを使うのか？
B: φuri=du tfiko-i-Ø=do:
これを使うんだよ。

次の用例では、AがBに徳之島か与論島のどちらへ行くかを問うている。

- 31) A: tukunufima=gatji=du ?ik-i-N=nja?
徳之島に行くのか？
junnu=gatji=du ?ik-i-N=nja?
与論に行くのか？
B: junnu=gatji=du ?ik-i-ru
与論に行くんだ。

動詞述語文においては、動作が選択肢疑問のフォーカスになっても、*du* が用いられない。次の用例では、AがBに行くか行かないかを問うている。

- 32) A: ʔik-i-N=nja? ʔik-adi=na?
行くのか？行かないのか？
B: ʔik-a-N=dja
行かないよ。

第 1 形容詞が述語になる文のばあい、述語が選択肢のフォーカスになれば、du が用いられることもあるが、du の使用は、義務的ではない。次の用例では、A が B に大きいか小さいかを問うている。

- 33) A: ʔubisa-N=nja? ʔiNkusa-N=nja?
大きいか？それとも小さいか？
B: ʔubisa-N=do:
大きいよ。

名詞述語文が選択肢疑問になるばあいは、現在の文なら du があらわれないが、過去の文なら du があらわれる。

次の 2 つの用例は、名詞述語文の選択肢疑問であるが、話題になるのは、過去のことであり、コピーの過去形が用いられるため、du があらわれる。

- 34) A: ʔukja gia:gja=wa jamatu=nu tʃu:=du ja-tti=na?
あなたたちのおじいさんは日本本土の人だったのか？
naɸa=nu tʃu:=du ja-tti=na?
沖縄の人だったのか？
B: naɸa=nu tʃu:=du ja-tta-ʃiga,
沖縄の人だったんだけど、
ʔma:=nu ʃima=nu muni=mu dʒo:dʒi ja-tta-N
ここの島の言葉も上手だった。

次の用例では、話題になるのが過去のことでないため、du があらわれない。弟の A が兄の B に問う文である。

- 35) A: ɸuri=wa wa: muN=na? jaku=ga muN=na?
これは私のものなのか？お兄さんのものなのか？
B: ʔura=ga muN ʔanadi=na?
あなたのものじゃないか？

3. 疑問詞疑問文

疑問詞疑問文は、その命題の中に話し手にとって不明な情報が含まれており、その不明な情報を疑問詞であらわす文である。疑問詞疑問文は、終助詞 jo によってマークされる。動詞・第 1 形容詞の第 2 終止形に疑問詞質問助詞 jo がつく。

- 36) A: nu: ʃu-N=jo?
何をしているか？

B: <ɸo:do> ʔifaja=gatʃi ʔik-i-nu ni: ja-tta-ʃiga
 ちょうど病院に行くところだったけど…

37) A: kwa:ʃi=wa ta:ʃi ʔa:-ʃiga ʔuduru=ga ʔma:sa-N=jo?
 お菓子は2つあるが、どちらがおいしい？

B: ʔuri=du ʔma:sa-ru =ja:
 こちらのほうがおいしいね。

第2形容詞には、コピュラなしでjoが直接述語につく。

38) A: taru=ga dʒo:dʒi=jo?
 だれが上手か？

B: dʒiro:=ga=du dʒo:dʒi=do:
 次郎が上手だよ。

名詞述語文が疑問詞質問文になるばあいには、joが直接述語になる名詞につく。

39) A: kuNgjanimuni=wa ʔikjaNnjanu muni=jo?
 国頭の言葉はどのような言葉か？

B: kuNgjanimuni=wa ʔma:=nu muni=tu
 国頭の言葉はこの言葉と
 ɸuʃi=nu tʃigo-ti
 イントネーションが違って
 midirafa-nu muni=do:
 面白い言葉だよ。

過去のばあいは、動詞・第1形容詞・コピュラの-ti中止形にjoがつく。

40) A: warabi ja-tta-ini=wa nu:=nu ʃigutu=nu
 子どもだったころは何の仕事が
 ʔitʃibaN samatʃasa ʔa-tti=jo?
 一番面倒くさかったのか？

B: ʔubi-tu-ra-N
 覚えていない。

正名方言の疑問詞は、nu: (なに) , taru (だれ) , ʔuda(:) (どこ) , ʔikjassa (いくら) , Nga/niga (なぜ) , ʔikja(:) (どう) , ʔitʃi (いつ) , ʔikutai (何人) , ʔuduru (どれ・どの) , ʔikjaNnjanu (どのような) などがある。

nu:は、日本語の「何」にあたり、もっとも基本的な機能は、物をあらわす名詞に対する疑問詞である。次の用例では、妻のAが夫のBに何を飲んでいるかを問うている。

41) A: nu: nu-du-N=jo?
 何を飲んでいるのか？

B: midi=du nu-du-N=do:. saki ʔana-N=do:
 水を飲んでいるんだよ。酒じゃないよ。

nu:が出来事をあらわすばあいもある。次の用例では、A が B に家にいなくて何があったかを問い、nu:「なに」が出来事をあらわしている。

- 42) A: kinju ʔukja ja:=gatʃi ʔi-dʒa-tu
昨日、あなた方の家に行ったら
taru=mu wu-radana ʔa-tta-ʃiga
誰もいなかったけど
nu:=nu ʔa-tti=jo?
何があったのか?
B: dʒikkjo=gatʃi ʔi-dʒu-ta-N
瀬利覚に行っていた。

nu:が単語の構成要素になることもある。たとえば、nu:ja:は、時刻をあらわす疑問詞である。

- 43) A: taro:=wa nu:ja:=be: ki-N=jo?
太郎は何時ごろ来る?
B: dʒu:dʒi=be: ki:=mu=di
10時ごろに来るそうだ。

複数の要素から何を選ぶかをたずねるのには、ʔuduru を用いる。

- 44) A: ʔirabumuni=tu naʔamuni ʔuduru=ga mutʃikafa-N=jo?
沖永良部語と沖縄語、どちらが難しいか?
B: ʔirabumuni=ga=du mutʃikafa-ru
沖永良部語のほうが難しい。

名詞の前につくばあい、ʔuduru は、日本語の「どの」の意味になる。

- 45) A: ʔuduru ʃima=nu muni=nu ʔitʃibaN mutʃikafa-N=jo?
どの島の言葉が一番難しいのか?
B: masana=nu muni=dʒa
正名の言葉だよ。

taru「だれ」は、人のことをたずねるのに用いる。

- 46) A: ʔa:ni=gatʃi=wa taru=tu ʔik-i-N=jo?
赤嶺には誰と行くのか?
B: ʔaja=tu=du ʔagufi ʔik-i-N=doja:
おねえさんと一緒に行くよ。

ʔitʃi「いつ」は、時をたずねるのに用いる。

- 47) A: <?erabu>=gatfi=wa ?itfi ki-ttji=jo?
沖永良部にはいつ来たのか?
B: kinju=du ki-ttja=ru
昨日来たんだ。

場所をたずねるには, ?uda「どこ」を用いる。

- 48) A: ?uda=kara ?mo:-tji=jo?
どこからいらっしゃいましたか?
B: horo=kara=du ki-ttja-N=dja
畑から来たんだよ。

理由や原因をたずねるには, ?ikjafi「どうして」やNga「なぜ」, または, niga「なぜ」を用いる。

- 49) A: Nga jima=gatfi mudui-bufa na-N=jo?
なぜ島に戻りたくないのか?
B: <tokai>=neti kuraji-bufa-N-tu=du
都会で暮らしたいから
mudui-bufa na-N=dja
戻りたくないんだよ。

手段をたずねるにも?ikjafi「どうやって」を用いる。

- 50) A: nafemuni=wa ?ikjafi ?ubi-jabu-ti=jo?
奄美語はどうやって覚えましたか?
B: wa=ga naje=ne wu-tta-nu tuki=wa
私が奄美大島にいたときは,
naje=mu mu:ru <ho:geN>=du ja-tta-N-tuni
奄美大島も全部方言だったから
tada ?agu=tu hana?i ji:gatfana ?ubi-ta-N
ただ友達と話しながら覚えた。

様態をたずねるのには, ?ikja(:)「どう」を用いる。

- 51) A: <ke:ro:kai>=wa ?ikja: ja-tti=jo?
敬老会はどうだったのか?
B: midira?a ?a-tta-N=doja:
面白かったよ。

疑問詞が重複形をとるばあいもある。これは、複数をあらわすと考えられるが、調査が不十分であるため、今後の課題にしたい。

- 52) A: *tatta=ga ki-ttʃu-ti=jo?*
だれだれが来ていたのか？
B: *taro:=tu dʒiro:=tu <jakuba>=nu tʃu: mu:ru ki-ttʃu-ta-N=do:*
太郎と次郎と役場の人、皆来ていたよ。

疑問詞があらわす、欠けている情報がいくつかの選択肢を取り得るばあいは、疑問詞、または、疑問詞が作る句にフォーカス助詞 *du* がつく。たとえば、次の用例では、A は、ビデオをとったのは、敬老会を手伝った人であることを知っており、その限られた人数の中の誰であったかを問うために、疑問詞が作る句に *du* がついている。

- 53) A: *<ke:ro:kai>=nu <bideo> muroi-buʃa-ʃiga,*
敬老会のビデオを見たいけど、
ta:=ga=du tu-tti=jo?
誰がとった？
B: *taro:=ga=du tu-tta-N=dja*
太郎がとったよ。

次の用例では、A が B に多くの飲み物の中から 1 つを選ばせようとして問いかけている。

- 54) A: *<bi:ru>, <ʃo:tʃu>, <nihoNʃu>, <uisuki>=nu ʔa:-ʃiga*
豚肉、チキン、ハンバーグがあるけど、
nu:=du num-i-N=jo?
何を食べるか？
B: *wana: <bi:ru>*
私はビール。

次の用例では、A が B に太郎と次郎という 2 人からなる選択肢からどちらのほうが上手かと問うている。

- 55) A: *taro:=tu dʒiro:, taru=du dʒo:dʒi=jo:?*
太郎と次郎、誰のほうが上手か？
B: *dʒiro:=ga=du ho:ri dʒo:dʒi=dja*
次郎のほうがずっと上手だよ。

4. 確認要求の疑問

確認要求の疑問は、話し手に何らかの判断が成立しているということを前提として、聞き手にその判断を問いかけ、確認を求めるといった機能を持っているものである（日本語記述文法研究会 2003 : 38）。沖永良部語正名方言の確認要求の疑問文をあらわす主要な形式は、*sa* と *-raja:* と *do:* と *ʔanadina* である。

sa は、動詞・形容詞の第2終止形につく。話し手の意志、意見、評価を伝える終助詞 sa と似ているが、確認要求のマーカースa は、名詞述語文と第2形容詞が述語になる文において直接述語につくのに対し、終助詞 sa は、コピュラにつく。

56) ʔanu tʃu:=wa ʔutu=sa?
 あの人は弟だろう？

57) ʔanu tʃu:=wa ʔutu: ja-N=sa
 あの人は弟さ。

疑問助詞 sa による文は、イントネーションも終助詞 sa による文とことなる。次の図のとおりである。

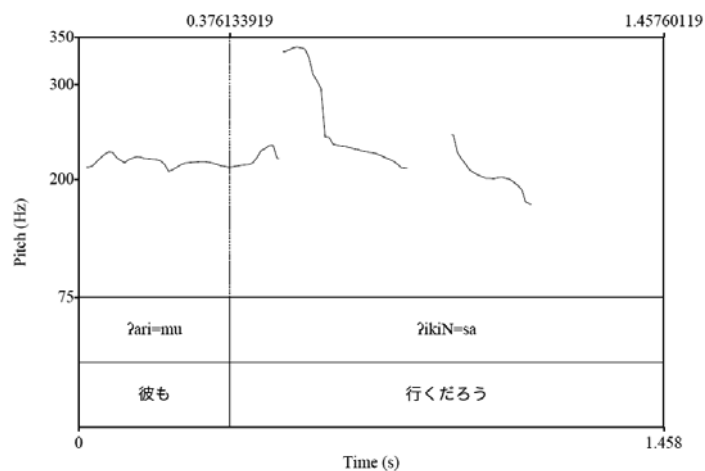


図 1. 疑問助詞 sa による文のイントネーション。ʔari=mu ʔikiN=sa? 「彼も行くだろう？」

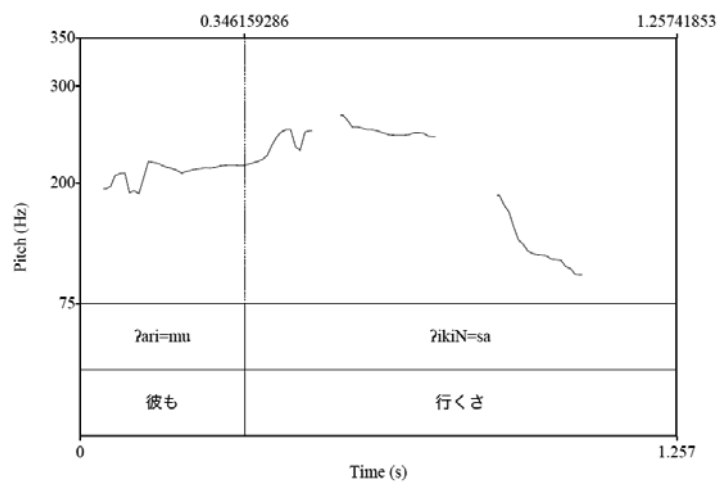


図 2. 話し手の評価をあらわす終助詞 sa による文のイントネーション

上の図にしめたように、疑問助詞の sa がつくばあいには、ʔikiN の語頭に山があり、それから音調がさがり、sa のところでまた少しあがってからさがる。

sa による疑問文は、yes/no で答えることができる肯否疑問であるが、話し手は、聞き手が肯定的に答えることを予想して問いかけている。ニュアンス的に日本語の「だろう?」と似ている。八重山語石垣方言に非常に似ている sa のもちい方がある（宮良信詳 1995 : 62）。

次の用例では、A は、B が明日も家にいるだろうと考えているため、sa による確認要求の疑問文で B に問いかけている。A には、何らかの根拠があつて B が家にいるだろうと考えた上での問いかけである。B が家にいるかどうか分からないばあいは、sa の使用が不自然であり、肯否質問助詞 nja による質問が正しいとされる。

- 58) A: ʔui=wa na:ʔa=mu ja:=ne ʔmeN=sa?
あなた様は明日も家にいらっしゃるでしょう?
B: ʔiN, wu-N=do:
うん、いるよ。

次の用例では、A は、A の提案で B もよいだろうと思っているが、確認として問いかけている。

- 59) A: ʔuri=ʃi jukkwa-N=sa?
それでいいだろう?
B: jukkwa-N=do:
いいよ

過去のことを尋ねるばあいは、-ti 中止形ではなく、-ta-過去形の第 2 終止形につく。次の用例では、A さんは、B さんが元気にしていたことを想定し、その確認を求めて問いかけている。話者の内省によると、聞き手の様子が元気そうでないばあいには、次のような sa の使用が失礼に当たるそうである。

- 60) A: dukusa ʃu:jabu-ta-N=sa?
元気にしていたでしょうか?
B: ʔiN, dukusa ʔa-tta-N=do:
うん、元気だったよ。

否定形のばあいも直接第 2 終止形につく。次の用例では、A は、B が大丈夫であることを予想し、その確認を求めて問いかけている。話者によれば、聞き手が大丈夫そうでないばあいには、sa を使うと違和感があるという。

- 61) A: ʔikja:=mu na-N=sa?
大丈夫だろう? (どうもないだろう?)
B: ʔiN, ʔikja:=mu na-N
うん、大丈夫だ。

次の用例では、B は、A と一緒に行く「友達」がカノジョであると予想し、本当にそうかどうかの確認をとっている。

- 62) A: ʔagu=tu maɟʒini <guamu>=gatʃi
友達と一緒にグアムへ

- ʔik-i-N-koi na-tta-mu=djo
行くことになったよ。
- B: ʔagu=di ʔi:-ʃi=wa <kanodʒo>=sa?
友達というのは彼女だろう？
- A: gaN=dja
そうだよ。

次の用例は、Bが以前にその翌日にも時間あるから調査しても良いということをAに話したことがあって、Aが確認として改めてBに問うている場面である。以前に話したことがないばあいには、saによる問いが押しつけがましいとされ、nja/naによる聞き方のほうがふさわしいという。

- 63) A: jukkwa-rja na:tʃa=mu ʃimamuni
良かったら、明日も島言葉を
naro-tʃi muroi-buʃa ʔa-jabu-ʃiga
教えてもらいたのですが、
na:tʃa <dʒikaN> ʔa-jabu-N=sa?
明日、時間ありますか？
- B: ʔiN, jukkwa-N=doja:
うん、いいよ。

次の用例では、Aは、Bが冬瓜を盗んだと思い、とがめるように確認をとっている。犯人がBであるという根拠がなければ、このような言い方は、しない。

- 64) A: wa=ga ho:-ta-nu ʃubui tu-tta-ʃi=wa ʔura=sa?
私が買った冬瓜をとったのは、あなただろう？
- B: ʔana-N, ʔana-N!
違う、違う！

次の用例は、以下のような場面である。Aは、Bの弟が日本本土にいることを知っているが、どこにいるのか知らないので、鹿児島にいるのかを問うところ、Bは、否定的に回答した。そこで、Aは、少々混乱してBに、弟がいるのは日本本土かと確認したところ、Bは、弟が神戸にいると応えた。

- 65) A: ʔukja ʔutu=wa jamatu=ne...
あなたたちの弟は、日本本土に...
<kagoʃima>=ne=du wu-N=nja?
鹿児島にいるのか？
- B: ʔai...
いや...
- A: ʔe? jamatu=sa?
え？日本本土だろう？
- B: ʔiN, <ko:be>
うん、神戸。

195

あいはい、フォーカス助詞として *du* が用いられる。次の用例は、息子の A が大切にしてきた日本酒がなくなったことに気づき、父親の B の顔が赤いのを見た上での会話である。

- 69) A: ?atfa=ga=du wa: saki nu-da-ra =ja:?!
お父さんがおれの酒を飲んだらう？！
B: ?abel ?ura saki=du ja-tti=na?
あらまー！お前の酒だったのか？

終助詞 *do:* は、基本的に話し手の推量をあらわすが、対話的な用法の 1 つとして話し手の推量を聞き手に確認する用法でも用いられる。*do:* は、動詞と第 1 形容詞の第 2 終止形につくが、名詞述語文と第 2 形容詞が述語になる文においては、直接名詞か第 2 形容詞につく。

- 70) ?ari=wa ?uneda=mu ki-ttfu-ta-N=do:?
彼は此間も来ていただらう？
71) hju:=wa ?u?ufikanu=neti fi:mu jukkwa-N=do:?
今日は大津勘でやってもいいだらう？
72) ?aNta kwaNkja=mu wudui=nu dʒo:dʒi=do:?
彼らの子どもたちも踊りが上手だらう？

確認要求に用いられる *do:* と終助詞 *do:* との違いは、イントネーションである。前者は、下降イントネーションで発音されるが、後者は、平坦なイントネーションで発音される。次の図にしめたように、推量助詞 *do:* のばあいはい、?idʒaN 「行った」の語頭に高い山がある。

- 73) ?i-dʒa-N=do:?
行っただらう？

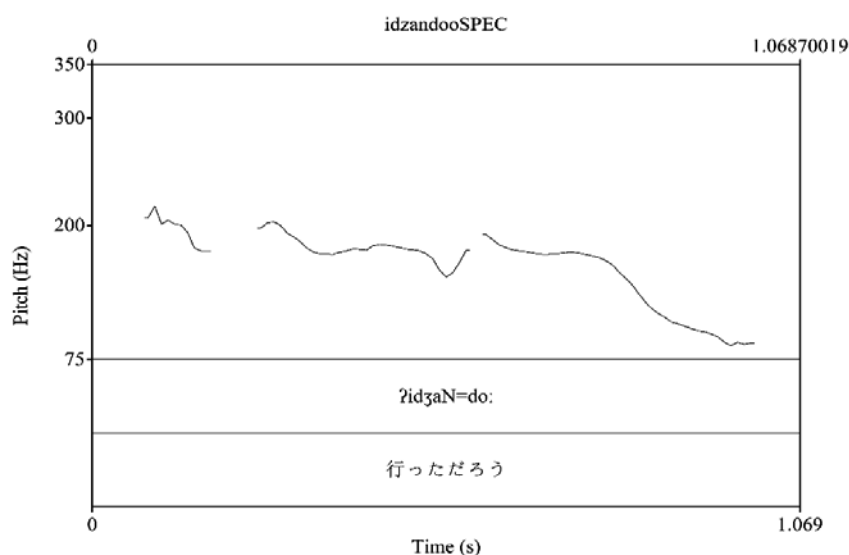


図 3. 推量助詞 *do:* による文のイントネーション

- 74) ʔi-dʒa-N=do:
行ったよ。

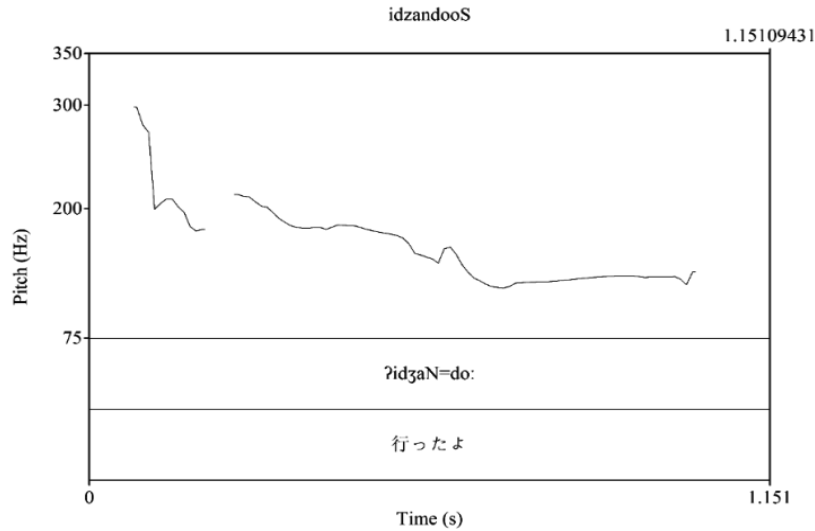


図 4. 終助詞 do:による文のイントネーション

do:が後述した sa と-raja:と決定的にことなる点は、話し手の認識の不確かさである。それは、do:の確認要求の用法が、話し手が既知の事柄をもとにして未知のことについて見当をつける推量の do:から、派生したためである。

次の用例では、A が太郎のおじいさんの話をしている。おじいさんがしばらく体調をくずしていたが、そのことを知っている B がおじいさんがまた元気になったかと聞き、A がそれを肯定する。B は、おじいさんがまた元気になったため、今も仕事に行っていると推量し、それを A に確認している。

- 75) A: taro:=ga gja:ga=ga
太郎のおじいさんが
<ke:ro:kai>=neti hanaʃi ʃa-N
敬老会で話しをした。
- B: gaN=na? mata <geNki>=ni na-tti=na?
そうか？また元気になったの？
- A: ʔiN
うん。
- B: nama=mu ʃigutu ʔi-dʒu-N=do?
今も仕事に行っているだろう？
- A: ʔiN. <daigeNki>=do:
うん。大元気だよ。

do:の確認用法に属するもう 1 つの用法として次の用例にあるような「聞き手への配慮」がある。A は、B が妻の父親が区長をしているのを知らないと推量し、do:による疑問文でその確認をとっている。このようなばあいには、sa か-raja:を用いれば、話し手の判断が成り立っており、認識が確かであるとい

うニュアンスが入るため、話し手の判断を聞き手に押し付けるような強い言い方になる。do:を用いれば、話し手の認識が不確かであることで、聞き手に対する‘押し付けがましさ’がなくなる。

- 76) A: tudzi=nu ?uja=nu ja:=gatʃi ʔi-dʒi...
妻の親の家に行って…
- B: gaN=na? ?uja nama dukusa ʃi: ?me-N=nja?
そうなの？親，今元気にしていらっしゃるか？
- A: ʔiN. nama <kutʃo:> ʃu-N=dʒa
うん。今区長をやっている。
- B: ʔe:ʔ ʔatʃa=na?
え？お父さん？
- A: ʔiN. ʔatena-N=do:ʔ
うん。知らないだろう？
- B: ʔatena-N
知らない。

もう1つの確認要求の疑問として用いられる形式は、日本語の「ではないか」に相当するʔanadinaである。これは、コピュラの否定形ʔanamu「でない」の-di 否定中止形-di に肯否疑問助詞 na がついた形である。確認要求の使用においてʔanadi と na がʔanadja のように融合することが多い。

ʔanadina は、テンスとアスペクトに関係なく、動詞・第1形容詞の第1終止形につく。名詞か第2形容詞が述語になる文のばあいには、非過去形では、その述語になる名詞か第2形容詞に直接つくが、過去形では、コピュラの過去形の第1終止形 jattamu につく。

- 77) mudu-ra-mu ʔana-di=na?
もどらないんじゃないか？
- 78) mudu-tu-mu ʔana-di=na?
もどっているんじゃないか？
- 79) mutʃikaʃa-mu ʔana-di=na?
難しいんじゃないか？
- 80) mutʃikaʃa ʔa-tta-mu ʔana-di=na?
難しかったんじゃないか？
- 81) dʒo:dʒi ʔana-di=na?
上手じゃないか？
- 82) dʒo:dʒi ja-tta-mu ʔana-di=na?
上手だったんじゃないか？
- 83) naʔatʃu ʔana-di=na?
沖縄の人じゃないか？
- 84) naʔatʃu ja-tta-mu ʔana-di=na?
沖縄の人だったんじゃないか？

?anadina の用法は、大きく 2 つにわけることができる。①話し手と聞き手が両者知っていることや一般的な知識、伝聞に基づく知識を話の話題にしたり、または、聞き手が忘れていることを思い出させたりする用法と、②話し手が聞き手の知っているはずのことを聞き手に気づかせる用法がある。

次の用例は、用法①の用例である。A は、B がこの間沖永良部に来ていたことを知って、それを話の話題としてあげようとしている。

- 85) A: ?ura=wa φuneda=mu jima=gatʃi
あなたがこないだも島に
ki-tʃu-ta-mu ?ana-dja?
来ていたんじゃないか？
B: gaN, gaN
そう、そう。
A: <jomehaN>=ga ?uja ?oi-ga=du ki-tʃi=na?
お嫁さんの両親に会いに来たのか？

次の用例も用法①の例である。A が B に道を聞いて、B が公民館を目印にして説明しようとしている。A も公民館の場所が分かるかどうかを確認している。

- 86) A: taro:=ga ja:=gatʃi φu:=di gaj-a-tta-ʃiga,
太郎の家に来いと言われたけど、
taro:=ga ja:=wa ?uda=jo?
太郎の家はどこなのか？
B: ?uri=wa=jo:, ?ama=ne <ko:miNkaN>=nu
それわね、あそこに公民館が
?a:-mu ?ana-di=na?
あるんじゃないか？
A: ?i:
うん。
B: ?unu <sugu> ?uʃu=dja
そのすぐ後ろだよ。

次の用例は、用法②の例である。A が B に怒って、車を洗うように何回も言ったことを B も知っているはずなのを B に気づかせようとしている。

- 87) A: ?ura Nga <kuruma> ?aro-ra-no:?!
あなたなぜ車を洗わないのか？
?ikukoi=mu ?aro-ri=di gai-tʃa-mu ?ana-dja?!
何回も洗えと言ったじゃないか？！
B: haNmaraja!
うるさい！

B: ʔikufi=be: =kaja:=ja:ʔ
何才ぐらいかな？

kaja:にマークされる文にフォーカス化がおこるばあい、平山輝男（1986：893）は、沖永良部瀬利覚の方言では、疑いの疑問文のフォーカスマーカーga も用いられると報告しているが、沖永良部語正名方言では、ga は、kaja:と共起せず、du が用いられる。

89) na:tfə ʔagu=nu ki:-fiɡa, du:tfui=fi=du ki-N=kaja:ʔ
明日、友達が来るけど、独りで来るのかな？

kaja:は、すべての品詞につく。動詞・第1形容詞につくばあい、第2終止形にも、旧連体形にもつく。第2終止形につくか旧連体形につくかによって意味は、かわらないが、旧連体形につくばあいは、疑いのみならず、話し手の意志の未決定をあらわすことが多い。この用法は、「意志の疑問文」に属する。

kaja:にマークされる疑いの疑問文には、判断不明、思考過程、疑念という独話的な用法もあれば、聞き手に応答を強制しない、聞き手が答えを知っているかどうか分かんなくても問いかけてみる用法もある。

判断不明の用法は、話し手がその命題が本当かどうか分からないことや、情報が欠けているため、判断がつかないことを表明する。判断不明の疑いの疑問文には、疑問詞がよくあらわれる。次の用例は、判断不明の用法としての疑いの疑問文の使用を示す。

90) ʔaja=wa nama ki-ttfu-ra-N=ja:.. ʔikja ʃa-N=kaja:ʔ
姉はまだ来ていないね。どうしたのかな？

91) <taro:>=wa ʃiNse=tu <puratoN>=ga <tetsugaku>nu
太郎は先生とプラトンの哲学の
hanafi ʃu:-ta-ʃiɡa,
話をしていたけど
ʃima ʔidzi-ta-nu kutu=nu na:-nu tfu:
島を出たことのない人
ʔikjafi gaNjanu kutu atea-N=kaja:ʔ
どうしてそんなことを知っているんだろう？

92) ʔuda=mu ɸui=mu mi-ttfə-ʃiɡa,
どこかも見たけど、
wa: hama=wa ʔuda=ne ʔa-N=kaja:ʔ
私の鎌はどこにあるんだろう？

思考過程の用法は、疑問の解消に向けてありうる可能性を検討していることをあらわすものである（日本語記述文法研究会 2003：36）。

93) wudga=wa ja:=ne wu-ra-N=ja:.. hatte=gatfi=du ʔmo:-tfu-N=kaja:ʔ

おじさんは家にいないね。畑にいらしているのかな？

- 94) ?ari=wa jima=nu tʃu: ?ana-N. naʃe=nu tʃu: =kaja:?
 彼は島（＝沖永良部）の人ではない。名瀬（＝奄美大島）の人かな？

kaja:には、疑念の用法もある。疑念というのは、実際にどうなのかが分からないが、その命題に対してありのままや言われたままを不審に思うことをあらわす。

- 95) ?ami=nu ɸu-i-mu =di gai-tʃu-ta-ʃiga, ?ami ɸu-i-Ø =kaja:?
 雨が降ると言っていたけど、雨、降るのかな？

kaja:は、独話的な用法が基本でありながら、対話的な用法もある。疑いの疑問文の独話的な用法は、その命題に対して判断が未成立であるが、聞き手に問いかけないのに対し、対話的な用法は、その命題に対して判断が未成立であり、聞き手に問いかけるため、疑問文たらしめる2つの特徴を両方持つということになる。日本語標準語でその2つの特徴をもっても、疑いの疑問文をあらわす形式を用いるのは、宮崎 et al. (2002 : 188) がいう〈応答を強制しない質問〉と〈聞き手への配慮を表す質問〉という用法の2つである。

通常の疑問文は、聞き手が話し手の疑問に答えることができると想定し、問いかけることによって応答を強制する機能をもっているのに対し、〈応答を強制しない質問〉の疑いの疑問文による質問においては、聞き手が話し手の疑問に答えることができるという想定が成り立たないことが応答を強制しない機能を可能にする。

次の用例は、kaja:による〈応答を強制しない質問〉の用法を示す。質問の対象となる田皆の区長が第三者であるため、新年会に来るかどうかは、Bが知っているという想定がAに成り立たちにくいため、nja より kaja:が用いられる。

- 96) A: <ʃiNneNkai>=gatʃi=wa tanja=nu <kutʃo:saN>=mu ki-N=kaja:?
 新年会には田皆の区長さんも来るかな？
 B: tabuN ki:-mu =di ?umi-N =do:
 たぶん来ると思うよ。

宮崎 et al. (2002 : 188) のもう1つの疑いの疑問文の対話的な用法の〈聞き手への配慮を表す質問〉は、正名方言にない。

旧連体形+kaja:の使用範囲は、第2終止形+kaja:のそれに重なっているが、前者は、話し手が自分の行為に迷っているニュアンスで用いられることが多い。

- 97) ?itʃi muduru =kaja:?
 いつ戻ろうかな？
 98) <ke:ki> tʃukuru =kaja:?
 ケーキを作ろうかな？

旧連体形+kaja:に人称制限があるわけではない。疑いの疑問文の独和的な用法の中で〈疑念〉という用法に偏りがあるようである。

- 99) kjaku=nu ki-N-tu, <ke:ki> tʃuku-ti ʔa:-ʃiga,
客が来るから、ケーキを作っているけど、
ʔuri=gassa=ʃi jukkwaru=kaja:ʔ
それだけで良いのかな？
- 100) hju: ʔami=nu φu-i-mu=di gai-tʃu-ta-ʃiga,
今日雨が降ると言っていたけど、
kumu=mu na:di, ʔami φuru=kaja:ʔ
雲はないし、雨降るかな？
- 101) A: <peN> ʔa-N=nja?
ペンあるか？
B: ʔaru=kaja:ʔ ʔa-tta-ʃiga hakk-ar-a-N-koi na-tta-N-tu
あるのかな？あったけど、書けなくなったから、
φuneda φunagi-ti ʃimo-ta-ʃiga...
この間捨ててしまったけど...

疑いの疑問文の対話的な用法である〈聞き手に応答を強制しない質問〉においては、旧連体形＋kaja:がほとんど用いられない。

疑問詞が動詞の-ru強調形と共起するばあい、当惑して自分がどのような行為をとれば良いか分からないニュアンスで用いられる。人称は、1人称に制限され、疑問詞疑問文にしか用いられず、判断不明という独話的な用法でしか用いられない。終助詞の djo:と jo:とよく共起する。

- 102) <φusaku> na-tti kam-i-ʃi=ga na-N-koi na-tta-mu=djo:!
不作になって食べるのがなくなったな！
nu: kam-i-ru=djo:?!
何を食べるのか？！
- 103) ja:=mu jakk-a-tti, ʃima=kara=mu ʔidʒi-rar-adi...
家も焼かれて、島からも出られないし...
ʔuda=gatʃi ʔik-i-ru=djo:?!
どこに行くのか？！

特記すべき点としては、沖永良部島で決まり文句として広く知られている ʔikja=ga ʃi-ru=djo:! 「どうしよう！」がある。

- 104) ʔikkjadjo: ʔikja=ga ʃi-ru=djo:?!
きやーっ！どうしようかな？！

これには、フォーカス助詞 ga が疑問詞につき、-ru強調形と共起する。奄美語名瀬方言（三石 1993 : 129）と奄美語湯湾方言（Niinaga 2014 : 511）においても、フォーカス助詞 ga と -ru強調形が共起する構造が生産的に起こるが、疑問詞質問として用いられる。それに対して、現在沖永良部語諸方言においては、このような構造は、判断不明や当惑をあらわす疑いの疑問として用いられる。

- 105) ?uda=gatʃi=ga ?ik-i-ru=djo:?!
 どこに行こうかな？！

疑問詞と-ru形が共起する疑いの疑問文において疑問詞にフォーカス助詞 **du** がつくばあいもある。疑問詞にフォーカス助詞 **ga** がつくばあいと、何もつかないばあいの違いは、**du** がつくばあいは、いくつかの選択肢があるがどれにするかに迷うというニュアンスで用いられることである。

次の用例では、AとBが踊りの練習の場所を決めようとする。選択肢としては、正名の公民館と知名町の劇場である『あしびの里』という2つがあるが、公民館が暑すぎることとあしびの里が高いことでどちらにするかが困難である。

- 106) A: wudui=nu <reNʃu:>=wa ?uda=neti.ʃi-N=jō?
 踊りの練習はどこですか？
 B: <ko:miNkaN>=tu ?aʃibinusato=nu ?a:-ʃiɡa,
 公民館とあしびの里があるけど
 <ko:miNkaN>=wa tʃiko-timu jukkwa-ʃiɡa,
 公民館は使ってもいいけど
 nama ?utturufʃa ?atʃisa-N=gi=jō:
 今とても暑いよ。
 ja:-ʃiɡa ?aʃibinusato=neti.ʃi-N-tara
 しかし、あしびの里でするなら
 haro-raN-nja na-ra-N.
 払わなければならない。
 gaNʃi-N-tu ?uduru=ga=du jukkwa-N=gara waka-ra-N=dja:
 だから、どちらがいいか分からないよ。
 B: ?ikkjadjo:! ?uda=neti=du ʃi:-ru=djo:?!
 きゃーっ！どこでやろうかな？

上に述べたように動詞・第1形容詞の-ra形は、終助詞 ja:に後接されるばあい、確認要求の疑問文のマーカーとしても用いられるが、そのようなばあいは、述語が-ra形をとらえた疑いの疑問文専用のフォーカス助詞 **ga** があらわれることがないし、逆に **ga** があれば、疑いの疑問文としてしか捉えられない。

この **ga**…-ra 構造には、3つの機能・用法がある。①一番基本的な用法は、疑いの疑問文としての用法である。②埋め込み疑問文としての用法である。③因果関係の不確定を提示する原因・理由節としての用法である。このセクションでは、①のみを検討する。

ga は、述語が-ra形をとる文において疑問のフォーカスがどこにあるかをあらわす点では、用法が **du** と似ている。次の用例は、同じセンテンスであるが、**ga** によってフォーカス化される句がことなる。日本語訳では、フォーカスの対象になる句に下線がついている。

- 107) taro:=ga=ga ja:=neti.ʃiʃi kam-i-ra?
 太郎が家で肉を食べるのだろうか？
 108) taro:=ga ja:=neti=ga ʃiʃi kam-i-ra?
 太郎が家で肉を食べるのかな

- 109) taro:=ga ja:=neti ji:=ga kam-i-ra?
太郎が家で肉を食べるのかな

述語が-ra 形をとる文のフォーカス助詞 ga の使用と、それ以外の疑問文のフォーカス助詞 du の使用とは、相違点が 2 つある。①-ra 形をとる述語の疑いの疑問文に疑問詞があるばあいは、その疑問詞が補充している欠けている情報が疑問の対象となるため、ga は、かならず疑問詞につく。

- 110) ta:=ga=ga ki:-ra?
誰が来るのだろうか？
- 111) kwa:ji=wa nu:=nu=ga ?ma:sa-ra?
お菓子は何がおいしいのだろうか？
- 112) ?ari=wa ?ikja:=ga gaNji Jimamuni dzo:dzi ja-ra?
彼はなぜそんなに島の言葉が上手なのだろうか？
- 113) ta:=ga=ga <haNniN> ja-ra?
誰が犯人なのだろうか？
- 114) ?ikja:=ga φu:-ra?
どうして来ないのだろうか？

「誰が何を持ってくるのだろうか」のような疑問詞が 2 つあらわれる文においては、両方の疑問詞に ga がつく。

- 115) ta:=ga=ga nu:=ga mu-tji ki:-ra?
だれが何を持ってくるんだろう？
- 116) ?atja=wa ?uda=neti=ga nu:=ga ju:-ra?
お父さんはどこで何をしているのだろうか？

②文全体が疑問の対象になっても、ga が述語につく。動詞述語文のばあいは、動詞がいわゆる連用形によって名詞化し、ji:mu 「する」がテンスマーキングを担うようになる。

- 117) wa=ga gai-tja-ji wakai=ga ja:-ra?
私が言ったのを分かったのかな？

du も同じように連用形につくが、そのようなばあいは、文全体ではなく、動作が取り立てるような重いフォーカスを受ける。次の用例は、ga と du のフォーカスのスコープの違いを示す。ga が述語になる動詞?ikkiN 「炒める」につくばあいは、a のような文全体が疑問の対象となる解釈も、b のような、「炒める」という動作のみが疑問の対象となる解釈も可能である。du が述語になる動詞につくばあいは、「炒める」という動作のみが疑問の対象となる解釈しか考えられない。

- 118) I. ?ama=ga to:gura=neti ?umu ?ikki=ga ji:-ra?
a.お母さんが台所で芋を炒めるのだろうか？
b.お母さんが台所で芋を（煮るんじゃなくて）炒めるのだろうか？

- II. ?ama=ga to:gura=neti ?umu ?ikki=du ji-N=kaja:?
お母さんが台所で芋を（煮るんじゃなくて）炒めるのかな？

述語動詞がシテオルに相当する-tumu 継続形か、シテアルに相当する-ti ?a:mu 結果形をとり、動作がフォーカスの対象になるばあい、-ti 中止形に ga がつき、助動詞が-ra 形をとるが、文全体がフォーカスの対象になれば、継続形のばあい、融合形式-tumu がいわゆる連用形をとり、-tui に ga がつき、ji:mu 「する」がテンスマーキングを担うようになり、結果形のばあい、助動詞?a:mu 「ある」がいわゆる連用形をとり、?ai に ga がつき、ji:mu 「する」がテンスマーキングを担うようになる。

- 119) I. jigitu ji-ra-N-gane nibu-ti=ga wu:-ra?
仕事をしないで、寝ているのかな？
II. ju: nibu-tui=ga ji:-ra?
よく寝ているのかな？
- 120) I. ?unu hanafi=wa tfukuti=ga ?a:-ra?
その話は、作ったのかな？
II. hju:=nu fu:ki=wa na: tfuku-ti ?ai=ga ji:-ra?
今日のご馳走はもう作っているのかな？

否定形をとる述語が ga によってフォーカス化されるばあい、否定中止形-adana/-radana 形に ga がつき、無生物の存在動詞?a:mu 「ある」によってテンスが表現される。

- 121) kam-adana=ga ?a:-ra?
食べないのかな？
- 122) kam-adana=ga ?a-tta-ra?
食べなかったのかな？

この言い方は、高年層の話者にしか認められず、衰退しつつあるようである。もっと若い話者は、否定形の疑いの疑問形として kamadana=ga ?a:ra より kamaN=kaja: と kamaN=gara のほうをよく用いるようである。

フォーカスの対象になる述語が第1形容詞であるばあい、形容詞の-sa/-ja 連用語幹に ga がつき、テンスが無生物の存在動詞によってあらわされる。

- 123) phi=wa ta:sa=ga ?a:-ra?
米は高いのだろうか？
- 124) ?ui-fi=wa nissa=ga ?a-tta-ra?
起きろのは遅かったのだろうか？

第1形容詞の原形とされる-samu/-jamu 形は、-sa/-ja 連用語幹と無生物の存在動詞?a:mu 「ある」の縮約形であることが分かっている。ところが、正名方言では、-sa/-ja 連用語幹と無生物の存在動詞が縮約形になることが義務的ではないため、フォーカスの対象の、述語になる第1形容詞が縮約せず、?a:mu の連用形?ai が ga をとり、テンスが ji:mu 「する」によってあらわされることもある。

- 125) $\phiumi=wa$ $ta:sa$ $?ai=ga$ $ji:-ra?$
米は高いのだろうか？

話者の内省によると、 $ga...-ra$ 構造による疑いの疑問文は、独話的な用法に限られているわけではなく、対話的な用法としての使用が少ないという。なお、独話的な用法においても終助詞がつかないければ、心内発話のような響きがあり、会話の中では、終助詞の $ja:$, $jo:$, $djo:$ に後接されることが多い。次の用例は、判断不明の用法を示す。

- 126) $?aja=wa$ $?umu$ $?agassa=du$ $mu-t\phi i$
お姉さんは芋をあんなにたくさん持って
 $?uda=gat\phi i=ga$ $?ik-i-ra=ja:?$
どこに行くんだろうね？
- 127) $wugi=nu$ $mu:ru$ $hadifukki=ni$ $ji:-ra-tti$
砂糖きびがみな台風にやられて
 $?ikja$ $ji-rja=ga$ $jukkwa-ra=jo:?$
どうすればいいんだろうな？
- 128) $na\phi a=gat\phi i$ $?umaga$ $so:-ti$ $?ik-\phi i=wa$ $ta:sa=ga$ $?a:-ra=ja:?$
沖縄に孫を連れて行くのは高いのかな？
- 129) $?a\phi i=ga$ $t\phi i=wa$ $?ikut\phi i=ga$ $ja-ra=ja:?$
お婆さんの歳はいくつなんだろうな？

$ga...-ra$ 構造による判断不明をあらわす文を $wakaramu$ 「分からない」という動詞の補文に埋め込んでも意味がほとんど変わらない。当該構造の埋め込み疑問文としての用法の起源は、そこにあると思われる。

- 130)
$?uda=gat\phi i=ga$	$?ik-i-ra$	$waka-ra-mu$
どこに行くのだろうか？		
どこに行くか分からない		

次の用例は、思考過程の用法を示す。

- 131) $wu-jabu-N=kaja:...?!$ $?abe...?$ $taru=mu$ $wu-ra-nu$ $gutu$ $?a:-mu=djo:.$
ごめんください... (いますかね) ! あれっ...? 誰もいないようだな。
 $he:sa-\phi i=ga$, $?inahe$ $hatte=gat\phi i$ $?i-dzui=ga$ $ji:-ra=ja:?$
早いけど、もはや畑に行っているのかな？
- 132) $na\phi a=gat\phi i$ $?umaga$ $so:-ti$ $?ik-iwa$ $ta:sa=ga$ $?a:-ra=ja:?$
沖縄に孫を連れて行けば、高いのだろうか？
- 133) A: $?unu$ $t\phi a:t\phi abuN=wa$ $kirasa-mu=djo:.$ $?uda=dziho:-ti=jo?$
この湯飲みはきれいだね。どこで買ったのか？

- B: ?uda=ga ja-tta-ra =jo:?
 <ko:be>=ga ja-tta-ra =jo:?
 どこだったのかな？神戸だったのだろうか？
 <o:saka>=ga ja-tta-ra =jo:?
 大阪だったのだろうか？

次の用例は、疑念の用法を示す。

- 134) A: na:bjiru ?ami=nu φu-i-mu =di
 今夜雨が降ると
 gai-tfu-jabu-ta-N =sa=ja:
 言っていましたよね
 B: gaN =jo:.. ja:-figa kumu=wa ti:tfi=Ntfu=mu na-N =ja:
 そうだよ。しかし、雲は1つさえもないね。
 φuni φui=ga fi-ra =ja:?
 本当に降るのかな？

ga...-ra 構造には、対話的な用法の〈応答を強制しない質問〉もあるが、まれである。

- 135) A: ?erabu=ne tukunufima=nu tfu:=mu wui=ga fi:-ra =ja:?
 沖永良部に徳之島の人もあるかな？
 B: wu:-nu hadzi=dja:
 いるはずだよ。

疑いの疑問のマーカー gara は、動詞と第1形容詞の第2終止形につき、第2形容詞と名詞には、直接つく。

- 136) ?ikja ja-N=gara?
 どうしたんだろう？
 137) φumi=wa mugi=jukkwa ta:sa-N=gara?
 米は麦より高いのかな？
 138) ?ari=wa ?uda=nu tfu: =gara?
 彼はどこの人かな？

gara の用法は、3つある。①疑いの疑問のマーカーである。②埋め込み疑問文のマーカーとしても用いられる。③gara は、-tu/-tuni や、動詞やコピュラの-ti 中止形、否定形の-adana/-radana 中止形、第1形容詞の-nu 中止形などによる原因・理由節について、因果関係が不確定であることを示す。このセクションでは、①のみを検討するが、②の用法のほうが3つの中で圧倒的に使用頻度が高い。

gara の起源は、フォーカス助詞 ga とコピュラの-ra 形 jara との縮約にあると考えられる。

- 139) I. ?ari=mu masana=nu tfu:=ga ja-ra?
↓ -ga jara → gara
II. ?ari=mu masana=nu tfu:=gara?
彼も正名の人かな？

北琉球語群のうち、喜界島、奄美大島、徳之島以外には、ga...-ra構造が広く用いられている。名詞述語文・第2形容詞述語文にgaとコピュラの-ra形との縮約現象が方々で見られる⁵。沖永良部語も、例外的ではないが、その他の北琉球諸語に属する言語変種とことなるのは、gaとコピュラの-ra形との縮約形が疑いの疑問文のマーカースとしてkaja:などのような終助詞と似たような形態論的な分布を持ち、使用が名詞述語文・第2形容詞述語文から動詞述語文と第1形容詞述語文まで広がっている点である。次の用例では、何の違和感もなくgaraをkaja:に置き換えることができる。

- 140) wa=ga gai-tʃa-fi waka-ta-N=gara?
私が言ったのを分かったのかな？
141) ?uduru=ga ne: ta:sa-N=gara?
どれが値段高いんだろう？

garaの起源がga...-ra構造にあるのにもかかわらず、garaによる疑いの可否疑問と選択肢疑問においてフォーカス化が起こるばあいは、duが用いられる。

- 142) ?itʃibaN dʒo:dʒi ja-tta-fi=wa
一番上手だったのは、
?anu warabi=du ja-tta-N=gara=ja:?
あの子どもだったのかね？
143) wa: saki nu-da-fi=wa ?ari=du ja-tta-N=gara?
私の酒を飲んだのは、彼だったのかな？

ga...-ra構造による文とことなり、garaによる文においては、疑問詞にフォーカス助詞gaがつくことがあるが、義務的ではない。

- 144) ?ikjaʃi=ga wa:s-a-N-gane ?umu ?itami-N=gara=ja:?
どうして煮ないで、芋を炒めるかな？

⁵ 北琉球語群のgaとコピュラとの縮約の例として次のものがある。

久米島町謝名堂方言においては、ga+je:raがge:raになる。

用例：ma:=nu tsu=ge:ra? 「どこの人だろう？」

今帰仁村謝名方言においても、ga+je:raがge:raになる。

用例：da:=nu tfu:=ge:ra? 「どこの人だろう？」

国頭村奥方言においては、ga+jaraがgaraになる。

用例：da:=nu ttu=gara? 「どこの人だろう？」

gara による疑いの疑問文は、独話的な用法がもっとも基本的な用法である。次の用例は、判断不明の用法を示す。A と B は、第3者である ?agari=nu ja:=nu gja:gja 「東の家のおじいさん」がなぜ英語が上手かが分からない。A は、B が知っているかどうか分からないため、kaja: によるいわゆる〈応答を強制しない質問〉で B の反応を引き出そうとしているが、B は、gara による文で判断不明であることを表現している。

- 145) A: ?agari=nu ja:=nu gja:gja=wa
東の家のおじいさんは、
?ikjaʃi <je:go> gaNʃi dʒo:dʒi=kaja:?
なぜ英語がそんなに上手なのかな？
B: gaN=ja:. ?ikjaʃi ?ubi-ta-N=gara=ja:?
そうだね。 どうやって覚えたんだろうね？

6. 修辞疑問：非難の質問文

修辞疑問では、話し手が聞き手に問いかけているが、話し手には、不明な点がなく、聞き手に回答を求めるわけでもない。正名方言では、修辞的な肯否疑問文で nja/na が、修辞的な疑問詞疑問文で -jo が用いられるが、語根につく o:/-ro: も用いられる。この語尾は、〈表出〉という意味でも用いられるが、疑問文においては、修辞的な意味しかない。-o:/-ro: は、肯否疑問文でも、Nga (なぜ) による疑問詞疑問文でも、修辞疑問のマーカーとして用いられる。聞き手の行為に対しての話し手の非難をあらわすことが多い。

- 146) ?usu-timu ?uNk-i-nu gi:=nu ?a-ro:?
押しても動くわけがあるもんか？
147) ?ura=ni ʃi-ra-ro:?
あなたにできるもんか？
148) Nga waro-ro:?
どうして笑うか？
149) ?ura=wa Nga gaNʃi <kitana>-sa-ro:?
あなたは どうしてそんなに汚いか？
150) Nga ?ura muni=nu wa:ʃa na-tta-ro:?
どうしてあなたの言葉がおかしくなったか？

動詞の否定形が述語になるばあい、-no: になる。

- 151) Nga φu:-no:?
どうして来ないか？

-no: は、勧誘的な意味でも用いられる。

- 152) tʃa: ?oiʃi-ra-no:?
お茶を召し上がりませんか？

コンピュータは、-o/-ro:をとらない。コンピュータが形態論的なマテリアルを担う第 2 形容詞が述語になる文、および名詞述語文では、上で疑問詞疑問のマーカースとして述べた-jo が用いられる。動詞か第 1 形容詞が述語になる文でも-jo が非難的な修辭疑問のマーカースとして用いられる。そのようなばあいでは、可否疑問にも用いられる。

- 153) Nga gaNji <heta>=jo?
どうしてそんなに下手か？

nja/na が修辭的疑問で用いられるばあい、終助詞 djo:がつくことが多い。

- 154) ?ura=ga gai-tjimu ?ari=ga kiki-N=nja=djo:?!
あなたが聞いても彼が聞くもんか？！

jo が修辭疑問で用いられるばあいにも、終助詞 djo:がつくことが多い。

- 155) nu: ju-N=jo=djo:?! nama ?ik-a-N-nja na-ra-N=doja:
何をしてるんだよ？！今行かなければならないよ。

7. 意志の疑問文

正名方言の-(r)a(:)による意志勧誘形は、話し手の行為を前提として、聞き手に行為の実行を誘いかける用法もあり、話し手が発話時からとる行為に決意したことをあらわす用法もある。当該方言における意志の疑問は、意志勧誘形の 2 つ目の意味から派生した。

意志勧誘形に疑問助詞 i がつく意志の疑問形は、話し手が聞き手のために行おうとしている行為を聞き手が受け入れるかどうかを問うばあいに用いられる。-(r)a:のように長音でおわる接辞をとる動詞もあり、そのようなばあいに i がつくと、超重母音をさけるために短音化がおこる。

「とろう」 tura:ti > *tura:ti > tura=i 「とろうか」

意志勧誘形+ti は、①話し手に不明な情報があるため判断がなりたらず、②聞き手に問いかけることによって疑問の解消をめざすという 2 つの基本的性質があるという疑問の典型的な特徴を 2 つとももっていると言えよう。話し手は、行為を実行する気があるが、聞き手がその行為をしてほしいと思っているかどうか話し手にとって不明であるため、実際に行うか行わないかを聞き手に問いかける用法である。

次の用例では、話し手には、聞き手のグラスにビールを注いであげるという意志があるが、聞き手がビールを注いでほしいと思っているかどうか話し手にとって不明であるため、話し手が意志勧誘形+ti を用いて、聞き手に問いかけている。

- 156)A: <bi.ru> tfig-jabu-ra=i?
ビールを 注ぎましょうか？
B: ?i:, tfig-i
うん、注げ。

次の用例では、話し手には、聞き手の荷物をもってあげるという意志があるが、聞き手が荷物を持ってほしいと思っているかどうか話し手にとって不明であるため、話し手が問いかける。

- 157)A: waga mutt-a=i?
私が持とうか？
B: mihe dero!
ありがとうございます！

参考文献

- 上村, 幸雄; 須山, 名保子 (1997) 「奄美方言」 亀井, 孝; 河野, 六郎; 千野, 栄一 編 『言語学大辞典セクション 日本列島の言語』 431-459. 東京: 三省堂
- 狩俣, 繁久; 島袋, 幸子 (2006) 「琉球語の終止形: 沖縄謝名方言と沖縄安慶名方言」
- かりまた, しげひさ; 島袋, 幸子 (2007) 「沖縄方言のとりたてのくつつきとかかりむすび: 今帰仁謝名方言と具志川安慶名方言のばあい (おぼえがき)」, 『日本東洋文化論集』 (13): 1-29
- 菊, 秀史 (2007) 「与論の言葉で話そう ユンヌフトゥバではなそう (2) —動詞を覚えよう (文法・文型編)」 与論民族村
- 白田, 理人 (2013) 「奄美語喜界島小野津方言の談話資料」 田窪 行則 編『琉球列島の言語と文化: その記録と継承』 259-290 東京: くろしお出版
- 徳永, 明子 (2014) 「沖永良部島国頭方言の動詞形態論」 2014 年 3 月 14 日に沖縄県立博物館で行われた発表の資料
- 日本語記述文法研究会編 (2003) 「現代日本語文法 4 第 8 部モダリティ」。東京: くろしお出版
- 三石, 泰子 (1993) 「名瀬市の方言」 東京: 秋山書店
- 宮崎, 和人; 安達, 太郎; 野田, 春美; 高梨, 信乃 (2002) 「モダリティ」 仁田, 義雄; 益岡, 隆志; 田窪, 行則『新日本語文法選書4』 東京: くろしお出版
- 宮良, 信詳 (1995) 『南琉球・石垣方言の文法』 東京: くろしお出版
- Van der Lubbe, Gijs & Akiko Tokunaga (2015) “Okinoerabu grammar” in: Patrick Heinrich, Shinsho Miyara and Michinori Shimoji (eds.): *Handbook of the Ryukyuan Languages*. Berlin / Boston: Mouton de Gruyter: 345–377.
- Niinaga, Yuto (2014) “A Grammar of Yuwan, a Northern Ryukyuan Language” Unpublished PhD. thesis, University of Tokyo
- Shimoji, Michinori (2012) ‘Northern Ryukyuan’ in Tranter, Nicolas (ed.) *The Languages of Japan and Korea*, Oxon / New York: Routledge
- Van der Lubbe, Gijs (2012). The Okinawan Language of Janadō Village on Kume Island: A Grammar Sketch. Unpublished MA thesis submitted to Leiden University, The Netherlands

沖永良部方言データ集

沖永良部方言データ集の表記について

1 表記の基本方針

- (1) 語形は音声記号とかなの両方で表記する。それぞれ「基礎語彙（音声記号），（かな）」、「文法例文集（音声記号），（かな）」として用例をあげている。
- (2) アクセント符号は、次のものを使用する。
[音調の上がり目] 音調の下がり目]] 拍内の下降
- (3) 同一話者の発音が揺れている場合は、2つ（またはそれ以上）の発音を「～」でつないで表す。同一話者が複数の語形を回答した場合は、2つ（またはそれ以上）の語形を「 / 」で区切って併記する。異なる話者が異なる発音で発話したり，異なる語形を回答したりした場合は，「 // 」で区切って2つ（またはそれ以上）の語形を併記する。また，文法例文集では，複数語形の範囲を { } でくくって，{ / } のように表記する。
- (4) 語形に関するその他の情報は，（ ）の中に入れて示す。
- (5) その単語を使った例文は，[] の中に入れて表す。
- (6) <新>，<古> は語形の新旧を表す。

2 沖永良部方言 音声記号・仮名対応表

2. 1 短母音音節

(空欄は、調査の範囲では該当する音が現れなかったことを表す)

○	音声	[a]	[i]	[u]	[e, je]	[o]	[ja]	[ju]	[wa]	[wu]
	仮名	あ	いい	う	え, いえ	お	や	ゆ	わ	うう
?	音声	[ʔa]	[ʔi]	[ʔu]	[ʔe]	[ʔo]				
	仮名	^あ	^い	^う	^え	^お				
p	音声	[pa]		[pu]		[po]				
	仮名	ぱ		ぷ		ぽ				
b	音声	[ba]	[bi]	[bu]	[be]					
	仮名	ば	び	ぶ	べ					
m	音声	[ma]	[mi]	[mu]			[mja]	[mju]		
	仮名	ま	み	む			みゃ	みゅ		
t	音声	[ta]	[ti]	[tu]	[te]		[tja]			
	仮名	た	てい	とう	て		てあ			
d	音声	[da]	[di]	[du]			[dja]			
	仮名	だ	でい	どう			であ			
s	音声	[sa]	[ɕi]	[su]	[se, ɕa]		[ɕa]			
	仮名	さ	し	す	せ, しえ		しゃ			
z	音声	[za, dza]	[ɕi, zi]	[zu, dʒ]			[za, dza]	[zu, dʒu]		
	仮名	ざ	ぢ, じ	ず, づ			じゃ, ぢゃ	じゅ, ぢゅ		
n	音声	[na]	[ni]	[nu]	[ne]		[nja]	[nju]		
	仮名	な	に	ぬ	ね		にゃ	にゅ		
r	音声	[ra]	[ri]	[ru]	[re]					
	仮名	ら	り	る	れ					
c	音声		[tɕi]				[tɕa]	[tɕu]		
	仮名		ち				ちゃ	ちゅ		
k	音声	[ka]	[ki]	[ku]	[ke]	[ko]	[kja]	[kju]		
	仮名	か	き	く	け	こ	きゃ	きゅ		
g	音声	[ga]	[gi]	[gu]	[ge]	[go]				
	仮名	が	ぎ	ぐ	げ	ご				
h	音声	[ha, ɸa]	[ɕi, ɸi]	[ɸu]	[he]					
	仮名	は, ふう	ひ, ふい	ふ	へ					

2. 2 長母音音節（直音系列）

○	音声	[a:]	[ji:]	[u:]	[e:, je:]	[o:]
	仮名	あー	いいー	うー	えー, いえー	おー
?	音声	[ʔa:]	[ʔi:]	[ʔu:]	[ʔe:]	[ʔo:]
	仮名	^あー	^いいー	^うー	^えー	^おー
b	音声	[ba:]	[bi:]		[be:]	
	仮名	ばー	びー		べー	
m	音声	[ma:]	[mi:]	[mu:]	[me:]	
	仮名	まー	みー	むー	めー	
t	音声	[ta:]	[ti:]	[tu:]	[te:]	[to:]
	仮名	たー	ていー	とうー	てー	とー
d	音声	[da:]	[di:]	[du:]	[de:]	[do:]
	仮名	だー	でいー	どうー	でー	どー
s	音声	[sa:]	[ɕi:]	[su:]	[se:, ɕe:]	[so:]
	仮名	さー	しー	すー	せー, しえー	そー
z	音声	[za:, dza:]	[zi:, dɕi:]	[zu:, dɕ:]		
	仮名	ざー	じー, ぢー	ずー, づー		
n	音声	[na:]	[ni:]	[nu:]	[ne:]	[no:]
	仮名	なー	にー	ぬー	ねー	のー
r	音声	[ra:]	[ri:]	[ru:]	[re:]	
	仮名	らー	りー	るー	れー	
c	音声		[tɕi:]		[tɕe:]	
	仮名		ちー		ちえー	
k	音声	[ka:]	[ki:]	[ku:]	[ke:]	
	仮名	かー	きー	くー	けー	
g	音声	[ga:]	[gi:]	[gu:]	[ge:]	[go:]
	仮名	がー	ぎー	ぐー	げー	ごー
h	音声	[ha:, φa:]	[çi:, φi:]	[φu:]	[he:]	[ho:]
	仮名	はー, ふあー	ひー, ふいー	ふー	へー	ほー

2. 3 長母音音節（拗音系列）

○	[ja:]	[ju:]	[jo:]	[wa:]	[wu:]
	やー	ゆー	よー	わー	うー
?		[ʔju:]	[ʔjo:]	[ʔwa:]	
		^ゆー	^よー	^わー	
b	[bja:]		[bjo:]		
	びゃー		びょー		
m	[mja:]				
	みゃー				
t	[tja:]				
	てあー				
d	[dja:]				
	であー				
s	[sa:]	[su:]			
	しゃー	しゅー			
z	[za:, dza:]	[zu:, dzu:]	[zo: dzo:]		
	じゃー, ちゃー	じゅー, ぢゅー	じょー, ぢょー		
n	[na:]	[nu:]	[no:]		
	にゃー	にゅー	にょー		
r	[rja:]	[rju:]			
	りゃー	りゅー			
c	[tʃa:]	[tʃu:]	[tʃo:]		
	ちゃー	ちゅー	ちょー		
k		[kju:]		[kʷa:]	
		きゅー		くわー	
g	[gja:]			[gʷa:]	
	ぎゃー			ぐわー	
h	[ɕa:]	[ɕu:]			
	ひゃー	ひゅー			

2. 4 特殊拍

N	音声	[m, n, ŋ, N]
	仮名	ん
Q	音声	[pp, tt, kk, ss, ʃʃ]
	仮名	っ

沖永良部方言 基礎語彙集（音声記号）

語	田 皆	瀬利覚	出 花	国 頭
頭(あたま)	teu]bu[ru	teu]bu[ru	teiburu～teiburu:	teiburu
髪の毛(かみのけ)	ha]ra[ɖzi / ha]ra[ɖzinuɕi:～ ha]radzinu[ɕi:	ha]ra[ɖzi	haradzi	haradzi
旋毛(つむじ)	ma]teidzi	[mateidzi	mo:ja (マチとは言わ ない＊話者談) / ta:teimo:ja (つむじが 2 つあること)	mateidzi
雲脂(ふけ)	ʔi:]ki:] // ʔi:]ki:]	ʔi:]ki:] <古>	ɸuke	ʔi:]tei:
白髪(しらが)	ea:]ga (「胸などの 毛」は ea:]gi と言う)	ea:]gi	ea:gi:	ea:gi
目(め)	mi:]	mi:]	mi:]	mi:]
眉(まゆ)	ma:]ju:]	mi]ma]ju	mi:]maju:	mi:]maju:
額(ひたい)	[harantea	[hanatea	harantea: / matei	harantea
鼻(はな)	[ɸʰana	[hana	hana:～hana	hana: ～ɸana:
鼻血(はなぢ)	[ɸʰanadzi	[hanadzi	hanadzi:	ɸanadzi:
耳(みみ)	mi:]mi:]	mi]mi:]	mimi:]	mimi:]
口(くち)	[kutei	[kutei	kutei:	kuttei:～kutei
唇(くちびる)	[kuteinuei]ba:] / [kuteibiru	[kuteibiru ([kuteieiba「口の周 辺」)	kuteibiru	kuteibiru
舌(した)	ei]ja:]	ea:]	eiba:	eiba:
歯(は)	ha:] // ɸʰa:]	[ha: (ɸʰa とは言わな い)	ɸa:	ɸa:
歯茎(はぐき)	ɸʰa:ei]ei:]～ ɸʰaei]ei:]	ɸʰa:]ɖzi]ei	haguki	ɸa:]ɖzi]ei
口蓋(あご)	[ʔagu (全体) / ʔu]tu]ge (先端) / [ka:]ɖzi (上下の顎の 合うところ)	ʔa:]gu:] (全体) / ʔu]tu]ge (先端) / ka:]ɖzi [ka:]ɖzi]nu [hadzi]ritan (あごが はずれた)] / ka:]ɖzi [takuratean (口の中がやけどし た)]	ʔagu / ʔutuge: / ka:]ɖzi (上あごのことは特に 方言名はないとのこ と)	ʔutuge: / ʔwa:]ʔutuge:「上あ ご」(あまり使わな い)
髭(ひげ)	[ɕigi	[ɕigi	ɕidzi: / ʔwa:]ɕidzi (上 ひげ)	ɕidzi:
毛(け)	[ɕigi / [ɕi:	[ɕigi (ɕi: とは言わな い)	ɕi:	ɕi:
面(かお)	tei]ra:]～tzi]ra:]	tei]ra:]	teira:	teira:

[は音調の上がり目,] は音調の下がり目,]] は拍内の下降, <新> <古> は語形の新旧。

語	田 皆	瀬 利 覚	出 花	国 頭
首(くび)	[kubi ([ʔagi「のど」)]	[kubi (「のど」は nu[di / 「のどの奥」 は [ʔagi)]	kubi	kubi: ~ kubi
肩(かた)	ha[ta:]	ha[ta:]	hata:	hata: ~ hata
胸(むね)	[ɲi:ɸʷara	[ɲi:hara	ɲi:	ɲi:
乳(ちち)	tzi:	tei:	tei:	tei:
腹(はら)	wat[ta:]	wa[ta:]	wata:	wata:
背中(せなか)	[ɸuei	[ɸuei (背中の上の 方)	ɸuei: / ɸueibja: [ɸueibja: jadi:n (腰が いたい)]	ɸuei:
肝(きも)	ki[mu:] (心)	ki[mu:] (肝臓、心)	teimu	teimu:
臍(へそ)	[ɸusu	[ɸusu	ɸusu	ɸusu:
腰(こし)	ga[ma[ku	ga[ma[ku (ウエスト)	ɸuei: / ɸueibja:	ɸuei:
尻(しり)	ma[i / [teibidai (糞便 をずっと少しずつ出 すこと。下痢ほど重 症ではない)	ma[i / maita]bu[ra (おしりの丸くなって いるところ) / maita]buranu ɸupni (大腿骨) / ʔu]munu[ɕibi (芋の 下の方)	mai	mai
肛門(こうもん)	mu:]ka // ma[i	mai[nugo:	mukka: (最近は使わ ない)	mukka
手(て)	ti:	ti:	ti:	tʰi: ~ ti:
腕(うで)	ʔu]di:	heɲ]na: (肩の付け 根から手首まで)	ʔudi: / ɕiɲna: ~ heɲna:	heɲna:
肘(ひじ)	[ɕidzi	ɕi[dzi / [ɕidzimagalja:] (け ちんぼう)	ɕidzi:	ɕidzi:
力(ちから)	[teikkjara	[tejkara	teikara	teikara
拳(こぶし)	tintei]ku]ni (扣棗 (コ ーサ) も)	tin]dzi[ku	tikubuei / ti:dzikun	tidzikun ~ tʰidzikun
筋(すじ)	ei[dzi	ei[dzi	eidzi	eidzi
指(ゆび)	ju[bi	u:]bi	ʔuibi	jubi:
爪(つめ)	[tzimi	[teimi	teimi:	teimi:
足(あし)	ɸʷa[gi (全体) / ɸʷa[ginuɕa: (足)	ha[gi (足・脚)	hadzi	ɸadzi
腿(もも)	mu[mu	mu:]mu:] / [mumudziei (腿の 肉)	mumu:	mumu:
股(また)	[ʔuteimumu	[ʔuteimumu	mata ~ mata:	matabaei / mata:

「～」は同一話者での発音の揺れ, 「 / 」は語形の違い, 「 // 」は話者による発音や語形の違い。

語	田 皆	瀬利覚	出 花	国 頭
膝(ひざ)	[tziŋei]	ei]ni[: (膝からくるぶしまで) / [teine]	teine	teine
踝(くるぶし)	kuru]bu[ei / ʔa]ma[mu <古>	kurubu]ei[: (ʔamamu と言わ ない)	ʔutteikurubuei(内側 のくるぶし) / ʔamamungubu(外側 のくるぶし)	kurubuei
脛(すね)	ɸʷa[ginu me:]bu]ni	ei]ni[:	juju (eini: でも良 い、すねよりもつと 広い範囲をさす)	eini:
ふくらはぎ	tzit]tu[:	teitudzi]ei[: ~ teitu]dzi:]	teittu:	teittu:
踵(かかと)	ʔa:]du[:	ʔa:]du[:	ʔa:du:	ʔa:du:
体(からだ)	[karada (du: 「自 分」)	[karada (du: 「自 分」)	karada / du:	du:te: ~dutte:
背丈(せたけ)	[ei:]	NR (「背が高い人」 は takidaka]:[sa / 「背丈が高いこと」 は [takidakasa)	taki:	taki: / takiɸudu
骨(ほね)	[ɸuɸni	[ɸuɸni	ɸuɸni	ɸuɸni
皮(かわ)	ho[:	ho[: (「川」のことは [ho: でアクセントが 違う)	ho:	ho:
ほころ	[ʔaza	[ʔaza (生まれつき のもの)	ʔadza	ʔadza
涙(なみだ)	na:]da[:	nan]da[: [nanda: sarasara (涙がたら たら)]	nada:	mi:nada
声(こえ)	[ɸui	ɸu[i	ɸui	ɸui
息(いき)	[ʔiki	[ʔiki [ʔikiɸu:ɸu: (息切れすること)]	ʔitei	ʔittei
咳(せき)	[ɕe:	se // ɕe	ɕe:	se:
唾(つば)	tzi]dzu[:	tei]dzu[:	teidzu:	teiba:
欠伸(あくび)	[ʔakubi	[ʔakubi	ʔakubi	ʔakubi
涎(よだれ)	[judai	[jude	judai	judai
屁(へ)	çi[: ([çi: 「日」)	çi[:	çi:	çi:
糞(くそ)	ku]su[:	ku]su[:	kusu: / hæika (便秘 の時のような硬い便)	kussu: ~kusu:
尿(にょう)	eiba[i	ei]be[:	ei:bai	ei:bai

[は音調の上がり目,] は音調の下がり目,]] は拍内の下降, <新> <古> は語形の新旧。

語	田 皆	瀬利覚	出 花	国 頭
おでき	ni]bu[tu (k ² ue]ea[ba (田虫) / [tano: (帯状 疱疹))	ni]bu[tu / ku]ea[ba (田虫)	nibutu:	nibutu
たんこぶ	gu[bu	ga[bu <希>	gubu	gubu
汗(あせ)	?a:]ei[: (?a:]ei[: sarasara「汗たらた ら」)	[?aei [?aeido]:[do ~?aeido]:do[: (汗 たらたら) ~sarasara とは言わ ない)]	?aei:	?aei:
垢(あか)	?a[:	NR	?a:	?a:
怪我(けが)	[jamatei	[kega	kiga: / jamatei:	jamatei / kega
病気(びょうき)	ja]:[di (「病んで」の 意)	ja[di (「病んで」の 意) [janda]mu[N (体の弱い人)]	bjo:ki	bjo:ki
血(ち)	[tzi:	[tei:	tei:	tei:
傷(きず)	[kidzi / ka]m[ba「傷 跡で毛が生えたところ」	[kidzi / ka]m[ba (傷 の跡のはげ)	kidzi:	kidzi:
薬(くすり)	ku[su[i	ku[su[i	kussui	kussui
灸(きゅう)	[jatteu	[jaito	jatteu:	jaŋteu:
命(いのち)	?i]nu[tei	nu]tei:	?inutei:	?inutei:
木(き)	çi[:	çi[:	çi:	çi:
葉(は)	[φ ^w a: / çi:]nu[φ ^w a: // ha:	çi:]nu[φ ^w a	φa:	φa:
枝(えだ)	[juda	[juda	juda~juda:	juda
梢(砂糖黍のこずえ)	[timpana	NR	sura: (きびだけに言 う) / judanu sattei: (き び以外)	sura
実(み)	nai]mu[N	çi:]numi[:	mi: / nai	mi: / nai
根(ね)	ni[: (ni[:「地震」)	çi:]nuŋi[:	ni:	ni:
草(くさ)	[kusa	ku]sa[:	kusa:~kusa	kusa
花(はな)	φ ^w a]na[:	ha]na[:	hana:	φana:
種(たね)	ta:]ni[:~ta]ni[: (sa]ni 「月桃」)	ta]ni[:	ta]ni:	ta]ni:
苗(なえ)	ta:]ni[:	ta]ni[:	nai / muŋdani: / ta]ni:	muŋdani: / nae:
稲(いね)	?i]ni[:	?i]ni[:	?i]ni:	?i]ni:
穂(ほ)	[φu: // φu[:	?i]ninu]φu[:	φu:	φu:
米(こめ)	φu]mi[:	ku]mi[:	φumi:	φumi:
粳(もみ)	[mu]ni	[mu]ni	mu]ni:	mu]ni:
麦(むぎ)	mu]gi[:	mu]gi[:	mudzi:	midzi:

「~」は同一話者での発音の揺れ, 「 / 」は語形の違い, 「 // 」は話者による発音や語形の違い。

語	田 皆	瀬 利 覚	出 花	国 頭
藁(わら)	wa[ra:]	wa[ra:]	wara~wara:	wara:~wara
麦(わら)	muŋ]gja[ra	muŋ]gja[ra	muŋdzara	mudzaŋgara
茅(かや)	gja[:	gja[:	gja:	gja:
粟(あわ)	ʔo[: (ʔo[:]me[:「粟飯」)	ʔo[:	ʔo:	ʔo:
稗(ひえ)	NR	[çi: / ta:nu[çi: (田に生える稗)	tondziŋi: [tondziŋi muttei: (ひえでつくったもち。お盆のときに作って供える。終戦後には作られなくなった。おいしい)]	wu:ʔiŋi
芋(いも)	ʔu]mu[: (さつまいも) / [satuʔimu (里芋)	ʔu]mu[: / tanu]mu[: (田芋)	ʔumu:	ʔumu:
さつまいも	ʔu]mu[:	ʔu]mu[:	ʔumu: / ta:ŋi ʔumu (田芋。昔は出花はもちろん、どこでも作られていたが、今は知名のみ)	ʔumu:
豆(まめ)	ma:]mi[:	ma:]mi[: / dai]zumami[: (大豆)	ma:mi: / dɛi:ma:mi: (らっかせい)	ma:mi:
胡瓜(きゅうり)	ki:]u[i	NR	ki:ʔui~kju:ri	kiui~kju:i
蓬(よもぎ)	ɸu[tei	ɸu[tei	ɸuttei: / ɸutteiba:	ɸutei~ɸuttei
菜(な)	na[: (「名は [na: でアクセントが違う) / na:]nu[ɸ*a:	na]nu[ɸ*a / ʔu]dzu[ru (野菜(総称))	na: / ʔudiba: / ʔo:ɸa: (若菜)	na: / ʔu:ti:ba:
大根(だいこん)	ja]e[ee	[jase	jaeee: <新> / de:kupi <古>	jasse:/ de:kupi
冬瓜(とうがん)	eu:]bu[i	eu]bu[i	eibui	eibui
南瓜(かぼちゃ)	[naŋkʷaŋ	[naŋko	naŋkʷaŋ	go:bura
瓜(うり)	ʔu[i	ʔu[i	ʔui:	ʔui:
萰(にら)	bja[:	bja[:	bja:	bja:
茸(きのこ)	ei]mi[dɛi (シメジ。シメジしかなかったと言う)	na:]ba	eimidɛi	eimidɛi
きくらげ	miŋ]gu[i / na]ba (アダンの木に生えるきくらげ)	mimi]gu[i	mimigui	mimigui
とうがらし	ɸu]eu[:	ɸu]eu[:	ɸueu:	ɸueu:~ɸueeu:
苦瓜(にがうり)	nigja]ʔu[i	go:]ja / nigja]u[i	nidzaʔui	nidzagoi

[は音調の上がり目,] は音調の下がり目,]] は拍内の下降, <新> <古> は語形の新旧。

語	田 皆	瀬 利 覚	出 花	国 頭
胡麻(ごま)	gu[ma	[guma	guma	guma
苺(いちご)	ʔi[tei[bi	ʔi[teu[bi	ʔiteubi / haruʔiteubi (春いちご)	ʔiteubi
蘇鉄(そてつ)	su[tu[tei / [jarabo (ソ テツの実)	çi[tu[tei / [junabu(nu mi) (ソ テツの実)	sututei	sututei ~ sudutei ~ sudzutei
松(まつ)	ma[teigi	ma[tei]gi	mateigi	mateigi
竹(たけ)	[de:	[de:	de:	de:
梅(うめ)	NR	NR	ʔume ~ ʔume:	ʔume:
桃(もも)	mu:] [mu	[mumu	momo	mumu:
桑(くわ)	[k ^w a ~ k ^w a]:[gi	k ^w a]ŋ[gi	k ^w a:	k ^w a:
薄(すすき)	gja:] / to:ɬi:] [ki (太 い茅)	gja:]	ʔamutu:	ɸuɸagja: / ɸuɸasan (固い)
くば(びろう樹)	NR (「棕櫚」は teigu)	ɸu[ba	ɸuba	ɸuba: ~ ɸuba
蜜柑(みかん)	ku]ri[bu	ku]ru[bu	kuribu: ~ kuribu	kuribu
茎(くき)	ku:]ki:]	[ɸuki	ku:tei:	ɸu]ni
あおさ	ʔo:sa]nu[i	ʔo:]sa	ʔo:sa	ʔo:sa:
もずく	NR	NR	NR	moi
藻(も)	[mu:	[mu:	mu:	mu:
糸瓜(へちま)	nabi]ra:]	na:]bira:]	na:bira:	nabjara:
こずえ・砂糖黍の 先端	*u:]ba[na / *u:]gi:] (「さとうきび」の穂先)	[sura	sura (きびのみに使 う)	sura
福木(ふくぎ)	[ɸukugi (ここにはあ まりない)	[ɸukutangi	ɸukugi:	ɸukugi:
烏賊(いか)	çi[bueimi	[ʔikja: / ɸu:]bu[ei]mi: (甲イ カ)	ʔittea:	ʔitea: ~ ʔittea:
蛸(たこ)	to:]	to:]	t'o:	to:
海老(えび)	ta]na[ga	[ʔibi:	ʔibi	ʔibi:
雲丹(うに)	NR	NR	hateiteinu mi:	ʔupinu mi:
雲丹の身	ʔa:]sa[i (総称)	ja:] (総称)	nu:ei:	nu:ei:
貝(かい)	[ʔupi (採集しない)	[ʔupi:	ʔupi / hateitei (小さい ウニ。赤・黒・白の三 色がいる)	ʔupi
亀(かめ)	ha]mi:]	ha]mi:]	ha:mi:	ha:mi:
蟹(かに)	[gapi	[gapi	gapi:	gapi
蜷 (にな, まきが い)	ʔa:]sa[i (tap]na:]「た にし」)	ja:] / ta]jna:] (田に し)	ʔaguteinu:ei / hamatanu:ei	saŋkakunu:ei
魚(さかな)	[ʔju:	[ʔju:	ʔju:	ʔju:

「～」は同一話者での発音の揺れ, 「 / 」は語形の違い, 「 // 」は話者による発音や語形の違い。

語	田 皆	瀬利覚	出 花	国 頭
鱗(うろこ)	ʔi:]ki[:	ʔi:]ki[:	ʔi:tei:	ʔi:tei:
鰻(うなぎ)	ʔu]na[gi	ʔu]na[gi	ʔunadzi	ʔunadzi
鯨(くじら)	[gudzi]ja <古>	ku[ɕi]ra / gu[ɕi]ja <古>	kudzira	gudzi]ja
鰹(かつお)	[katsuo	[katsuo	katsuo	katsuo~kattsuo
飛魚(とびうお)	[tubiʔju:	[tubinuju	tubiʔju:	tubiʔju:
いるか	çi[tu	NR (ku[ɕi]ra (鯨) と区別されない)	çittu~çittu:	çitu
なまこ	ʔuei]nago]:[mi	ei[ki.	eittei	eittei:
ひとで	garasa]do[:	garaei]ne:[gja (黒い 種類)	çitode	çitode (以前はいな かった)
やどかり	ʔa]ma[mu	ʔa]ma[mu	ʔamamu / ʔama]ka (青く、大きなヤドカ リ。畑仕事のときに赤 ちゃんを置いて働い ていると、ʔama]ka に 赤ちゃんが襲われて 食べられることがある と言う言い伝えがあ る。食用ではない)	ʔamamu
牛(うし)	[ʔuei	[ʔuei:	ʔuei	ʔuei:~ʔuei
馬(うま)	ʔu]ma[:	ʔma[:	ma:	ʔma:
山羊(やぎ)	ja]:[gi (山羊) / [ʔu:ja:gi (雄山羊) / mi:]ja:[gi (雌山羊)	[jagi (山羊) / [ʔu:jagi (雄山羊) / mi:]ja[gi (雌山羊)	jadzi (山羊) / wu:jadzi (雄山羊) / mi:jadzi (雌山羊)	jadzi (山羊) / wu:jadzi (雄山羊) / mi:jadzi (雌山羊)
豚(ぶた)	[ʔwa: / [ʔu:ʔwa: (雄 豚) / mi:]ʔwa[: (雌 豚)	ʔwa	ʔwa:	ʔwa:
角(つの)	tzi]nu[:	tei]nu[:	teinu:	teinu:
犬(いぬ)	ʔi]nu[:	ʔi]nu[:	ʔinu:	ʔinu~ʔinu:
猫(ねこ)	[mja:	mja	mja:	ʔmja:
兎(うさぎ)	ʔu]sa[gi	ʔu]sa[gi	ʔusagi:	ʔusagi
鼠(ねずみ)	ju]mu[nu / ʔo]i[ea (歌に出てくる)	ʔo]i[ea	jumunu / mi:kuraɕi: (目が小さく、口が大 きなネズミ。和名不 明)	jumunu <古> / nudzumi <新>
動物(どうぶつ)	iki]mu[n	NR	NR	iteimun
虫(むし)	mu]:[ei	[muei	muei:	muei
蟻(あり)	ʔa]:[ni	[ʔa]nimuca	ʔa]ni	ʔa]ni:~ʔa]ni
蚊(か)	ga]ɕa[mu	ga]ɕa[mu	gaɕamu	gaɕamu

[は音調の上がり目,] は音調の下がり目,]] は拍内の下降, <新> <古> は語形の新旧。

語	田 皆	瀬 利 覚	出 花	国 頭
蜘蛛(くも)	çibu]ga[ei	ku]mu[:	kumu:	kumu:
蜘蛛の巣	çibu]ga[ei]nu]ei[:	çibu]ga[ei	çibugaei	çi:bugaei
蝶々(ちょうちょ)	ha]bi[ra	teo:]teo / ha]bi[ra (羽化した蚕)	habira:	habira:
蝸牛(かたつむり)	tein]ta[i <古>	tein]te[:	tei]tai	tei]tai
蛙(かえる)	ga:]ku	ga:]ku	ga:ku	gaku
蜂(はち)	[φ ^w atei	[hatei	hatei / teiburubatei (大きい蜂) / gja:batei (小さい蜂)	φattei:
蠅(はえ)	[he:	[he:	he:	he:
蛆(うじ)	?u]dzi[:	?udzi]mu[ei // ?udzimu]ei[:	?udzi:	?udzimuei
蚕(のみ)	nu:]ni	nu:]mi	numi	numi~numi:
蚯蚓(みみず)	mimi]n[dza	mi]min[da	ma:mi]n[dza	ma:mi]dza
虱(しらみ)	ea:]ni	ea:]ni	ea:ni	ea:mi
百足(むかで)	mu]ka[dzi	mu]ka[dzi	mukadzi	mukadzi
蚕(かいこ)	mu]ei[g ^w a	[mueig ^w a	mueig ^w a:~mueig ^w a	mueig ^w a
かまきり	?i]ea[tu	?i]ea[tu	?ieatu~?ieatu:	?ieatu:
蜻蛉(とんぼ)	jama]n[te~ja]man[te	?je]:[da~?e]:[da	?e:]dza / jamada: (トンボの一種。大きいもの。オニヤンマか。ヤンマか)	jamada:
ばった	ga:]ta	ga:]ta	gatta:	gatta
鳥(とり)	hwa:]tu	tui	NR	tui
鶏(にわとり)	[tui	tui	tui	tui
とさか	haga]ni[:	NR	NR	hagami:
雀(すずめ)	jumu]du[i	jumu]du[i	jumudui	jumudui
鳩(はと)	hwa:tu	karabatu~karabato	φa:tu:	φa:tu:
烏(からす)	ga]ra[ei	karasu	garaei	garaei
鶺鴒(うずら)	[sampo	NR	sampo	sampo
鷹(たか)	[ta:	ta:	ta:	ta:
卵(たまご)	φu:]ga	φuga	φuga	φuga
巣(す)	ei[:	ei[:	ei:	ei:
羽(はね)	hwa]ni	hapi	hapi~φapi	φapi
空(そら)	[tinto	tinto~tinto:	ti]nto	te]nto:
日(ひ)	çi:	çi:	çi:	çi:
太陽(たいよう)	ti]da	tida	tida	tida

「~」は同一話者での発音の揺れ, 「 / 」は語形の違い, 「 // 」は話者による発音や語形の違い。

語	田 皆	瀬 利 覚	出 花	国 頭
光(ひかり)	çi[kja]i	NR (「あかり」は a:gai / a:gei)	çitteai	çitteai
蔭(かげ)	ha[gi	haga	haga	haga
まぶしい	miçikja]ro[sa	mi:kja]ra[sa	mi: çittearasa (çittearasa だけでもま ぶしいと言う意味に なる)	mi: çittearosa (çittearosa だけでも 「まぶしい」と言う意 味になる)
火(ひ)	ma]:[tei	çi:	matei	matei (utte:「置き 火」)
水(みず)	mi[dzi	midzi	midzi	midzi
山(やま)	ja[ma	jama	jama	jama:
川(かわ)	[ho:	ho:	ho:ra	ho:ra
橋(はし)	hwa[ei	haci	haci	ɸaci
丘(おか)	[to:	teidzi	takateidzi / teidzi	teidzi
陸地(りくち)	[to:	NR	NR	agi
土・地面(つち・じ めん)	mi]ttea[:	mitea[:	mittea: (土) / dzi: (地 面)	dzi: (地面) / mitea: (土)
星(ほし)	ɸu[ei	ɸuei	ɸuei	ɸuei
月(つき)	tei[kju	teikju	teikkju: / nu:teitei (何 月)	teikkju: / teitei: (暦 の月) / nu:dzitei[(何月)
雲(くも)	ku]mu[:	kumo	kumo:	kumu:
霧(きり)	NR	NR	kiri / he:bui	he:bui
露(つゆ)	NR	NR	tsu:	tsu:
雨(あめ)	a]mi[:	ami	ami:	ami:
風(かぜ)	ha[dzi	hadzi	hadzi	hadzi
竜巻(たつまき)	NR	(tatsumaki) 共通語 か?	teidzimatei	jiŋno:
稲光(いなびかり)	NR	NR	inabitteai	çiteaja:
地震(じしん)	ni]:jun]gi[:	ni]:jutan (「地震が 揺れた」の意)	ne:	ni:
虹(にじ)	[no:gi	NR	no:dzin	no:dzin
明かり	NR / a:gatikitean (明 るくなってきた)	a:gai / a:ge:	a:gai	a:gai
雷(かみなり)	ha]midu[ru	hamiduru	hamiduru	hamiduru
潮(しお)	u]eu[:	ueu	eu: / ueu:	eu:
煙(けむり)	çibu[ei	çibuei	çibuei	çibuei
浅瀬(あさせ)	[to:	nakiea:	assai	asai
遠浅(とおあさ)	NR	ino	NR	NR

[は音調の上がり目,] は音調の下がり目,]] は拍内の下降, <新> <古> は語形の新旧。

語	田皆	瀬利覚	出花	国頭
洞窟(どうくつ)	[ʔjo:	jo:	jo:	jo:
海(うみ)	u[jni	ʊni (「鬼」は ʊni:と 言う)	ʊni	umi
水溜り(みずたまり)	[midzimu]gu[i	ɸu]mu[i (海の水た まりも池も同じ)	ɸu:mui	ɸummui
港(みなと)	[minato	tume:	minato	minatu / sambaei
波(なみ)	na:]ni:]	na:ni:	nami:	na:mi:
泡(あわ)	o[:	o~ʔo~o'	o:	o:
島(しま)	ei[ma	ɛima'	ɛima	ɛima:
浜(はま)	ɸa[ma	hama	hama	hama~ ɸama
珊瑚礁(さんごしょ う)	NR	hasaiei	NR	uru:
砂(すな)	ei[na	ɛina~ɛina'	ɛina	ɛina
石(いし)	i[ei	iei	iei	iei
溝(みぞ)	ni[dzu~n[dzu	jindzu / jindzu	jidzu	jidzu
田(た)	ta[:	ta[:	ta:	ta:
畦道(あぜみち)	a:]bu[ei	a:]bu[ei	abuei	adzi:
畑(はたけ)	[ɸate	hate	hatte~ɸatte	ɸatte:
野(の)	[to:	haru	haru:~ɸaru:	ɸaru:
道(みち)	mi[tei	mitei	mitei	mitei:
崖(がけ)	[ɸanta	ɸanta	haŋta~ɸaŋta	ɸaŋta
坂(さか)	[ça:	ça:mitei	ça:	ɸja:~ ça:
頂上(ちょうじょう)	tei[dzi	takateidzi	teidzi	teidzi
東(ひがし)	[agari	agari	agari	agari
東風	ni[ei	agarihadzi	agarihadzi / ɸutte:	ɸutei
北(きた)	ni[ei	jiei	jiei	jiei
北風	ni[eihadzi	jieihadzi	jieihadzi	NR
西(にし)	[i:	i:	i:	i:
西風	[i:hadzi	i:hadzi	i:hadzi	NR
南(みなみ)	çe[:	he:	he:	he:
南風	çe:]ha[dzi	he:hadzi	he:hadzi	NR
右(みぎ)	[ŋgi	migi (共通語的)	migi	midzi
左(ひだり)	çi]dza[i	çidze:	çi:dzai	çi:dzai
前(まえ)	[me: (「目」は mi[: でアクセントが違う)	me:	me:	me:
後ろ(うしろ)	u[eu	ueu	ueu / atu	ueu / atu
跡(あと)	a[tu	atu	atu	atu
横(よこ)	ju[ku	juku	juku	juku

「~」は同一話者での発音の揺れ, 「 / 」は語形の違い, 「 // 」は話者による発音や語形の違い。

語	田 皆	瀬 利 覚	出 花	国 頭
上(うえ)	[ʔui	ui	wa:bi / ui	wa:bi
下(した)	[ea:	ea:	ea:	ea:
中(なか)	[na:	na:	na:	na:
底(そこ)	sɯ[ku	suku	suku	suku
内(うち)	[na: / u[tei	na: (「中」の意)	na:	na:
外(そと)	hwa[: ~ ɸa[:	NR	sutu: / umuti	sutu
奥(おく)	u[ku	NR	oku	NR
角(かど)	ha[du[:	kaduː	hadu:	hadu:
傍(そば)	suba[: ~ eiba[:	eibaː	suba:	suba:
今日(きょう)	[ɕu:	ɕu:	ɕu:	ɕu:
昨日(きのう)	ki[nu	kuɲu ~ kuɲu:	kiɲu:	kiɲu:
一昨日(おととい)	wut[ti	wuti	wutti	wutti:
明日(あした)	na:[tea	na:tea	na:tea	nattea:
明後日(あさって)	asa[ti	asati	asati	juwa: // ja:
明明後日(しあさ って)	[ja:/ eiasatti	ja:	ja:	NR
今年(ことし)	ɸɯtɯei	ɸutuei	ɸutabi / ɸutuei	ɸutuei
去年(きょねん)	ɸu]zu[:	ɸudu: ~ ɸudzu:	ɸudzu	ɸudzu:
一昨年(おとし)	miteu]na[ti	miteunati	miteu	miteu
来年(らいねん)	ja:]ni	ja:]ni	japi	japi
再来年(さらねん)	na:]mi[teu	na:]mi[teu (「3 年 後」は na:]ju[tu)	ma:miteu	na:miteu
今(いま)	na[ma	nama	nama	nama
昔(むかし)	muka[ei	mukaei	mukaei	mukaei
夏(なつ)	natei	natei	natei	natei
冬(ふゆ)	ɸuju	ɸuju	ɸuju	ɸuju
朝(あさ)	ti]mi[ti	tumiti	sutumiti	a:tutei / sutumiti / asa: (時間の順番と しては a:tutei → sutumiti → asa:)
昼(ひる)	ɕi]m[ma	ɕimma	ɕimma	ɕimma / ɕiru
夕方(ゆうがた)	ju:]ne	jo:ne	jo:ne	jo:ne:
夜(よる)	ji]ru[:	jiru ~ jiru:	jiru:	jiru:
夜中(よなか)	ju:]na[:	junna ~ junna:	junaka	ju:na:
暇(ひま)	ma[:	ma:	ɕima	ɕima
時(とき)	tu[ki ~ tuki[:	tuki ~ tuki:	tuki:	tuki:

[は音調の上がり目,] は音調の下がり目,]] は拍内の下降, <新> <古> は語形の新旧。

語	田 皆	瀬 利 覚	出 花	国 頭
年(とし)	tu ei[:	tu ei[:	tuei:	tuei:
暦(こよみ)	ɸu ju mi[:	NR	kujumi	kujumi:
着物(きもの)	[kibara	kibara	teibara	teibara
襟(えり)	je ri	NR	jeri	eri
袖(そで)	su di	sudiː	sudi	sudi
裾(すそ)	su su	susu:	susu	susu
帯(おび)	u bi / ki ki bi	ubi	ubi	teubi
紐(ひも)	ɕi mu ~ ɕi mo	iru	ɕimu	ɕimu
足袋(たび)	ta :[bi	tabi (共通語的)	tabi	tabi
袴(はかま)	ɸ*a: ma[: ~ ɸa: ma[:	hakama (共通語的)	hakama	hakama:
下駄(げた)	aei dza[:	aeidzaː	aeidza:	aeidza:
草履(ぞうり)	sa ba	saba	saba	saba
緒(お)	wu[:	wu[:	wu:	wu:
布(ぬの)	nu nu	nunu	nunu	nunu
表(おもて)	umu ti[:	umti: ~ umuti:	umuti	umuti: (家の面) / wa:bi (上)
裏(うら)	u ra[:	uraː	ura:	ea: (下)
綾, 模様(あや)	a ja[:	aja	aja:	aja:
手ぬぐい	tinu gu i	tinu gu i	tinugui	tinugui
蓑(みの)	ja :[sa	jo :[sa	no:sa	jo:sa
湯(ゆ)	ju[:	ju:	ju:	ju:
茶(ちゃ)	tea[:	tea:	tea:	tea:
飯(めし)	[me:	me:	mun	mun (食事) / me: (飯・米)
粥(かゆ)	[ke:	ke: ~ ke	ke:	ke:
餅(もち)	mu tei	mutei	muttei	muttei:
雑炊(ぞうすい)	mi ei dʒi / du: ei	du:ei	du:ei	mieidʒi
味噌(みそ)	mie eu[: ~ mi eu[:	mi: eu[:	mieu:	mieu:
汁(しる)	[eiru:	eiru	eiru:	eiru:
塩(しお)	ma : eu	maeu	maeu	maeu
塩辛い	ma:eu ga ra sa	eibakarasa	maeugarasa	maeuharasan
砂糖(さとう)	sa :[ta	sata	sata	sata
甘い(あまい)	[amasa	amasa	amasa	amasan
砂糖黍(さとうき び)	wu: gi[:	wu gi[:	wu:dʒi:	wudʒi:
粕(かす)	ha ei[:	haei:	haei:	haei:
酒(さけ)	[saki	saki: ~ saki	saki	saki
黴(かび)	[ʔo: (かび) / [ho:dʒi (こうじ)	[ho:dʒi (かび, こう じ) / [ʔo: (かび)	ho:dʒi	ho:dʒi

「～」は同一話者での発音の揺れ, 「 / 」は語形の違い, 「 // 」は話者による発音や語形の違い。

語	田 皆	瀬 利 覚	出 花	国 頭
麴(こうじ)	[ho:ɕi]	ho:ɕi	ho:ɕi	ho:ɕi
粒(つぶ)	tei[bu]	NR	teibu	ɸumiteidzi (「米粒」のこと)
糠(ぬか)	nu]ka:]	nukaː	nuka:	nuka
粉(こ・こな)	ɸu:]	ku:]	ku:	ku:
大蒜(にんにく)	ɕi[ru	ɕiru:	ɕiru	ɕiru~ɸiru
芽(め)	mi:]	mi:	mi:	mi:
クワズイモ	jugo:mba:]ca	jugo]ba]ca	jugobaca	jugobaca
肉(にく)	ei]ei:]	ei:ei:	ei:ei:	ei:ei:
果物(くだもの)	NR	naimunu (木になるもの)	naimun	naimun
油(あぶら)	abu]ra:]	abura:	abura:	abura:
天ぷら	a[gimun	tempura / teikiagi	teikijagi	tempura
灰(はい)	[ɕe:	he:	he:	he:
匂い(におい)	[haza	hada	hadza	hadza
味(あじ)	[adzi	adzi	adzi	adzi
料理(りょうり)	NR	eu:ki (ごちそう)	eu:ki (客に出す料理)	eu:ki (お祝いのごちそう)
ご飯(ごはん)	[me:	me:	me:	me:
食事(しょくじ)	[munukami	munu:	mun	mun
朝食(あさめし)	me:]ei	me:ɕi	tea:	me:ei
昼食(ひるめし)	a]ei	aei:	me:ei	ae:ei:
夕食(ゆうめし)	ji:]	ji:	ji:	ji:
膳(ぜん)	ɕi[nu	ɕinu	ɕinu	ɕinu
食べる	ka]mi[N	kamjun	kamin	kamin
食べ物(たべもの)	kami]mu[N~ ka]mimu[N	kamimun	kamimun	kamimun
家(いえ)	ja:]	ja:]	ja:	ja:
母屋(おもや)	[to:]gu[ra:]~ [to:]gura:]~ [to:gura:] / [ʔuija:]	ʔumuti:]	ʔumuti:	umuti
台所(だいどころ)	[to:]gu[ra:]	[to:]gura:]	suiziba / hamaduru(me)	hamadurume
天井(てんじょう)	[ti]n[dzo:]~tin[dzo]	[ti]n[dzo:]	tindzo	tendzo:
床(ゆか)	ju]ka]	ju]ka]	juka	juka:
棚(たな)	ta]na]	ta]na]	tana	tana

[は音調の上がり目,] は音調の下がり目,]] は拍内の下降, <新> <古> は語形の新旧。

語	田皆	瀬利覚	出花	国頭
竈(かまど)	ha[madu]	hama[du] / hamaduru[me:] (炊 事場全体)	hamadu	hamadu
いろり	NR	NR	NR (なかつた)	NR
戸(と)	ha[ei] ~ pha[ei]	haei[:] / haei[do]	tu:	to:
板(いた)	itea[:] ~ i[tea]	i[ta]	?itea: ~ ?i:tea [?i:teaei tsukutanu juka: (板で 作った床)]	i:tea
節(ふし)	phu[ei]	tei[ga]	phuei:	phuei
穴(あな)	[go:] ~ go[:]	?a[na]	?ana: / go: (ほら穴) [?ana {nu/ga} ateun (穴があいている)]	go:
柱(はしら)	[pha]:[ja]	ha[ja]	hacira / phi*aja	phaja
釘(くぎ)	ku[gi]	ku[gi]	kudzi	k ^h ugi / k ^h udzi<古>
瓦(かわら)	[kawara:] ~ [kawa]ra[:]	ka:[ra]	ka:ra / kawara	ka:ra
便所(べんじょ)	ben[dzo]	ben[dzo] // [be]n[dzo]	kandzu	k ^h andzu
垣(かき)	ha[kui] / ha[ta]	ha[ta] / ja:nuha[ta]	hatei	k ^h akine
庭(にわ)	[mja]:[na] / [mja]:	[mja:]	mja:	mja:
井戸(いど)	[dzi:kjo]	[teiŋkjo]	ho:	teinteo:
墓(はか)	pha[ka]	ha[ka]	haka ~ phi*aka<古> [phi*aka me: eirijo: (墓参りしなよー)]	haka ~ phaka
煤(すす)	ei[ei]	çigi[ru] // çi[giru]	eiei / çiguru (鍋につ くすす)	eiei / çiguru (鍋の 底につくもの)
埃(ほこり)	ju[guri] / hoko[ri] ~ ho[kori]	hoko[ri] // gu[mi]	phumuku: ~ phumuku	phumuk ^h u:
門(もん)	[mon] ~ mo[n]	[dzo:]	mūn / dzo: <古>	dzo:
縄(なわ)	[tei]na[:]	[tei]na[:]	teina:	teina:
綱(つな)	[tei]na[:] / [no:]	[tei]na[:] / no[:] (シ ュロで作る。強い)	teina	teinabura (ji:ru「細 いひも」)
鎖(くさり)	聞き忘れ	kusa[ri]	kusari	kusari
袋(ふくろ)	phuk[kuru]	phu[ku]ru	phukuru	phukkuru
荷(に)	ni[:]	ni[:]	ni:mutei: / ni:	ni:
皿(さら)	[do]:[gu]	sa[ra]	sara	sara:
椀(わん)	[do]:[gu] / [wan]<新>	eiru[wan] / udo:[gu]	wan	wan (汁物の) / teamba: (ごはん)
茶碗(ちやわん)	[do]:[gu]	do:[gu] / me:do:[gu]	teabanu: / teateaban (湯呑み)	teateaban (湯呑み)

「～」は同一話者での発音の揺れ, 「 / 」は語形の違い, 「 // 」は話者による発音や語形の違い。

語	田 皆	瀬利覚	出 花	国 頭
壺(つぼ)	ha[mi]	ha[mi]	teibu:	teibu
鉢(はち)	ha[tei]	ha[tei]	ɸ ^w atei	hatei ~ ɸatei
瓶(かめ)	ha[mi]	ha[mi]	hami	hami
水瓶(みずがめ)	midziga[mi] // [midzi]ga[mi]	midzigami[:]	midzihami	midzigami:
桶(おけ)	^w u[i] ~ ^w ui	[^w ui] ~ [^w u]i	wui	wui
水桶(みずおけ)	NR	midzi ^w u[i]	midziwui	midziwui
盥(たらい)	ta[rai]	ta[re] ~ ta[re:]	tare	ta:re:
ひしゃく	ɲi[bu]	ɲi[bu]	ɲibu	ɲibu
柄(え)	[ji:]	ji[:]	ji:	ji:
釜(かま)	haga[ma]	haga[ma]	hamadu	hagama
しゃもじ	miei[ge] // [mi]ei[ge]	miei[ge]	mieige	mieige:
急須・鉄瓶(きゅうす)	[teu]:[ka]	teu:[ka]	teu:ka: ~ teu:ka (鉄瓶)	teukka: (鉄瓶)
箸(はし)	ɸa[ei]	ha[ei]	haei ~ ɸ ^w aei	haei ~ ɸaei
包丁	hata[na] // [ha]ta[na]	hata[na]	hatana	hatana
刀(かたな)	NR	kata[nà]	NR	hatana
小刀(こがたな)	kogata[na]	kogata[nà]	hatana / ko:gatana	hatana
まな板(いた)	ma[ranea] / ma[naitca]	ma[naita] ~ manai[ta]	manantea	marantea
臼(うす)	?u[ei] ~ u[ei]	?u[ei]	?uei	?uei
杵(きね)	?andzi[mu]	?adzi[mu]	?adzimun	?adzimu
斧(おの)	ju:[ki] // [ju]:[ki]	ju:[ki]:	jutei	juttei
鋸(のこ)	[no:]gi[:]	no:gi[:]	no:dzi: ~ no:dzin	no:dzi:
鑿(のみ)	no[mi]	ɲu:mi[:]	nu:mi:	nu:mi:
錐(きり)	i[:]	ji[:]	?i:ɲin	?i:ji:
箱(はこ)	ɸa[ku]	ha[ku]	haku / ɸ ^w aku<古>	ɸ ^w aku:
筆(ふで)	ɸu[de]	ɸu[de]	ɸudi	ɸudi
紙(かみ)	ha[bi]	ha[bi]	habi	habi:
鋏(はさみ)	hasa[mi]	hàsami[:]	hasami ~ ɸ ^w asami <古>	hasami:
印(しるし)	ɕiru[ei]	ɕiru[ei]	ɕiruei	ɕiruei
漆(うるし)	NR	hadzi[me] ~ ha[dzimegi]	?uruei	NR
鏡(かがみ)	[haga]mi[:]	haga[mi] ~ hagami[:]	hagani	hagami:
櫛(くし)	[saba]ki[:]	sabaki[:] // saba[ki]:	sabatei:	sabatei:
布団(ふとん)	[ɸu]tu[nu]	ɸutu[nu]	ɸutunu ~ ɸutun	ɸutunu
枕(まくら)	[maɲku]ra[:]	[ma]ku[ra]	makura	mak'ura

[は音調の上がり目,] は音調の下がり目,]] は拍内の下降, <新> <古> は語形の新旧。

語	田 皆	瀬 利 覚	出 花	国 頭
箒(ほうき)	[ho:] [ki]	ho: [ki]	ho:tei	ho:tei
竿(さお)	so[:]	so[:]	so'o	so'o
杖(つえ)	[gu]ea[ni] ~ guea[ni]	guea[ni] ~ guea[ni]	guea[ni]	guea[ni]
笠・傘(かさ)	[ha]sa[:] ~ hasa[:]	hasa[:]	hasa: (mundzara「麦」) / ɸubagasa	hasa:
針(はり)	ɸa[i]	ɸa[i]	hai	ɸ ^w ai
糸(いと)	ʔit[teu]	ʔi[teu]:	itteu	itteu:
煙管(きせる)	ki[ei]	ki[ei]: ~ ki[ei]	kiei:	kiei
金(かね)(金属・ 銭)	ha[ni]	ha[ni]	ha[ni] (金) / ɖzin (お 金)	ha[ni] (金) / ɖzin (お 金)
三味線(しゃみせ ん)	[saneiru]	saneiru	saneiru: ~ saneiru	saneinu
船(ふね)	ɕin[ni] // [ɕi]n[ni] / tin[ma] (魚捕りにいく 小さい船)	ɕin[ni]	ɕipi	ɕipi
帆(ほ)	ho[:]	[ɸu:]	ɸu:	ɸu:
櫂(かい)	[ka]i	jo[ku] ~ jo:[ku]	ʔjo: (イヨー)	ʔjo'o
網(あみ)	[ʔa:]ni[:] ~ [a:]ni[:]	ʔa[mi] ~ ʔami[:]	ʔami:	ʔami
槍(やり)	ja[ri]	ja[ri]	jaji	(ʔitteudza「もり」)
鍬(くわ)	[k'oi]	[koi]: ~ ko[i]:	k'oi	k'oi
鋤(牛にひかすす き)	[ji:]za[i]	ji:de[:] ~ ji:[de]	ji:zai	ji:zai
鎌(かま)	[ha]ma[:]	hama[:]	hama:	hama:
ござ	u[su] / niku[bu]	nuku[bu]	nikubu	nik'ubu
篋(へら)	ɕi[ra]	he[ra]	ɕira	ɕira
策(さる)	[ɕa:]gi:]	ɕa:[gi] ~ [ɕa:]gi:]	ee:magu	se:magu
箆(かご)	ti[ru]	ti[ru]	kagu	k ^h agu
篩(ふるい)	[jui] (ɕa:jui / hatajui / inajui などの種類が ある)	ju[i]	jui (juigama (小さい ふるい))	juigama
俵(たわら)	[to:]ra[:]	to:ra[:]	to:ra:	to:ra: (中身が入っ ている) / to:rangū: (米を入れていな い)
筵(むしろ)	[mu:]eu]	mu[eu]	mueu	mueu
薪(たきぎ)	[t'a:]mu[nu]	[ta:]mu[ru] ~ ta:mu[ru]	ta:munu	t ^h a:mun
人(ひと)	[teu:]	[teu:]	teu:	te'u:
親(おや)	uja[:] / oja[:]	uja[:]	ʔuja:	ʔuja:

「～」は同一話者での発音の揺れ, 「 / 」は語形の違い, 「 // 」は話者による発音や語形の違い。

語	田 皆	瀬利覚	出 花	国 頭
子(こ)	[kʷa:]	[kʷa:]	kʷa:	kʷa: / warabi
長男(ちょうなん)	[ei]da[gʷa:]～ eida[gʷa:] / ei[da] / ja[ku](兄)でもよい	eidaɡʷa[:]	eiza	eiza
二男(じなん)	NR	NR	ʔuttu:	ʔuttu: / dʒinan
三男(さんなん)	NR	NR	ʔuttu:	ʔuttu:
四男(よんなん)	NR	NR	ʔuttu:	ʔuttu:
長女(ちょうじょ)	eida[gʷa:] / wunagunu[eidaɡʷa:] / a[ja](姉)でもよい	eidaɡʷa[:]	nenne	ʔaja
二女(じじょ)	NR	NR	ɲiban / ʔuttu:	ʔuttu / dʒidzo
三女(さんじょ)	NR	NR	samban / ʔuttu:	NR
四女(よんじょ)	NR	NR	ʔuttu:	NR
末っ子(すえっこ)	utu[:]	teu[ei] / teuei[gʷa:]	ea:nu ʔuttu: / teueei:gʷa	teueei:gʷa
親子(おやこ)	uja[kʷa:]	uja[kʷa:] / ujak[kʷa:]	ʔujakʷa	ʔujakʷa:
孫(まご)	ʔuma[ga]	mʰa:[ga]～ma:[ga]	mʰaga～maga	mʰaga
お父さん	ʔa[tea]	a[tea]	ʔatea	ʔatea
お母さん	ʔa[ma]	a[ma]	ʔama	ʔama
お兄さん	ja[ku]	[api]sa[N] / ei[da]	mi:	mi:
お姉さん	a[ja]	a[jà]	nenne / ʔaja	ʔaja
弟(おとうと)	utu[:]～[u]tu[:]	ʔutu[:]～uttu[:]～ ʔutu[:]～uttu[:]	ʔuttu:～ʔutu	ʔuttu:
妹(いもうと)	utu[:]	ʔutu[:]～uttu[:]～ ʔutu[:]～uttu[:]	ʔuttu:～ʔutu	ʔuttu:
兄弟(きょうだい)	聞き忘れ	kjo:da[i]	teo:de: / ʔutudza	ʔuttudza / teo:de:
お祖父さん	[gja]:[gja]	dza:[dza]	dza:dza	dza:dza:
お祖母さん	a[ei]	a[dzi]	ʔadzi	ʔadzi
夫(おっと)	ʷu[tu]	ʷu[tu]	wuttu	wuttu:
妻(つま)	tu[dzi]	tu[dzi]	tudzi	tʰudzi:
夫婦(ふうふ)	tu[dzi]ʷu[tu]	tudziu[tu]	tudziwutu	tʰudziutu
叔父(おじ)	u[dza]～u[za]	u[dza]:～ɸa:[tea]:	wudza	wudza
叔母(おば)	[ba]:[ba] / ba:[ba]	[ba]:[ba]～ba:[ba]: / ma:[ma]～ma:[ma]:	ba:ba	ba:ba:
甥(おい)	NR	NR	wuikkʷa	mikkʷa:
姪(めい)	NR	NR	mikkʷa	mikkʷa:
従兄弟(いとこ)	[i]to[ko]	ito[ko]	ʔutudza	ʔutudza

[は音調の上がり目,] は音調の下がり目,]] は拍内の下降, <新> <古> は語形の新旧。

語	田 皆	瀬利覚	出 花	国 頭
婿(むこ)	[mu:]k ^w a	[muk]k ^w a	mukk ^w a	mukk ^w a (mukk ^h p のように聞こえることも)
家族(かぞく)	ja:nu[teu:]	ja:nu[teu:]	ja:nuteu	ja:nute ^h u:
親戚(しんせき)	[ho]ro[ɕi] ~ [ɸa]ro[ɕi]	haro[ɕi]	harodɕi	harodɕi / ɸ ^w arodɕi
男(おとこ)	[jin]ga[:]	jinga[:]	jinga ~ jinga:	jinga:
女(おんな)	[^w una]gu[:]	^w una[gu] ~ ^w unagu[:]	wunagu	wunagu:
目上(めうえ)	[mi]:[g ^w a]	NR	mi: / eiza (nenne: / aja「お姉さん」)	eiza
目下(めした)	utu[:]	NR	ɥuttu:	ɥuttu ~ ɥuttu:
青年(せいねん)	nis[se:] // nie[ɕe:]	ni[ɕe] / nie[^w a:] ni[se]	nise:	nisse:
大工(だいく)	[se:]ku[:]	NR	de:ku: / se:ku:	se:ku:
友だち	a[gu] / du[ei]	a[gù] / du[ei]	ɥagu / duei	ɥagu / duei (年が近い友だち)
娘(むすめ)	[me:]ra[bi]	[me:]ra[bi] ~ me:ra[bi]	me:nabi	me:rabi
私(わたし)	wa[nu]	wa[nu]	wanu	wan
私たち(除外的・包括的)	wak[kja]	wak[kja]	watea (区別なし) / wate (双数形)	watea: (区別なし) / watte: (私たち 2 人) / watea tai (私たち 2 人)
あなた	[^w ui] / na[ta]	[ui] / na[ta]: ~ na[ta]	hata	nata
あなたたち	[^w ui]ta / na[tata]	[ui]ta: / na[ta]ta	hatata:	natata ~ natata:
お前(おまえ)	u[ra]	u[ra]	ɥura:	ɥura
お前たち	uk[kja]	uk[kja]	ɥutea ~ ɥuttea	ɥutea / ɥutte: (お前たち 2 人)
皆(みな)	[ɥu:]gu[tu] / [mu]:[nu]	[mu]:na[ge:] ~ mu:na[ge]	muru	mu:ru
名(な)	[na:]	[na:]	na:	na:
老人(ろうじん)	tu[ei]ju[i]	tueit[teu:] (普通はこれを使う) / tu[ei]u[teu:] ~ tu[ei]ui[teu:]	ɥujaho: (敬い) / tueiwui	t ^h ueiwui ~ t ^h ueijui
お祝い(おいわい)	je[:]	[je]:	je:	je'e

「～」は同一話者での発音の揺れ, 「 / 」は語形の違い, 「 // 」は話者による発音や語形の違い。

語	田 皆	瀬利覚	出 花	国 頭
結婚(けっこん)	tu[dʒi]morau / ja:datei[:]	tu[dʒihame:] / ja:datei[:] ~ ja:da[ei:]	ni:bitei	ni:bitei
結納(ゆいのう)	ja:miei[:]	ni:biki[:]	juino: / di:	di:
喧嘩(けんか)	[ju:]gu[ri]	[ju:]gu[ri:]	ju:zai	ju:zai
農作業などの相互扶助	[ji:]ta[ba] ~ [ji]ta[ba]	ji:ta[ba]	ji:taba (親戚で) / no:koi (賃金をもらって)	ji:taba
相撲(すもう)	[eu]ma[:]	eima[:]	eima:	eima
一つ(ひとつ)	ti:[tei]	[ti]:[tei]:	ti:tei	tʰi:tei
二つ(ふたつ)	ta:[tei]	ta:[tei]:	ta:tei	tʰa:tei
三つ(みっつ)	[mi:tei]:	mi:[tei]:	mi:tei	mi:tei
四つ(よっつ)	ju:[tei]	ju:[tei]:	ju:tei	ju:tei
五つ(いつつ)	iteitei[:]	iteitei[:]	ʔiteitei	ʔiteitei
六つ(むっつ)	[mu:tei]	mu:[tei]:	mu:tei	mu:tei
七つ(ななつ)	nanatei[:]	nanatei[:]	nanatei:	nanatei:
八つ(やっつ)	ja:[tei]	ja:tei[:]	ja:tei	ja:tei
九つ(このつ)	[ku]nu[tei]	kunutei[:]	kunutei:	kunutei:
十(とお)	[tu:]	[tu:]	tu:	tu:
一人(ひとり)	teu[i]	teu[i]:	teui	teʰui
二人(ふたり)	ʔuta[i]	ta:[i]:	tʰai	tʰai
三人(さんにん)	mit[teai]	mi[tee:]	miteai	mittei
四人(よにん)	jut[tai]	ju[te:] // jut[te:]	jutai	juttai
五人(ごにん)	[itei]ta[i]	NR	ʔiteitai	itejtai
六人(ろくにん)	mut[tai]	NR	muttai	muttai
七人(しちにん)	nanata[i] ~ [nana]ta[i]	NR	nanatai	nanatai
八人(はちにん)	jat[tai]	NR	jatai / hateitai	jattai
九人(くにん)	[kunu]ta[i]	NR	kju:tai / kunutai	kunutai
十人(じゅうにん)	tut[tai]	NR	tʰu:tai	tʰutai
いくら	itea[sa]	ikja[sa]: // ikja[sa]	ʔiteasa	ʔiteasa:
いつ	i[tei]	i[tei]	ʔitei:	ʔiteu
だれ	ta[ru]	ta[ru] ~ ta[ru]:	tʰaru	tʰaru
どこ	u[da]	u[da]	ʔudu	ʔuda
どれ	udu[ru]	udu[ru]	ʔuduru	ʔuduru
なぜ	ŋ[ga:]	ni[ga]	nu: [nu:ja: (なぜ?)]	nu: / ɕiŋga:
なに	[nu:]	[nu:]	nu: / nu:ja: (何か) [nu:kaja: (何?)]	nu:
いくつ	iku[tei:]	ikjasa[:] ~ ikja[sa]	ʔikutei	ʔikutei
これ	ʔu[ri]	u[ri]	ʔuri ~ ʔuri	ʔuri

[は音調の上がり目,] は音調の下がり目,]] は拍内の下降, <新> <古> は語形の新旧。

語	田皆	瀬利覚	出花	国頭
それ	a[ri]でもよい	u[ri] / a[ri]	ʔuri	ʔuri
あれ	a[ri]	a[ri]	ʔari	ʔari
ここ	ɸu[ma]	[ʔma:] ~ [ma:]	ɸuma ~ ɸuma	ɸuma
そこ	a[ma]	ʔa[ma:] ~ [ʔama:]	ʔama	ʔama:
あそこ	[ama	ama	ama ~ ama:	ama:
物(もの)	mu]nu[:	mu]nu[·	munu	mun
色(いろ)	i]ru[:	iru:	iru:	iru:
音(おと)	u[tu	utu	utu	utu
夢(ゆめ)	i]mi[:	i]mi[·	imi:	imi:
仕事(しごと)	[eigutu	eugutu (仕事)	eigutu	eigutu ~ eikutei / tidzani
鬼(おに)	u]ni[:	u]ni[:	ɸni:	ɸni:
心(こころ)	ki]mu[:	kimu / kukuru	teimu:	teimu:
情け(なさけ)	na]sa[ki	NR	NR	nasaki
言葉(ことば)	ɸutuba / kutuba / mu]ni[:	mupni:	mupni:	mupni: (同輩以下に対して) / ɸutuba (目上の人に対して)
歌(うた)	[uta	uta	uta	uta
踊り(おどり)	wu[dui	wudi:	wudui	wudui
鼓(つづみ)	[teidzimi	NR	teidzin	teidzin
宝(たから)	[takara	NR	takaramun	takara
型(かた)	ha[ta	hata	hata	hata
形(かたち)	NR	katatei	hata	NR
休息(きゅうそく)	NR (「休め」は ju:ri)	NR (「休め」は ju:ri)	jasumi	jacimi: / jurari:
魂(たましい)	ta]ma[ei	mabui (「悪霊」のような意味合い)	tamaei	tamaei:
刺青(いれずみ)	[hanteiki	NR	handzitei (裁縫の針刺しの意)	ɸandzitei
真似(まね)	[majni	majni	majni	majni
嘘(うそ)	ko]i[mu (田皆に独特の語)	namita	damakaei / ɸindzimuni	damakaei / ɸindzimita
小さい	i]ku[sa	i]kusa	ikusa	ikusan
大きい	uma]gi[sa	ɸuisa	uɸisa	uɸisan
低い	ɸikusa / i]kusa	ɸa:sa	ɸa:sa / ɸa:san	ɸa:san
同じ	u]na[ei	NR (junumun「同じもの」/ junuguti「同じこと」)	unaei ~ unadzi	jinumun

「～」は同一話者での発音の揺れ, 「 / 」は語形の違い, 「 // 」は話者による発音や語形の違い。

語	田皆	瀬利覚	出花	国頭
短い	iteikja[sa	iteikasa	ikiteasan～ikidzasan	ikiteasan
丸い	ma]ru[sa	marusa	marusa	marusan
暖かい	[nukusa	nukusan	nukusa	nukusan
寒い	çi]:[sa	çi:san	çi:sa	çi:san
冷たい	çigi]ru[sa	çigurusa	çidzurusa	çidzurusan

[は音調の上がり目,] は音調の下がり目,]] は拍内の下降, <新> <古> は語形の新旧。

沖永良部方言 基礎語彙集（かな）

語	田皆	瀬利覚	出花	国頭
頭(あたま)	ちゅ]ぶ[る (この方言には母音の無声化はないようだ)	ちゅ]ぶ[る	ちぶる〜ちぶるー	ちぶる
髪の毛(かみのけ)	は]ら[ぢ / は]ら[ぢぬ ひー〜は]らぢぬ[ひー	は]ら[ぢ	はらぢ	はらぢ
旋毛(つむじ)	ま[ちぢ	[まぢぢ	もーや (マチとは言わない*話者談) / たーちもーや (つむじが2つあること)	まぢぢ
雲脂(ふけ)	へい]ーき[ー // へい]ー]き[ー	へい]ーき[ー <古>	ふけ	へいーちー
白髪(しらが)	しゃ]ー[が (「胸などの毛」は しゃ]ー[ぎと言う)	しゃ]ー[ぎ	しゃーぎー	しゃーぎ
目(め)	み[ー	み[ー	みー	みー
眉(まゆ)	ま]ーゆ[ー	み]ま[ゆ	みーまゆー	みーまゆー
額(ひたい)	[はらんちや	[はなちや	はらん,ちやー / まち	はらん,ちや
鼻(はな)	[ふぁな	[はな	はなー〜はな	はなー〜ふぁなー
鼻血(はなぢ)	[ふぁなぢ	[はなぢ	はなぢー	ふぁなぢー
耳(みみ)	み]ーみ[ー	み]み[ー	みみー	みみー
口(くち)	[くち	[くち	くちー	くっちー〜くち
唇(くちびる)	[くちぬし]ば[ー / [くちびる	[くちびる ([くちし]ば「口の周辺」)	くちびる	くちびる
舌(した)	し]や[ー	しゃ[ー	しばー	しばー
歯(は)	は[ー // ふぁ[ー	[はー (ふぁと言わない)	ふぁー	ふぁー
歯茎(はぐき)	ふぁーし]し[ー〜ふぁし]し[ー	ふぁー]ぢ[し	はぐき	ふぁーぢし
口蓋(あご)	[^あぐ (全体) / ^う]とう[げ (先端) / [か]ー]ぢ (上下の顎の合うところ)	^あー]ド[ー (全体) / ^う]とう[げ (先端) / かーぢ[かー]ぢ [ぬ [はぢりたん (あごがはずれた)] / かー]ぢ [たくらちゃん (口の中がやけどした)	^あぐ / ^う]とう[げー / かーぢ (上あごのことは特に方言名はないとのこと)	^う]とう[げー / ^わー]とう[げー「上あご」 (あまり使わない)
髭(ひげ)	[ひぎ	[ひぎ	ひぢー / ^わーひぢ (上ひげ)	ひぢー

[は音調の上がり目,] は音調の下がり目,]] は拍内の下降, <新> <古> は語形の新旧。

語	田皆	瀬利覚	出花	国頭
毛(け)	[ひぎ / [ひー	[ひぎ (ひー と言 わない)	ひー	ひー
面(かお)	ちら[ー	ちら[ー	ちらー	ちらー
首(くび)	[くび ([^あぎ「のど」)	[くび (「のど」は ぬ[でい / 「のどの 奥」は [^あぎ)	くび	くびー〜くび
肩(かた)	は[た[ー	は[た[ー	はたー	はたー〜はた
胸(むね)	[にーふあら	[にーはら	にー	にー
乳(ちち)	ち[ー	ち[ー	ちー	ちー
腹(はら)	わ[た[ー	わ[た[ー	わたー	わたー
背中(せなか)	[ふし	[ふし (背中の上の 方)	ふしー / ふしびやー [ふしびやー やでい いん (腰がいたい)]	ふしー
肝(きも)	き[む[ー (心)	き[む[ー (肝臓、 心)	ちむ	ちむー
臍(へそ)	[ふす	[ふす	ふす	ふすー
腰(こし)	が[ま[く	が[ま[く (ウエスト)	ふしー / ふしびやー	ふしー
尻(しり)	ま[い / [ちびだい (糞便をずっと少しず つ出すこと。下痢ほど 重症ではない)	ま[い / まいた]ぶ [ら (おしりの丸くな っているところ) / まいた]ぶらぬ ふ に (大腿骨) / へう] むぬ[しび (芋の下 の方)	まい	まい
肛門(こうもん)	む[ー[か // ま[い	まい[ぬごー	むっかー (最近に使 わない)	むっか
手(て)	てい[ー	てい[ー	ていー	ていー
腕(うで)	へう[でい[ー	へん[にや[ー (肩 の付け根から手首 まで)	へうでいい / ひんにや ー〜へんにやー	へんにやー
肘(ひじ)	[ひぢ	ひ[ぢ / [ひぢまが] や[ー (けちんぼう)	ひぢー	ひぢー
力(ちから)	[ちっきやら	[ちから	ちから	ちから
拳(こぶし)	ていんち[くに (扣棗 (コーサ) も)	ていん[ぢ[く	ていくぶし / ていー ぢくん	ていぢくん〜へてい ぢくん
筋(すじ)	し[ぢ	し[ぢ	しぢ	しぢ
指(ゆび)	ゆ[び	う[ー[び	へういび	ゆびー
爪(つめ)	[ちみ	[ちみ	ちみー	ちみー
足(あし)	ふあ[ぎ (全体) / ふあ [ぎぬひやー (足)	は[ぎ (足・脚)	はぢ	ふあぢ

「〜」は同一話者での発音の揺れ, 「 / 」は語形の違い, 「 // 」は話者による発音や語形の違い。

語	田 皆	瀬利覚	出 花	国 頭
腿(もも)	む[む]	むー]む[ー / [む むぢし (腿の肉)	むむー	むむー
股(また)	[^うちむむ	[^うちむむ	また〜またー	またばし / またー
膝(ひざ)	[ちんし	し]に[ー (膝からく るぶしまで) / [ちん し	ちんし	ちんし
踝(くるぶし)	くる]ぶ[し / ^あ]ま[む <古>	くるぶ]し[ー (^あま むと言わない)	^うっちくるぶし(内側 のくるぶし) / ^あまむ んぐぶ(外側のくるぶ し)	くるぶし
脛(すね)	ふあ[ぎぬ めー]ぶ [に	し]に[ー	ゆゆ (しにーでも良 いが、すねよりもっと 広い範囲をさす)	しにー
ふくらはぎ	ちっ]とう[ー	ちとうぢ]し[ー〜ち とう]ぢし[ー	ちっとうー	ちっとうー
踵(かかと)	^あー]どう[ー	^あー]どう[ー	^あーどうー	^あーどうー
体(からだ)	[からだ (どうー「自 分」)	[からだ (どうー「自 分」)	からだ / どうー	どうーてー〜どうっ てー
背丈(せたけ)	[しー	NR (「背が高い人」 は たきだか]ー[さ / 「背丈が高いこ と」は [たきだかさ)	たきー	たきー / たきふどう
骨(ほね)	[ふに	[ふに	ふに	ふに
皮(かわ)	ほ[ー	ほ[ー (「川」のこと は [ほー でアクセ ントが違う)	ほー	ほー
ほくろ	[^あざ	[^あざ (生まれつ きのもの)	^あぢゃ	^あぢゃ
涙(なみだ)	なー]だ[ー	なん]だ[ー [なん だー さらに (涙 がたらたら)]	なだー	みーなだ
声(こえ)	[ふい	ふ[い	ふい	ふい
息(いき)	[^いき	[^いき [[^いき ふーふー (息切れ すること)]	^いち	^いっち
咳(せき)	[しえー	せ // しえ	しえー	せー
唾(つば)	ち]ぢゅ[ー	ち]ぢゅ[ー	ちぢゅー	ちばー
欠伸(あくび)	[^あくび	[^あくび	^あくび	^あくび
涎(よだれ)	[ゆだい	[ゆで	ゆだい	ゆだい
屁(へ)	ひ[ー ([ひー「日」)	ひ[ー	ひー	ひー

[は音調の上がり目,] は音調の下がり目,]] は拍内の下降, <新> <古> は語形の新旧。

語	田皆	瀬利覚	出花	国頭
糞(くそ)	く]す[一	く]す[一	くすー / はしか (便秘の時のような硬い便)	くっすー〜くすー
尿(にょう)	しば[い	し]べ[一	しーばい	しーばい
おでき	に]ぶ[とう (へくつ)しゃ [ば (田虫) / [たのー (帯状疱疹))	に]ぶ[とう / く]しゃ [ば (田虫)	にぶとうー	にぶとう
たんこぶ	ぐ[ぶ	が[ぶ <希>	ぐぶ	ぐぶ
汗(あせ)	^あー]し[一 (^あー] し[一 さらさら「汗たら たら」)	[^あし [^あしど]ー [ど〜^あしど]ーど [一 (汗たらたら) 〜さらさらとは言わ ない)]	^あしー	^あっしー
垢(あか)	^あ[一	NR	^あー	^あー
怪我(けが)	[やまち	[けが	きがー / やまちー	やまち / けが
病氣(びょうき)	や]ー[でい (「病ん で」の意)	や[でい (「病んで」 の意) / やんだ]む [ん (体の弱い人)	びょーき	びょーき
血(ち)	[ちー	[ちー	ちー	ちー
傷(きず)	[きち / か]ん[ば「傷 跡で毛が生えたいと ころ」	[きち / か]ん[ば (傷の跡のはげ)	きちー	きちー
薬(くすり)	く]す[い	く]す[い	くっすい	くっすい
灸(きゅう)	[やっちゅ	[やいと	やっちゅー	やん,ちゅー
命(いのち)	へいぬち	ぬ]ち[一	へいぬちー	へいぬちー
木(き)	ひ[一	ひ[一	ひー	ひー
葉(は)	[ふあー / ひー]ぬ [ふあー // はー	ひー]ぬ[ふあ	ふあー	ふあー
枝(えだ)	[ゆだ	[ゆだ	ゆだ〜ゆだー	ゆだ
梢(砂糖黍のこず え)	[ていんばな	NR	すらー (きびだけに 言う) / ゆだぬ さっ ちー (きび以外)	すら
実(み)	ない]む[ん	ひー]ぬみ[一	みー / ない	みー / ない
根(ね)	に[一 (に[一「地震」)	ひー]ぬに[一	にー	にー
草(くさ)	[くさ	く]さ[一	くさー〜くさ	くさ
花(はな)	ふあ]な[一	は]な[一	はなー	ふあなー
種(たね)	た]ー]に[一〜た]に [一 (さ[に「月桃」)	た]に[一	たにー	たにー
苗(なえ)	た]ー]に[一	た]に[一	ない / むん,だにー / たにー	むんだにー / なえ ー

「〜」は同一話者での発音の揺れ, 「 / 」は語形の違い, 「 // 」は話者による発音や語形の違い。

語	田皆	瀬利覚	出花	国頭
稲(いね)	へい]に[一	へい]に[一	へいに一	へいに一
穂(ほ)	[ふー // ふ[一	へいにぬ]ふ[一	ふー	ふー
米(こめ)	ふ]み[一	く]み[一	ふみー	ふみー
粳(もみ)	[むに	[むに	むに一	むに一
麦(むぎ)	む]ぎ[一	む]ぎ[一	むぢー	みぢー
藁(わら)	わ]ら[一	わ]ら[一	わら～わらー	わらー～わら
麦わら	むん]ぎや[ら	むん]ぎや[ら	むん,ぢやら	むぢゃん,がら
茅(かや)	ぎや[一	ぎや[一	ぎゃー	ぎゃー
粟(あわ)	^お[一 (^お[一]め [一「粟飯」)	^お[一	^おー	^おー
稗(ひえ)	NR	[ひー / たーぬ[ひ ー (田に生える稗)	とんぢにー [とんぢ に むっちー (ひえ でつくったもち。お盆 のときに作って供え る。終戦後には作ら れなくなった。おいし い)]	うーへい
芋(いも)	^う]む[一 (さつまい も) / [さと^へいむ (里 芋)	^う]む[一 / たぬ] む[一 (田芋)	^うむー	^うむー
さつまいも	^う]む[一	^う]む[一	^うむー / たーに ^う む (田芋。昔は出花 はもちろん、どこでも 作られていたが、今 は知名のみ)	^うむー
豆(まめ)	まー]み[一	まー]み[一 / だ い]ずまみ[一 (大 豆)	まーみー / ぢーまー みー (らっかせい)	まーみー
胡瓜(きゅうり)	きー]う]い	NR	きー^うい～きゅーり	きうい～きゅーい
蓬(よもぎ)	ふ[ち	ふ[ち	ふっちー / ふっちば ー	ふち～ふっち
菜(な)	な[一 (「名は [な一 でアクセントが違う) / なー]ぬ[ふあー	な]ぬ[ふあ / ^う]ぢ ゆ[る (野菜 (総 称))	なー / ^うでいばー / ^おーふあー (若菜)	なー / ^うーていー ばー
大根(だいこん)	や]っ[しえ	[やせ	やっしえー <新> / で ーくに <古>	やっせー / でーく に
冬瓜(とうがん)	しゅー]ぶ]い	しゅ]ぶ]い	しぶい	しぶい
南瓜(かぼちゃ)	[なんくわん	[なんこ	なんくわん	ごーぶら
瓜(うり)	^う]い	^う]い	^ういー	^ういー
萰(にら)	びゃ[一	びゃ[一	びゃー	びゃー

[は音調の上がり目,] は音調の下がり目,]] は拍内の下降, <新> <古> は語形の新旧。

語	田皆	瀬利覚	出花	国頭
茸(きのこ)	し]み[ぢ (シメジ。シメジしかなかったと言う)	な]ー[ば	しみぢ	しみぢ
きくらげ	みん]ぐ[い / な[ば (アダンの木に生えるきくらげ)	みみ]ぐ[い	みみぐい	みみぐい
とうがらし	ふ]しゅ[ー	ふ]しゅ[ー	ふしゅー	ふしゅー～ふっしゅー
苦瓜(にがうり)	にぎゃ]へう[い	ご]ー[や / にぎゃ]う[い	にちゃへうい	にちゃごい
胡麻(ごま)	ぐ[ま	[ぐま	ぐま	ぐま
苺(いちご)	へ]ち[び	へ]ちゅ[び	へいちゅび / はるへいちゅび (春いちご)	へいちゅび
蘇鉄(そてつ)	す]とう[ち / [やらぼ (ソテツの実)	ひ]とう[ち / [ゆなぶ (ぬ み) (ソテツの実)	すとうち	すとうち～すどうち～すづち
松(まつ)	ま[ちぎ	ま[ちぎ	まちぎ	まちぎ
竹(たけ)	[でー	[でー	でー	でー
梅(うめ)	NR	NR	へうめ～へうめー	へうめー
桃(もも)	む]ー[む	[むむ	もも	むむー
桑(くわ)	[くわ ～くわ]ー[ぎ	くわ]ん[ぎ	くわー	くわー
薄(すすき)	ぎゃ[ー / とーぢ]ー[き (太い茅)	ぎゃ[ー	へあむとうー	ふふあぎゃー / ふふあさん (固い)
くば(びろう樹)	NR (「棕櫚」は ちぐ)	ふ[ば	ふば	ふばー～ふば
蜜柑(みかん)	く]り[ぶ	く]る[ぶ	くりぶー～くりぶ	くりぶ
茎(くき)	くー]き[ー	[ふき	くーちー	ふに
あおさ	へおーさ]ぬ[い	へお]ー[さ	へおーさ	へおーさー
もずく	NR	NR	NR	もい
藻(も)	[むー	[むー	むー	むー
糸瓜(へちま)	なび]ら[ー	な]ー]びら[ー	なーびらー	なびやらー
こずえ・砂糖黍の先端	うう]ー]ば[な / うう]ー]ぎ[ー (「さとうきび」の穂先)	[すら	すら (きびのみに使う)	すら
福木(ふくぎ)	[ふくぎ (ここにはあまりない)	[ふくたんぎ	ふくぎー	ふくぎー
烏賊(いか)	ひ[ぶしみ	[へいきゃー / ふー]ぶ[し]みー (甲イカ)	へいつちゃー	へいちゃー～へいつちゃー
蛸(たこ)	と[ー	と[ー	へとー	とー
海老(えび)	た]な[が	[へいびー	へいび	へいびー

「～」は同一話者での発音の揺れ, 「 / 」は語形の違い, 「 // 」は話者による発音や語形の違い。

語	田皆	瀬利覚	出花	国頭
雲丹(うに)	NR	NR	はちちぬ みー	へうにぬ みー
雲丹の身	^あー]さ[い (総称)	にや[ー (総称)	ぬーしー	ぬーしー
貝(かい)	[へうに (採集しない)	[へうにー	へうに / はちち (小さいウニ。赤・黒・白の三色がいる)	へうに
亀(かめ)	は]み[ー	は]み[ー	はーみー	はーみー
蟹(かに)	[がに	[がに	がにー	がに
蜷 (にな, まきがい)	^あー]さ[い (たん)に や[ー「たにし」)	にや[ー / た]んに や[ー (田にし)	^あぐちぬーし / は またぬーし	さんかくぬーし
魚(さかな)	[^ゆー	[^ゆー	^ゆー	^ゆー
鱸(うろこ)	へいー]き[ー	へいー]き[ー	へいーちー	へいーちー
鰻(うなぎ)	へう]な[ぎ	へう]な[ぎ	へうなぢ	へうなぢ
鯨(くじら)	[ぐぢや <古>	<[ぢ]ら / <[ぢ]や <古>	くぢら	ぐぢや
鰹(かつお)	[かつお	[かつお	かつお	かつお〜かつお
飛魚(とびうお)	[とうび^ゆー	[とうびぬゆ	とうび^ゆー	とうび^ゆー
いるか	ひ[とう	NR (く[ぢ]ら (鯨) と区別されない)	ひっとう〜ひっとうー	ひとう
なまこ	へうしにゃご]ー[み	し[き。	しっち	しっちー
ひとで	がらさ]ど[ー	がらし]ねー[ぎや (黒い種類)	ひとで	ひとで (以前はい なかった)
やどかり	^あ]ま[む	^あ]ま[む	^あまむ / ^あまんか (青く、大きなヤドカリ。 畑仕事のときに赤ちゃんを置いて働いて いると、^あまんかに赤ちゃんが襲われて 食べられることがある と言う言い伝えがある。 食用ではない)	^あまむ
牛(うし)	[へうし	[へうしー	へうし	へうしー〜へうし
馬(うま)	へう]ま[ー	^ま[ー	まー	^まー
山羊(やぎ)	や]ー[ぎ (山羊) / [う ーやーぎ (雄山羊) / みー]やー[ぎ (雌山 羊)	[やぎ (山羊) / [う ーやぎ (雄山羊) / みー]や[ぎ (雌山 羊)	やぢ (山羊) / う ーやぢ (雄山羊) / みーやぢ (雌山羊)	やぢ (山羊) / う ーやぢ (雄山羊) / みーやぢ (雌山羊)
豚(ぶた)	[^わー / [うー^わー (雄豚) / みー]^わ[ー (雌豚)	^わ	^わー	^わー
角(つの)	ち]ぬ[ー	ち]ぬ[ー	ちぬー	ちぬー

[は音調の上がり目,] は音調の下がり目,]] は拍内の下降, <新> <古> は語形の新旧。

語	田皆	瀬利覚	出花	国頭
犬(いぬ)	へいぬ[一	へいぬ[一	へいぬー	へいぬ～へいぬー
猫(ねこ)	みゃー	みゃー	みゃー	へみゃー
兎(うさぎ)	へうさぎ	へうさぎ	へうさぎー	へうさぎ
鼠(ねずみ)	ゆむぬ / へおい [しゃ (歌に出てくる)	へおい[しゃ	ゆむぬ / みーくらぢ ー (目が小さく、口が 大きなネズミ。和名不 明)	ゆむぬ <古> / ぬ づみ <新>
動物(どうぶつ)	いきむ[ん	NR	NR	いちむん
虫(むし)	むー[し	[むし	むしー	むし
蟻(あり)	へあー[に	[へあにむしゃ	へあに	へあにー～へあに
蚊(か)	が[ぢゃ[む	が[ぢゃ[む	がぢゃむ	がぢゃむ
蜘蛛(くも)	ひぶ[が[し	く[む[一	くむー	くむー
蜘蛛の巣	ひぶ[が[しぬ]し[一	ひぶ[が[し	ひぶがし	ひーぶがし
蝶々(ちょうちょ)	は[び[ら	ちょー[ちょ / は] び[ら (羽化した蚕)	はびらー	はびらー
蝸牛(かたつむり)	ちん[た[い <古>	ちん[て[一	ちん,たい	ちん,たい
蛙(かえる)	が[一[く	が[一[く	がーく	がく
蜂(はち)	[ふあち	[はち	はち / ちぶるばち (大きい蜂) / ぎゃー ばち (小さい蜂)	ふあっちー
蠅(はえ)	[へー	[へー	へー	へー
蛆(うじ)	へうぢ[一	へうぢ[む[し // へうぢ む[し[一	へうぢー	へうぢむし
蚕(のみ)	ぬ[一[に	にゆ[一[み	ぬみ	ぬみ～ぬみー
蚯蚓(みみず)	みみ[ん[ぢゃ	み[みん[だ	まーみん,ぢゃ	まーみぢゃ
虱(しらみ)	しゃ[一[に	しゃ[一[に	しゃーに	しゃーみ
百足(むかで)	む[か[ぢ	む[か[ぢ	むかぢ	むかぢ
蚕(かいこ)	む[し[ぐわ	[むしぐわ	むしぐわー～むしぐわ	むしぐわ
かまきり	へい[しゃ[とう	へい[しゃ[とう	へい[しゃ[とう～へい[しゃ とうー	へい[しゃ[とうー
蜻蛉(とんぼ)	やま[ん[て～や]まん [て	へいえ[一[だ～へえ] ー[だ	へえーぢゃ / やまだ ー (トンボの一種。大 きいもの。オニヤンマ か。ヤンマか)	やまだー
ばった	が[一[た	が[一[た	がったー	がった
鳥(とり)	ふあー[とう	とうい	NR	とうい
鶏(にわとり)	[とうい	とうい	とうい	とうい
とさか	は[が][に[一	NR	NR	はがみー

「～」は同一話者での発音の揺れ, 「 / 」は語形の違い, 「 // 」は話者による発音や語形の違い。

語	田 皆	瀬利覚	出 花	国 頭
雀(すずめ)	ゆむ]どう[い	ゆむ]どう[い	ゆむどうい	ゆむどうい
鳩(はと)	ふあーとう	からぼとう～からぼと	ふあーとうー	ふあーとうー
烏(からす)	が]ら[し	からす	がらし	がらし
鶉(うずら)	[さんぽ	NR	さんぽ	さん,ぽ
鷹(たか)	[たー	たー	たー	たー
卵(たまご)	ふ]ー[が	ふが	ふが	ふが
巢(す)	し]ー	し]ー	しー	しー
羽(はね)	ふあ[に	はに	はに～ふあに	ふあに
空(そら)	[ていんと	ていんと～ていんとー	ていん,と	てん,とー
日(ひ)	ひー	ひー	ひー	ひー
太陽(たいよう)	てい[だ	てい[だ	てい[だ	てい[だ
光(ひかり)	ひ]きや[い	NR (「あかり」は あーがい / あーげい)	ひっちやい	ひっちやい
蔭(かげ)	は[ぎ	はが	はが	はが
まぶしい	みひきや]ろ[さ	みーきや]ら[さ	みー ひっちやらさ (ひっちやらさだけでもまぶしいと言う意味になる)	みー ひっちやらさ (ひっちやらさだけでも「まぶしい」と言う意味になる)
火(ひ)	ま]ー[ち	ひー	まち	まち (うっちー「置き火」)
水(みず)	み[ぢ	みぢ	みぢ	みぢ
山(やま)	や[ま	やま	やま	やまー
川(かわ)	[ほー	ほー	ほーら	ほーら
橋(はし)	ふあ[し	はし	はし	ふあし
丘(おか)	[とー	ちぢ	たかちぢ / ちぢ	ちぢ
陸地(りくち)	[とー	NR	NR	あぎ
土・地面(つち・じめん)	み]っちや[ー	みちや[ー	みっちやー (土) / ぢー (地面)	ぢー (地面) / みちやー (土)
星(ほし)	ふ[し	ふし	ふし	ふし
月(つき)	ち[きゅ	ちきゅ	ちっきゅー / ぬーちち (何月)	ちっきゅー / ちちー (暦の月) / ぬーぢち[(何月)
雲(くも)	く]む[ー	くも	くもー	くむー
霧(きり)	NR	NR	きり / へーぶい	へーぶい
露(つゆ)	NR	NR	つー	つー
雨(あめ)	あ]み[ー	あみ	あみー	あみー
風(かぜ)	は[ぢ	はぢ	はぢ	はぢ

[は音調の上がり目,] は音調の下がり目,]] は拍内の下降, <新> <古> は語形の新旧。

語	田皆	瀬利覚	出花	国頭
竜巻(たつまき)	NR	(たつまき) 共通語か?	ちぢまち	いいん,のー
稲光(いなびかり)	NR	NR	いなびっちゃい	ひちゃやー
地震(じしん)	に]ーゆん]ぎ[ー	に[ーゆたん (「地震が揺れた」の意)	ねー	にー
虹(にじ)	[のーぎ	NR	のーぢん	のーぢん
明かり	NR / あーがていきちやん (明るくなってきた)	あーがい / あーげー	あーがい	あーがい
雷(かみなり)	は]みどう[る	はみどうる	はみどうる	はみどうる
潮(しお)	う]しゅ[ー	うしゅ	しゅー / うしゅー	しゅー
煙(けむり)	ひぶ[し	ひぶし	ひぶし	ひぶし
浅瀬(あさせ)	[とー	なきしゃー	あっさい	あさい
遠浅(とおあさ)	NR	いの	NR	NR
洞窟(どうくつ)	[^よー	よー	よー	よー
海(うみ)	う[に	うに (「鬼」は うにーと言う)	うに	うみ
水溜り(みずたまり)	[みぢむ]ぐ[い	ふ]む[い (海の水たまりも池も同じ)	ふーむい	ふん,むい
港(みなと)	[みなと	とうめー	みなと	みなとう / さん,ばし
波(なみ)	な]ーに[ー	なにー	なみー	なーみー
泡(あわ)	お[ー	お~^お~おー	おー	おー
島(しま)	し[ま	しまー	しま	しまー
浜(はま)	ふあ[ま	はま	はま	はま~ ふあま
珊瑚礁(さんごしょう)	NR	はさいし	NR	うるー
砂(すな)	し[な	しな~しなー	しな	しな
石(いし)	い[し	いし	いし	いし
溝(みぞ)	に[ぢゅ~ん[ぢゅ	にんぢゅ / いいんぢゅ	にぢゅ	にぢゅ
田(た)	た[ー	た[ー	たー	たー
畦道(あぜみち)	あー]ぶ[し	あー]ぶ[し	あぶし	あぢー
畑(はたけ)	[ふあて	はて	はって~ふあって	ふあってー
野(の)	[とー	はる	はるー~ふあるー	ふあるー
道(みち)	み[ち	みち	みち	みちー
崖(がけ)	[ふあんた	ふあんた	はん,た~ふあん,た	ふあん,た
坂(さか)	[ひやー	ひやーみち	ひやー	ふやー~ ひやー

「~」は同一話者での発音の揺れ,「 / 」は語形の違い,「 // 」は話者による発音や語形の違い。

語	田 皆	瀬利覚	出 花	国 頭
頂上(ちょうじょう)	ち[ち	たかちち	ちち	ちち
東(ひがし)	[あがり	あがり	あがり	あがり
東風	に[し	あがりはち	あがりはち / ふっち ー	ふち
北(きた)	に[し	にし	にし	にし
北風	に[しはち	にしはち	にしはち	NR
西(にし)	[いー	いー	いー	いー
西風	[いーはち	いーはち	いーはち	NR
南(みなみ)	ひえ[ー	へー	へー	へー
南風	ひえー]は[ち	へーはち	へーはち	NR
右(みぎ)	[んぎ	みぎ (共通語的)	みぎ	みち
左(ひだり)	ひ]ぢゃ[い	ひぢえー	ひーぢゃい	ひーぢゃい
前(まえ)	[めー (「目」は み[ー でアクセントが違う)	めー	めー	めー
後ろ(うしろ)	う[しゅ	うしゅ	うしゅ / あとう	うしゅ / あとう
跡(あと)	あ[とう	あとう	あとう	あとう
横(よこ)	ゆ[く	ゆく	ゆく	ゆく
上(うえ)	[うい	うい	わーび / うい	わーび
下(した)	[しゃー	しゃー	しゃー	しゃー
中(なか)	[なー	なー	なー	なー
底(そこ)	す[く	すく	すく	すく
内(うち)	[なー / う[ち	なー (「中」の意)	なー	なー
外(そと)	ふわ[ー～ふあ[ー	NR	すとうー / うむてい	すとう
奥(おく)	う[く	NR	おく	NR
角(かど)	は]どう[ー	かどうー	はどうー	はどうー
傍(そば)	すば[ー ～ しば[ー	しばー	すばー	すばー
今日(きょう)	[ひゅー	ひゅー	ひゅー	ひゅー
昨日(きのう)	き[にゅ	くにゅ～くにゅー	きん,にゅー	きん,にゅー
一昨日(おととい)	ううっ[てい	ううてい	ううてい	ううていー
明日(あした)	なー[ちゃ	なーちゃ	なーちゃ	なっちゃー
明後日(あさって)	あさ[てい	あさてい	あさてい	ゆわー // やー
明明後日(しあさ って)	[やー/ しあさってい	やー	やー	NR
今年(ことし)	ふ.とうし	ふとうし	ふたび / ふとうし	ふとうし
去年(きょねん)	ふ]ず[ー	ふどうー～ふづー	ふづ	ふづー

[は音調の上がり目,] は音調の下がり目,]] は拍内の下降, <新> <古> は語形の新旧。

語	田皆	瀬利覚	出花	国頭
一昨年(おとし)	みちゅな[てい	みちゅなてい	みちゅ	みちゅ
来年(らいねん)	や]ー[に	や]ー[に	やに	やに
再来年(さらいねん)	な]ー]み[ちゅ	な]ー]み[ちゅ (「3年後」は な]ー]ゆ[とう)	まーみちゅ	な]ーみちゅ
今(いま)	な[ま	なま	なま	なま
昔(むかし)	むか[し	むかし	むかし	むかし
夏(なつ)	なち	なち	なち	なち
冬(ふゆ)	ふゆ	ふゆ	ふゆ	ふゆ
朝(あさ)	てい]み[てい	とうみてい	すとうみてい	あーとうち / すとうみてい / あさー (時間の順番としては あーとうち → すとうみてい → あさー)
昼(ひる)	ひ]ん[ま	ひんま	ひん,ま	ひん,ま / ひる
夕方(ゆうがた)	ゆ]ー[ね	よーね	よーね	よーねー
夜(よる)	い]い]る[ー	い]い]る~い]い]るー	い]い]るー	い]い]るー
夜中(よなか)	ゆ]ー]な[ー	ゆんな~ゆんなー	ゆなか	ゆ]ー]なー
暇(ひま)	ま[ー	まー	ひま	ひま
時(とき)	とう[き~とうき[ー	とうき~とうきー	とうきー	とうきー
年(とし)	とう[し[ー	とう[し[ー	とうしー	とうしー
暦(こよみ)	ふゆ]み[ー	NR	くゆみ	くゆみー
着物(きもの)	[きばら	きばら	ちばら	ちばら
襟(えり)	い]え[り	NR	い]え[り	えり
袖(そで)	す[でい	す]でいー	す]でい	す]でい
裾(すそ)	す[す	す]すー	す]す	す]す
帯(おび)	う[び / き]き[び	う]び	う]び	ちゅ]び
紐(ひも)	ひ[む~ひ[も	い]る	ひ]む	ひ]む
足袋(たび)	た]ー[び	た]び (共通語的)	た]び	た]び
袴(はかま)	ふわあ]ー]ま[ー	はかま (共通語的)	はかま	はかまー
下駄(げた)	あ]し]ぢや[ー	あ]し]ぢやー	あ]し]ぢやー	あ]し]ぢやー
草履(ぞうり)	さ[ば	さ]ば	さ]ば	さ]ば
緒(お)	う]う[ー	う]う[ー	う]うー	う]うー
布(ぬの)	ぬ[ぬ	ぬ]ぬ	ぬ]ぬ	ぬ]ぬ
表(おもて)	う]む[てい[ー	う]んていー~う]むていー	う]むてい	う]むていー (家の面) / わー]び (上)
裏(うら)	う]ら[ー	う]らー	う]らー	し]やー (下)

「~」は同一話者での発音の揺れ, 「 / 」は語形の違い, 「 // 」は話者による発音や語形の違い。

語	田 皆	瀬利覚	出 花	国 頭
綾,模様(あや)	あ]や[一	あや	あやー	あやー
手ぬぐい	ていぬ]ぐ[い	ていぬ]ぐ[い	ていぬぐい	ていぬぐい
蓑(みの)	にゃ]一[さ	によ]一[さ	のーさ	によーさ
湯(ゆ)	ゆ[一	ゆー	ゆー	ゆー
茶(ちゃ)	ちゃ[一	ちゃー	ちゃー	ちゃー
飯(めし)	[めー	めー	むん	むん (食事) / めー (飯・米)
粥(かゆ)	[けー	けー〜け	けー	けー
餅(もち)	む[ち	むち	むっち	むっちー
雑炊(ぞうすい)	み]し[ち / どうー[し	どうーし	どうーし	みしち
味噌(みそ)	みっ]しゅ[一〜み]し ゅ[一	みー]しゅ[一	みしゅー	みしゅー
汁(しる)	[しるー	しる	しるー	しるー
塩(しお)	ま]一[しゅ	ましゅ	ましゅ	ましゅ
塩辛い	まーしゅが]ら[さ	しばからさ	ましゅがらさ	ましゅはらさん
砂糖(さとう)	さ]一[た	さた	さた	さた
甘い(あまい)	[あまさ	あまさ	あまさ	あまさん
砂糖黍(さとうき び)	うー]ぎ[一	う]ぎ[一	うーぢー	ううぢー
粕(かす)	は]し[一	はしー	はしー	はしー
酒(さけ)	[さき	さきー〜さき	さき	さき
麹(かび)	[^おー (かび) / [ほー ぢ (こうじ)	[ほーぢ (かび、こ うじ) / [^おー (か び)	ほーぢ	ほーぢ
麴(こうじ)	[ほーぢ	ほーぢ	ほーぢ	ほーぢ
粒(つぶ)	ち[ぶ	NR	ちぶ	ふみちぢ (「米粒」 のこと)
糠(ぬか)	ぬ]か[一	ぬかー	ぬかー	ぬか
粉(こ・こな)	ふ[一	く[一	くー	くー
大蒜(にんにく)	ひ[る	ひるー	ひる	ひる〜ふいる
芽(め)	み[一	みー	みー	みー
クワズイモ	ゆごーんば]一[しゃ	ゆご]ば[しゃ	ゆごばしゃ	ゆごばしゃ
肉(にく)	し]し[一	しーしー	ししー	ししー
果物(くだもの)	NR	ないむぬ (木にな るもの)	ないむん	ないむん
油(あぶら)	あぶ]ら[一	あぶらー	あぶらー	あぶらー
天ぷら	あ[ぎむん	てんぷら / ちきあ ぎ	ちきやぎ	てん,ぷら
灰(はい)	[ひえー	へー	へー	へー

[は音調の上がり目,] は音調の下がり目,]] は拍内の下降, <新> <古> は語形の新旧。

語	田皆	瀬利覚	出花	国頭
匂い(におい)	[はざ]	はだ	はぢゃ	はぢゃ
味(あじ)	[あぢ]	あぢ	あぢ	あぢ
料理(りょうり)	NR	しゅーき (ごちそう)	しゅーき (客に出す料理)	しゅーき (お祝いのごちそう)
ご飯(ごはん)	[めー]	めー	めー	めー
食事(しょくじ)	[むぬかみ]	むぬー	むん	むん
朝食(あさめし)	めー[し]	めーひ	ちゃー	めーし
昼食(ひるめし)	あ[し]	あしー	めーし	あっしー
夕食(ゆうめし)	いい[ー]	いいー	いいー	いいー
膳(ぜん)	ぢ[ぬ]	ぢぬ	ぢぬ	ぢぬ
食べる	か[み][ん]	かみゆん	かみん	かみん
食べ物(たべもの)	か[み]む[ん～か]みむ[ん]	かみむん	かみむん	かみむん
家(いえ)	や[ー]	や[ー]	やー	やー
母屋(おもや)	[とー]ぐ[らー]～[とー]ぐら[ー]～[とー]ぐら[ー] / [?ういやー]	うむてい[ー]	うむていー	うむてい
台所(だいどころ)	[とー]ぐ[らー]	[とー]ぐら[ー]	すいゑいば / はまどうる(め)	はまどうるめ
天井(てんじょう)	[てい]ん[ぢょー]～ていん[ぢょ]	[てい]ん[ぢょー]	ていんぢょ	てんぢょー
床(ゆか)	ゆ[か]	ゆ[か]	ゆか	ゆかー
棚(たな)	た[な]	た[な]	たな	たな
竈(かまど)	は[まどう]	はま[どう] / はまどうる[めー] (炊事場全体)	はまどう	はまどう
いろり	NR	NR	NR (なかった)	NR
戸(と)	は[し]～ふあ[し]	はし[ー] / はし[ど]	とうー	とー
板(いた)	いちや[ー]～い[ちや]	い[た]	へいちやー～へいーちや[へいーちやし つくたぬ ゆかー (板で作った床)]	いーちや
節(ふし)	ふ[し]	ち[が]	ふしー	ふし
穴(あな)	[ごー]～ご[ー]	あ[な]	あなー / ごー (ほら穴) [あな {ぬ/が} あちゅん (穴があいている)]	ごー
柱(はしら)	[ふあ]ー[や]	は[や]	はしら / ふあや (フヤ)	ふあや
釘(くぎ)	く[ぎ]	く[ぎ]	くぢ	くぎ / くぢ<古>

「～」は同一話者での発音の揺れ, 「 / 」は語形の違い, 「 // 」は話者による発音や語形の違い。

語	田皆	瀬利覚	出花	国頭
瓦(かわら)	[かわらー]～[かわ]ら [ー]	かー[ら]	かーら / かわら	かーら
便所(べんじょ)	べん[ぢょ]	べん[ぢょ] // [べ] ん[ぢょ]	かんぢゅ	かんぢゅ
垣(かき)	は[くい] / は[た]	は[た] / やーぬは [た]	はち	かきね
庭(にわ)	[みゃー]ー[な] / [み ゃ]ー	[みゃー]	みゃー	みゃー
井戸(いど)	[ぢーきよ]	[ちんきよ]	ほー	ちんちよー
墓(はか)	ふぁ[か]	は[か]	はか ～ふぁか<古> [ふぁか めー しり よー (墓参りしなよ ー)]	はか～ふぁか
煤(すす)	し[し]	ひぎ[る] // ひ[ぎ る]	しし / ひぐる (鍋に つくすす)	しし / ひぐる (鍋 の底につくもの)
埃(ほこり)	ゆ[ぐり] / ほこ[り]～ ほ[こり]	ほこ[り] // ぐ[み]	ふむくー～ふむく	ふむくー
門(もん)	[もん]～も[ん]	[ぢよー]	むん / ぢよー <古> >	ぢよー
縄(なわ)	[ち]な[ー]	[ち]な[ー]	ちなー	ちなー
綱(つな)	[ち]な[ー] / [にょー]	[ち]な[ー] / にょ [ー] (シュロで作 る。強い)	ちな	ちなぶら (いいーる 「細いひも」)
鎖(くさり)	聞き忘れ	くさ[り]	くさり	くさり
袋(ふくろ)	ふっ[くる]	ふ[く]る	ふくる	ふっくる
荷(に)	に[ー]	に[ー]	にーむちー / にー	にー
皿(さら)	[ど]ー[ぐ]	さ[ら]	さら	さらー
椀(わん)	[ど]ー[ぐ] / [わん]<新> >	しる[わん] / うどー [ぐ]	わん	わん (汁物の) / ち ゃんばー (ごはん)
茶碗(ちやわん)	[ど]ー[ぐ]	どー[ぐ] / めーど ー[ぐ]	ちゃばぬー / ちゃち ゃばん (湯呑み)	ちゃちゃばん (湯 呑み)
壺(つぼ)	は[み]	は[み]	ちぶー	ちぶ
鉢(はち)	は[ち]	は[ち]	ふぁち	はち～ふぁち
瓶(かめ)	は[み]	は[み]	はみ	はみ
水瓶(みずがめ)	みぢが[み] // [みぢ] が[み]	みぢがみ[ー]	みぢはみ	みぢがみー
桶(おけ)	うう[い] / ううい	[ううい]～[う]い	ううい	ううい
水桶(みずおけ)	NR	みぢうう[い]	みぢううい	みぢううい
盥(たらい)	た[らい]	た[れ]～た[れー]	たれ	たーれー
ひしゃく	に[ぶ]	に[ぶ]	にぶ	にぶ

[は音調の上がり目,] は音調の下がり目,]] は拍内の下降, <新> <古> は語形の新旧。

語	田皆	瀬利覚	出花	国頭
柄(え)	[いいー]	いい[一]	いいー	いいー
釜(かま)	はが[ま]	はが[ま]	はまどう	はがま
しゃもじ	みし[げ] // [み]し[げ]	みし[げ]	みしげ	みしげー
急須・鉄瓶(きゅうす)	[ちゅー][か]	ちゅー[か]	ちゅーかー～ちゅーか (鉄瓶)	ちゅっかー (鉄瓶)
箸(はし)	ふあ[し]	は[し]	はし～ふあし	はし～ふあし
包丁	はた[な] // [は]た[な]	はた[な]	はたな	はたな
刀(かたな)	NR	かた[な]	NR	はたな
小刀(こがたな)	こがた[な]	こがた[な]	はたな / こーがたな	はたな
まな板(いた)	ま[らんしゃ] / ま[ない]ちゃ	ま[ないた]～ま[ない]た	まなんちゃ	まらんちゃ
臼(うす)	^う[し]～う[し]	^う[し]	^うし	^うし
杵(きね)	^あんぢ[む]	^あぢ[む]	^あぢむん	^あぢむ
斧(おの)	ゆー[き] // [ゆー][き]	ゆー[き]ー	ゆち	ゆっち
鋸(のこ)	[のー]ぎ[一]	のーぎ[一]	のーぢー～のーぢん	のーぢー
鑿(のみ)	の[み]	にゅーみ[一]	ぬーみー	ぬーみー
錐(きり)	い[一]	いい[一]	^いーにん	^いーいー
箱(はこ)	ふあ[く]	は[く]	はく / ふあく<古>	ふあくー
筆(ふで)	ふ[で]	ふ[で]	ふでい	ふでい
紙(かみ)	は[び]	は[び]	はび	はびー
鋏(はさみ)	はさ[み]	は`さみ[一]	はさみ～ふあさみ<古>	はさみー
印(しるし)	しる[し]	しる[し]	しるし	しるし
漆(うるし)	NR	はぢ[め]～は[ぢめ]ぎ	^うるし	NR
鏡(かがみ)	[はが]み[一]	はが[み]～はがみ[一]	はがに	はがみー
櫛(くし)	[さば]き[一]	さばき[一] // さば[き]ー	さばちー	さばちー
布団(ふとん)	[ふ]と[ぬ]	ふと[ぬ]	ふと[ぬ]～ふと[ん]	ふと[ぬ]
枕(まくら)	[まんく]ら[一]	[ま]く[ら]	まくら	まへくら
箒(ほうき)	[ほー][き]	ほー[き]	ほーち	ほーち
竿(さお)	そ[一]	そ[一]	^そー	^そー
杖(つえ)	[ぐ]しゃ[に]～ぐしゃ[に]	ぐしゃ[に]～ぐしゃ[に]	ぐしゃに	ぐしゃに
笠・傘(かさ)	[は]さ[一]～はさ[一]	はさ[一]	はさー (むんぢやら「麦」) / ふばがさ	はさー
針(はり)	ふあ[い]	ふあ[い]	はい	ふあい
糸(いと)	^いっ[ちゅ]	^い[ちゅ]ー	いっちゅ	いっちゅー

「～」は同一話者での発音の揺れ, 「 / 」は語形の違い, 「 // 」は話者による発音や語形の違い。

語	田 皆	瀬利覚	出 花	国 頭
煙管(きせる)	き[し]	き[し]ー～き[し]	きしー	きし
金(かね)(金属・ 銭)	は[に]	は[に]	はに (金) / ちん (お 金)	はに (金) / ちん (お金)
三味線(しゃみせ ん)	[さんしる]	さんし[る]	さんしるー～さんしる	さんしぬ
船(ふね)	ひん[に] // [ひ]ん [に] / ていん[ま] (魚 捕りにいく小さい船)	ひん[に]	ひに	ひに
帆(ほ)	ほ[ー]	[ふー]	ふー	ふー
櫂(かい)	[か]い	よ[く]～よー[く]	よー (イヨー)	よー
網(あみ)	[^あー]に[ー]～[あ ー]に[ー]	^あ[み]～^あみ [ー]	^あみー	^あみ
槍(やり)	や[り]	や[り]	やいい	(^いつちゅぢや「も り」)
鍬(くわ)	[^こい]	[こい]ー～こ[ー]ー	こい	こい
鋤(牛にひかすす き)	[いいー]ざ[い]	いいーで[ー]～い いー[で]	いいーざい	いいーざい
鎌(かま)	[は]ま[ー]	はま[ー]	はまー	はまー
ござ	う[す] / にく[ぶ]	ぬく[ぶ]	にくぶ	にくぶ
篋(へら)	ひ[ら]	へ[ら]	ひら	ひら
箆(ざる)	[ひゃ]ー[ぎー]	ひゃー[ぎ]～[ひゃ] ーぎ[ー]	しえーまぐ	せーまぐ
箆(かご)	てい[る]	てい[る]	かぐ	かぐ
篩(ふるい)	[ゆい] (ひゃーゆい / はたゆい / いにゃゆ い などの種類があ る)	ゆ[い]	ゆい (ゆいがま (小 さいふるい))	ゆいがま
俵(たわら)	[とー]ら[ー]	とーら[ー]	とーらー	とーらー (中身が 入っている) / とー らんぐー (米を入 れていない)
筵(むしろ)	[む]ー[しゅ]	む[しゅ]	むしゅ	むしゅ
薪(たきぎ)	[^たー]む[ぬ]	[た]ーむ[る]～ た ーむ[る]	たーむぬ	たーむん
人(ひと)	[ちゅー]	[ちゅー]	ちゅー	^ちゅー
親(おや)	うや[ー] / おや[ー]	うや[ー]	^うやー	^うやー
子(こ)	[くわー]	[くわー]	くわー	くわー / わらび
長男(ちやうなん)	[し]だ[ぐわー]～しだ [ぐわー] / し[だ] / や [く](兄)でもよい	しだぐわ[ー]	しざ	しざ

[は音調の上がり目,] は音調の下がり目,]] は拍内の下降, <新> <古> は語形の新旧。

語	田皆	瀬利覚	出花	国頭
二男(じなん)	NR	NR	^うっとうー	^うっとうー / ぢなん
三男(さんなん)	NR	NR	^うっとうー	^うっとうー
四男(よんなん)	NR	NR	^うっとうー	^うっとうー
長女(ちょうじょ)	しだ[ぐわー] / ううなぐぬ[しだぐわー] / あ[や](姉)でもよい	しだぐわ[ー]	ねんね	^あや
二女(じじょ)	NR	NR	にばん / ^うっとうー	^うっとう / ぢぢよ
三女(さんじょ)	NR	NR	さんばん / ^うっとうー	NR
四女(よんじょ)	NR	NR	^うっとうー	NR
末っ子(すえっこ)	うとう[ー]	ちゅ[し] / ちゅし[ぐわー]	しゃーぬ ^うっとうー / ちゅっしーぐわ	ちゅっしーぐわ
親子(おやこ)	うや[くわー]	うや[くわー] / うやつ[くわー]	^うやくわ	^うやつわー
孫(まご)	^うま[が]	^まー[が]~まー[が]	^まが~まが	^まが
お父さん	^あ[ちゃ]	あ[ちゃ]	^あちゃ	^あちゃ
お母さん	^あ[ま]	あ[ま]	^あま	^あま
お兄さん	や[く]	[ーに]さ[ん] / し[だ]	みー	みー
お姉さん	あ[や]	あ[や]	ねんね / ^あや	^あや
弟(おとうと)	うとう[ー]~[ー]とう[ー]	^うとう[ー]~うっとう[ー]~^うとう[ー]~うっとう[ー]	^うっとうー~^うとう	^うっとうー
妹(いもうと)	うとう[ー]	^うとう[ー]~うっとう[ー]~^うとう[ー]~うっとう[ー]	^うっとうー~^うとう	^うっとうー
兄弟(きょうだい)	聞き忘れ	きょーだ[い]	ちょーでー / ^うとうぢや	^うっとうぢや / ちょーでー
お祖父さん	[ぎゃ]ー[ぎゃ]	ちゃー[ぢや]	ちゃーぢや	ちゃーぢゃー
お祖母さん	あ[し]	あ[ぢ]	^あぢ	^あぢ
夫(おっと)	うう[とう]	うう[とう]	ううっとう	ううっとうー
妻(つま)	とう[ぢ]	とう[ぢ]	とうぢ	とうぢー
夫婦(ふうふ)	とう[ぢ]うう[とう]	とうぢう[とう]	とうぢううとう	とうぢううとう
叔父(おじ)	う[ぢゃ]~う[じゃ]	う[ぢゃ]ー~ふあー[ぢゃ]ー	ううぢや	ううぢや
叔母(おば)	[ば]ー[ば] / ばー[ば]	[ば]ー[ば]~ばー[ば]ー / まー[ま]~まー[ま]ー	ばーば	ばーばー
甥(おい)	NR	NR	うういつくわ	みつくわー

「~」は同一話者での発音の揺れ, 「 / 」は語形の違い, 「 // 」は話者による発音や語形の違い。

語	田 皆	瀬利覚	出 花	国 頭
姪(めい)	NR	NR	みつくわ	みつくわー
従兄弟(いとこ)	[い]と[こ]	いと[こ]	へうとうぢや	へうとうぢや
婿(むこ)	[むー]くわ	[むっ]くわ	むつくわ	むつくわ
家族(かぞく)	やーぬ[ちゅー]	やーぬ[ちゅー]	やーぬちゅ	やーぬへちゅー
親戚(しんせき)	[ほ]ろ[ち]～[ふあ]ろ [ち]	はろ[ち]	はろぢ	はろぢ / ふあろぢ
男(おとこ)	[いいん]が[ー]	いいんが[ー]	いいんが～いいんが ー	いいんがー
女(おんな)	[ううな]ぐ[ー]	ううな[ぐ]～ううなぐ [ー]	ううなぐ	ううなぐー
目上(めうえ)	[み]ー[ぐわ]	NR	みー / しざ (ねんね ー / あや「お姉さ ん」)	しざ
目下(めした)	うとう[ー]	NR	へうっとうー	へうっとう～へうっとう ー
青年(せいねん)	にっ[せー] // にっ[し えー]	に[しえ] / にしえ[ぐ わー] に[せ]	にせー	にっせー
大工(だいく)	[せー]く[ー]	NR	でーくー / せーくー	せーくー
友だち	あ[ぐ] / どう[し]	あ[ぐ] / どう[し]	へあぐ / どうし	へあぐ / どうし (年 が近い友だち)
娘(むすめ)	[めー]ら[び]	[めー]ら[び]～め ーら[び]	めーなび	めーらび
私(わたし)	わ[ぬ]	わ[ぬ]	わぬ	わん
私たち(除外的・ 包括的)	わっ[きや]	わっ[きや]	わちや (区別なし) / わて (双数形)	わちやー (区別な し) / わってー (私 たち2人) / わちや たい (私たち2人)
あなた	[ううい] / な[た]	[うい] / な[た]ー～ な[た]	はた	なた
あなたたち	[ううい]た / な[た]た	[うい]たー / な[た] た	はたたー	なたた～なたたー
お前(おまえ)	う[ら]	う[ら]	へうらー	へうら
お前たち	うっ[きや]	うっ[きや]	へうちや～へうっちや	へうちや / へうってー (お前たち2人)
皆(みな)	[へー]ぐ[とう] / [む]ー [ぬ]	[む]ーな[げー]～ むーな[げ]	むる	むーる
名(な)	[なー]	[なー]	なー	なー

[は音調の上がり目,] は音調の下がり目,]] は拍内の下降, <新> <古> は語形の新旧。

語	田皆	瀬利覚	出花	国頭
老人(ろうじん)	とう[し]ゆ[い]	とうしっ[ちゅー](普通はこれを使う)/ とう[し]う[ちゅー]~ とう[し]うい[ちゅー]	へうやほー (敬い)/ とうしうい	とうしうい~とうし ゆい
お祝い(おいわい)	いえ[ー]	[いえ]ー	いえー	いえ'ー
結婚(けっこん)	とう[ぢ]もらう / やー だち[ー]	とう[ぢはめー]/ やー だち[ー]~やー だ[しー]	にーびち	にーびちー
結納(ゆいのう)	やーみし[ー]	にびき[ー]	ゆいのー / でいい	でいい
喧嘩(けんか)	[ゆー]ぐ[り]	[ゆー]ぐ[り]ー	ゆーざい	ゆーざい
農作業などの相互扶助	[いいー]た[ば]~ [い い]た[ば]	いいーた[ば]	いいーたば (親戚で) / のーこい (賃金を もらって)	いいーたば
相撲(すもう)	[しゅ]ま[ー]	しま[ー]	しまー	しま
一つ(ひとつ)	ていー[ち]	[てい]ー[ち]ー	ていーち	^ていーち
二つ(ふたつ)	たー[ち]	たー[ち]ー	たーち	^たーち
三つ(みっつ)	[みーち]ー	みー[ち]ー	みーち	みーち
四つ(よっつ)	ゆー[ち]	ゆー[ち]ー	ゆーち	ゆーち
五つ(いつつ)	いちち[ー]	いちち[ー]	へいちち	へいちち
六つ(むっつ)	[むーち]	むー[ち]ー	むーち	むーち
七つ(ななつ)	ななち[ー]	ななち[ー]	ななちー	ななちー
八つ(やっつ)	やー[ち]	やーち[ー]	やーち	やーち
九つ(このつ)	[く]ぬ[ち]	くぬち[ー]	くぬちー	くぬちー
十(とお)	[とうー]	[とうー]	とうー	とうー
一人(ひとり)	ちゆ[い]	ちゆ[い]ー	ちゆい	^ちゆい
二人(ふたり)	ふた[い]	たー[い]ー	たい	^たい
三人(さんにん)	みつ[ちやい]	み[ちえー]	みちやい	みっち
四人(よにん)	ゆっ[たい]	ゆ[てー] // ゆっ[て ー]	ゆたい	ゆったい
五人(ごにん)	[いち]た[い]	NR	へいちたい	いち.たい
六人(ろくにん)	むっ[たい]	NR	むったい	むったい
七人(しちにん)	ななた[い]~[なな]た [い]	NR	ななたい	ななたい
八人(はちにん)	やっ[たい]	NR	やたい / はちたい	やったい
九人(くにん)	[くぬ]た[い]	NR	きゅーたい / くぬた い	くぬたい
十人(じゅうにん)	とうっ[たい]	NR	とうーたい	とうたい
いくら	いちや[さ]	いきや[さ]ー // い きや[さ]	へいちやさ	へいちやさー

「~」は同一話者での発音の揺れ, 「 / 」は語形の違い, 「 // 」は話者による発音や語形の違い。

語	田 皆	瀬利覚	出 花	国 頭
いつ	い[ち]	い[ち]	へいちー	へいちゅ
だれ	た[る]	た[る]～た[る]ー	たる	たる
どこ	う[だ]	う[だ]	へうどう	へうだ
どれ	うどう[る]	うどう[る]	へうどうる	へうどうる
なぜ	ん[がー]	に[が]	ぬー [ぬーやー (なぜ?)]	ぬー / ひんがー
なに	[ぬー]	[ぬー]	ぬー / ぬーやー (何か) [ぬーかやー (何?)]	ぬー
いくつ	いく[ちー]	いきゃさ[ー]～いきゃ[さ]	へいくち	へいくち
これ	ふ[り]	う[り]	ふり～へうり	ふり
それ	あ[り]でもよい	う[り] / あ[り]	へうり	へうり
あれ	あ[り]	あ[り]	へあり	へあり
ここ	ふ[ま]	[^まー]～[まー]	ふま～ふま	ふま
そこ	あ[ま]	^あ[まー]～[^あまー]	^あま	^あまー
あそこ	[あま]	あま	あま～あまー	あまー
物(もの)	む]ぬ[ー	む]ぬ[ー	むぬ	むん
色(いろ)	い]る[ー	い]る[ー	い]る[ー	い]る[ー
音(おと)	う]とう	う]とう	う]とう	う]とう
夢(ゆめ)	い]み[ー	い]み[ー	い]み[ー	い]み[ー
仕事(しごと)	[し]ぐとう	し]ぐとう (仕事)	し]ぐとう	し]ぐとう～し]くち / ていぢやに
鬼(おに)	う]に[ー	う]に[ー	う]に[ー	う]に[ー
心(こころ)	き]む[ー	き]む / くくる	ち]む[ー	ち]む[ー
情け(なさけ)	な]さ[き	NR	NR	なさき
言葉(ことば)	ふ]とうば / く]とうば / む]に[ー	む]に[ー	む]に[ー	む]に[ー (同輩以下に対して) / ふ]とうば (目上の人に対して)
歌(うた)	[うた	うた	うた	うた
踊り(おどり)	う]う]どうい	う]う]でいい	う]う]どうい	う]う]どうい
鼓(つづみ)	[ち]ぢみ	NR	ち]ぢん	ち]ぢん
宝(たから)	[たから	NR	たから]むん	たから
型(かた)	は[た	はた	はた	はた
形(かたち)	NR	かたち	はた	NR
休息(きゅうそく)	NR (「休め」は ゆーり)	NR (「休め」は ゆーり)	やすみ	やし]み[ー / ゆらりい

[は音調の上がり目,] は音調の下がり目,]] は拍内の下降, <新> <古> は語形の新旧。

語	田皆	瀬利覚	出花	国頭
魂(たましい)	た]ま[し	まぶい (「悪霊」のような意味合い)	たまし	たましー
刺青(いれずみ)	[はんちき	NR	はんぢぢ (裁縫の針刺しの意)	ふぁん,ぢぢ
真似(まね)	[まに	まに	まに	まに
嘘(うそ)	こ]い[む (田皆に独特の語)	なみた	だまかし / ひん,ぢむに	だまかし / ひん,ぢみた
小さい	いん]く[さ	いんくさ	いくさ	いくさん
大きい	うま]ぎ[さ	ふいさ	うふいさ	うふいさん
低い	ひくさ / いんくさ	ひゃーさ	ひゃーさ / ひゃーさん	ひゃーさん
同じ	う]な[し	NR (ゆぬむん「同じもの」/ ゆぬぐてい「同じこと」)	うなし〜うなぢ	いいぬむん
短い	いちきや[さ	いちかさ	いきちやさん〜いきぢやさん	いきちやさん
丸い	ま]る[さ	まるさ	まるさ	まるさん
暖かい	[ぬくさ	ぬくさん	ぬくさ	ぬくさん
寒い	ひ]ー[さ	ひーさん	ひーさ	ひーさん
冷たい	ひぎ]る[さ	ひぐるさ	ひぢゆるさ	ひぢゆるさん

「〜」は同一話者での発音の揺れ, 「 / 」は語形の違い, 「 // 」は話者による発音や語形の違い。

沖永良部方言 文法例文集（音声記号）

1	共通語	おれは きょうは いそがしい
1	1.国頭	wanawa çu: wa {isugacan~icugacan}.
1	2.出花	wana: çu:wa isogaea ando:. wanuwa çu:wa isogaea ando:.
1	3.瀬利覚	wanuwa çu:wa isugacan.
1	4.田皆	wana çu:ja isugacan.
2	共通語	おまえが 畑へ 行け。
2	1.国頭	ura: ðatte: tei iki:.
2	2.出花	ura hattetei ikijo:. ura çu:wa harutei {ikijo: / iki:}.
2	3.瀬利覚	urawa hatetei iki:.
2	4.田皆	uraga ðategatei iki.
3	共通語	うん、畑へは おれが いく。
3	1.国頭	n ðatte: teiwa waga {iteun / ðajun}.
3	2.出花	un {haruteiwa/hatteteiwa} wa:ga iteun.
3	3.瀬利覚	un hatewa wa:ga ikjun.
3	4.田皆	nn ðategatei {wa:ga~waga} ikin.
4	共通語	おれの 鋤は どこに ある。
4	1.国頭	wan {koiwa / k'wa:wa} uda' ni aijo.
4	2.出花	wanu koiwa udapi aija:.
4	3.瀬利覚	wa: koiwa udapi a:jo.
4	4.田皆	wa: koiwa udane ʔaajo.
5	共通語	この 鎌は 太郎のか。
5	1.国頭	ɸun hamawa taro:ga mun'kaja:.
5	2.出花	unu hamawa toro:ga munna:. unu hamawa taro:ga {mundo: / mun'kaja:}.
5	3.瀬利覚	unu {hama: / hamawa} {taro:ga / taro:no} munna:.
5	4.田皆	ɸunu hamaja taro:ga munna.
6	共通語	どれが おまえの 笠だ。
6	1.国頭	{uduruga / udunga} ura hasajo. / udunjo ura hasawa.
6	2.出花	uduruga ura hasaja:.
6	3.瀬利覚	{uduruga / udurudu / nu:ga / nu:du} ura hasajo.
6	4.田皆	uduruga ura hasajo.
7	共通語	その 笠が おれのだ。
7	1.国頭	{un hasawa / un hasadu} wa:mundo:.
7	2.出花	unu hasawa { wa:mun / wa:mundo:ja: / wa:mundia }.
7	3.瀬利覚	unu hasa 《ga》 wa: mundja:.
7	4.田皆	unu hasadu wa: mun.
8	共通語	この ふろしきは おまえのか。
8	1.国頭	un ɸurocikiwa uramunna:.

～は発音のゆれ、{ / } は複数の言い方があること、() は説明、《 》 は任意的であることを表す。

8	2.出花	unu ɸurueikiwa ura munna.
8	3.瀬利覚	unu ɸurueikiwa ura munna.
8	4.田皆	ɸunu ɸurueikija ura munna.
9	共通語	それは おとうとの かもしれない。
9	1.国頭	uriwa ʔuttunu mun {kamu wakaran / kaja:}.
9	2.出花	uriwa uttunu mun kamu wakaran.
9	3.瀬利覚	uriwa uttunu mun kamu wakaran.
9	4.田皆	{urija / urja} uttunu munga {a:ra~ara} wakaran.
10	共通語	沖縄には 船で 行くより 飛行機で 行った ほうが いい。
10	1.国頭	{naɸa tei iteueiwa / ʔokinaha teiwa} ɸɪniei ikojoka {ɸiko:kidu / ɸiko:kiei ikiba du} juk ^w an.
10	2.出花	nahwatteiwa ɸɪniei itteueijo:ka ɸiko:kiei itteu:aidu {juk ^w andja: / juk ^w a ando:}.
10	3.瀬利覚	naɸateiwa ɸɪniei ikjueijoka ɸiko:kiei {idzanu / ikjunu} {ho:ga juk ^w andja / ho:du juk ^w aru / ho:du juk ^w an}.
10	4.田皆	naɸagateija ɸɪɲniei ikieɲnika ɸiko:kiei idzanu ho:du {juk ^w an / jukan / juka an}.
11	共通語	飛行機は 一日に 一回しか ない。
11	1.国頭	ɸiko:kiwa {tei:ɲi / iteɲiteɲi} {teukke:du an / teukke:eika nan}.
11	2.出花	ɸiko:kiwa iteɲiteɲi {iteibindu andja: / iteibineika {na:mo:di: / nandi: / nan}}.
11	3.瀬利覚	ɸiko:kiwa tei:ɲi teukkedu a:ru.
11	4.田皆	ɸiko:kija ei:ɲi {teukkoieika / teumuguieika} na:mu.
12	共通語	空港なら こっちの 道を 行きなさい。
12	1.国頭	kuko:teiwa {ɸun mitei / ɸumanu mitei} kara ikijo:.
12	2.出花	ku:ko:teiwa {ɸunu mitei / unu mitei} 《kara》 ikijo: / ku:ko:teinu miteiwa ma:tei {ikibadu / itteuaidu} juk ^w a an.
12	3.瀬利覚	ku:ko:teiwa unu {mitei iki / miteidu juk ^w aru}.
12	4.田皆	ku:ko:gateija ɸunu mitei iki 《jo》. (jo はうやまい言葉)
13	共通語	道の まんなかを あるいては いけない。
13	1.国頭	miteinu {mannakakara / mannakakarawa} {ʔakuna~akuna}jo:.
13	2.出花	miteinu {mannakao / mannakakakara} atteiwa {eiman / eimandja:narandja:}.
13	3.瀬利覚	miteinu na:wa {atteiwa / attea:} naran.
13	4.田皆	miteinu mannaka {atteija / attea:} eimando:.
14	共通語	道が 広いなあ。
14	1.国頭	miteiwa ɸu:sanja:.
14	2.出花	miteinu ɸju:sanja: / unu miteiwa ɸu:sa anja:.
14	3.瀬利覚	miteiwa ɸu:san (*miteiga とは言わない).
14	4.田皆	miteinu ɸu:sajo (*miteiga とは言わない).
15	共通語	あ、雨が ふってきた。
15	1.国頭	{a / abe:} ami nu ɸutti kitean.
15	2.出花	ʔja: {a:minu / a:miga} ɸutti {kitea:n / kitea:nja:}.

{ / } は複数の言い方があること、() は説明、《 》は任意的であることを表す。

15	3.瀬利覚	a aminu ϕ utti kitean.
15	4.田皆	e aminu { ϕ utti kitean / ϕ uttamudjo:}.
16	共通語	いとこの 布団が やねの 上に ほしてある。
16	1.国頭	itukunu ϕ utunwa ja:nu ujni { ϕ utea m / ϕ uteiam / ϕ uteiamu} / itukunu ϕ utunuga tindzo:ni ϕ usatun.
16	2.出花	itukunu { ϕ utunuga / ϕ utunuwa} {ja:nu ujni / tinzjo:nu ujni} ϕ uttei andja:.
16	3.瀬利覚	?itokonu ϕ utunuga ja:nu ?wa:bibi { ϕ utteian / ϕ utasa:}.
16	4.田皆	{itukonu~itukunu} { ϕ utununu / ϕ utunuja:} janteidzinu ujni ϕ utteian.
17	共通語	きのうは 今日より 風が 強かった。
17	1.国頭	kijpu: wa ϕ u: joka {hazi / hazinu} teu:sa {atan / atanja:}.
17	2.出花	kijpu: wa ϕ u:jo:ka hazinu teu:sa atanja:.
17	3.瀬利覚	kijpu: wa ϕ u:jo:ka hazinu teu:sa attan.
17	4.田皆	kijpu:ja ϕ u:pika hazinu teu:sa attan.
18	共通語	真っ白な 鳥が 空を 飛んでいる。
18	1.国頭	eu:sanu { ϕ a:tunu / ϕ a:tuga} tinto: kara {tudi ateum / tudi ateumu / tudu:sa:}.
18	2.出花	eu:sanu {tuiga / ϕ a:tuga} tinto:kara {tudi ateun / tudun}.
18	3.瀬利覚	eu:sanu tuiga tintokara tudia:kjun.
18	4.田皆	eu:sanu tuinu tinto {tudun / tudumu}.
19	共通語	あの 山には いのしが いるそうだ。
19	1.国頭	anu jamaniwa {inu:ieinu / inu:ieiga} {?umu di do: / u:mudi jussa:}.
19	2.出花	anu jamaniwa inu:ieinu umodidja:.
19	3.瀬利覚	anu jamaniwa inu:ieiga u:mudidja:.
19	4.田皆	anu {jamanija / jamana:} inu:ieinu u:mudindo:.
20	共通語	あれは 学校だ。 役場では ない。
20	1.国頭	ari wa {gakko: / gakko: du assa:}. jakuba 《wa》 {arando: / arassa:}.
20	2.出花	ariwa gakko:dja: jakubawa {nan / namo:di:}.
20	3.瀬利覚	ariwa gakko:dja. jakubawa anan.
20	4.田皆	{arija / arja:} gakko:dja: jakubaja anan.
21	共通語	あれが 役場だ。
21	1.国頭	aridu jakubadu assa:.
21	2.出花	aridu {jakubadja: / jakuba:didja:}.
21	3.瀬利覚	aridu jakubadja.
21	4.田皆	aridu jakuba.
22	共通語	あの 目の おおきい、 色の 白い 男は だれだろう。
22	1.国頭	{anu / an} mi:nu {u ϕ isanu~u ϕ asanu} irunu eu:sanu {jinja~ ji:nga} wa tarukaja:.
22	2.出花	anu mi:mu {u ϕ isanu / ubisanu} irunu eu:sanu jingawa taruja: (たずね) / tarukkaja: (独話).
22	3.瀬利覚	anu mi:nu ϕ uisanu irunu eu:sanu ingawa {tarukaja:~tarukaja}.
22	4.田皆	anu mi:nu umagisanu irunu eu:sanu ingaja tarukaja.

{ / } は複数の言い方がること、() は説明、《 》 は任意的であることを表す。

23	共通語	孫が 去年から 東京に いる。
23	1.国頭	{maganu / magaga} ɸudzukara to:kjo:ni {ʔun / ʔundja:}.
23	2.出花	maganu ɸuzukara to:kjo:ni undja:.
23	3.瀬利覚	ma:ganu ɸudukara to:kjo:ni un.
23	4.田皆	umagaja ɸudzukara to:kjo:ni un.
24	共通語	孫は いつ 東京から 帰るか。
24	1.国頭	magawa itei to:kjo:kara muduti {teuijo: / teun:kaja:}.
24	2.出花	magawa ittei to:kjo:kara mudujuija:.. magawa itei to:kjo:kara mudujumodija:..
24	3.瀬利覚	ma:gawa itei to:kjo:kara mudujun:kaja.
24	4.田皆	umagaja itei to:kjo:kara muduijo:..
25	共通語	八月には 帰って くる ようだ。
25	1.国頭	hateigatsupa: muduti teundo:..
25	2.出花	hateigatsupniwa muduti teunu {hazi: / iteutan}.
25	3.瀬利覚	hateigatejniwa {muduju / muduti kju:} mudi dja:..
25	4.田皆	hateigatejniwa muduti ki:nu jo:ei.
26	共通語	かあさんは あした 東京へ むすこに 会いに いく。
26	1.国頭	{amawa / okkanwa} na:tea: to:kjo:tei jinganu kʷa:tu oiga iteundo:..
26	2.出花	amawa na:tea to:kjo:tei warabini {o:ini/oiga} {iteundja: / itsumudi:}.
26	3.瀬利覚	okkanwa na:tea to:kjo:tei kʷa: 《ni》 {o:iga / o:jungja} {ikjumu / ikjun}.
26	4.田皆	amaja na:tea to:kjo:gatei {inganu kʷa / kʷa} oiga ikin.
27	共通語	大阪から 東京までの 汽車賃は いくらだろうか。
27	1.国頭	o:sakakara to:kjo:n tʰapi 《nu》 unteinwa iteasa:kaja:..
27	2.出花	o:sakakara {to:kjo:tapinu / to:kjo:tabenu} kicanu unteinja {iteasakaja: / iteasabekaja:}.
27	3.瀬利覚	o:sakakara to:kjo:tabe kicateinwa ikjasakaja:..
27	4.田皆	o:sakakara to:kjo:ntanenu kicateinwa ikjasakaja.
28	共通語	四時まで 駅で まっておれ。
28	1.国頭	{jodzintane / jodzintani} ekijiti mateurijo:..
28	2.出花	{jozintani / jozintabe} {jekini / jekijiti} mateurijo:..
28	3.瀬利覚	jodzintabe jekijiti matteuri.
28	4.田皆	jodzintane jekijiti matteuri.
29	共通語	五時までに 帰らなくては ならない。
29	1.国頭	godzintanewa mudurajna naracigajo:..
29	2.出花	{gozintabe / gozintani} mudurajna naran. gozintabe mudurajna naran.
29	3.瀬利覚	{godzintabeni / godzintabe} mudurajna naran.
29	4.田皆	godzintaneni mudurajna naran.
30	共通語	次郎 この 荷物を 家まで かついで 行ってくれ。
30	1.国頭	dziro: ɸun pimutsu jantabe {hatamiti ikijo: / hacigiti idzi kuriri}.

{ / } は複数の言い方があること、() は説明、《 》は任意的であることを表す。

30	2.出花	zīro: ɸunu nimotsuo {jantabe / jantani} hatamiti izikuriga:.
30	3.瀬利覚	dziro: unu {ɲi: / nimotsu} 《o》 jantabe hatamiti idzikuriri.
30	4.田皆	dziro: ɸunu nimotsu jantane hatamiti idzikuriri.
31	共通語	荷物が 重かったので、二人で もった。
31	1.国頭	{ɲi:nu / nimotsunu} ʔubusanu {tʰa:iei / watte:ei} mutɛan.
31	2.出花	nimotsuga ubusanu tʰa:iei mutɛa an.
31	3.瀬利覚	nimotsunu ubusanu {tʰa:iei~ta:iei} mutɛan.
31	4.田皆	nimotsunu ubusanu {tʰa:iei~ta:iei} mutɛan.
32	共通語	この 上着は このまえ 沖縄で 二千元で 買った。
32	1.国頭	ɸun ʔwa:giwa {ɸune:da~ɸuneda:} {naɸa / okinawa} {ɲiti / kara} ɲisenɛnei ho:tan.
32	2.出花	ɸunu wa:giwa ɸuneda naɸajiti ɲisenɛnei 《du》 ho:tan.
32	3.瀬利覚	unu wa:giwa ɸuneda {naɸajiti~nahajiti} ɲisenɛnei ho:tan.
32	4.田皆	ɸunu uwagja: ɸuneda {naɸajiti / naɸajite / naɸanete} {ɲienɛn~ɲienɛnei} ei ho:tan.
33	共通語	沖縄には めずらしい 菓子が ある。
33	1.国頭	naɸajiwā midziracanu kʷa:ɛinu an.
33	2.出花	naɸajiwā miziracanu kʷa:ɛinu andja:.
33	3.瀬利覚	nahajiwā miziracanu kʷa:ɛinu an.
33	4.田皆	naɸajija miziracanu kʷa:ɛinu an.
34	共通語	孫は お菓子が 好きだ。
34	1.国頭	magawa kʷa:ɛidu masacun 《dja:》. (dja:は誰かに言っている)
34	2.出花	magawa kʷa:ɛidu masacundja:.
34	3.瀬利覚	ma:gawa kʷa:ɛinu eiki:.
34	4.田皆	umagaja kʷa:ɛi 《nu》 eikki: dja:.
35	共通語	箱の 中に まんじゅうが いくつ あると おもうか。
35	1.国頭	{ɸakunu~hakunu} na:ɲi 《wa》 mandzu:wa ikutei aɲkaja:.
35	2.出花	{ɸakunu~hakunu} na:ɲi {manzju:nu / manzju:ga} {iteasa / ikutei} amudi mu:juija:.
35	3.瀬利覚	hakunu na:ɲi mandzu:nu ikutei a:mudi {mu:ju:jo / mu:junjo}.
35	4.田皆	ɸakunu {na:ɲa: / na:ɲija} {mandzu:nu~mandzunu} ikutei a:mudimijo.
36	共通語	孫は まんじゅうを 皮だけ 食べる。
36	1.国頭	magawa mandzu:nu ho:dakidu {kamin / kami ssa}.
36	2.出花	magawa manzju:nu ho:dakidu kamindja:.
36	3.瀬利覚	ma:gawa mandzu:o ho:daki kamjun.
36	4.田皆	umagaja {mandzu:unu / mandzu:nu} ho:daki kamin.
37	共通語	じいさんは 朝から 海へ 魚を とりに いった。(事実の報告/目撃過去)
37	1.国頭	dza:dzawa atuteikara umittei {ʔju:~ju:} tuiga idza.
37	2.出花	dza:dzawa asakara upitei ju: tuiga idzan.
37	3.瀬利覚	dza:dzawa asakara umitei ʔju:o tuingja {idzan / ikjabutan}.

{ / } は複数の言い方があること、() は説明、《 》は任意的であることを表す。

37	4.田皆	gja:gja:ja timitikara unigatei ʔju: tuiga idzan.
38	共通語	ここは 海に ちかいので 魚が うまい。
38	1.国頭	ma:wa umitei teikasa:ti ʔju:nu masan.
38	2.出花	ma:wa unjini teikasantupni ʔju:nu masan.
38	3.瀬利覚	m'a:wa {uminu / umjini} teikasanu 《mun jantu》 {ʔju:ga / ʔju:nu} {ma:san / ma:samu}.
38	4.田皆	ɸumaja uninu eiba: nati ʔju:nu uma:sa an.
39	共通語	魚より 肉の ほうが 高い。
39	1.国頭	ju:jo:ka eieinuho:du takasan.
39	2.出花	ju:jokaŋ eieinuho:ga takasan.
39	3.瀬利覚	ʔju: {joka / juka / jo:ka} eieinu ho:du {takasan / takasa:mu}.
39	4.田皆	ʔju:pika eieidu takasa an.
40	共通語	おれは 蛸の さしみが 食べたい。
40	1.国頭	wanawa to:nu sacimidu kambuean.
40	2.出花	wana to:nu {sacimidu / sacimiga} kamibuean.
40	3.瀬利覚	wanuwa takonu sacimidu {ɸuean / kamibuean / kamibuea:mu}.
40	4.田皆	wanuja to:nu sacimidu kamibuea an.
41	共通語	おまえは この 魚の 名まえを 知っているか。
41	1.国頭	ura: ɸun ju:nu na: {atjae~atiae}.
41	2.出花	urawa ʔunu ʔju:nu na: atjai.
41	3.瀬利覚	uriwa unu ʔju:nu namae atjanja.
41	4.田皆	uraja ɸunu ʔju:nu na: atiarukaja.
42	共通語	これは かつおだろう。
42	1.国頭	ɸuriwa katsuodu aran̄kaja.
42	2.出花	{ɸuriwa / ɸurja} katsuanadzi.
42	3.瀬利覚	uriwa {katsuosa / katsuonadze / katsuojadze}.
42	4.田皆	ɸurija katsuo anadzi.
43	共通語	酒は どうやって つくるか おまえは 知っているだろう？
43	1.国頭	sakiwa iteaei tsukujun̄ka ura: atjamaze.
43	2.出花	sakiwa iteaei tsukujun̄ka urawa atja:munadzi.
43	3.瀬利覚	sakiwa ikjaei {tsukujun̄ka / tsukujun̄kaja} urawa {atjansa / atia:mu nadze}.
43	4.田皆	sakija ikeei tsukurukaja uraja {atianja / atiamu anadzi / atiai}.
44	共通語	酒は 米から つくる。
44	1.国頭	sakiwa ɸumieidu tsukujun̄.
44	2.出花	sakiwa ɸumikara 《du》 tsukujun̄.
44	3.瀬利覚	sakiwa ɸumikara tsukujun̄.
44	4.田皆	sakija ɸumikaradu tsukui.

{ / } は複数の言い方があること、() は説明、《 》は任意的であることを表す。

45	共通語	酒さえ あれば なにも いらぬ。
45	1.国頭	sakise:ka ariba nu:mu ka:ran.
45	2.出花	sakise:ka ariba nu:mu ka:ran.
45	3.瀬利覚	{sakidake arja / sakiga arawa / sakinu arawa} nu:mu {ka:ran / ka:ramu}.
45	4.田皆	sakinu arija nu:mu ka:ran.
46	共通語	うちの じいさんは 酒も たばこも のまない。
46	1.国頭	wateadza:dzawa sakimu tabakumu numan.
46	2.出花	wateca dza:dzawa sakimu tabakumu numan.
46	3.瀬利覚	wakja dza:dzawa sakimu tabakomu {numan / numamu}.
46	4.田皆	wakja gia:gja sakimu tabakumu numan.
47	共通語	その 水は のむな。 のむなら この 水を のめ。
47	1.国頭	un midziwa numuna numiba fun midzi numi.
47	2.出花	unu midziwa numuna numinjka funu midzi numi.
47	3.瀬利覚	unu midziwa numuna. {numjnjka~numinjka} unu midzi numi.
47	4.田皆	unu midzija numuna numingara funu midzi numi.
48	共通語	なぜ おまえは たべないのか。
48	1.国頭	nu:di urawa kamadzijo.
48	2.出花	nu:di urawa {kamadzija / oieiradzija}.
48	3.瀬利覚	{niga / ikjaci} urawa {kamaro / kamajo}.
48	4.田皆	nga uraja kamanudjo:.
49	共通語	おれは さつまいもなんか 食べないぞ。
49	1.国頭	wanawa umuna:ta kamando:.
49	2.出花	wanuwa umunaga kamando:.
49	3.瀬利覚	wanuwa satsumaimonagawa {kamandoja / kamando:}.
49	4.田皆	wanuja {umuja / satsumaumuja} kamando:.
50	共通語	もう 食べられる ものは 全部 食べた。
50	1.国頭	na: {kamajunu / kamajum} munwa: mu:ru kadan.
50	2.出花	na: kamainumunuwa muru kadan.
50	3.瀬利覚	na: {kamainu / kamajunu} {munwa / munuwa} mu:nu kadan.
50	4.田皆	na: kamarinu munja mu:ru kadan.
51	共通語	食べて ねるだけなら いぬや ねこと おなじだ。
51	1.国頭	kadi {nibujunu / nibujun} dakijariba inu ?mjatu jinumun.
51	2.出花	kadi niburudakijariba inutu ?mjatu {junumun / agu}.
51	3.瀬利覚	kadi nubujunu dake {jara / jariwa} inuja nekoto junu {mundo / mundaru}.
51	4.田皆	kadi nibuinu daki jarja inutu mja:tu junu mun daru.
52	共通語	さとうは あまい。 くすりは あまくない。
52	1.国頭	satawa amasan. kusuiwa amasanan.

{ / } は複数の言い方がること、() は説明、《 》 は任意的であることを表す。

52	2.出花	satawa amasa. kusuiwa {amasanan / nidzasan (苦い)}.
52	3.瀬利覚	satawa amasaciga kuciwa amasa {nan / na:mu}.
52	4.田皆	sa:taja amasa an. kusuija amasa nan.
53	共通語	去年 いとこが 中学の 先生に なった。
53	1.国頭	φuzu: utudzanu teu:gakko:nu sense:ni natan.
53	2.出花	φudzu itokonu teu:gakko:nu sense:ni natan.
53	3.瀬利覚	{φudu: ~φudu} itokoga teu:gakko:nu sense:ni {natan / natamu}.
53	4.田皆	φuzu: itokonu teu:gakko:nu einse natan.
54	共通語	いとは 英語の 本が 読める。
54	1.国頭	utudzawa eigonu honnu jumajun.
54	2.出花	itokowa jeigonu hongga jumajun.
54	3.瀬利覚	itokowa je:gonu {honnu / hongga} {jumajun / jumajumu}.
54	4.田皆	itokoja je:gonu honnu jumarin.
55	共通語	あの 人こそ ほんとうの 金持ちだ。
55	1.国頭	an teu:kusu hontu:nu dzimmuneido:.
55	2.出花	anu te'ju:kusu honto:nu dzimmuneidja:.
55	3.瀬利覚	anu teu:kusu honto:nu {dzimmuneido / dzimmuneidja: / dzimmuneidza / dzimmuneida}.
55	4.田皆	anu teu:du honto:nu dzimmunei:do.
56	共通語	その 話は 妻にだけ 聞かせた。
56	1.国頭	un φanaeiwa tudzidakini teikatean.
56	2.出花	unu φanaeiwa tudzidake:ni teikatean.
56	3.瀬利覚	unu hanaeiwa tudzjinidake {kikatean / kikateamu}.
56	4.田皆	unu hwanaeija tudzidakigatei kikatean.
57	共通語	妻に 夕飯を 作らせる。
57	1.国頭	tudzjini jumuge: tsukuratean.
57	2.出花	tudzjini ji: tsukuraeun.
57	3.瀬利覚	tudzjini ji: 《o》 {tsukuraeun / tsukuracumu}.
57	4.田皆	tudzjini ji: tsukuraein.
58	共通語	夫は 竹で かごを つくった。(事実の報告/目撃過去)
58	1.国頭	wutuwa de:ei kagu tsukutan.
58	2.出花	wutuwa de:ei kagu tsukutan. (作っているのを見たとき)
58	3.瀬利覚	wutuwa de:ei kago {tsukutan / tsukutamu}.
58	4.田皆	ateaja de:ei kagu {tsukutan / tsukutamu}.
59	共通語	次郎は おとうとの 三郎と けんかした。(事実の報告/目撃過去)
59	1.国頭	dziro:wa utunu saburo:tu ju:zaican.
59	2.出花	dziro:wa ?utunu saburo:tu ju:zaican.
59	3.瀬利覚	dziro:wa utunu saburo:tu ju:guri ean.

{ / } は複数の言い方がること、() は説明、《 》 は任意的であることを表す。

59	4.田皆	dziro:ja utunu saburo:tu ju:ɸuri ean.
60	共通語	三郎は 次郎に 棒で なぐられた。(事実の報告/目撃過去)
60	1.国頭	saburo: wa dziro:ni bo:ei suguratan.
60	2.出花	saburo: wa dziro:ni bo:ei {suguratan / suguraitan}.
60	3.瀬利覚	saburo:wa dziro:ni bo:ei kurakatan.
60	4.田皆	saburo:ja dziro:ni bo:ei kurakatan.
61	共通語	次郎は じいさんに しかられた。(事実の報告/目撃過去)
61	1.国頭	dziro:wa dza:dza:ni amaratan.
61	2.出花	dziro:wa dza:dza:ni amaratan.
61	3.瀬利覚	dziro:wa dza:dzani {amaratan / amaratanu}.
61	4.田皆	dziro:ja gja:gjani amaratan.
62	共通語	おれは きのうは 新聞を よまなかつた。
62	1.国頭	wanawa kijnu:nu eimbunwa jumadana:tan.
62	2.出花	wana kijnu: eimbun jumadanatan.
62	3.瀬利覚	{wanuwa / wana} kijnu:wa eimbunwa {jumadana:tan / jumadana:tamu}.
62	4.田皆	wanuja kijnu:ja eimbun jumadana:tan.
63	共通語	その 新聞は きょうのだ。きのうのは これだ。
63	1.国頭	un eimbunwa {ɸu:nu~ɸu:nu} mundja. kijnu:nu munwa ɸuridja:.
63	2.出花	unu eimbunwa ɸu:numun. kijnu:nu munwa ɸuridja:.
63	3.瀬利覚	unu eimbunwa ɸu:nu {mun / mun dja}. kijnu:nu munwa ɸuri dja.
63	4.田皆	unu eimbunja ɸu:nu mun dja: kijnu:nu munja ɸuri dja:.
64	共通語	雨の ふる 日には ばあさんは 家で テレビばかり 見ている。(事実の報告/目撃過去)
64	1.国頭	aminu ɸujunu ɸi:wa adziwa ja:ni:ti terebibe:du miteuru.
64	2.出花	aminu ɸujunuɸi:wa adziwa ja:niti terebibe:du miteundja:.
64	3.瀬利覚	aminu ɸujunu ɸi:wa adziwa ja:neti terebibe:du miteuru.
64	4.田皆	aminu ɸuinu ɸi:ja aeija ja:neti terebibe: mitteun.
65	共通語	お祝いの ときには ばあさんまで おどった。(事実の報告/目撃過去)
65	1.国頭	je:nutukiniwa adzigadi wudutan.
65	2.出花	je:nutukiwa adzimu {wudutan / wudutandja:}.
65	3.瀬利覚	je:nu tukiniwa adzigadi udutan.
65	4.田皆	juwainu tukija aeigadi wudutan.
66	共通語	花子は きのうから 病気で ねている。(事実の報告/目撃過去)
66	1.国頭	hanakowa kijnu:kara bjo:kici nibutan.
66	2.出花	hanakowa kijnukara bjo:kici nibutan.
66	3.瀬利覚	hanakowa kijnukara bjo:kici nubutan.
66	4.田皆	hanakoja kijnu:kara bjo:kici nibutan.
67	共通語	花子は かあさんに ごはんを たべさせて もらった。

{ / } は複数の言い方があること、() は説明、《 》 は任意的であることを表す。

67	1.国頭	hanakowa amapi mun kamateimuro:tan.
67	2.出花	hanakowa amapi mun kamateimurotan.
67	3.瀬利覚	hanakowa amapi munuo kamatei {murotan / murotamu}.
67	4.田皆	hanakoja amapi munu: kamatei murotan.
68	共通語	医者が くれた くすりを のめば なおるだろう。
68	1.国頭	ieacu:nu kuritanu kussui numiba no:jumudi.
68	2.出花	ieanu kuritanu kusui numiba no:junuhadzi.
68	3.瀬利覚	{icanu / canu} kuritanu kucio {numa / numawa / numjawa} no:nu hadzi.
68	4.田皆	ieanu kuritanu kusui numija no:im anaŋkaja.
69	共通語	かあさんは 市場へ 買物に 行った。(事実の報告/目撃過去)
69	1.国頭	amawa micijatei hoimunciga idzan.
69	2.出花	amawa itebatei hoimunciga idzan.
69	3.瀬利覚	amawa micigatei muru ho:juŋgja {idzan / idzamu}.
69	4.田皆	amaja itebagatei ko:imun ɕi:ga idzan.
70	共通語	道で 学校の 先生に 会った。
70	1.国頭	mitejniti gakko:nu eence:pi o:tan.
70	2.出花	mitejniti gakko:nu sense:pi o:tan.
70	3.瀬利覚	mitejniti gakko:nu sense:pi {o:tan / o:tamu}.
70	4.田皆	miteineti gakko:nu einsetu o:tan.
71	共通語	なにを 買おうか。
71	1.国頭	nu: ho:rukaja. (独り言) / nu:ga ho:juruja. (連れに問いかけるとき)
71	2.出花	nu: ho:rukaja. (独りごと)
71	3.瀬利覚	nu: {ho:juŋkaja / ho:rokaja}.
71	4.田皆	nu: ho:rukaja.
72	共通語	和子のと おなじ げたを 花子にも かってやろう。
72	1.国頭	kazukogamuntu jinu geta hanakopimu ho:tikurira:.
72	2.出花	kazukotu junu acidza: hanakopimu ho:tikurira:.
72	3.瀬利覚	kazukoga muntu mansanu acidza hanakopimu ho:ti {kurira / turasa}.
72	4.田皆	kazukotu junu geta hanakopimu ho:ti kurira.
73	共通語	和子と 花子は 友だちだ。
73	1.国頭	kazukotu hanakowa agudja:.
73	2.出花	kazukotu hanakowa juk ^{wa} agudja.
73	3.瀬利覚	kazukotu hanakowa {agu / duei }dja.
73	4.田皆	kazukotu hanakoja agudja:.
74	共通語	花子は 顔が かあさんに よく 似ている。
74	1.国頭	hanakowa teiranu amapi {ju:miteun / mannugidja}.
74	2.出花	hanakowa teiranu amapi ju:miteun.

{ / } は複数の言い方があること、() は説明、《 》 は任意的であることを表す。

74	3.瀬利覚	hanakowa {teiranu / teiraga} amapi ju: niteundja.
74	4.田皆	hanakoja teiranu amatu ju: nitteun.

{/} は複数の言い方があること、() は説明、《 》は任意的であることを表す。

沖永良部方言 文法例文集（かな）

1	共通語	おれは きょうは いそがしい
1	1.国頭	わなわ ひゅー わ {いすがしゃん〜いしゅがしゃん}。
1	2.出花	わなー ひゅーわ いそがしゃ あんどー。 わぬわ ひゅーわ いそがしゃ あんどー。
1	3.瀬利覚	わぬわ ひゅーわ いすがしゃん。
1	4.田皆	わな ひゅーや いすがしゃん。
2	共通語	おまえが 畑へ 行け。
2	1.国頭	うらー ふあってー ち いきー。
2	2.出花	うら はってち いきよー。 うら ひゅーわ はるち {いきよー / いきー}。
2	3.瀬利覚	うらわ はてち いきー。
2	4.田皆	うらが ふあてがち いき。
3	共通語	うん、畑へは おれが いく。
3	1.国頭	ん ふあってー ちわ わが {いちゅん / ふあゅん}。
3	2.出花	うん {はるちわ/はってちわ} わーが いちゅん。
3	3.瀬利覚	うん はてわ わーが いきゅん。
3	4.田皆	んん ふあてがち {わーが〜わが} いきん。
4	共通語	おれの 鋤は どこに ある。
4	1.国頭	わん {こいわ / くわーわ} うだ- に あいよ。
4	2.出花	わぬ こいわ うだに あいやー。
4	3.瀬利覚	わー こいわ うだに あーよ。
4	4.田皆	わー こいや うだね ^あいよ。
5	共通語	この 鎌は 太郎のか。
5	1.国頭	ふん はまわ たろーが むんかやー。
5	2.出花	うぬ はまわ とろーが むんなー。 うぬ はまわ たろーが {むんどー / むんかやー}。
5	3.瀬利覚	うぬ {はまー / はまわ} {たろーが / たろーの} むんなー。
5	4.田皆	ふぬ はまや たろーが むんな。
6	共通語	どれが おまえの 笠だ
6	1.国頭	{うどうるが / うどうんが} うら はさよ。 / うどうんよ うら はさわ。
6	2.出花	うどうるが うら はさやー。
6	3.瀬利覚	{うどうるが / うどうるどう / ぬーが / ぬーどう} うら はさよ。
6	4.田皆	うどうるが うら はさよ。
7	共通語	その 笠が おれのだ。
7	1.国頭	うん はさ{わ / どう} わーむんどー。
7	2.出花	うぬ はさわ {わーむん / わーむんどーやー / わーむんでいあ}。
7	3.瀬利覚	うぬ はさ《が》 わー むんであー。
7	4.田皆	うぬ はさどう わー むん。
8	共通語	この ふろしきは おまえのか。
8	1.国頭	うん ふろしきわ うらむんなー。

～は発音のゆれ、{ / } は複数の言い方があること、() は説明、《 》 は任意的であることを表す。

8	2.出花	うぬ ふるしきわ うら むんなー。
8	3.瀬利覧	うぬ ふるしきわ うら むんな。
8	4.田皆	ふぬ ふるしきや うら むんな。
9	共通語	それは おとうとの かもしれない。
9	1.国頭	うりわ へうっとうぬ むん {かむ わからん / かやー}。
9	2.出花	うりわ うっとうぬ むんかむ わからん。
9	3.瀬利覧	うりわ うとうぬ むんかむ わからん。
9	4.田皆	{うりや / うりゃ} うっとうぬ むんが {あーら〜あら} わからん。
10	共通語	沖縄には 船で 行くより 飛行機で 行った ほうが いい。
10	1.国頭	{なふあち いちゆしわ / ^おきなは ちわ} ひにし いこよか {ひこーきどう / ひこーきし いきば どう} ゆくわん。
10	2.出花	なふあっちわ ひにし いっちゆしよーか ひこーきし いっちゆーしどう {ゆくわんであー / ゆくわ あんどー}。
10	3.瀬利覧	なふあちわ ひにし いきゆしよか ひこーきし {いぢやぬ / いきゆぬ} {ほーが ゆくわんであ / ほーどう ゆくわる / ほーどう ゆくわん}。
10	4.田皆	なふあがちや ひんにし いきしにか ひこーきし いぢやぬ ほーどう {ゆくわん / ゆかん / ゆか あん}。
11	共通語	飛行機は 一日に 一回しか ない。
11	1.国頭	ひこーきわ {ちーに / いちにちに} {ちゅっけーどう あん / ちゅっけーしか なん}。
11	2.出花	ひこーきわ いちにちに {いちびんどう あんであー / いちびんしか {なーもーでいー/なんでいー / なん}}。
11	3.瀬利覧	ひこーきわ ちーに ちゅっけどう あーる。
11	4.田皆	ひこーきや しーに {ちゅっこいしか / ちゅむぐいしか} なーむ。
12	共通語	空港なら こっちの 道を 行きなさい。
12	1.国頭	くこーち わ {ふん みち / ふまぬ みち} から いきよー。
12	2.出花	くーこーちわ {ふぬみち / うぬみち} 《から》 いきよー。 / くーこーちぬ みちわ まーち {いきばどう/いっちゆしどう} ゆくわ あん。
12	3.瀬利覧	くーこーちわ うぬ {みち いき / みちどう ゆくわる}。
12	4.田皆	くーこーがちや ふぬ みち いき 《よ》。(よはうやまい言葉)
13	共通語	道の まんなかを あるいては いけない。
13	1.国頭	みちぬ {まんなかから / まんなかからわ} {^あくな〜あくな}よー。
13	2.出花	みちぬ {まんなかお / まんなかから} あっちわ {しまん / しまんであー/ならんであー}。
13	3.瀬利覧	みちぬ なーわ {あっちわ / あっチャー} ならん。
13	4.田皆	みちぬ まんなか {あっちや / あっチャ} しまんどー。
14	共通語	道が 広いなあ。
14	1.国頭	みちわ ひゅーさんやー。
14	2.出花	みちぬ ふゅーさんやー。 / うぬ みちわ ひゅーさ あんやー。

{ / } は複数の言い方があること、() は説明、《 》は任意的であることを表す。

14	3.瀬利覚	みちわ ひゅーさん (「*みちが」とは言わない)。
14	4.田皆	みちぬ ひゅーさよ (「*みちが」とは言わない)。。
15	共通語	あ、雨が ふってきた。
15	1.国頭	{あ / あべー} あみぬ ふつてい きちゃん。
15	2.出花	^やー{ あーみぬ / あーみが} ふつてい {きちゃん / きちゃんやー}。
15	3.瀬利覚	あ あみぬ ふつてい きちゃん。
15	4.田皆	え あみぬ {ふつてい きちゃん / ふったむ でよー}。
16	共通語	いとこの 布団が やねの 上に ほしてある。
16	1.国頭	いとうくぬ ふとうんわ やーぬ ういに {ふちやむ / ふちあむ / ふちあむ}。 / いとうくぬ ふとうぬが ていんぢよーに ふさとうん。
16	2.出花	いとうくぬ {ふとうぬが / ふとうぬわ} {やーぬ ういに / ていんじよーぬ ういに} ふつちあんであー。
16	3.瀬利覚	^いとこぬ ふとうぬが やーぬ ^わーびび {ふつちあん / ふちやさー}。
16	4.田皆	{いとこぬ~いとうくぬ} {ふとうぬぬ / ふとうぬやー} やんぢぢぬ ういに ふつちあん。
17	共通語	きのうは 今日より 風が 強かった。
17	1.国頭	きんにゅー わ ひゅー よか {はじ / はじめ} ちゅーさ {あたん / あたんやー}。
17	2.出花	きんにゅーわ ひゅーよーか はじめ ちゅーさ あたんやー。
17	3.瀬利覚	きにゅーわ ひゅーよか はじめ ちゅーさ あったん。
17	4.田皆	きにゅーや ひゅーにか はじめ ちゅーさ あったん。
18	共通語	真っ白な 鳥が 空を 飛んでいる。
18	1.国頭	しゅーさぬ {ふあーとうぬ / ふあーとうが} ていんとー から {とうでい あちゅん / とうでい あちゅむ / とうどうーさー}。
18	2.出花	しゅーさぬ {とういが / ふあーとうが} ていんとーから {とうでい あちゅん / とうどうん}。
18	3.瀬利覚	しゅーさぬ とういが ていんとから とうでいあきゅん。
18	4.田皆	しゅーさぬ とういぬ ていんと {とうどうん / とうどうむ}。
19	共通語	あの 山には いのししが いるそうだ。
19	1.国頭	あぬ やまにわ {いぬししぬ / いぬししが} {^うむ でい どー / うーむでい ゆっさー}。
19	2.出花	あぬ やまにわ いのししぬ うもでいであー。
19	3.瀬利覚	あぬ やまにわ いぬししが うーむでいであー。
19	4.田皆	あぬ {やまにや / やまにやー} いのししぬ うーむでいんどー。
20	共通語	あれは 学校だ。 役場では ない。
20	1.国頭	ありわ {がっこー / がっこー どう あっさー}。 やくば《わ》 {あらんどー / あらっさー}。
20	2.出花	ありわ がっこーであー。 やくばわ {なん / なもーでいー}。
20	3.瀬利覚	ありわ がっこー であ。 やくばわ あなん。
20	4.田皆	{ありや / ありやー} がっこー であー。 やくばや あなん。

{ / } は複数の言い方があること、() は説明、《 》は任意的であることを表す。

21	共通語	あれが 役場だ。
21	1.国頭	ありがとう やくばどう あっさー。
21	2.出花	ありがとう {やくばであー / やくばーでいであー}。
21	3.瀬利覚	ありがとう やくばであ。
21	4.田皆	ありがとう やくば。
22	共通語	あの 目の おおきい、 色の 白い 男は だれだろう。
22	1.国頭	{あぬ / あん} みーぬ {うふいさぬ〜うひやさぬ} いるぬ しゅーさぬ {いいんが〜いいんが} わ たるかやー。
22	2.出花	あぬ みーむ {うふいさぬ / うびさぬ} いるぬ しゅーさぬ いいんがわ たるやー (たずね) / たるっかやー(独話)。
22	3.瀬利覚	あぬ みーぬ ふいさぬ いるぬ しゅーさぬ いんがわ {たるかやー〜たるかや}。
22	4.田皆	あぬ みーぬ うまぎさぬ いるぬ しゅーさぬ いんがや たるかや。
23	共通語	孫が 去年から 東京に いる。
23	1.国頭	{まがぬ / まがが} ふぢゅから とーきよーに {へうん / へうんであー}。
23	2.出花	まがぬ ふずから とーきよーに うんであー。
23	3.瀬利覚	まーがぬ ふどうから とーきよーに うん。
23	4.田皆	うまがや ふづから とーきよーに うん。
24	共通語	孫は いつ 東京から 帰るか。
24	1.国頭	まがわ いち とーきよーから むどうてい {ちゅいよー / ちゅんかやー}。
24	2.出花	まがわ いっち とーきよーから むどうゆいやー。まがわ いち とーきよーから むどうゆもでいやー。
24	3.瀬利覚	まーがわ いち とーきよーから むどうゆんかや。
24	4.田皆	うまがや いち とーきよーから むどういよー。
25	共通語	八月には 帰って くる ようだ。
25	1.国頭	はちがつにやー むどうてい ちゅんどー。
25	2.出花	はちがつにわ むどうてい ちゅぬ {はじー / いちゅたん。}。
25	3.瀬利覚	はちがちにわ {むどうゆ / むどうてい きゅー} むでい であー。
25	4.田皆	はちがちにや むどうてい きーぬ よーし。
26	共通語	かあさんは あした 東京へ むすこに 会いに いく。
26	1.国頭	{あまわ / おつかんわ} なーちゃー とーきよーち いいんがぬ くわーとう おいが いちゅんどー。
26	2.出花	あまわ なーちゃ とーきよーち わらびに {おいに/おいが} {いちゅんであー / いつむでいー}。
26	3.瀬利覚	おつかんわ なーちゃ とーきよーち ^くわー 《に》 {おーいが / おーゆんぎゃ} {いきゅむ / いきゅん}。
26	4.田皆	あまや なーちゃ とーきよーがち {いんがぬ ^くわ / ^くわ} おいが いきん。
27	共通語	大阪から 東京までの 汽車賃は いくらだろうか。
27	1.国頭	おーさかから とーきよーんへたに 《ぬ》 うんちんわ いちゃさーかやー。
27	2.出花	おーさかから {とーきよーたにぬ / とーきよーたべぬ} きしゃぬ うんちんや {いちゃさかやー / いちゃさべかやー}。

{/} は複数の言い方がること、() は説明、《 》は任意的であることを表す。

27	3.瀬利覚	おーさかから とーきよーたべ きしゃちゃんわ いきやさかやー。
27	4.田皆	おーさかから とーきよーんたねぬ きしゃちゃんや いきやさかや。
28	共通語	四時まで 駅で まっておれ。
28	1.国頭	{よぢんたね / よぢんたに} えきにてい まちゅりよー。
28	2.出花	{よじんたに / よじんたべ} {いえきに / いえきにてい} まちゅりよー。
28	3.瀬利覚	よぢんたべ いえきにてい まっちゅり。
28	4.田皆	よぢんたね いえきにてい まっちゅり。
29	共通語	五時までに 帰らなくては ならない。
29	1.国頭	ごぢんたねわ むどうらにゃ ならしがよー。
29	2.出花	{ごじんたべ / ごじんたに} むどうらにゃ ならん。 ごじんたべ むどうらにゃ ならん。
29	3.瀬利覚	{ごぢんたべに / ごぢんたべ} むどうらんにゃ ならん。
29	4.田皆	ごぢんたねに むどうらんにゃ ならん。
30	共通語	次郎、 この 荷物を 家まで かついで 行ってくれ。
30	1.国頭	ぢろー ふん にむつ やんたべ {はたみてい いきよー / はしぎてい いぢ くりり}。
30	2.出花	じろー ふぬ にもつ お {やんたべ / やんたに} はたみてい いぢくりりがー。
30	3.瀬利覚	ぢろー うぬ {にー / にもつ} 《お》 やんたべ はたみてい いぢくりり。
30	4.田皆	ぢろー, ふぬ にもつ やんたね はたみてい いぢくりり。
31	共通語	荷物が 重かったので、 二人で もった。
31	1.国頭	{にーぬ / にもつぬ} へうぶさぬ {へたいし / わってーし} むちゃん。
31	2.出花	にもつが うぶさぬ へたいし むちゃ あん。
31	3.瀬利覚	にもつぬ うぶさぬ {へたーいし〜たーいし} むっちゃん。
31	4.田皆	にもつぬ うぶさぬ {へたいし〜たいし} むっちゃん。
32	共通語	この 上着は このまえ 沖縄で 二千円で 買った。
32	1.国頭	ふん へわーぎわ {ふねーだ〜ふねだー} {なふあ / おきなわ} {にてい / から} にせん えんし ほーたん。
32	2.出花	ふぬ わーぎわ ふねだ なふあにつてい にせんいえんし 《どう》 ほーたん。
32	3.瀬利覚	うぬ わーぎわ ふねだ {なふあにてい〜なはにてい} にしえんえんし ほーたん。
32	4.田皆	ふぬ うわぎやー ふねだ {なふあにてい / なふあにて / なふあねて} {にしえんいえん〜にしえんえん}し ほーたん。
33	共通語	沖縄には めずらしい 菓子が ある。
33	1.国頭	なふあにわ みぢらしゃぬ くわーしぬ あん。
33	2.出花	なふあにわ みぢらしゃぬ くわーしぬ あんであー。
33	3.瀬利覚	なはにわ みぢらしゃぬ くわーしぬ あん。
33	4.田皆	なふあにや みぢらしゃぬ くわーしぬ あん。
34	共通語	孫は お菓子が 好きだ。
34	1.国頭	まがわ くわーしどう まさしゅん 《であー》。(であーは誰かに言っている)
34	2.出花	まがわ くわーしどう まさしゅんであー。
34	3.瀬利覚	まーがわ くわーしぬ しきー。

{/} は複数の言い方があること、() は説明、《 》は任意的であることを表す。

34	4.田皆	うまがや くわーし《ぬ》 しっきー であー。
35	共通語	箱の 中に まんじゅうが いくつ あると おもうか。
35	1.国頭	{ふあくぬ / はくぬ} なーに まんぢゅー《わ》 いくち あんかやー。
35	2.出花	{ふあくぬ / はくぬ} なーに {まんじゅーぬ / まんじゅーが} {いちゃさ / いくち} あむでい むーゆいやー。
35	3.瀬利覚	はくぬ なーに まんぢゅーぬ いくち あーむでい {むーゆーよ / むーゆんよ}。
35	4.田皆	ふあくぬ {なーにやー / なーにや} {まんぢゅーぬ〜まんぢゅぬ} いくち あーむでい みよ。
36	共通語	孫は まんじゅうを 皮だけ 食べる。
36	1.国頭	まがわ まんぢゅーぬ ほーだきどう {かみん / かみ っさ}。
36	2.出花	まがわ まんじゅーぬ ほーだきどう かみんであー。
36	3.瀬利覚	まーがわ まんぢゅーお ほーだき かみゆん。
36	4.田皆	うまがや {まんぢゅーうぬ / まんぢゅーぬ} ほーだき かみん。
37	共通語	じいさんは 朝から 海へ 魚を とりに いった。(事実の報告/目撃過去)
37	1.国頭	ぢャーぢャわ あとうちから うみっち {^ゆー〜ゆー} とういが いぢャ。
37	2.出花	ぢャーぢャわ あさから うにち ゆー とういが いぢャん。
37	3.瀬利覚	ぢャーぢャわ あさから うみち ^ゆーお とういんぎゃ {いぢャん / いきゃぶたん} 。
37	4.田皆	ぎゃーぎゃーや ていみていから うにがち ^ゆー とういが いぢャん。
38	共通語	ここは 海に ちかいので 魚が うまい。
38	1.国頭	まーわ うみち ちかさーてい ^ゆーぬ まさん。
38	2.出花	まーわ うにに ちかさんとうに ^ゆーぬ まさん。
38	3.瀬利覚	^まーわ {うみぬ / うみに} ちかさぬ《むん やんとう》 {ゆーが / ゆーぬ} {まーさん / まーさむ}。
38	4.田皆	ふまや うにぬ しばー なてい ^ゆーぬ うまーさ あん。
39	共通語	魚より 肉の ほうが 高い。
39	1.国頭	ゆーよーか ししぬほーどう たかさん。
39	2.出花	ゆーよかん ししぬほーが たかさん。
39	3.瀬利覚	^ゆー{よか / ゆか / よーか} ししぬ ほーどう {たかさん / たかさーむ}。
39	4.田皆	^ゆーにか ししどう たかさ あん。
40	共通語	おれは 蛸の さしみが 食いたい。
40	1.国頭	わなわ とーぬ さしみどう かんぶしやん。
40	2.出花	わな とーぬ {さしみどう / さしみが} かみぶしやん。
40	3.瀬利覚	わぬわ たこぬ さしみどう {ふしやん / かみぶしやん / かみぶしやーむ}。
40	4.田皆	わぬや とーぬ さしみどう かみぶしや あん。
41	共通語	おまえは この 魚の 名まえを 知っているか。
41	1.国頭	うらー ふん ゆーぬ なー {あていあいえ〜あていあえ}。
41	2.出花	うらわ ^うぬ ^ゆーぬ なー あてあい。

{/} は複数の言い方がること、() は説明、《 》は任意的であることを表す。

41	3.瀬利覚	うりわ うぬ へゆーぬ なまえ あてあんや。
41	4.田皆	うらや ふぬ へゆーぬ なー あていあるかや。
42	共通語	これは かつおだろう。
42	1.国頭	ふりわ かつおどう あらんかや。
42	2.出花	{ふりわ / ふりや} かつあなぢ。
42	3.瀬利覚	うりわ {かつおさ / かつおなぢえ / かつおやぢえ}。
42	4.田皆	ふりや かつお あなぢ。
43	共通語	酒は どうやって つくるか おまえは 知っているだろう？
43	1.国頭	さきわ いちゃし つくゆんか うらー あていやまぜ。
43	2.出花	さきわ いちゃし つくゆんか うらわ あてあーむなぢ。
43	3.瀬利覚	さきわ いきゃし {つくゆんか / つくゆんかや} うらわ {あてあん さ / あていあーむ なぢえ}。
43	4.田皆	さきや いけし つくるかや うらや {あていあんや / あていあむ あなぢ / あていあ い}。
44	共通語	酒は 米から つくる。
44	1.国頭	さきわ ふみしどう つくゆん。
44	2.出花	さきわ ふみから 《どう》 つくゆん。
44	3.瀬利覚	さきわ ふみから つくゆん。
44	4.田皆	さきや ふみからどう つくい。
45	共通語	酒さえ あれば なにも いらぬ。
45	1.国頭	さきせーか ありば ぬーむ かーらん。
45	2.出花	さきせーか ありば ぬーむ かーらん。
45	3.瀬利覚	{さきだけ ありや / さきが あらわ / さきぬ あらわ} ぬーむ {かーらん / かーらむ}。
45	4.田皆	さきぬ ありや ぬーむ かーらん。
46	共通語	うちの じいさんは 酒も たばこも のまない。
46	1.国頭	わちゃちゃーぢやわ さきむ たばくむ ぬまん。
46	2.出花	わちゃ ぢゃーぢやわ さきむ たばくむ ぬまん。
46	3.瀬利覚	わきゃ ぢゃーぢやわ さきむ たばくむ {ぬまん / ぬまむ}。
46	4.田皆	わきゃ ぎゃーぎやや さきむ たばくむ ぬまん。
47	共通語	その 水は のむな。 のむなら この 水を のめ。
47	1.国頭	うん みちわ ぬむな ぬみば ふん みぢ ぬみ。
47	2.出花	うぬ みちわ ぬむな ぬみんきや ふぬ みぢ ぬみ。
47	3.瀬利覚	うぬ みちわ ぬむな。 {ぬみゆんきや～ぬみんきや} うぬ みぢ ぬみ。
47	4.田皆	うぬ みぢや ぬむな ぬみんがら ふぬ みぢ ぬみ。
48	共通語	なぜ おまえは たべないのか。
48	1.国頭	ぬーでい うらわ かまぢよ。
48	2.出花	ぬーでい うらわ {かまぢや / おいしらぢや}。
48	3.瀬利覚	{にが / いきゃし} うらわ {かまろ / かまよー}。

{/} は複数の言い方があること、() は説明、《 》は任意的であることを表す。

48	4.田皆	んが うらや かまぬでよー。
49	共通語	おれは さつまいもなんか 食べないぞ。
49	1.国頭	わなわ うむな一た かまんどー。
49	2.出花	わぬわ うむなが かまんどー。
49	3.瀬利覚	わぬわ さつまいもながわ {かまんどや / かまんどー}。
49	4.田皆	わぬや {うむや / さつまうむや} かまんどー。
50	共通語	もう 食べられる ものは 全部 食べた。
50	1.国頭	なー {かまゆぬ / かまゆむ} むんわー むーる かだん。
50	2.出花	なー かまいぬむぬわ むる かだん。
50	3.瀬利覚	なー {かまいぬ / かまゆぬ} {むんわ / むぬわ} むーぬ かだん。
50	4.田皆	なー かまりぬ むんや むーる かだん。
51	共通語	食べて ねるだけなら いぬや ねこと おなじだ。
51	1.国頭	かでい {にぶゆぬ / にぶゆん} だきやりば いぬ ^みゃとう いいぬむん。
51	2.出花	かでい にぶるだきやりば いぬとう ^みゃとう {ゆぬむん / あぐ}。
51	3.瀬利覚	かでい ぬぶゆぬ だけ {やら / やりわ} いぬや ねこと ゆぬ {むんど / むんだる}。
51	4.田皆	かでい にぶいぬ だき やりや いぬとう みゃーとう ゆぬ むん だる。
52	共通語	さとうは あまい。 くすりは あまくない。
52	1.国頭	さたわ あまさん。 くすいわ あまさんん。
52	2.出花	さたわ あまさ。 くすいわ {あまさんん / にちゃん (苦い)}。
52	3.瀬利覚	さたわ あまさしが くしわ あまさ {なん / なーむ}。
52	4.田皆	さーたや あまさ あん。 くすいや あまさ なん。
53	共通語	去年 いとこが 中学の 先生に なった。
53	1.国頭	ふずー うとうぢやぬ ちゅーがっこーぬ せんせーに なたん。
53	2.出花	ふづ いとこぬ ちゅーがっこーぬ せんせーに なたん。
53	3.瀬利覚	{ふどうー〜ふどう} いとこが ちゅーがっこーぬ せんせーに [なたん / なたむ}。
53	4.田皆	ふずー いとこぬ ちゅーがっこーぬ しんせ なたん。
54	共通語	いここは 英語の 本が 読める。
54	1.国頭	うとうぢやわ えいごぬ ほんぬ ゆまゆん。
54	2.出花	いとこわ いえいごぬ ほんが ゆまゆん。
54	3.瀬利覚	いとこわ いえーごぬ {ほんぬ / ほんが} {ゆまゆん / ゆまゆむ}。
54	4.田皆	いとこや いえーごぬ ほんぬ ゆまりん。
55	共通語	あの 人こそ ほんとうの 金持ちだ。
55	1.国頭	あん ちゅーくす ほんとうーぬ ぢんむちどー。
55	2.出花	あぬ ^ちゅーくす ほんとーぬ ぢんむちであー。
55	3.瀬利覚	あぬ ちゅーくす ほんとーぬ {ぢんむちど / ぢんむちであー / ぢんむちぢや / ぢんむちだ}。
55	4.田皆	あぬ ちゅーどう ほんとーぬ ぢんむちーど。

{/} は複数の言い方があること、() は説明、《 》は任意的であることを表す。

56	共通語	その 話は 妻にだけ 聞かせた。
56	1.国頭	うん ふあなしわ とうぢだきに ちかちゃん。
56	2.出花	うぬ ふあなしわ とうぢだけに ちかちゃん。
56	3.瀬利覚	うぬ はなしわ とうぢにだけ {きかちゃん / きかちゃむ}。
56	4.田皆	うぬ ふあなしや とうぢだきがち きかちゃん。
57	共通語	妻に 夕飯を 作らせる。
57	1.国頭	とうぢに ゆむげー つくらちゃん。
57	2.出花	とうぢに いいー つくらしゅん。
57	3.瀬利覚	とうぢに いいー 《お》 {つくらしゅん / つくらしゅむ}。
57	4.田皆	とうぢに いいー つくらしん。
58	共通語	夫は 竹で かごを つくった。(事実の報告/目撃過去)
58	1.国頭	ううとうわ でーし かぐ つくたん。
58	2.出花	ううとうわ でーし かぐ つくたん。(作っているのを見たとき)
58	3.瀬利覚	ううとうわ でーし かご {つくたん / つくたむ}。
58	4.田皆	あちゃや でーし かぐ {つくたん / つくたむ}。
59	共通語	次郎は おとうとの 三郎と けんかした。(事実の報告/目撃過去)
59	1.国頭	ぢろーわ うとうぬ さぶろーとう ゆーざいしやん。
59	2.出花	ぢろーわ へうとうぬ さぶろーとう ゆーざいしやん。
59	3.瀬利覚	ぢろーわ うとうぬ さぶろーとう ゆーぐり しやん。
59	4.田皆	ぢろーや うとうぬ さぶろーとう ゆーふり しやん。
60	共通語	三郎は 次郎に 棒で なぐられた。(事実の報告/目撃過去)
60	1.国頭	さぶろー わ ぢろーに ぼーし すぐらたん。
60	2.出花	さぶろー わ ぢろーに ぼーし {すぐらたん / すぐらりたん}。
60	3.瀬利覚	さぶろーわ ぢろーに ぼーし くらかたん。
60	4.田皆	さぶろーや ぢろーに ぼーし くらかたん。
61	共通語	次郎は じいさんに しかられた。(事実の報告/目撃過去)
61	1.国頭	ぢろーわ ちゃーちゃーに あまらたん。
61	2.出花	ぢろーわ ちゃーちゃーに あまらたん。
61	3.瀬利覚	ぢろーわ ちゃーちゃに {あまらたん / あまらたむ}。
61	4.田皆	ぢろーや ぎゃーぎゃに あまらたん。
62	共通語	おれは きのは 新聞を よまなかつた。
62	1.国頭	わなわ きんにゆーぬ しんぶんわ ゆまだなーたん。
62	2.出花	わな きんにゆー しんぶん ゆまだなたん。
62	3.瀬利覚	{わぬわ / わな} きにゆーわ しんぶんわ {ゆまだなーたん / ゆまだなーたむ}。
62	4.田皆	わぬや きにゆーや しんぶん ゆまだなーたん。

{/} は複数の言い方があること、() は説明、《 》は任意的であることを表す。

63	共通語	その 新聞は きょうのだ。きのうのは これだ。
63	1.国頭	うん しんぶんわ {ふーぬ / ひゅーぬ} むんであ。きんにゅーぬ むんわ ふりであー。
63	2.出花	うぬ しんぶんわ ひゅーぬむん。きんにゅーぬ むんわ ふりであー。
63	3.瀬利覚	うぬ しんぶんわ ひゅーぬ {むん / むん であ}。きにゅーぬ むんわ ふり であ。
63	4.田皆	うぬ しんぶんや ひゅーぬ むん であー。きにゅーぬ むんや ふり であー。
64	共通語	雨の ふる 日には ばあさんは 家で テレビばかり 見ている。(事実の報告/目撃過去)
64	1.国頭	あみぬ ふゆぬ ひーわ あぢわ やーにーてい てれびベーどう みちゆる。
64	2.出花	あみぬ ふゆぬひーわ あぢわ やーにてい てれびベーどう みちゅんであー。
64	3.瀬利覚	あみぬ ふゆぬ ひーわ あぢわ やーねてい てれびベーどう みちゆる。
64	4.田皆	あみぬ ふいぬ ひーや あしや やーねてい てれびベー みっちゅん。
65	共通語	お祝いの ときには ばあさんまで おどった。(事実の報告/目撃過去)
65	1.国頭	いえーぬとうきにわ あぢがでい うどうたん。
65	2.出花	いえーぬとうきわ あぢむ {うどうたん / うどうたんであー}。
65	3.瀬利覚	いえーぬ とうきにわ あぢがでい うどうたん。
65	4.田皆	ゆわいぬ とうきや あしがでい うどうたん。
66	共通語	花子は きのうから 病気で ねている。(事実の報告/目撃過去)
66	1.国頭	はなこわ きんにゅーから びょーきし にぶとうん。
66	2.出花	はなこわ きんにゅから びょーきし にぶとうん。
66	3.瀬利覚	はなこわ きにゅから びょーきし めぶとうん。
66	4.田皆	はなこや きにゅーから びょーきし にぶとうん。
67	共通語	花子は かあさんに ごはんを たべさせて もらった。
67	1.国頭	はなこわ あまに むん かまちむろーたん。
67	2.出花	はなこわ あまに むん かまちむろたん。
67	3.瀬利覚	はなこわ あまに むぬお かまち {むろたん / むろたむ}。
67	4.田皆	はなこや あまに むぬー かまち むろたん。
68	共通語	医者が くれた くすりを のめば なおるだろう。
68	1.国頭	いしゃしゅーぬ くりたぬ くっすい めみば のーゆむでい。
68	2.出花	いしゃぬ くりたぬ くすい めみば のーゆぬはぢ。
68	3.瀬利覚	{いしゃぬ / しゃぬ} くりたぬ くしお {ぬま / ぬまわ / ぬみやわ} のーぬ はぢ。
68	4.田皆	いしゃぬ くりたぬ くすい めみや のーいむ あなんかや。
69	共通語	かあさんは 市場へ 買物に 行った。(事実の報告/目撃過去)
69	1.国頭	あまわ みしやち ほうむんしが いぢゃん。
69	2.出花	あまわ いちばち ほうむんしが いぢゃん。
69	3.瀬利覚	あまわ みしがち むる ほうゆんぎゃ {いぢゃん / いぢゃむ}。
69	4.田皆	あまや いちばがち こーいむん ひーが いぢゃん。

{/} は複数の言い方がること、() は説明、《 》は任意的であることを表す。

70	共通語	道で 学校の 先生に 会った。
70	1.国頭	みちにてい がっこーぬ しえんしえーに おーたん。
70	2.出花	みちにてい がっこーぬ せんせーに おーたん。
70	3.瀬利覚	みちにてい がっこーぬ せんせーに {おーたん / おーたむ}。
70	4.田皆	みちねてい がっこーぬ しんせとう おーたん。
71	共通語	なにを 買おうか。
71	1.国頭	ぬー ほーるかや。(独り言) / ぬーが ほーゆるや。(連れに問いかけるとき)
71	2.出花	ぬー ほーるかや。(独りごと)
71	3.瀬利覚	ぬー {ほーゆんかや / ほーろかや}。
71	4.田皆	ぬー ほーるかや。
72	共通語	和子のと おなじ げたを 花子にも かってやろう。
72	1.国頭	かずこがむんとう いいぬ げた はなこにむ ほーていくりらー。
72	2.出花	かずことう ゆぬ あしちやー はなこにむ ほーていくりらー。
72	3.瀬利覚	かずこが むんとう まんさぬ あしぢや はなこにむ ほーてい {くりら / とوراさ}。
72	4.田皆	かずことう ゆぬ げた はなこにむ ほーてい くりら。
73	共通語	和子と 花子は 友だちだ。
73	1.国頭	かずことう はなこわ あぐであー。
73	2.出花	かずことう はなこわ ゆくわ^あぐであ。
73	3.瀬利覚	かずことう はなこわ {あぐ / どうし }であ。
73	4.田皆	かずことう はなこや あぐであー。
74	共通語	花子は 顔が かあさんに よく 似ている。
74	1.国頭	はなこわ ちらぬ あまに {ゆーみちゅん / まんぬぎであ}。
74	2.出花	はなこわ ちらぬ あまに ゆーみちゅん。
74	3.瀬利覚	はなこわ {ちらぬ / ちらが} あまに ゆー にちゅんであ。
74	4.田皆	はなこや ちらぬ あまとう ゆー にっちゅん。

{ / } は複数の言い方がること、() は説明、《 》は任意的であることを表す。

国立国語研究所共同研究

消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究
与論方言・沖永良部方言調査報告書

2016年3月20日発行

編集 木部暢子（国立国語研究所時空間変異研究系）

発行 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国立国語研究所

〒190-8561 東京都立川市緑町10-2

Tel.042-540-4538（木部研究室）

<http://www.ninjal.ac.jp/>

©国立国語研究所

**General Study for Research and Conservation of
Endangered Dialects in Japan
Research Report on Yoron and Okinoerabu Dialect**

Edited by

KIBE Nobuko

March 2016